

照会報告書作成プログラム



QMF アプリケーション開発の手引き

バージョン 7

照会報告書作成プログラム



QMF アプリケーション開発の手引き

バージョン 7

お願い

本書、および本書で記述する製品をご使用になる前に、309ページの『付録G. 特記事項』を必ずお読みください。

本書は DB2 ユニバーサル・データベース・サーバー (OS/390 版)(DB2 UDB for OS/390) バージョン 7 リリース 1 (プログラム番号 5675-DB2) のフィーチャーである照会報告書作成プログラム、DB2 サーバー (VSE および VM 版) バージョン 7 リリース 1 (プログラム番号 5697-F42) のフィーチャーである照会報告書作成プログラム、および、改訂版などで特に断りのない限り、これ以降のすべてのリリースにも適用されます。製品のレベルに合った正しい版を使用してください。

本書は、SD88-7238-00 (英文原典 SC26-9579-00) の改訂版です。

本書での技術的変更点は、該当個所の左端の余白に縦線を付けて示してあります。図表に変更がある場合には、図表の表題の左に縦線が付けてあります。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典： SC27-0718-00
Query Management Facility™
Developing QMF Applications
Version 7

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2000.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1983, 2000. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2000

目次

QMF ライブラリー	vii	ロジックを持つプロシージャーからの REXX プログラムの呼び出し.	18
本書について.	ix	置換変数がない REXX プログラムの呼び 出し.	18
本書の使用法.	ix	置換変数がある REXX プログラムの呼び 出し.	19
本書を読むための前提条件	ix		
QMF 資料の注文方法	x		
第1章 QMF アプリケーション開発の概要	1	第3章 呼び出し可能インターフェース	21
QMF でのアプリケーション開発とは.	1	呼び出し可能インターフェースとは.	21
エンド・ユーザーがアプリケーションを使用す る方法	2	QMF 呼び出し可能インターフェースの使 用に関する考慮事項	22
使用可能なアプリケーション開発ツール.	3	インターフェース連絡域 (DSQCOMM) の定義	23
QMF プロシージャー	4	リターン・コード	25
QMF 呼び出し可能インターフェースおよび コマンド・インターフェース.	4	呼び出し可能インターフェースを使用するた めのコマンド.	25
QMF オブジェクトの外部フォーマット	6	アプリケーションからの QMF の開始	26
コマンド同義語	6	呼び出し可能インターフェース・アプリケー ションの実行.	27
QMF にブリッジする他の IBM プロダクト	7	QMF 内からの呼び出し可能インターフェース の使用.	27
第2章 アプリケーションとしてのプロシージャ ーの使用	9	エラー処理	28
プロシージャーを使用できない場合	9	CICS のもとでの呼び出し可能インターフェ ース・プログラムの実行.	29
初期プロシージャー	10		
初期プロシージャー作成に関する考慮事項	10	第4章 アプリケーションのためのコマンド・ インターフェースの使用.	31
初期プロシージャーおよびリモート作業単 位	11	コマンド・インターフェースを使用するプロ グラムの作成: 例	32
プロシージャー内での QMF CONNECT の使 用	11	コマンド・インターフェースの呼び出し.	33
プロシージャー内の置換変数	12	END コマンド	34
RUN コマンドでの値の指定.	13	コマンド・インターフェースでの変数の使用	34
RUN コマンド・プロンプト・パネルでの値 の指定.	13	コマンド・インターフェースのリターン・コ ード.	36
ロジックを持つプロシージャーでの REXX 変 数の使用	15	リターン・コード 0 ~ 16	37
ロジックを持つプロシージャーへの引き数の 受け渡し.	15	20 またはそれ以上のリターン・コード	38
ロジックを持つプロシージャーでの REXX エ ラー処理ステートメントの使用.	16	第5章 ISPF を使用する QMF アプリケーシ ョンの作成	41
エラー処理サブルーチンへの分岐.	16	ISPF アプリケーションからの QMF の開始お よび実行	41
REXX EXIT ステートメントによるメッセ ージの使用	17	変数を含む照会の実行.	42

ISPF のもとでの QMF ロジックを持つプロシ ャーからのプログラムの呼び出し	43
ロジックを持つプロシャーからの ISPF コマンドの使用	44
呼び出し可能インターフェース	45
ISPF で EDIT コマンドを使用する方法	45
アプリケーションをデバッグするための ISPF の使用	46
ISPF ログ・サービスの使用	46
PDF ダイアログ・テストの使用	46

第6章 2 か国語使用のアプリケーションの作 成	49
アプリケーション用の 2 か国語使用のオブジ ェクトの作成	49
コマンド言語変数の使用	50
2 か国語使用のアプリケーションでの初期プ ロシャーの使用	51
英語のコマンドの使用	52
複数言語環境	52
QMF セッション環境	53
環境の類似点	53
環境の相違点	53
変換可能なアプリケーションの作成	55

第7章 アプリケーションでの QMF コマンド 57	57
CONNECT	57
例	58
END	59
呼び出し可能インターフェースによって開 始されたセッション	59
初期プロシャー (DSQSRUN) を伴う対 話式セッション	60
初期プロシャーを伴わない対話式セッ ション	61
INTERACT コマンドによって開始された対 話式セッション	61
バッチ・モード・セッション	61
EXIT	62
GET GLOBAL	63
INTERACT	64
セッション形式の INTERACT	64
コマンド形式の INTERACT	66
MESSAGE	67
メッセージ生成のための MESSAGE コマ ンドの使用例	69

SET GLOBAL	71
SET GLOBAL: 線形構文	71
SET GLOBAL: 拡張構文	72
START	74
REXX 呼び出し可能インターフェースの場 合の START コマンドの構文	75
START コマンドのキーワード	75
コマンド同義語の使用	81
コマンド同義語の作成	82
SAA RUN QUERY の報告書ミニ・セッシ ョン	83

第8章 QMF オブジェクトのインポートとエ クスポート	87
エクスポートしたファイル、データ・セッ ト、または CICS データ・キューを使用して 何ができるか	88
データのエクスポートと保管	89
データ・オブジェクトと表オブジェクト	89
QMF フォーマットのデータ・オブジェク トの解釈: 例	90
データ・オブジェクトと表オブジェクトの エクスポート / インポートに関する規則と 情報	93
プロシャーおよび SQL 照会	95
図表オブジェクト	95
エンコード・オブジェクト	96
固定フォーマット・レコード	97
可変長フォーマット・レコード	101
アプリケーション・データ・レコード (*)	108
エンコード・フォーマット・オブジェク トのエクスポート	109
エンコード・フォーマットのオブジェク トのインポート	109
指示照会オブジェクト	110
指示照会オブジェクトのエクスポート	110
指示照会のインポート	112
書式オブジェクト	113
デフォルト書式の作成: 例	114
アプリケーション内の QMF 書式オブジ ェクトに関する考慮事項	116
書式オブジェクトのインポート	119
書式オブジェクトのエクスポート	122
報告書オブジェクト	123
報告書のエクスポート例	124
報告書行レコード (L)	126

データ継続レコード (C)	128	COBOL 用のインターフェース連絡域マッ ピング (DSQCOMMB)	188
HTML 報告書	131	COBOL 用の関数呼び出し	189
QBE 照会	132	COBOL との ISPF LIBDEF サービスの使 用	191
外部化 QMF オブジェクトの仕様	133	移行情報	191
CICS キューを使用する場合の規則と考慮事 項	134	COBOL プログラミングの例	192
第9章 QMF アプリケーションのデバッグ 137		COBOL 用の DSQCOMM	194
呼び出し可能インターフェース・アプリケー ションのデバッグ	137	COBOL 呼び出し可能インターフェース・ プログラムの実行に関する考慮事項	197
トレース用の L オプションの使用	137	CICS での COBOL プログラムの実行	197
トレース用の A オプションの使用	138	VM の CMS のもとでのプログラムのコ ンパイルと実行	200
トレースをオフにする	139	TSO での COBOL プログラムの実行	201
QMF トレース・データ出力の割り振り	139	FORTTRAN 言語インターフェース	205
QMF MESSAGE コマンドによるトレース の使用	140	FORTTRAN 用のインターフェース連絡域 マッピング (DSQCOMMF)	205
START コマンドおよび他の QMF コマンド 上のエラーのデバッグ	141	FORTTRAN 用の関数呼び出し	206
付録A. 呼び出し可能インターフェース言語 のサンプル・コード 143		FORTTRAN プログラミングの例	208
アセンブラー言語インターフェース	143	FORTTRAN 用の DSQCOMM	213
アセンブラー用のインターフェース連絡域 マッピング (DSQCOMMA)	144	VM の CMS のもとでのプログラムのコ ンパイルと実行	215
アセンブラー言語用の関数呼び出し	145	MVS の TSO のもとでのプログラムの実 行	217
移行情報	147	PL/I 言語インターフェース	221
アセンブラー・プログラミングの例	148	PL/I 用のインターフェース連絡域マッピ ング (DSQCOMML)	221
アセンブラー用の DSQCOMM	158	PL/I 用の関数呼び出し	222
CICS でのアセンブラー・プログラムの実 行	159	MVS での CICS ユーザー用の移行情報	224
VM の CMS のもとでのプログラムのア センブルおよび実行	162	PL/I プログラミングの例	224
TSO でのアセンブラー・プログラムの実 行	164	PL/I 用の DSQCOMM	229
C 言語インターフェース	168	CICS のもとでのプログラムの実行	231
C 言語用のインターフェース連絡域マッ ピング (DSQCOMMC)	168	VM の CMS のもとでのプログラムのコ ンパイルと実行	233
C 言語用の関数呼び出し	169	TSO でのコンパイルとリンク・エディッ ト	235
移行情報	171	REXX 言語インターフェース	239
C 言語プログラミングの例	172	REXX 用のインターフェース連絡変数	239
C 用の DSQCOMM	176	REXX 用の関数呼び出し	242
CICS のもとでのプログラムの実行	178	REXX プログラミングの例	243
VM の CMS のもとでのプログラムのコ ンパイルと実行	182	VM の CMS のもとでのプログラムの実 行	245
TSO での C プログラムの実行	184	MVS での TSO のもとでのプログラムの 実行	246
COBOL 言語インターフェース	187	INTERACT ループを使用する REXX の 例	246

付録B. エクスポート / インポート・フォーマット	249	表編集プログラム関連の DSQ グローバル変数	295
データの QMF フォーマット	249	画面への情報表示を制御する DSQ グローバル変数	299
ヘッダー・レコード	249	コマンドとプロシージャの実行を制御する DSQ グローバル変数	303
データ・レコード	251	CONVERT QUERY の結果を示す DSQ グローバル変数	307
指示照会オブジェクトの表番号とフィールド番号	252	RUN QUERY エラー・メッセージ情報を示す DSQ グローバル変数	307
書式オブジェクトの表番号とフィールド番号	254		
報告書オブジェクト用の表番号とフィールド番号	261		
QMF 報告書で使用される HTML タグ	262		
		付録G. 特記事項	309
付録C. 統合交換フォーマット (IXF)	265	商標	312
ヘッダー・レコード (H)	266		
表レコード (T)	266	用語集	313
列レコード (C)	267		
データ・レコード (D)	268	参考文献	331
列データ・フォーマット	269	APPC の資料	331
データ・タイプ別の列データのフォーマット	269	CICS の資料	331
IXF の例	277	COBOL の資料	332
		DATABASE 2 の資料	332
付録D. ADDRESS QRW: QMF コマンド環境の使用	281	DCF の資料	333
		DRDA の資料	333
付録E. プロダクト・インターフェース・マクロ	283	DXT の資料	333
		図形データ表示管理プログラム (GDDM) の資料	333
付録F. QMF グローバル変数表	285	HLASM の資料	334
プロファイル関連状態情報の DSQ グローバル変数	286	ISPF/PDF の資料	334
プロファイル関連でない状態情報の DSQ グローバル変数	288	OS/390 の資料	334
CICS に関連する DSQ グローバル変数	293	PL/I の資料	335
先行コマンドで生じたメッセージ関連の DSQ グローバル変数	294	REXX の資料	335
		ServiceLink の資料	335
		VM の資料	335
		VSE の資料	335
		索引	337

QMF ライブラリー

資料のご注文は、IBM 担当員にお申し付けください。

評価



インストール、
プランニング、
管理、
および診断



使用



アプリケーション・
プログラミング



オンライン・
ライブラリー



SK2T-0730
OS/390、VM、
および VSE



SK2T-6700
OS/390 のみ



SK2T-2067
VM のみ



SK2T-0060
VSE のみ

本書について

本書は、アプリケーション・プログラマーが IBM® 照会報告書作成プログラム (QMF) を使用するアプリケーションを作成する際の指針として書かれたものです。

本書の使用法

本書には、QMF アプリケーションを作成する前に決めておく必要のある設計上の決定事項の概説、様々なプログラミング技法の説明、および QMF を使用するアプリケーション・プログラムの作成のポイントを示す例が記載してあります。付録には、アプリケーション開発に役立つ参照情報があります。

本書は、OS/390®、VM、および VSE のユーザーを対象にしています。各システム間、または CICS、CMS、TSO、およびネイティブ OS/390 バッチ間の相違点は、必要に応じて説明してあります。それ以外の点については、QMF はそれぞれのシステムで同じように機能すると考えてください。

本書を読むための前提条件

QMF アプリケーションを使用すれば、QMF がサポートする言語のいずれかで作成されたアプリケーション・プログラム内から QMF オブジェクトを処理し、QMF 機能を実行することができます。本書では、読者が照会とプロシージャの作成方法、報告書のフォーマット設定方法、およびデータベースの変更方法に関する知識を持っていることを前提としています。

QMF コマンドまたは呼び出し可能インターフェースを使用して QMF アプリケーションを作成するには、以下のいずれかのプログラム言語の知識が必要です。

呼び出し可能インターフェース

コマンド・インターフェース

アセンブラー、PL/I、C、REXX、COBOL、FORTRAN

ISPF のもとで稼働する任意の言語

作成するアプリケーションのタイプによっては、パネル表示アプリケーションも必要になります。

本書について

QMF の機能および管理に関する資料のリストは、viiページの『QMF ライブラリー』にあります。

QMF 資料の注文方法

QMF 資料のご注文は、IBM 担当員にお申し付けください。

QMF 資料のリストについては、viiページの『QMF ライブラリー』をご参照ください。

第1章 QMF アプリケーション開発の概要

ユーザーは、自分のアプリケーション中で QMF の多くの機能を使用することができます。たとえば、次に挙げることを行うアプリケーションを作成することができます。

- 照会またはプロシージャの実行
- QMF オブジェクトのエクスポートまたはインポート
- 報告書または図表の表示または印刷
- ユーザーによるデータベースへのデータの入力またデータベース内のデータの変更

さらに、リモート・ロケーションで QMF 報告書を印刷するユーザー定義コマンド、または週ごとの売上結果の図表を自動的に生成する機能キーのような便利な機能を、QMF のエンド・ユーザーに提供するアプリケーションも作成することができます。

本章では、QMF アプリケーションの 2 つの主要なタイプについて、また、アプリケーションを作成する場合に役立つ、QMF によって提供されるアプリケーション開発ツールについて説明します。

QMF でのアプリケーション開発とは

アプリケーションという言葉には多くの意味があります。QMF において、アプリケーションとは、プロシージャ、プログラム、または、QMF コマンドを実行したり、Export および Import QMF コマンドを実行して QMF オブジェクトを変更するための EXEC です。

アプリケーション開発とは、アプリケーションを作成する過程を意味します。これには、以下の作業が含まれます。

- アプリケーションが解決する問題の理解
- アプリケーションの設計
- コード、関連するメッセージ、およびヘルプ・パネルの作成

上記の定義を終えたら、エンド・ユーザーがアプリケーションを使用する方法、またアプリケーションが QMF と対話できるようにするために使用する QMF アプリケーション・ツールを決定する設計を開始することができます。

エンド・ユーザーがアプリケーションを使用する方法

エンド・ユーザーに主としてアプリケーションと対話させるようにすることもできるし、またアプリケーションを QMF のカスタマイズされた機能として使用させることもできます。

- アプリケーションが QMF に慣れていないエンド・ユーザーを対象にしている場合、エンド・ユーザーが主としてアプリケーションと対話するようになる方がよいでしょう。実際、QMF がアクティブになっていることをエンド・ユーザーが知らないで済むようにしたい場合があります。このような場合、アプリケーションは QMF サービスを使用しますが、QMF の外側に存在します。プログラムは必要な場合にだけ、QMF コマンドを発行します。
- エンド・ユーザーが QMF を熟知している場合、エンド・ユーザーがアプリケーションを QMF の拡張部分または QMF をカスタマイズしたものと見なすようにすることが望ましいでしょう。この場合には、アプリケーションを QMF 内で実行するようにセットアップする必要があります。

主としてアプリケーションと対話するエンド・ユーザー

QMF サービスを使用するアプリケーションを作成するものとします。このアプリケーションは、エンド・ユーザーに 図1 に示すようなメニュー方式のインターフェースを提供します。

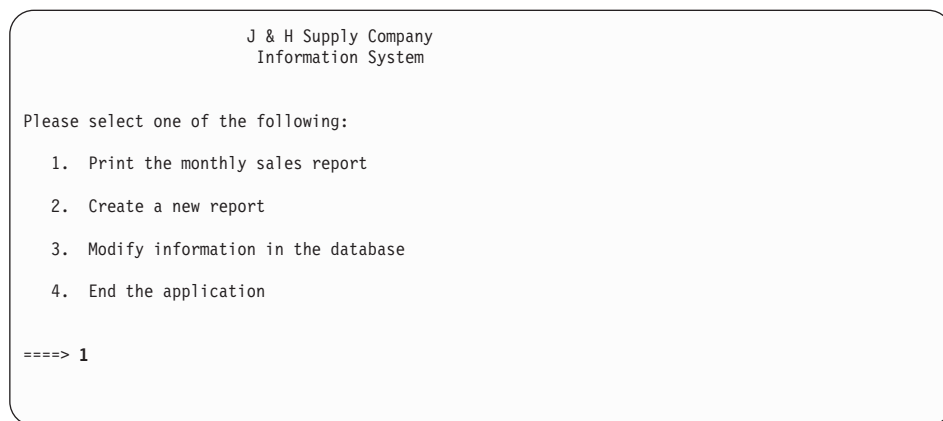


図1. アプリケーション定義パネルの例

ユーザーがオプションを選択すると、アプリケーションは適切な QMF コマンドを発行します。たとえば、ユーザーがオプション 1 を選択すると、アプリケーションは、照会を実行し、結果の報告書を印刷する QMF プロシージャーを実行します。

この例では、アプリケーションが QMF を制御します。ユーザーは、ユーザー・インターフェースとだけ対話し、QMF がアクティブであることに気が付きません。

QMF セッション内でアプリケーションを開始するエンド・ユーザー

あるユーザーから別のユーザーに QMF 報告書を送るアプリケーションを作成するものとします。

エンド・ユーザーがアプリケーションを QMF 環境内から実行することを想定して、エンド・ユーザーがコマンド行から発行できるコマンド同義語 (SEND_TO) にアプリケーションを割り当てるか、アプリケーションを自動的に実行する機能キーにアプリケーションを割り当てることができます。

ユーザーは報告書を生成した後、図2 に示すように QMF コマンド行に SEND_TO SMITH と入力すれば、Smith 氏にこの報告書を送ることができます。

REPORT	LINE 1	POS 1	79		
NAME	DEPT	JOB	SALARY	COMM	
DANIELS	10	MGR	19260.25	-	
JONES	10	MGR	21234.00	-	
LU	10	MGR	20010.00	-	
MOLINARE	10	MGR	22959.20	-	
HANES	15	MGR	20659.80	-	
KERMISCH	15	CLERK	12258.50	110.10	
NGAN	15	CLERK	12508.20	206.60	
ROTHMAN	15	SALES	16502.83	1152.00	
JAMES	20	CLERK	13504.60	128.20	
PERNAL	20	SALES	18171.25	612.45	
SANDERS	20	MGR	18357.50	-	
SNEIDER	20	CLERK	14252.75	126.50	
ABRAHAMS	38	CLERK	12009.75	236.50	
MARENGHI	38	MGR	17506.75	-	
1=ヘルプ	2=	3=終了	4=印刷	5=図表	6=照会
7=後	8=先	9=書式	10=左	11=右	12=
OK、REPORT が表示されています。					
コマンド ==> SEND_TO SMITH					

図2. カスタマイズした QMF コマンドを入力するユーザーの例

使用可能なアプリケーション開発ツール

エンド・ユーザーがアプリケーションをどのように見ているかに関係なく、次の任意のアプリケーション開発ツールを使用してアプリケーションを作成することができます。

- QMF プロシージャ

QMF アプリケーション開発の概要

- QMF 呼び出し可能インターフェース
- QMF コマンド・インターフェース
- QMF 外部フォーマット
- QMF コマンド同義語
- QMF にブリッジする他の IBM プロダクト

QMF プロシージャ

QMF プロシージャは、QMF 内で実行されるものであり、QMF コマンドを発行する QMF オブジェクトです。QMF プロシージャは、インストール先システムで使用可能なすべての QMF コマンドを実行することができます。

QMF には、線形プロシージャとロジックを持つプロシージャという 2 つのタイプのプロシージャがあります。

線形プロシージャ には QMF コマンドとコメントだけが入っています。

QMF がサポートするすべての環境で、線形プロシージャを使用することができます。

ロジックを持つプロシージャ は、QMF コマンドと REXX ロジックを結合して、より強力なプログラムを作成できるようにします。ロジックを持つプロシージャは、QMF がサポートするすべての環境 (CICS® を除く) で使用できます。ロジックを持つプロシージャには、QMF コマンド、および REXX プログラムで有効なすべてのステートメントを入れることができます。

線形プロシージャ、またはロジックを持つプロシージャの作成に関する一般情報については、*QMF 使用の手引き* を参照してください。QMF プロシージャを使用してアプリケーションを作成する方法については、9ページの『第2章 アプリケーションとしてのプロシージャの使用』を参照してください。

バージョン 3.3 以降、QMF はシステム初期化プロシージャを提供します。これを使用すると、ユーザーが QMF ホーム・パネルを表示する前に、コマンドを実行してグローバル変数を設定することができます。詳細については、使用するプラットフォーム用の *QMF インストール (導入) および管理の手引き* を参照してください。

QMF 呼び出し可能インターフェースおよびコマンド・インターフェース

QMF プロシージャの使用を選択しない場合、プログラムが呼び出し可能インターフェースまたはコマンド・インターフェースを介して QMF と通信するかどうかを決定する必要があります。

呼び出し可能インターフェース

QMF 呼び出し可能インターフェースは、システム・アプリケーション体系 (SAA) のインターフェースです。このインターフェースを使用して、QMF の外側から呼び出され、QMF セッションを開始し、コマンドを実行のために QMF に送るアプリケーションを作成します。

呼び出し可能インターフェースは、QMF がサポートするすべての環境で使用することができます。これは、VM、OS/390、および VSE 環境での照会用の SAA 共通プログラミング・インターフェースであり、表1 に示すように様々な言語で使用することができます。

表1. 呼び出し可能インターフェースのサポート

	OS/390 の もとの CICS	VSE の もとの CICS	CMS	TSO	APPC	SRPI	ネイティブ OS/390 バッチ
アセンブラ ¹	×	×	×	×	×	×	×
C	×	×	×	×	×	×	×
COBOL	×	×	×	×	×	×	×
FORTRAN			×	×	×	×	×
PL/I	×	×	×	×	×	×	×
REXX			×	×	×	×	×

SAA アプリケーションを作成する場合、QMF がサポートするいずれかの SAA 言語で呼び出し可能インターフェースを使用する必要があります。

呼び出し可能インターフェースの詳細については、21ページの『第3章 呼び出し可能インターフェース』を参照してください。

コマンド・インターフェース

QMF コマンド・インターフェースによって、ISPF ダイアログから QMF にコマンドを実行要求するアプリケーションを作成することができます。QMF は、このコマンド・インターフェースを使用し、ISPF 変数プールを介して ISPF ダイアログと通信します。

コマンド・インターフェースは、ISPF が使用可能な場合のみ使用することができます。コマンド・インターフェースは CICS では使用できません。

1. アセンブラは SAA 言語ではありません。

QMF アプリケーション開発の概要

QMF コマンド・インターフェースの詳細については、31ページの『第4章 アプリケーションのためのコマンド・インターフェースの使用』を参照してください。

呼び出し可能インターフェースとコマンド・インターフェースの比較

呼び出し可能インターフェースとコマンド・インターフェースの相違点は、次のとおりです。

呼び出し可能インターフェース

- QMF がサポートするすべての環境で使用可能
- ISPF が不要
- アプリケーションを実行する前に QMF を開始することが不要
- 照会用の SAA 共通プログラミング・インターフェースの提供

コマンド・インターフェース

- QMF および ISPF がサポートするすべての環境で使用可能
- ISPF が存在していて、アクティブであることが必要
- アプリケーションを実行する前に QMF を開始することが必要
- ISPF アプリケーションと QMF の間の通信用の変数の提供
- ISPF がサポートするプログラム言語が必要

QMF オブジェクトの外部フォーマット

アプリケーションは、QMF プロダクトの外側にあるファイルに QMF オブジェクトをエクスポートすることができます。たとえば、書式を CMS ファイル、TSO データ・セット、または CICS データ・キューにエクスポートすることができます。各オブジェクトには特定のフォーマットがあります。アプリケーションは、このフォーマットを編集し、他のシステムに転送したり、QMF にインポートしたりすることができます。

QMF オブジェクトの外部フォーマットの詳細については、87ページの『第8章 QMF オブジェクトのインポートとエクスポート』を参照してください。

コマンド同義語

QMF を使用すれば、コーディングするプログラムまたはプロシージャに関するコマンド同義語を指定することができます。これらのコマンド同義語を使用すれば、エンド・ユーザーは、コーディングされたプログラムまたはプロシージャを QMF コマンドのいずれかを使用しているかのように使用することができます。

コマンド同義語の詳細については、81ページの『コマンド同義語の使用』を参照してください。

QMF にブリッジする他の IBM プロダクト

QMF の機能を拡張するために、次の IBM プロダクトを QMF と共に使用することができます。

アプリケーション・システム (AS)

AS は QMF コマンドを発行し、QMF 照会を定義することができます。次に、AS は QMF 照会の結果を AS プロセスへの入力として使用することができます。

データ抽出プログラム (DXT)

QMF は、DXT™ エンド・ユーザー・ダイアログを呼び出して、QMF が直接サポートしていないソースから、エンド・ユーザーがデータを抽出することを可能にします。

ECF 拡張接続機能 (ECF) を使用すれば、ワークステーション・ユーザーはホストのリレーショナル・データにアクセスすることができます。ワークステーション・ユーザーは ECF 機能を使用して要求をホストに送信し、保管されている QMF 照会またはプロシーチャーを実行し、取り出したデータをワークステーションにダウンロードします。

GDDM

対話式図表ユーティリティー (ICU) は、図表を表示するために QMF で使用しますが、実際は図形データ表示管理プログラム (GDDM®) の機能です。

ISPF 対話式システム生産性向上機能を使用すれば、ユーザーは、コマンド・インターフェースを介して QMF と対話できるパネルを生成することができます。

Lotus 1-2-3/M

Lotus 1-2-3® のホスト版は、QMF にアクセスし、照会結果にスプレッドシート分析を行うことができます。

QMF アプリケーション開発の概要

第2章 アプリケーションとしてのプロシージャの使用

多くのアプリケーションをすべてプロシージャとして作成することができます。プロシージャは、開発システム上で作成し、個人で使用するために保持することも、あるいは、実動システムに移して共通のプロシージャとして使用することもできます。

CICS 環境で QMF を使用する場合には、QMF 線形プロシージャを使用することができます。CMS、TSO、またはネイティブ OS/390 バッチ環境で QMF を使用する場合には、QMF プロシージャ内で REXX のステートメントおよび関数も使用することができます。REXX 関数およびロジックを持つプロシージャは、QMF CICS 環境では使用できません。

本章では、QMF プロシージャを使用してアプリケーションをインプリメントするために必要な情報について説明します。

プロシージャを作成し、構築し、実行する方法については、*QMF 使用の手引き* を参照してください。

QMF プロシージャで ISPF サービスを使用するには、このほかにいくつかのステップが必要です。ISPF のもとで実行中の QMF ロジックを持つプロシージャから ISPF コマンドを実行する方法については、44ページの『ロジックを持つプロシージャからの ISPF コマンドの使用』を参照してください。

プロシージャを使用できない場合

QMF 一時記憶域内のプロシージャに対する操作を行うアプリケーションを作成する場合、アプリケーションをプロシージャとして作成することはできません。なぜなら、プロシージャを実行すると、そのプロシージャが QMF 一時記憶域内の現在のプロシージャになるからです。

たとえば、アプリケーションをプロシージャとして作成し、そのアプリケーションが QMF の一時記憶域内の現在のプロシージャを保管するようにコーディングした場合、アプリケーションが実行中はそのアプリケーションが QMF 一時記憶域内の現在のプロシージャなので、アプリケーションは自身を保管することになります。

初期プロシージャ

初期プロシージャは、QMF セッションの開始直後に実行されるプロシージャです。DSQSRUN パラメーターを使用してこのプロシージャの名前を指定してください。以下のコマンドで DSQSRUN を使用することができます。

- QMF を対話式で開始した場合、DSQQMFE コマンド
- 呼び出し可能インターフェースを介して QMF を開始した場合、QMF START コマンド

使用中の QMF セッションのタイプによって、QMF が初期プロシージャを実行する方法が異なります。QMF が初期プロシージャを使用する方法の詳細については、60ページの『初期プロシージャ (DSQSRUN) を伴う対話式セッション』を参照してください。

TSO およびネイティブ OS/390 バッチでは、アプリケーションは REXX EXEC を使用して QMF START コマンドの DSQSCMD パラメーターの記述に従って、プログラム・パラメーターを設定することもできます。QMF CICS は REXX をサポートしないので、CICS では、START コマンドで DSQSMODE=INTERACTIVE を使用してすべてのプログラム・パラメーターを指定する必要があります。呼び出し可能インターフェースからのデフォルト・モードは BATCH です。

初期プロシージャ作成に関する考慮事項

- デフォルトでは、DSQQMFE によって開始された QMF の対話式セッションでユーザーが END コマンドを発行した時は、必ず QMF が初期プロシージャを再実行します。DSQEC_RERUN_IPROC グローバル変数が、初期プロシージャを再実行するかどうかを指定します。この変数のデフォルト値は 1 で初期プロシージャを再実行することを示しています。0 は、初期プロシージャを再実行しません。

呼び出し可能インターフェース・プログラムでは初期プロシージャは再実行されないため、このグローバル変数は呼び出し可能インターフェース・プログラムには影響を与えません。

- 対話式 QMF セッションで使用する初期プロシージャを作成する場合、このプロシージャの最後の現行パネルがホーム・パネルになるようなプロシージャを作成してはなりません。ホーム・パネルが初期プロシージャの最後の現行パネルである場合、QMF はプロシージャの最後にパネルを対話式に表示しません。重大エラーがなく、DSQEC_RERUN_IPROC が 1 に設定されている場合、QMF は、ユーザーと対話しないで初期プロシージャを再実行します。この結果、割り込み不能ループになり、QMF が開始していないかのように見えます。

割り込み不能ループを回避するには、以下のいずれかの操作を実行してください。

- プロシージャの最後の現行パネルがホーム・パネルでないようにする。
- プロシージャに QMF EXIT コマンドまたは INTERACT コマンドを入れる。
- DSQEC_RERUN_IPROC をゼロ (0) に設定する。
- 初期プロシージャ内で置換変数の値を指定する場合に、変数名の前に使用
する必要があるアンパーサンド (&) の数は、ユーザー環境によって異なりま
す。たとえば、DSQSRUN を次のように指定することができます。

```
DSQSRUN=INITPROC(&VAR1 = value)
```

VAR1 と共に指定する必要があるアンパーサンドの数は、QMF を CICS、CMS、TSO、またはネイティブ OS/390 バッチのもとで実行しているかどうか、ISPF が存在しているかどうか、および QMF を開始したプログラムが REXX で作成されているかどうかによって異なります。CMS 環境で必要なアンパーサンドの数の詳細については、*Installing and Managing QMF for VM/ESA* を参照してください。CICS/OS/390 環境または TSO 環境については、*QMF (MVS 版) 導入および管理の手引き* を参照してください。CICS/VSE[®] での変数の値の受け渡しについては、*Installing and Managing QMF for VSE/ESA* を参照してください。

初期プロシージャおよびリモート作業単位

初期プロシージャは QMF を開始するシステム (ローカル・システム) に保管する必要があります。

QMF CONNECT コマンドを初期プロシージャから、または初期プロシージャによってセットアップした対話式セッション中にコマンド行から使用する
場合、END コマンドを出して初期プロシージャを再び呼び出す前に元のロケ
ーションに再接続する必要があります。

リモート・ロケーションに接続したままでは、エラーになります。

プロシージャ内での QMF CONNECT の使用

QMF CONNECT コマンドを使用すれば、別のユーザー ID またはリモート DB2[®] データベースに接続して、リモート作業単位サポートを使用することができます。このコマンドは、線形プロシージャまたはロジックを持つプロシ
ージャ内で使用できます。

アプリケーションとしてのプロシージャの使用

QMF CONNECT コマンドを使用してリモート・データベースにアクセスするプロシージャを作成する場合、以下の点に注意してください。

- リモート・データベースに接続して、RUN PROC コマンドを出す場合、そのプロシージャおよびそのプロシージャで使用するすべてのオブジェクトがリモート・データベースに保管されていなければなりません。
- プロシージャ内のすべての QMF コマンドは、QMF を実行中のシステム (ローカル・システム) の QMF 一時記憶域で実行されます。しかし、これらの QMF コマンドが使用するすべてのオブジェクト (たとえば、照会、プロシージャ、または書式) は、現行ロケーション (リモート・システム) のデータベースに定義されていなければなりません。

QMF CONNECT コマンドの使用およびリモート作業単位サポートの詳細については、(コマンド構文に関する) *QMF 解説書* を参照してください。

- データベース (たとえば、SQL ステートメント、QMF 照会、または EDIT TABLE の更新) に影響を与えるすべてのコマンドは、現行ロケーションで実行されます。
- プロシージャにシステム固有のコマンド (CICS、CMS、または TSO) が入っている場合、これらのコマンドは、QMF を実行中のシステム (ローカル・システム) で実行されます。

プロシージャに、QMF を実行中のシステムで実行できないシステム固有のコマンドが入っている場合、そのプロシージャは正常に実行されません。

- システム固有のコマンドが使用するすべてのファイルまたはデータ・セットは、QMF を実行中のシステム (ローカル・システム) に存在していなければなりません。

プロシージャ内の置換変数

QMF 置換変数は、線形プロシージャおよびロジックを持つプロシージャ内で使用できます。

置換変数は、QMF コマンド内で使用できる任意の変数です。QMF は、これらの変数を管理します。置換変数の前には常にアンパーサンド (&) が付きます。置換変数に値を割り当てるには、グローバル変数を設定するか、RUN コマンドで値を指定するか、RUN コマンド・プロンプト・パネルで値を指定します。グローバル変数の設定については、71ページの『SET GLOBAL』を参照してください。

QMF で置換変数にアンパーサンドを使用する方法の詳細については、*QMF 使用の手引き* を参照してください。

RUN コマンドでの値の指定

以下のように RUN コマンドを使用して、置換変数に値を割り当てることができます。

線形プロシージャの場合

```
RUN PROC SCHEDULE (&&TYPE='VACATION'
```

ロジックを持つプロシージャの場合

```
"RUN PROC SCHEDULE (&&TYPE='VACATION'"
```

PROC または QUERY パネル内から QMF RUN コマンドを発行する場合は、PROC または QUERY のオブジェクト・タイプを指定する必要はありません。RUN コマンドは、各パネルより呼び出された際に、これらの値を想定します。

&TYPE の値は、SCHEDULE と呼ばれるプロシージャでのみ使用できます。

この例では、

- 変数値 VACATION は、値が文字ストリングなので、単一引用符で囲まれています。
- TYPE の前には 2 つのアンパーサンド (&&) が付いていて、RUN ステートメント上に設定されている値を SCHEDULE という名前のプロシージャに渡すべきことを示しています。RUN ステートメントに &TYPE が指定されている場合には、このステートメントが入っているプロシージャは、ユーザーに値を入力するようにプロンプトで指示します。

置換変数に関する上記の値は、その置換変数を定義しているプロシージャ内でのみ有効です。この値は、置換変数を定義しているプロシージャが呼び出したプロシージャまたはモジュールでは有効ではありません。

RUN コマンド・プロンプト・パネルでの値の指定

置換変数が含まれている照会またはプロシージャを実行する場合、この変数にグローバル変数によって、または RUN コマンド上で値が割り当てられなければ、QMF は RUN コマンド・プロンプト・パネルを表示します。ユーザーは、このパネルで変数の値を指定することができます。

置換変数に関する上記の値は、その置換変数を定義しているプロシージャ内でのみ有効です。この値は、置換変数を定義しているプロシージャが呼び出したプロシージャまたはモジュールでは有効ではありません。

アプリケーションとしてのプロシージャの使用

線形プロシージャ内の変数値の入力プロンプト

線形プロシージャでは、QMF は、置換変数についてプロシージャを走査し、コマンドを処理する前に解決します。ユーザーは、プロシージャの実行前に、すべての変数について値を入力するようにプロンプト指示されます。

ロジックを持つプロシージャ内の変数値の入力プロンプト

ロジックを持つプロシージャでは、REXX が変数を含んでいるステートメントを検出するまで変数値の入力するようプロンプト指示されません。たとえば、QMF が値の入力をプロンプト指示する必要のある変数を含んでいるステートメントがロジックを持つプロシージャに 3 つある場合、QMF は、ステートメントごとに 1 回ずつ、合計 3 回の入力をプロンプト指示します。

ロジックを持つプロシージャに、線形プロシージャと同様に、1 度に必要なくすべての変数値の入力のプロンプトを出したい場合には、ダミー・プロシージャを使用します。図3 に示すように、ロジックを持つプロシージャで 2 つの異なる行に指定されている置換変数 LASTNAME と DEPT_NUM の置換変数に対して 1 回プロンプトを出してもらいたいとします。

```
/* This procedure runs two queries, displaying the report after each */  
/* procedure has run.                                          */  
  
"RUN QUERY REG_QUERY (&&LASTNAME=&LASTNAME";  
"INTERACT"  
"RUN QUERY REG2_QUERY (&&DEPT_NUM=&DEPT_NUM";
```

図3. 変数値を含むロジックを持つプロシージャ

コメント行の直後の、ロジックを持つプロシージャの先頭に次の行を追加します。

```
"RUN PROC PROMPT_ME (&LASTNAME, &DEPT_NUM";
```

ここで、PROMPT_ME は、15ページの図4 に示すように、コメント行のみで命令が含まれていないロジックを持つプロシージャです。

完成後のロジックを持つプロシージャは次のようになります。

```
/* This proc is a dummy proc that provides prompting. */
/* This procedure runs two queries, displaying the report after each */
/* procedure has run                                     */

"RUN PROC PROMPT_ME (&LASTNAME, &DEPT_NUM";
"RUN QUERY REG_QÜERY (&&LASTNAME=&LASTNAME";
"INTERACT"
"RUN QUERY REG2_QÜERY (&&DEPT_NUM=&DEPT_NUM";
```

図4. 変数値の入力をプロンプト指示するロジックを持つプロシージャ

別の方法として、次のように SET GLOBAL を使用してプロシージャ内のすべての値の入力を一度にプロンプトで指示することもできます。

```
"SET GLOBAL (LASTNAME=&LASTNAME,DEPTNUM=&DEPT_NUM";
```

ロジックを持つプロシージャでの REXX 変数の使用

ロジックを持つプロシージャで REXX 変数を使用することができます。これらの変数の値は、これらの変数を定義したプロシージャ内でのみ認識されます。以下の操作が可能です。

- SET GLOBAL コマンドを使用して REXX 変数を QMF 変数にコピーする。
- GET GLOBAL コマンドを使用してグローバル変数を REXX 変数にコピーする。
- REXX ステートメントで REXX 変数を使用する。

REXX 変数の詳細については、使用しているシステムの REXX 解説書を参照してください。GET GLOBAL および SET GLOBAL コマンドの詳細については、QMF 解説書を参照してください。

QMF は、各 QMF コマンドの処理後に設定する、SAA 呼び出し可能インターフェース用の REXX 変数のグループも提供します。これらの変数は、各コマンドの結果に関する重要な情報を提供します。これらの変数は、ロジックを持つプロシージャで使用することができます。詳細については、239ページの『REXX 言語インターフェース』を参照してください。

ロジックを持つプロシージャへの引き数の受け渡し

ロジックを持つプロシージャの場合、QMF によって RUN PROC コマンドで ARG オプションを指定できます。このオプションによって、引き数または値をロジックを持つプロシージャに渡すことができます。

アプリケーションとしてのプロシージャの使用

次の例に示すように、REXX PARSE ARG または ARG ステートメントが入っているプロシージャを実行する場合には、ARG オプションを使用してください。

```
PROC                WILDE.SHOW_ARGS                MODIFIED    LINE 1
/*****/
/* This procedure shows you how to use the 'ARG=' option on the RUN    */
/* PROC command.                                                    */
/*****/
parse upper arg query_name form_name
"RUN QUERY" query_name "(FORM="form_name
```

このプロシージャ用の RUN コマンドを次に示します。

```
RUN PROC SHOW_ARGS (ARG=(query_name form_name)
```

ARG オプションを使用すれば、プロシージャ間で値を渡すこともできます。

ロジックを持つプロシージャでの REXX エラー処理ステートメントの使用

REXX SIGNAL 命令などの REXX エラー処理技法をロジックを持つプロシージャで使用することができます。さらに、REXX EXIT 命令と共に QMF コマンドおよび変数を使用して、非ゼロのリターン・コードを明確にすることができます。

エラー処理サブルーチンへの分岐

REXX エラー時のシグナル 命令は、非ゼロのリターン・コードが検出された場合に、REXX に、現在行からエラー とマークされているラベルに分岐するように指示します。このステートメントには以下の 2 つの部分が必要です。

- エラー時のシグナル

各コマンドの後で、REXX は rc と呼ばれる変数にコマンドのリターン・コードを置きます。

コマンドのリターン・コードが非ゼロである場合、REXX はエラー ・ラベルに分岐します。

エラー時のシグナル は、REXX 呼び出し可能インターフェースからではなく、QMF REXX プロシージャ (ADDRESS QRW) コマンド環境からエラーを戻します。

- エラー ・ラベル

エラー時のシグナル 命令には、プロシージャが非ゼロのリターン・コードを検出した場合に分岐するラベルに関する、ユーザーによる指定が必要です。このラベルの後に、ユーザーのエラー処理コードが続きます。リター

ン・コードは、変数 rc に入っています。この変数を使用して、別のサブルーチンに分岐することができます。あるいは、次のように、この変数を EXIT 命令内で使用することができます。

```
/* error handling code for a procedure with logic */
error:
    exit rc
```

REXX EXIT ステートメントによるメッセージの使用

前の節で示したように、REXX EXIT 命令を使用して、ロジックを持つプロシージャを終了することができます。QMF は、ロジックを持つプロシージャの実行を終了するときに、必ずメッセージを出します。EXIT 命令を使用した場合に表示されるメッセージは、以下の要因によって異なります。

- 最後の QMF コマンドがエラーを検出したかどうか
- リターン・コードがゼロかどうか

表2 は、一定の条件のもとで表示されるメッセージを示しています。

表2. QMF から戻されるメッセージ

最後の QMF コマンドからの非ゼロのリターン・コード	プロシージャのリターン・コード	プロシージャの完了時のメッセージ
なし	0	OK, your procedure was run (プロシージャは実行されました)
なし	非ゼロ	The return code from your procedure was 8 (プロシージャからのリターン・コードは 8 です)
あり	0	QMF によって提供されるエラー・メッセージ
あり	非ゼロ	QMF によって提供されるエラー・メッセージ

QMF コマンドが正しくなく、かつ、リターン・コードがゼロではない場合、エラー・メッセージがリターン・コード・メッセージより優先します。

最後のコマンドからのエラー・メッセージを表示し、かつ QMF リターン・コードと共に終了したい場合には、次の例に示すように MESSAGE コマンドと EXIT DSQ_RETURN_CODE を使用してください。

アプリケーションとしてのプロシージャの使用

```
⋮  
"MESSAGE (TEXT='dsq_message_text'"  
  exit dsq_return_code
```

図5. エラー・メッセージとリターン・コードの表示

変数 `dsq_message_text` と `dsq_return_code` は QMF が提供する REXX 変数です。(これらの変数の完全なリストが、239ページの『REXX 言語インターフェース』にあります。) 図6 に示すように、MESSAGE コマンドと `dsq_message_text` 変数を使用してメッセージを保管してから、他の処理の実行後にメッセージを表示することができます。

```
/* Monthly report                                     */  
Signal on error  
"DISPLAY TABLE JUNE_INFO"  
"PRINT REPORT"  
Exit(0);  
Error:   Original_msg = dsq_message_text  
/* Saves error message. */  
"RUN PROC GENERAL_RECOVERY"  
/* This proc generates */  
/* new dsq_message_text. */  
"MESSAGE (TEXT=' Original_msg '"  
/* Display original error msg. */  
Exit dsq_return_code;
```

図6. プロシージャ内でのメッセージの保管および取り出し

MESSAGE コマンドの詳細については、67ページの『MESSAGE』を参照してください。

ロジックを持つプロシージャからの REXX プログラムの呼び出し

プロシージャでアプリケーションを呼び出す場合があります。ロジックを持つプロシージャから REXX 呼び出し可能インターフェース・アプリケーションを呼び出す場合、アプリケーション内の置換変数に指定するアンパーサンド (&) の数に注意してください。呼び出されるプログラムに、`RUN QUERY WEEKLY_Q (&&DEPT=58` のように置換変数が指定されている `RUN` コマンドがある場合には、特に注意してください。

置換変数がない REXX プログラムの呼び出し

REXX プログラムに、置換変数が組み込まれている `RUN` コマンドがない場合には、以下のいずれかのコマンドを使用してプログラムを呼び出してください。

- ADDRESS 命令

この命令は、コマンド環境を確立します。(コマンド環境の詳細については、281ページの『付録D. ADDRESS QRW: QMF コマンド環境の使用』を参照してください。) プログラムの名前が PANDA で、CMS 環境内から呼び出したい場合、コマンドは次のようになります。

```
ADDRESS CMS "PANDA"
```

- CALL 命令

この命令はプログラムを呼び出します。PANDA という名前のプログラムの場合、コマンドは次のようになります。

```
CALL PANDA
```

- 関数

プログラム PANDA を、次のように関数として呼び出すことができます。

```
answer = PANDA()
```

上記のコマンドの詳細については、使用中のシステムに関する REXX 解説書を参照してください。

いずれかの REXX 呼び出しを使用してプログラムを呼び出す場合、RUN コマンドから置換変数を除去することができます。このような場合、QMF がユーザーに変数値を入力するようプロンプトを出します。

置換変数がある REXX プログラムの呼び出し

REXX アプリケーションに、置換変数が組み込まれた QMF RUN コマンドがある場合には、そのアプリケーションを CMS program_name または TSO program_name を使用して呼び出す必要があります。

実行中のプログラムがロジックを持つプロシージャであるか、またはロジックを持つプロシージャによって呼び出された呼び出し可能インターフェースであるかに関係なく、コマンドは同様に QMF に入ります。したがって、呼び出し可能インターフェース・プログラムは、プロシージャ自身の論理的な延長になります。

次のコマンドについて考えてみます。

```
RUN QUERY WEEKLY_Q (&DEPT=58
```

ロジックを持つプロシージャでは、変数を照会に渡すために、次のように置換変数で 2 つのアンパーサンドを使用します。

```
"RUN QUERY WEEKLY_Q (&&DEPT=58"
```

アプリケーションとしてのプロシージャの使用

置換変数にアンパーサンドが 1 つしかない場合、QMF は、その変数をそのプロシージャ自身のために解決するので、その変数を照会に渡せません。

ロジックを持つプロシージャから REXX 呼び出し可能インターフェース・アプリケーションを呼び出し、かつ、そのアプリケーションにコマンド RUN QUERY WEEKLY_Q (&DEPT=58 がある場合、QMF はその変数を、呼び出しプロシージャの変数であるかのように解決します。アンパーサンドが 1 つしか使用されていないので、この変数は照会に渡されません。

ロジックを持つプロシージャによって呼び出された REXX 呼び出し可能インターフェース・アプリケーションから QMF に変数を渡す場合、以下の 3 つの選択肢があります。

- CMS または TSO コマンドを使用して、アプリケーションを呼び出す。
このようにアプリケーションを呼び出した場合、QMF は検出した置換変数を処理しません。上記のコマンドの &DEPT=58 は、置換変数が解決された時点で照会に渡されます。
- アプリケーション内のすべての置換変数を、ロジックを持つプロシージャ内で使用しているかのように扱う。
すべての置換変数にアンパーサンドを 1 つ追加して、ロジックを持つプロシージャが解決しないようにします。
- グローバル変数を使用する。
アプリケーションの開始時にグローバル変数を定義して、QMF セッションで使用します。

第3章 呼び出し可能インターフェース

本章では、QMF 呼び出し可能インターフェースの概要を述べます。特定言語の QMF 呼び出し可能インターフェースについては、言語ごとの呼び出し可能インターフェースを説明している、『付録A. 呼び出し可能インターフェース言語のサンプル・コード』の節を参照してください。

アセンブラー 143ページの『アセンブラー言語インターフェース』

C 言語 168ページの『C 言語インターフェース』

COBOL 187ページの『COBOL 言語インターフェース』

FORTRAN 205ページの『FORTRAN 言語インターフェース』

PL/I 221ページの『PL/I 言語インターフェース』

REXX 239ページの『REXX 言語インターフェース』

呼び出し可能インターフェースとは

それぞれのプログラム言語で、QMF コマンドを実行するために QMF 呼び出し可能インターフェースを使用することができます。すべての SAA 照会コマンドが呼び出し可能インターフェースを介してサポートされます。QMF 呼び出し可能インターフェースは、様々なプログラム言語用の標準インターフェースを提供し、共通記憶域およびプログラム変数へのアクセスを提供します。

アプリケーション・プログラムは、QMF コマンドを実行する必要がある場合、最初に、プログラムと QMF の間の通信を開始するための、QMF 提供のルーチンへの呼び出しを行わなければなりません。この呼び出しは、QMF 提供のインターフェース・ルーチンに対して行います。QMF には、サポートする言語ごとにルーチンが用意されています。

アプリケーション・プログラムは、最初の開始呼び出しの後で 1 つまたは複数の QMF コマンドを出すことができます。アプリケーション・プログラムは、QMF が提供するルーチンを呼び出してから、各 QMF コマンドを出します。

QMF コマンドの処理が終了すると、QMF は QMF の状況を示すリターン・コードを提供します。呼び出し可能インターフェースは、コマンドの処理に関する他の情報を収集し、この情報を QMF とアプリケーション・プログラムの両方からアクセス可能な変数に保管します。これらの変数は、変数プール またはインターフェース連絡域 にあります。呼び出し可能インターフェースが呼び出しアプリケーション・プログラムに制御を戻したとき、アプリケーションはこれらの変数を参照できますが、変更してはなりません。

呼び出し可能インターフェース

アプリケーション・プログラムは、QMF を使用する必要がなくなった場合、プログラムと QMF の間の通信を終了するための呼び出しを行います。この呼び出しは、QMF 提供のルーチンに対して行います。

QMF 呼び出し可能インターフェースの使用に関する考慮事項

- QMF に対する呼び出しの後には、QMF が QMF コマンドの処理を終了した場合のみ、制御が呼び出し側のアプリケーション・プログラムに戻されます。
- QMF は、呼び出しを処理していない間は、非アクティブ状態です。
- アプリケーション・プログラムと QMF は、リターン・コードと、変数プールまたはインターフェース連絡域に保管されている変数データを使用して通信します。
- すべての QMF コマンドは、英大文字でコーディングする必要があります。
QMF の各国語機能 (NLF) を使用している場合、QMF コマンドは、主要言語として指定した NLF 言語で作成し、かつ、英大文字で作成する (または英大文字に変換する) 必要があります。
- 渡すコマンドの最大長は 256 バイトです。

図7 は、アプリケーションが呼び出し可能インターフェースを介して QMF にコマンドを渡す方法を示しています。

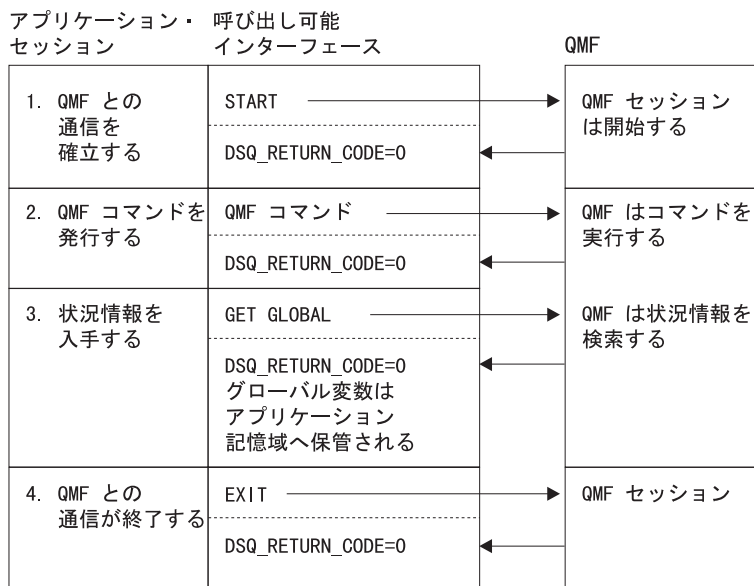


図7. QMF との通信に QMF 呼び出し可能インターフェースを使用するアプリケーション

呼び出し可能インターフェースを介してのコマンド発行の結果は、一般的に、コマンドを対話式で出した場合と同様です。

インターフェース連絡域 (DSQCOMM) の定義

QMF には、サポートしているプログラム言語ごとにインターフェース通信マクロが用意されています。このマクロには、以下の情報が入っています。

- インターフェース連絡域 (DSQCOMM) または連絡変数
- リターン・コードと理由コードの定義
- QMF に対する関数呼び出しの定義

このマクロは、上記のリストに示した変数が入っている記憶域を定義します。この記憶域は呼び出し可能インターフェースの連絡域であり、この域内に保管された変数は、QMF と呼び出し可能インターフェース・アプリケーションの両方からアクセス可能です。ただし、値を変更するのは QMF だけにすべきです。アプリケーション・プログラムは、これらの変数を読み取り専用と見なすべきです。

REXX 呼び出し可能インターフェースは、連絡域を使用するのではなく、QMF が提供するインターフェース連絡変数を使用します。

QMF 呼び出し可能インターフェース連絡域は、すべての呼び出し可能インターフェース呼び出しに必要です。呼び出し可能インターフェース連絡域用の記憶域は、QMF を使用するプログラムが割り振ります。

START コマンドは、QMF セッションの固有のインスタンスまたはオカレンスを確立します。START コマンドは、以下の条件のもとで 1 つの QMF セッションしか確立できません。

- TSO アドレス・スペース内
- 単一の CMS 仮想計算機内
- 単一の CICS トランザクションから

START コマンドの実行中に、QMF はインターフェース連絡域を更新します。

インターフェース連絡域は、アプリケーション・プログラムが変更してはなりません。ただし、以下の例外があります。

DSQ_COMM_LEVEL

DSQ_COMM_LEVEL を DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL の値に設定して、DSQCOMM のレベルを識別します。これは、REXX には適用されません。

呼び出し可能インターフェース

DSQ_INSTANCE_ID

QMF 内から呼び出し可能インターフェース・プログラムを呼び出す場合、最初の呼び出しで DSQ_INSTANCE_ID をゼロ (0) に設定して、QMF が変数を最初の START コマンドによって設定された値にリセットするようにしなければなりません。

START コマンドに続くすべての呼び出しで、QMF インスタンスに対応するインターフェース連絡域のアドレスを渡す必要があります。アプリケーション・プログラムは、正しいインターフェース連絡域を指していなければなりません。

サポートされる言語にはそれぞれ、インターフェース連絡域について記述する固有の連絡マクロがあります。アプリケーション・プログラムは、移植可能であるためには、値ではなく変数名によって変数を参照する必要があります。値は、システムによって異なる可能性があるからです。

インターフェース連絡域には、呼び出しプログラムが変更してはならない、表3に示した情報が入ります。

表3. 変更してはならない DSQCOMM フィールド

フィールド	説明
リターン・コード	QMF がコマンドを処理した後の、QMF 処理の状況を示す。
インスタンス ID	START コマンドによって開始された QMF のインスタンスを示す。
完了メッセージ ID	コマンドがユーザーの端末から出された場合に、QMF がユーザーの端末に表示するメッセージのメッセージ ID が入る。 このフィールドは、各 QMF コマンドの完了時に設定される。このフィールドには、コマンドの終了時に QMF が表示するメッセージが入る。
照会メッセージ ID	RUN QUERY コマンドの結果として出される QMF メッセージのメッセージ ID が入る。これは、ユーザーの照会に表示されるメッセージのメッセージ ID である。 このフィールドは、照会の実行時にエラーが発生すると設定される。このフィールドには、コマンドの終了時に照会オブジェクト内で QMF が表示するメッセージが入る。
エラーがある START コマンドのパラメーター	パラメーターのエラーによって START コマンドが失敗した場合に、エラーがあるパラメーターが入る。

表 3. 変更してはならない *DSQCOMM* フィールド (続き)

フィールド	説明
取り消し標識	QMF がコマンドを実行中に、ユーザーがコマンド処理を取り消したかどうかを示す。
完了メッセージ	ユーザーの端末に QMF が表示する完了メッセージが入る。
照会メッセージ	RUN QUERY コマンドの結果の照会メッセージ・テキストが入る。これは、ユーザーの照会で QMF が表示するテキストである。 たとえば、エラーがある照会オブジェクトを実行すると、QMF は、照会の実行を妨げたエラーについて記述するメッセージを表示する。照会メッセージには、このエラー・メッセージ・テキストが入る。

リターン・コード

QMF 呼び出し可能インターフェースに対するそれぞれの呼び出しの後に、リターン・コードが戻されます。リターン・コード値は、QMF と共に出荷される連絡マクロによって記述されます。

アプリケーションをシステム間で移植可能にしたい場合、リターン・コード値は、システムによって異なる可能性があるため、変数名で参照する必要があります。

呼び出し可能インターフェースからのリターン・コードは、以下の条件を示します。

- QMF が正常に要求を処理した。
- 警告条件にもかかわらず、QMF が要求を処理した。
- QMF がコマンドを正しく処理しなかった。
- 重大エラーのため、QMF のこのインスタンスが終了した。

各リターン・コードの定義については、本書の該当するプログラム言語の節を参照してください。

呼び出し可能インターフェースを使用するためのコマンド

プロシージャ内で任意の QMF コマンドを使用するために呼び出し可能インターフェースを使用することができます。ただし、以下の 3 つのコマンドの場合、特殊な呼び出し可能インターフェースの構文になります。

- START
- GET GLOBAL、拡張構文
- SET GLOBAL、拡張構文

呼び出し可能インターフェース

START は呼び出し可能インターフェースでしか機能しません。REXX 以外の言語で作成した呼び出し可能インターフェース・アプリケーションで GET GLOBAL および SET GLOBAL を使用する場合は、**拡張構文** を使用してください。SET GLOBAL コマンドの拡張構文によって、長さが 32 768 文字までの値を入れることができるグローバル変数を設定できます。アプリケーションでの GET GLOBAL コマンドと SET GLOBAL コマンドの使用の詳細については、63ページの『GET GLOBAL』および 72ページの『SET GLOBAL: 拡張構文』を参照してください。

呼び出し可能インターフェース・アプリケーションで使用できる上記のコマンドおよび他のコマンドについては、57ページの『第7章 アプリケーションでの QMF コマンド』を参照してください。各言語の START コマンドおよび SET GLOBAL コマンドの例については、各言語のサンプル・プログラムを参照してください。

アセンブラー	148ページの『アセンブラー・プログラミングの例』
C 言語	172ページの『C 言語プログラミングの例』
COBOL	192ページの『COBOL プログラミングの例』
FORTRAN	208ページの『FORTRAN プログラミングの例』
PL/I	224ページの『PL/I プログラミングの例』
REXX	243ページの『REXX プログラミングの例』

アプリケーションからの QMF の開始

アプリケーションから他のすべてのコマンドを実行する場合には、まずその前に QMF を開始する必要があります。呼び出し可能インターフェースを使用している場合、START コマンドを出して QMF を開始します。QMF セッションは、一度に 1 つしか開始できません。

アプリケーションは、QMF がすでに開始されているかどうかをテストするために START コマンドを出すことができます。QMF は、まだ開始されていない場合は、開始されます。QMF がすでに開始されていれば、非ゼロのリターン・コードが戻され、次のメッセージ番号とメッセージが表示されます。

```
DSQ50719 QMF already active. Secondary session not permitted.
```

REXX 呼び出し可能インターフェースを使用している場合、次のプログラムを実行することもできます。

```
/* test to see if QMF is active */
"SUBCOM QRW"
if rc = 0
  then say "QMF is active"
else say "QMF is not active"
```

START コマンドの結果が重大でないエラー (リターン・コードが 4 または 8) である場合、QMF はエラーのあるまま開始されます。この場合、EXIT コマンドを出して QMF を停止することができます。START コマンドをもう一度出す必要がある場合があります。エラーが続くようであれば、インターフェース連絡域の内容または QMF トレース・データ出力でエラーの原因を調べてください。

QMF にパラメーターを渡すには、START コマンドで必要なコマンド・キーワードを指定します。

START コマンドで使用する構文およびキーワードの詳細については、74ページの『START』を参照してください。

呼び出し可能インターフェース・アプリケーションの実行

呼び出し可能インターフェース・アプリケーションを実行する場合、対話式 QMF を実行する場合と同様に実行環境をセットアップする必要があります。

環境のセットアップおよび呼び出し可能インターフェース・アプリケーションのコンパイルと実行については、143ページの『付録A. 呼び出し可能インターフェース言語のサンプル・コード』にある各言語の該当するコーディング・サンプルを参照してください。

QMF 内からの呼び出し可能インターフェースの使用

— CICS ユーザーへの注

CICS 環境にいる間は、QMF 内から呼び出し可能インターフェースを使用することはできません。

QMF でサポートされる (CICS を除く) すべての環境で、QMF 内から呼び出し可能インターフェースを使用して、QMF 一時記憶域を変更するアプリケーションを実行することができます。たとえば、QMF セッションの最中でも、呼び出し可能インターフェースを介してファイルのエクスポートまたはインポートを実行する必要がある場合があります。

CMS または TSO コマンドを使用してアプリケーションを呼び出すことによって、これを実行することができます。アプリケーションから、すべての有効な QMF コマンドを実行することができます。QMF はすでにアクティブなので、START コマンドを出す必要はありません。

呼び出し可能インターフェース

QMF を最初に呼び出す前に、DSQCOMM インスタンス ID (DSQ_INSTANCE_ID) をゼロ (0) に設定する必要があります。QMF は、現在のインスタンスを判別し、以後の QMF 呼び出しで使用するために DSQ_INSTANCE_ID を更新します。

エラー処理

CICS 以外の環境で QMF を実行している場合には、アプリケーション内でのエラー処理のために、QMF が提供する REXX 変数または DSQCOMM 連絡域内の同様の値を使用することができます。

たとえば、REXX 変数 `dsq_message_text` または DSQCOMM のメッセージ・テキスト・フィールドには、QMF メッセージが入ります。

REXX では、QMF は各 QMF コマンドの完了後に、変数 `dsq_return_code` に以下のいずれかの値を割り当てます。

dsq_success

コマンドが正常に終了

dsq_warning

警告を伴って正常に終了

dsq_failure

コマンドが正しく実行されなかった

dsq_severe

重大エラー、QMF セッションは終了

REXX 以外の言語の場合、QMF は同じ値を、DSQCOMM のリターン・コード・フィールド `DSQ_RETURN_CODE` に置きます。

このようなリターン・コードと値をアプリケーションで使用することができません。以下の例は、REXX 呼び出し可能インターフェース・アプリケーションでエラー処理変数を使用する方法を示しています。

```
⋮
call dsqcix "CONVERT QUERY MYQUERY"
if dsq_return_code ^= dsq_success then ...
⋮
call dsqcix "PRINT REPORT"
if dsq_return_code=dsq_severe | dsq_return_code=dsq_failure then ...
```

QMF は、メッセージ番号とメッセージ・テキストが入る変数も提供します。

各 DSQCOMM 内の変数またはフィールドの完全なリストについては、143ページの『付録A. 呼び出し可能インターフェース言語のサンプル・コード』の各言語に該当する節を参照してください。

CICS のもとでの呼び出し可能インターフェース・プログラムの実行

QMF 呼び出し可能インターフェースを使用するプログラムを実行するには、CICS プログラムをインストールする通常の方法を使用してそのプログラムを CICS にインストールします。CICS におけるアプリケーションの詳細については、*CICS (VSE/ESA 版) 適用業務プログラムの手引き* を参照してください。QMF アプリケーション・プログラムのインストールの詳細については、*CICS (VSE/ESA 版) システム定義の手引き* を参照してください。

通常の CICS 要件の他に、CICS で実行するすべての QMF 呼び出し可能インターフェース・プログラムには以下の考慮事項が適用されます。

- 環境

プログラムは、QMF プロダクトを呼び出すと、対話式 QMF プロダクトと同じ特性を持つようになります。すなわち、非常に大きな会話型プログラムになります。

QMF は、CICS コマンドが入っているアセンブラー言語プログラムです。QMF は、他のアセンブラー言語プログラム、またはいずれかの高水準言語 (VS COBOL II、PL/I、または C/370™) で作成されたプログラムとリンクすることができます。高水準言語を使用して QMF を呼び出す場合、高水準言語プログラムを最初にリンクし、また、オンライン・リソース定義 (RDO) プログラムの定義によってその高水準言語を指定する必要があります。高水準プログラムごとに、CICS に関する特定の考慮事項と制約があります。高水準言語プログラミングの手引き、および *CICS アプリケーション・プログラミングの手引き* の言語に関する考慮事項の節を参照してください。

CICS において、デフォルトの QMF 開始パラメーターのいずれかを指定変更するには、START コマンドでこれらのキーワードを指定する必要があります。たとえば、呼び出し可能インターフェースからのデフォルト・モードは BATCH です。対話式 QMF セッションを実行する場合には、DSQSMODE=INTERACTIVE を使用して、START コマンドを出す必要があります。

- プログラム実行レベル

QMF バージョン 3 リリース 1 モディフィケーション・レベル 1 の場合、QMF が提供するインターフェースとメイン QMF プログラムの間のインターフェースは、ユーザーのアプリケーション・プログラムより低いプログラ

呼び出し可能インターフェース

ム・レベルでも実行するように変更されました。この変更によって、ユーザー・プログラムは、QMF が設定した処理条件などの環境条件による影響を受けなくなりました。

CICS/OS/390 ユーザーへの注

3.1 からの移行後に QMF 6 呼び出し可能インターフェースを使用する場合には、QMF 呼び出し可能インターフェースを現在使用しているプログラムをリンク・エディットする必要があります。QMF のそれ以降のリリースから移行した場合には、リンク・エディットを再実行する必要はありません。

- CICS の領域 (OS/390) または区画 (VSE) に関する考慮事項
QMF インターフェース連絡モジュールおよびメイン QMF モジュールが入っているユーザー・プログラムは、同じ領域または区画で実行する必要があります。QMF インストール時に記述する QMF リソースも、QMF を実行する CICS の領域または区画に割り振る必要があります。
- データベース
 - **DB2 (VSE または VM 版)** 呼び出し可能インターフェースを介して QMF を呼び出すと、CICS トランザクションはすでにインストール済みのデータベース・パッケージを使用して QMF を実行するので、それ以上のアクションは不要です。
 - **DB2 UDB for OS/390** ユーザーのプログラムを呼び出す CICS トランザクションも、リソース管理テーブル (RCT) 項目によって DB2 に対して記述する必要があります。RCT 項目の詳細については、*DB2 UDB (OS/390 版) 管理の手引き* および *CICS システム定義の手引き* を参照してください。
RCT PLAN 名は、呼び出し可能インターフェース・プログラムと QMF プロダクトの両方で同じでなければなりません。

第4章 アプリケーションのためのコマンド・インターフェースの使用

QMF には、ISPF ダイアログから QMF サービスを使用するためのアプリケーション・インターフェースが用意されています。このインターフェースは、コマンド・インターフェースです。コマンド・インターフェースを使用すれば、QMF のもとで実行中の ISPF ダイアログから QMF コマンドを出すことができます。このインターフェースを使用して、QMF は、図8 に示すように、ISPF 変数プールを介してダイアログと通信することができます。

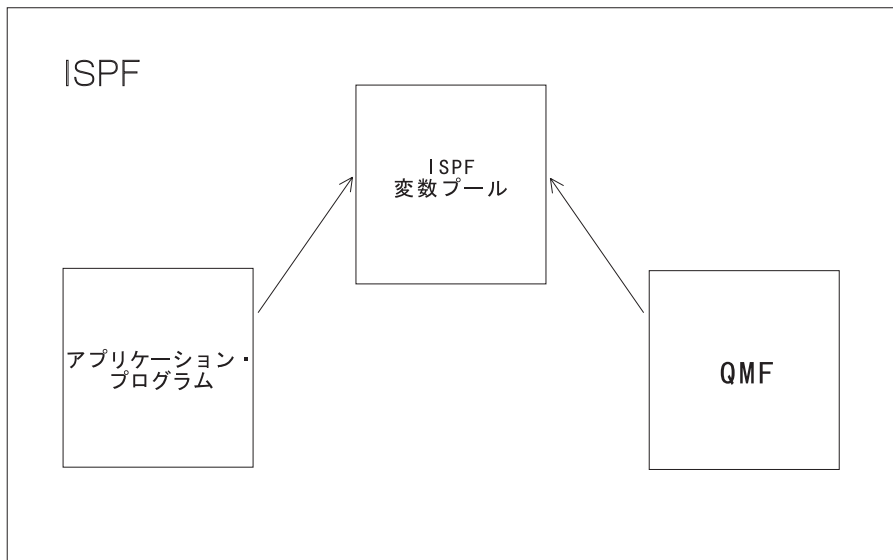


図8. QMF と対話する QMF コマンド・インターフェース・アプリケーション

CICS ユーザーへの注

QMF コマンド・インターフェースには ISPF の実行が必要ですが、ISPF は CICS 環境では実行しません。したがって、CICS のもとでのアプリケーション開発には、QMF 呼び出し可能インターフェースを使用する必要があります。

アプリケーションのためのコマンド・インターフェースの使用

コマンド・インターフェースを効果的に使用するには、ISPF サービスおよび変数プールについての理解が必要です。ISPF の使用上の詳細については、*ISPF 対話管理の手引きおよび解説書* を参照してください。

コマンド・インターフェース (DSQCCI) を使用するには、QMF セッションが実行中でなければなりません。コマンド・インターフェースを使用して QMF セッションを開始することはできません。次のように、ISPSTART コマンドを使用すれば、ISPF のもとで QMF セッションを開始することができます。

```
ISPSTART PGM(DSQMF) NEWAPPL(DSQE) PARM(...)
```

ISPF SELECT PGM サービスを使用して、QMF コマンド・インターフェース・プログラム DSQCCI を呼び出すことによって、ISPF ダイアログから QMF コマンドを使用します。SELECT PGM サービスの PARM オプションを使用して QMF コマンドを渡します。コマンド・インターフェースを使用するプログラムを実行するには、以下のステップを行う必要があります。

1. ISPF を開始する。
2. QMF を開始する。
3. CMS または TSO コマンドを使用してプログラムを実行する。

重要: 上記のいずれかのステップを省略すると、プログラムは失敗します。

コマンド・インターフェースを使用するプログラムの作成: 例

ユーザーに照会名の指定を入力し、照会を実行し、報告書を表示する ISPF パネルを表示するために、コマンド・インターフェースを使用する必要があります。

このシナリオでは、次に挙げることを行います。

1. コマンド・インターフェース REXX プログラムを作成する。プログラムは以下の処理を行う。
 - a. DISPLAY サービスを使用して、ISPF パネル QRYNAME を表示する。

```
ADDRESS ISPEXEC "DISPLAY PANEL(QRYNAME)"
```
 - b. 直前の DISPLAY サービスからのユーザー入力に基づいて、QMF 照会を実行する。ここで、ISPF 変数 QNAME には、QMF 照会の名前が入っている。

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT PGM(DSQCCI) PARM(RUN QUERY" QNAME ")"
```
 - c. 次のコマンドを使用して、照会の結果をユーザーに表示する。

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT PGM(DSQCCI) PARM(INTERACT)"
```
2. ISPF を開始する。

3. QMF を開始する。
4. QMF コマンド行から CMS または TSO コマンドを使用して作成したプログラムを呼び出す。たとえば、プログラムの名前が GETINFO である場合、コマンドは使用中のシステムにより以下のいずれかになります。

```
CMS GETINFO  
TSO GETINFO
```

コマンド・インターフェースの呼び出し

コマンド・インターフェースは DSQCCI という名前のプログラムです。このプログラムは、ISPF SELECT サービスを介してプログラムから呼び出すことができます。

ISPF SELECT サービスを介してコマンド・インターフェースを呼び出す場合、実行する QMF コマンドの名前を英大文字で PARM オペランドに入れて渡します。次のコマンドを発行します。

```
SELECT PGM(DSQCCI) PARM(qmf_command)
```

コマンド・インターフェースに対するパラメーターとして指定するすべての QMF コマンドは、QMF プロファイルの設定値に関係なく大文字でなければなりません。ISPF は、小文字から大文字へコマンドを自動的に変換しないので、QMF コマンドを小文字で指定すると、QMF では認識されません。QMF が QMF コマンドを実行しているときにプロンプト指示を出したい場合、QMF コマンドの直前に INTERACT コマンドをコーディングしてください。

INTERACT コマンドの詳細については、64ページの『INTERACT』を参照してください。

呼び出し時に、NEWPOOL または NEWAPPL オプションを指定してはなりません。NEWPOOL または NEWAPPL オプションを省略すれば、コマンド・インターフェースは、アプリケーションの変数に確実にアクセスできます。コマンド・インターフェースは、QMF とアプリケーションの間の通信に共用プールを使用します。

SELECT サービスを使用するには、RUN QUERY コマンドで 2 つのアンパサンドを使用する必要があります。これによって、ISPF はその変数を自分自身のものと解釈しなくなります。

END コマンド

END コマンドは、コマンド・インターフェース (DSQCCI) の実行中にエンド・ユーザーによって出されると、DSQCCI 呼び出しを終了し、制御を呼び出してアプリケーションに戻します。QMF セッションはアクティブのままです。コマンド・インターフェースの呼び出し中は、アベンド (異常終了) だけが、QMF セッションを終了します。

コマンド・インターフェースの呼び出し中、EXIT コマンドまたは重大エラーによって、QMF はセッションを終了とマークするように DSQCSESC を設定します。DSQCCI を呼び出したプログラムが終了し、制御を QMF に戻すと QMF セッションが終了します。

コマンド・インターフェースでの変数の使用

STATE コマンドは、QMF が提供した各変数の現行値を示します。このコマンドはコマンド・インターフェースでしか使用できません。このコマンドを出すとき、VPUT コマンドにより ISPF 変数プールに QMF 変数を置くことができます。35ページの表4 は、QMF が ISPF 変数プールに置く使用可能な QMF 変数のサブセットを示しています。

アプリケーションのためのコマンド・インターフェースの使用

表 4. ISPF 変数プールの QMF 変数

変数のタイプ	変数名	説明	
STATE コマンド	DSQAAUTH	DSQAPLEN	アプリケーションが STATE コマンドを出すと、QMF はこれらの変数を更新する。
	DSQABATC	DSQAPLNG	
	DSQACMDM	DSQAPPFK	
	DSQACRSR	DSQAPPRT	
	DSQADBCS	DSQAPRMP	
	DSQADBMG	DSQAPSPC	
	DSQAIACT	DSQAPSYN	
	DSQAITEM	DSQAPTRC	
	DSQAITLO	DSQAPWID	
	DSQAITMN	DSQAQMF	
	DSQAITMO	DSQAREVN	
	DSQALANG	DSQAROWS	
	DSQAMODL	DSQASUBI	
	DSQAMODP	DSQASUBP	
	DSQAOGRP	DSQATRAC	
DSQAPCAS	DSQAVARN		
	DSQAPDEC		
CONVERT コマンド	DSQCL nmn	CONVERT コマンドの処理中に、QMF はこれらの変数を更新する。	
	DSQCQ nmn		
	DSQCQCNT		
	DSQCQLNG		
	DSQCQTYP		

アプリケーションのためのコマンド・インターフェースの使用

表 4. ISPF 変数プールの QMF 変数 (続き)

変数のタイプ	変数名	説明
コマンド・ メッセージ	DSQCATTN	コマンド・インターフェースによっ て出されたコマンドを処理するた びに、QMF はこれらの変数を更新す る。
	DSQCIM00	
	DSQCIMnn	
	DSQCIMID	
	DSQCIMNO	
	DSQCIMSG	
	DSQCSESC	
照会 メッセージ	DSQCIQ00	RUN QUERY がエラー・メッセー ジを戻すと、QMF はこれらの変数 を更新する。
	DSQCIQnn	
	DSQCIQID	
	DSQCIQMG	
	DSQCIQNO	
	DSQCISQL	

ISPF 変数プールで QMF 変数を使用する場合には、変数に 8 文字の名前を使用してください。上記の変数の値および拡張名の説明については、285ページの『付録F. QMF グローバル変数表』を参照してください。

コマンド・インターフェースのリターン・コード

コマンド・インターフェースのリターン・コードは、アプリケーションの言語に関係なく同じです。リターン・コードは正の値またはゼロです。ゼロという値は、正常な実行を示します。正の値は、実行が失敗したか、異常終了したことを示します。

リターン・コードは、ユーザーの EXEC または CLIST の変数に置かれます。REXX EXEC を実行すると、リターン・コードは RC と呼ばれる REXX 変数に置かれます。CLIST を実行すると、リターン・コードは CLIST 変数 &LASTCC に置かれます。

次の例は、リターン・コードを調べる EXEC を示しています。

例

アプリケーションには、次のコードが含まれています。

```
ADDRESS ISPEXEC SELECT PGM(DSQCCI) PARM(RUN QUERYA (FORM=FORMA))
Select
  When (RC = 0) Then nop
  When (RC = 64) Then
    Say "You must run QMF with ISPF to use command interface."
  When (RC = 100) Then
    Say "You need to start QMF before you begin your application"
  Otherwise
    Say "Unexpected error ("RC") from QMF command interface."
End
```

上記のコードは、照会を実行してから、REXX RC を使用してエラーをテストします。

エラー処理用のコードは、EXEC または CLIST と同様に、プログラム・モジュールにも置くことができます。

リターン・コード 0 ~ 16

リターン・コード 0 ~ 16 は、コマンド・インターフェースによって渡されたコマンドの QMF 処理について記述します。コマンド・インターフェースがこれらのいずれかのコードを戻す場合、QMF コマンド・メッセージ変数の値もアプリケーションの ISPF 共用プールに戻します。各コードを表5 に示します。

表5. リターン・コード 0 ~ 16

値	説明
0	実行は正常に終了した
4	QMF セッションは EXIT または END コマンドによって終了とマークされた
8	実行は失敗したが、セッションはエラーによって終了とマークされなかった
16	重大エラー、セッションは終了とマークされた

リターン・コード 4 は、セッションを終了とマークする原因となったコマンドによってのみ 戻されます。次にアプリケーションが別のコマンドの実行を試みると、QMF は別のリターン・コード値をユーザーに戻します。

20 またはそれ以上のリターン・コード

これらのコードは、通常、コマンド・インターフェース (DSQCCI) でのなんらかの失敗を示しています。失敗によって、アプリケーションの共用プールへの変数のコピーが不可能になっています。結果として、QMF 変数は無効であるか、または設定されていない可能性があります。プログラムが STATE コマンドを使用している場合は、STATE 変数についても同じことが言えます。(変数は、アプリケーションの共用プールにコピーされていれば、「設定」されています。)

これらのリターン・コードは、通常、0 ～ 16 のリターン・コードより重大なエラーを示しています。ある種のエラーについては、IBM 担当員にお問い合わせください。

次の表は、20 以上の値のリターン・コードに関する説明を示しています。共用変数は、QMF 変数 (および現在のコマンドが STATE コマンドである場合には、STATE 変数) を意味します。

コードによっては、コマンドが実行されても共用変数が設定されないことがあります。このことは、コマンドが STATE コマンドの場合は、わかりにくいかもしれません。このことは、QMF が STATE コマンドを正しく実行したことを意味します。QMF は、それから、コマンド・インターフェースが更新済みの共用 QMF 変数と STATE 変数を設定すると想定しました。しかし、コマンド・インターフェースは、エラー・コードの説明に示されている理由で、設定に失敗しました。各コードを表6 に示します。

アプリケーションのためのコマンド・インターフェースの使用

表 6. 20 以上のリターン・コード

値	説明
20	ユーザー出口ルーチンがコマンド・インターフェースを呼び出した。これらの呼び出しは常に無効である。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは実行されていない。共用変数は設定されていない。
24	ISPF VCOPY コマンドでエラーが発生した。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは実行された。共用変数は設定されていない。
32	ISPF VREPLACE コマンドでエラーが発生した。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは実行された。共用変数は設定されていない。
36	ISPF VPUT コマンドでエラーが発生した。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは実行された。共用変数は設定されていない。
40	ISPF VREPLACE コマンドでエラーが発生した。このコードは、STATE コマンドの実行にのみ適用される。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは「実行」されたが、共用変数は設定されていない。
44	ISPF VPUT コマンドでエラーが発生した。このコードは、STATE コマンドの実行にのみ適用される。QMF 変数は設定されているが、STATE 変数は設定されていない。
60	コマンド・インターフェースに対する呼び出しが無効。たとえば、ユーザーが QMF プロンプト・パネルからアプリケーションを呼び出し、そのアプリケーションがコマンド・インターフェースを呼び出した。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは実行されていない。共用変数は設定されていない。
64	ISPF 環境で呼び出していない。このエラーは、DSQCCI が実行されたが、ISPF がアクティブでない場合に発生する。たとえば、ユーザーが ISPF SELECT PGM コマンドを使用しないで DSQCCI を呼び出した。
100	アンカーの発見に失敗した。このエラーは、アプリケーションが QMF をアクティブにしないで QMF コマンドを出した場合に発生する。アプリケーションを開始する前に QMF を開始する必要がある。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは実行されていない。共用変数は設定されていない。
104	アンカーの発見に失敗した。コマンド・インターフェースに渡されたコマンドは実行されていない。共用変数は設定されているが、無効である。

第5章 ISPF を使用する QMF アプリケーションの作成

自分自身のユーザー・インターフェースを持つ、すべての QMF パネルを迂回するアプリケーションを作成することができます。このようなアプリケーションを作成する 1 つの方法は、ISPF を使用して自分自身のパネルを作成し、ユーザーの項目を QMF に変数として渡すというものです。QMF オブジェクトを作成し、読み取るために、他の ISPF サービスを利用することもできます。

CICS ユーザーへの注

ISPF は CICS 環境で実行できないので、ISPF サービスを CICS のもとで使用することはできません。

ISPF によって、メインフレーム・システムでエンド・ユーザー・インターフェースを提供することができます。ISPF は、QMF 呼び出し可能インターフェースまたはコマンド・インターフェースと共に使用することができます。

本章では、ISPF と共に呼び出し可能インターフェースを使用する方法に関する考慮事項について概説します。呼び出し可能インターフェースの使用法の一般情報については、21ページの『第3章 呼び出し可能インターフェース』を参照してください。コマンド・インターフェースの使用法については、31ページの『第4章 アプリケーションのためのコマンド・インターフェースの使用』を参照してください。

ISPF アプリケーションからの QMF の開始および実行

呼び出し可能インターフェースは、ISPF でも他のプログラムとの場合と同様に機能します。しかし、いくつかの考慮事項があります。

呼び出し可能インターフェースは ISPF ダイアログの言語と一致しなければならない

たとえば、ISPF ダイアログが PL/I プログラムの場合、PL/I 用の QMF 呼び出し可能インターフェースを使用する必要があります。

正しい言語 ID を使用しなければならない

ISPF を使用する QMF アプリケーションの作成

DSQ n という ID を使用して ISPF アプリケーションを開始する必要があります。ここで、 n は各国語機能 (NLF) ID です。このアプリケーション ID によって、QMF が機能キーの設定やラベルなどの ISPF 環境を指定変更しないようにすることができます。QMF を開始するアプリケーションを開始するには、次の ISPF ステートメントを使用してください。

```
SELECT PGM(MYPROG) NEWAPPL(DSQ $n$ )
```

ここで、 n は NLF ID です。次に、PL/I プログラム MYPROG が、呼び出し可能インターフェース START コマンドを使用して QMF を開始します。

ID DSQ n は、QMF の開始後も、ISPF 環境が変更されないように保証します。

NLF ID のリストについては、76ページの表7 を参照してください。

STATE コマンドの代わりに GET GLOBAL または SET GLOBAL を使用する

GET GLOBAL および SET GLOBAL コマンドは、すべての QMF グローバル変数に対して機能しますが、STATE コマンドは、状態情報が入っている変数に対してしか機能しません。285ページの『付録F. QMF グローバル変数表』にあるこれらの変数に関する表を参照してください。

変数を含む照会の実行

アプリケーションは、変数を含む照会を実行することができます。以下の3つのうちのいずれかの方法で、ISPF サービスを使用するアプリケーションからこのような照会を実行することができます。

- ISPF ファイル調整サービスを使用する。

この技法を使用する場合、ISPF ファイル調整スケルトンによって照会を表します。このスケルトンでは、変更可能な照会の部分が ISPF ダイアログ変数として現れます。これらの変数に適切な値を与えると、プログラムは特定の ISPF ファイル調整サービスを開始します。結果は、照会が入っている順次ファイルとなります。

次に、プログラムは、この照会を QMF 一時記憶域にインポートし、QMF に実行させます。必要な IMPORT および RUN コマンドは、呼び出し可能インターフェースまたは コマンド・インターフェースを介して実行することができます。

この技法を使用するには、プログラムで ISPF VDEFINE サービスを使用して ISPF ダイアログ変数を定義する方法を知っている必要があります。

ISPF 対話管理の手引きおよび解説書 を参照してください。

- プログラム開発機能 (PDF) 編集プログラムを使用して QMF オブジェクトを作成する。

PDF 編集マクロで PDF 編集プログラムを使用して、照会、プロシージャ、書式、およびプロファイルに対するデータ入力項目を設計して制御することができます。PDF マクロは、REXX プログラムを使用して作成することができます。

- ISPF ダイアログを使用して照会を作成する。

SQL 照会が入っているファイルを作成するために、プログラムは ISPF 表示サービスを使用して画面を表示し、ユーザーからの入力に基づいてファイルを作成することができます。次に、このファイルを QMF にインポートして実行することができます。

ISPF のもとでの QMF ロジックを持つプロシージャからのプログラムの呼び出し

ISPF のもとで QMF を実行している場合、ロジックを持つプロシージャから呼び出し可能インターフェース・プログラムまたは REXX プログラムを呼び出すために、ISPF SELECT サービスを使用する必要があります。呼び出し可能インターフェース・プログラムを ISPF ダイアログ関数として実行していることを ISPF に伝えるために、PGM キーワードを使用してください。このコマンドの構文は次のとおりです。

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT PGM(programname)"
```

REXX プログラムの場合は、プログラムを ISPF ダイアログ関数として実行していることを ISPF に伝えるために、CMD キーワードを使用します。このコマンドの構文は次のとおりです。

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT CMD(cmdname)"
```

または

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT CMD(cmdname parameters)"
```

cmdname は呼び出し可能インターフェース・プログラムまたは REXX プログラムの名前です。

ロジックを持つプロシージャからの ISPF コマンドの使用

ISPF のもとで QMF を開始するときは常に、QMF は ISPF プログラムとして開始されます。したがって、ISPF のもとで実行中の QMF ロジックを持つプロシージャからいずれかの ISPF コマンドを実行する場合には、QMF プログラム・ダイアログから ISPF コマンド・ダイアログへ移行する必要があります。これを実行するには、QMF プロシージャから ISPF SELECT CMD を出す必要があります。

正しい ISPF 環境を設定し、ISPF コマンドが入っている REXX プログラムを実行するには、次に示すように、CMD キーワードを指定して ISPF SELECT コマンドを使用してください。

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT CMD(userprogram)"
```

userprogram は、ISPF コマンドが入っている REXX プログラムです。

たとえば、ISPF コマンドが入っている REXX プログラムの名前が DIALOG である場合、ロジックを持つプロシージャに次のコマンドを組み込んでください。

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT CMD(DIALOG)"
```

ISPF の詳細については、*ISPF 対話管理の手引きおよび解説書* を参照してください。

ISPF コマンドが入っている REXX プログラムを実行するために、CMS DIALOG または TSO DIALOG のように、QMF の CMS コマンドまたは TSO コマンドを使用することもできます。QMF が ISPF SELECT CMD ステートメントを出してくれます。

ISPF のもとで QMF を実行中に、ロジックを持つプロシージャが ISPF サービスを必要とするプログラムを開始する場合、このプロシージャは、上記の例で示した ISPF SELECT CMD 環境を使用してこのプログラムを開始する必要があります。たとえば、ISPF のもとで QMF を実行中であり、ロジックを持つプロシージャが DB2 の DSN コマンドを開始するものとします。DSN コマンドは ISPF サービスを使用するので、以下のいずれかのコマンドを使用して DSN コマンドを出す必要があります。

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT CMD(DSN)"
```

または

```
ADDRESS ISPEXEC "SELECT CMD(DSNEXEC)"
```


ここで、DSNEXEC には ADDRESS TSO DSN ステートメントが入っていません。

呼び出し可能インターフェース

QMF のアプリケーション内で、QMF バージョン 7 より前のバージョンでリンク・エディットされており、かつ、呼び出し可能インターフェースを使用する LIBDEF 関数を使用したい場合は、QMF バージョン 7 を使用してユーザーのアプリケーションをリンク・エディットし直す必要があります。

ISPF で EDIT コマンドを使用する方法

ISPF のもとで QMF アプリケーションを実行する場合、QMF SQL の照会またはプロシージャーを次のコマンドを使用して編集することができます。

```
EDIT QUERY  
EDIT PROC
```

PROC または QUERY パネル内から QMF EDIT コマンドを発行する場合は、PROC または QUERY のオブジェクト・タイプを指定する必要はありません。EDIT コマンドは、各パネルから呼び出された際に、その値を想定します。デフォルトで、QMF EDIT コマンドはプロシージャーまたは照会を PDF 編集プログラム・セッションの状態にします。QMF は、QMF アプリケーション ID の DSQ n を使用して、PDF 編集プログラムを開始します。ここで、 n は NLF ID です。さらに、QMF は機能キーおよびコマンド行の場所を QMF アプリケーションに一致するように設定します。

このデフォルトを変更するには、次のように EDIT QUERY および EDIT PROC コマンドを使用してください。

```
EDIT QUERY (E=name  
EDIT PROC (E=name
```

name には、以下のいずれかを指定できます。

- 使用可能な編集プログラム
- DSQE 以外のアプリケーション ID を指定している REXX プログラムの名前。QMF が提供する機能キーとは異なる機能キーを使用する場合、QMF アプリケーション ID とは異なるアプリケーション ID を使用する必要があります。

PDF PROFILE データ・セット・メンバーを必要とする PDF EDIT オプションを使用する場合、このようなメンバーを作成する必要があります。たとえば、PDF EDIT RECOVERY オプションが DSQ n EDRT PROFILE データ・セッ

ISPF を使用する QMF アプリケーションの作成

ト・メンバーを必要としている場合 (ここで、 n は NLF 文字)、このメンバーは EDIT コマンドを使用する前に存在していなければなりません。

QMF EDIT コマンドの詳細については、オンライン・ヘルプ、および *QMF* 解説書を参照してください。

アプリケーションをデバッグするための ISPF の使用

QMF トレース機能は、QMF のメッセージとコマンドしかトレースしません。アプリケーションの ISPF コマンドをトレースするには、メッセージを ISPF ログ・ファイルまたはデータ・セットに書き込みます。この ISPF サービスは、137ページの『第9章 QMF アプリケーションのデバッグ』に示す QMF トレース機能を補います。

ISPF ログ・サービスの使用

ISPF ログ・サービスを使用して、メッセージを ISPF ログ・ファイルに書き込みます。たとえば、REXX では、メッセージを ISPF ログに書き込むための ISPF コマンドは、次のようになります。

```
ADDRESS ISPEXEC LOG MSG (message-id)
```

message-id は、メッセージ・ライブラリーから取り出されてログに書き込まれるメッセージの ID です。

PDF ダイアログ・テストの使用

インストール先に PDF がある場合、ダイアログ・テスト・サービス (ログ・オプション) を使用して、ログ・ファイルまたはデータ・セットの内容をブラウズすることができます。ISPF を終了するときに、ログ・ファイルまたはデータ・セットを印刷することもできます。

ダイアログ・テスト・サービスには、アプリケーションをデバッグするための他の多くの有用なオプションがあります。デバッグは対話式に行うことが可能です。アプリケーションの全部または一部を実行し、結果を調査し、変更し、再実行することができます。さらに、ダイアログ・テストを使用して、次の処理を実行できます。

- 選択パネル、コマンド・プロシーチャー、およびプログラムの開始
- パネルの表示
- 変数の追加および変数値の変更
- ISPF ダイアログ・サービスの実行
- ブレークポイント定義の追加、変更、および削除
- 関数および変数のトレース定義の追加、変更、および削除

ISPF を使用する QMF アプリケーションの作成

ダイアログ・テスト・サービスのトレース・オプション (TRACES) によって、トレース定義を作成、変更、および削除することができます。したがって、ダイアログ・サービス呼び出しおよびダイアログ変数の使用をモニターすることができます。処理中に、いずれかのトレース定義が満たされると、トレース出力が ISPF ログに書き込まれます。ダイアログ・テストの LOG オプションを使用して、ISPF ログをブラウズすることができます。あるいは、ISPF を終了するときに印刷出力を調べることができます。

一般的な ISPF サービスおよび特殊なダイアログ・テストの詳細については、*ISPF 対話管理の手引き*および*解説書*を参照してください。

第6章 2 か国語使用のアプリケーションの作成

多くの企業は、複数の異なる国、または複数の言語を使用する国で事業を行っています。このような場合、対話式アプリケーションをいくつかの異なる国語で実行する必要が生じます。バージョン 3.2 以降、英語版のアプリケーションを作成し、それを QMF がサポートする任意の国語で実行することができるようになりました。

英語以外の言語の QMF 環境は、各国語機能 (NLF) です。NLF は、特定の言語用に調整した QMF セッションをユーザーに提供します。たとえば、ドイツ語 NLF を使用すれば、QMF をドイツ語環境で働かせることができます。

QMF は、コマンドおよび書式に関して 2 か国語サポートを提供しています。任意の NLF を用いて英語の QMF コマンドを実行し、英語の書式を表示することができ、また変換可能なアプリケーションを作成することができます。本章では、複数の言語環境、または英語以外の言語環境で QMF を使用方法について説明します。

アプリケーション用の 2 か国語使用のオブジェクトの作成

2 か国語使用のアプリケーション内のオブジェクトは、他の QMF オブジェクトと同様です。重要な点は、オブジェクトを英語で作成するか、保管することです。2 か国語使用の方法は、特定のオブジェクトによって異なります。

照会 指示照会および QBE 照会は自国語で作成することができ、SQL 照会は英語で作成することができます。

書式 書式は常に主要言語で作成し、SAVE コマンドのデフォルト言語 (ENGLISH) または主要言語を使用して保管します。

グローバル変数 `DSQEC_FORM_LANG` は、SAVE コマンドに使用する言語を制御します。デフォルト値は英語を示す 1 です。値 0 は、書式を主要セッション言語で保管することを指定します。

プロシージャー

プロシージャーは、英語または主要言語のどちらを使用しても作成できます。

2 か国語使用のアプリケーションの作成

SAVE コマンドを使用することによって、NLF で作成し保管した書式を英語に変換することができます。たとえば、SEMAINE_F という名前の書式を WEEKLY_F という名前で英語で保管するフランス語のコマンドは、次のとおりです。

```
SAUVER FORMAT SEMAINE_F EN WEEKLY_F (LANGUE=ANGLAIS)
```

このコマンドは、NLF 書式を、2 か国語使用のアプリケーションで使用できる英語の書式に変換します。

コマンド言語変数の使用

アプリケーションに必要なオブジェクトがあるとき、NLF セッションで英語のコマンドの使用を開始することができます。そのためには、主要言語変数 DSQEC_NLFCMD_LANG を英語に設定します。この変数によって、英語と NLF セッションの主要言語との間での切り替えを行うことができます。

アプリケーションが WEEKLY_P という名前のプロシージャであるとして、以下のコマンドを使用することができます。

```
"GET GLOBAL (CURR_LANG=DSQEC_NLFCMD_LANG"  
"SET GLOBAL (DSQEC_NLFCMD_LANG='1'"  
"RUN PROC WEEKLY_P"  
"SET GLOBAL (DSQEC_NLFCMD_LANG=CURR_LANG"
```

上記のコマンドは、初期プロシージャから高水準言語プログラムへの、有効な QMF アプリケーションの一部になりますが、この並び順でなければなりません。これらのコマンドは、以下の処理を行います。

主要言語値を保管する

GET GLOBAL コマンドは、CURR_LANG という変数内の主要言語の値を保管します。値を保管したら、DSQEC_NLFCMD_LANG を英語を示す値にリセットします。

アプリケーションを実行する

QMF セッションを英語に設定した場合は、英語のアプリケーションを実行することができます。ユーザーが入力するコマンドは、英語でなければなりません。ただし、機能キーを押した場合、対応するコマンドは主要言語を使用するものと想定されます。

QMF は、プロンプト・パネルがユーザーの主要言語を使用するものと想定します。EXPORT および IMPORT コマンド・プロンプト・パネルの場合、デフォルトのファイル・タイプも主要言語で表示されます。

NLF がプロファイル内で大文字オプションを指定している場合、ユーザーが英語のコマンドを実行しても、QMF はユーザーの主要言語オプションに従います。

主要言語に戻る

アプリケーションが終了した後、コマンド言語変数を元の値にリセットする必要があります。

2 国語使用のアプリケーションでの初期プロシーチャーの使用

アプリケーションが QMF を開始し、初期プロシーチャーを実行すると、QMF はユーザーが END コマンドを出すたびにそのプロシーチャーを実行します。このプロシーチャーがエラーを検出すると、QMF は終了します。たとえば、ユーザーが英語で実行中に主要言語で END コマンドを出すと、QMF はそのコマンドをエラーとして解釈し、終了します。

このような状態は、以下の 2 つのうちのいずれかの方法で回避できます。

- 2 国語使用のアプリケーションを処理するように、初期プロシーチャーを変更する。
2 国語使用の初期プロシーチャーには、図9 に示すコマンドが含まれません。

```
"GET GLOBAL (CURR_LANG=DSQEC_NLFCMD_LANG"  
"SET GLOBAL (DSQEC_NLFCMD_LANG=0"  
:  
:  
/* QMF commands in the presiding language */  
:  
"SET GLOBAL (DSQEC_NLFCMD_LANG=CURR_LANG"
```

図9. 2 国語使用のアプリケーション内の初期プロシーチャー

- END コマンドの後に、初期プロシーチャーを実行しないようにする。
変数 DSQEC_RERUN_IPROC を 0 に設定すれば、ユーザーが END コマンドを出した後で QMF が初期プロシーチャーを実行しないようにすることができます。

2 か国語使用のアプリケーションの作成

英語のコマンドの使用

ほとんどの QMF コマンドは、コマンドを英語で実行する前に主要言語変数を変更する必要があります。しかし、プロンプト・パネルまたはメッセージを主要言語で表示するためには、主要言語変数が英語に設定されていない場合でも、いくつかの英語のコマンドは任意の NLF で実行できなければなりません。

たとえば、英語で作成し、しかもある NLF で実行させたい対話式アプリケーションがある場合、ユーザー・カスタマイズ・メッセージを表示するには、MESSAGE コマンドを使用する必要があります。さらに、次の例のように、フランス語の NLF セッションで実行できるメッセージの表示には INTERACT コマンドが必要です。

```
proceed_text = 'Continue...'  
"RUN WEEKLY_Q"                /* Use the English RUN command */  
"SET GLOBAL (DSQEC_NLFCMD_LANG=0" /* switch back to French      */  
"MESSAGE (TEXT='\"proceed_text\"'" /* message in French          */  
"INTERACT"                    /* show the report with message */
```

以下のコマンドは、どの NLF でも機能します。

```
GET GLOBAL  
INTERACT  
MESSAGE  
SET GLOBAL  
START
```

複数言語環境

QMF のインストール先に 1 つまたは複数の NLF をインストールすると、複数言語環境が作成されます。このような環境では、適切な許可があれば、QMF セッションごとに 1 つの主要言語を選択することができます。たとえば、あるセッションに英語を選択した場合、ドイツ語の NLF がインストール済みであれば、別のセッションにドイツ語を選択することができます。QMF セッション中は、言語を切り替えることができませんが、コマンド言語変数を切り替えることはできます。次に、適切な言語環境を獲得するために、現行セッションを終了して、別のセッションを開始する必要があります。

QMF セッション環境

NLF をインストールしていない場合、使用可能な唯一の QMF セッション環境は、英語環境です。NLF がインストール済みである場合、NLF 環境は英語環境と多少異なります。

環境の類似点

多くの点で、QMF セッション環境は、どの NLF が作動中であるかは関係なく同じです。最も重要な類似点は次のとおりです。

能力

一般に、NLF セッションでは、英語セッションで実行できるすべてのことを実行できます。すべての一時記憶域オブジェクトを作成して保管し、報告書をフォーマット設定して印刷し、SQL コマンドを出すことができます。また、指示照会、SQL 照会、および QBE 照会を実行し、QMF プロシージャーを実行することができます。英語環境と NLF 環境の間の相違点は、何ができるかではなく、実行するために端末で何を入力する必要があるかということと端末画面にどの言語が表示されるかです。

SQL および QBE

SQL 言語および QBE 言語の動詞、演算子、およびキーワードは変換されません。

書式の取扱コード

これらは同じものなので、変換されません。

システム・コマンド

CMS、TSO、または CICS および ISPF コマンドは、QMF の CMS、TSO、または CICS コマンドを介して QMF から出すことができます。このコマンドは、変換による影響を受けません。CMS、TSO、または CICS の後ろに実行するコマンドを入力します。このコマンドは、QMF の外で実行する場合とまったく同様に書き込んでください。

環境の相違点

NLF 環境と英語環境の間の重要な相違点をいくつか示します。

2 か国語使用のアプリケーションの作成

QMF 言語

各 NLF には、QMF 言語用の動詞とキーワードの完全なセットがあります。NLF 言語環境で操作中の場合には、これらの動詞とキーワードが QMF コマンドに現れていなければなりません。特定の NLF では、これらの語は変換される場合があります。

たとえば、ドイツ語の NLF では、動詞 DISPLAY とキーワード PROC は、それぞれ ANZEIGEN および PROZEDUR に変換されています。ドイツ語のセッションでは、QMF はコマンド ANZEIGEN PROZEDUR を理解しますが、DISPLAY PROC を理解しません。

QMF 言語のいくつかの要素はコマンド同義語で、変換が可能です。その結果、各 NLF には、固有の名前が付いたコマンド同義語表があります。NLF をインストールすると、そのコマンド同義語表が作成され、NLF のプロファイルはその NLF に関するコマンド同義語表名を示します。

QMF パネルおよびメッセージ

各 NLF には QMF メッセージとパネルの完全なセットがあります。QMF のメッセージとパネルは、QMF コマンドの動詞とキーワードと同様に、変換されない場合もありますが、ほとんどの場合、変換されます。パネルとメッセージの中で、テキストの固定部分は変換可能です。照会名のような可変情報は変換されません。

許可されるパネル入力

ユーザー入力を必要とするプロンプト・パネルや書式パネルのような多くの QMF パネルでは、入力の範囲が、キーワードの小さなセットに制限されているものがあります。許可される値の大部分が変換されます。たとえば、英語の YES および NO 応答は、ドイツ語では JA および NEIN になります。

プロファイルのパラメーター値

複数言語環境では、QMF セッションに使用できる NLF ごとに別個のプロファイルを持つことができます。各プロファイルでは、パラメーターとその意味は同じです。しかし、QMF が提供するキーワードの一部として、その名前は変換することができます。パラメーターによっては、想定できる値も変換することができます。

たとえば、英語のプロファイルでは、CASE パラメーターの値は UPPER、STRING、または MIXED のいずれかです。ドイツ語のプロファイルでは、

2 外国語使用のアプリケーションの作成

CASE パラメーターは SCHRIFT パラメーターとなり、可能な値は、GROSS、KETTE、および GEMISCHT になります。

エクスポート後、および保管後の書式オブジェクト

SAVE、EXPORT、および IMPORT コマンドによって、書式オブジェクトを保管するための言語を指定することができます。書式オブジェクトは英語で保管することも、現行セッションの主要言語で保管することもできます。これらのコマンドの詳細については、*QMF 解説書* を参照してください。

サンプル表およびサンプル照会

IBM は、英語のサンプル表およびサンプル照会の変換バージョンを、いくつかの NLF に用意しています。たとえば、日本語のユーザー用の英語の表から変換されたサンプル表があります。

変換可能なアプリケーションの作成

できるだけ多くの言語依存のオブジェクトに変数を使用することによって、新しい言語にアプリケーションを適合させるための時間を節約することができます。このような変数には、以下のものがあります。

- QMF コマンドの動詞、オブジェクト名、およびオプション ID
- インストール先で定義するパネル名
アプリケーション用の独自のパネルを作成する場合、アプリケーションを実行する言語ごとに変換したパネルのセットが必要です。これらのパネルに固有の名前を与え、アプリケーション・ユーザーが使用できるようにします。そうしておけば、アプリケーションは、パネル名に変数を使用できます。
- インストール先定義のメッセージ ID
メッセージもパネルと同様に、適切な NLF 言語に変換する必要があります。アプリケーションは、メッセージ名に変数を使用することができます。

変数を使用すれば、複数の NLF で同じプログラムを使用することができます。

2 か国語使用のアプリケーションの作成

第7章 アプリケーションでの QMF コマンド

特定の環境において QMF コマンド行上で有効なコマンドは、すべてアプリケーション内で有効です。さらに、QMF には、アプリケーション用として設計されたコマンドが用意されています。

本章では、ユーザーが一般的にプログラムで使用する QMF コマンド、およびアプリケーション開発でのこれらのコマンドの使用方法について説明します。コマンドおよび構文の詳細については、*QMF 解説書* を参照してください。

CONNECT

QMF CONNECT コマンドを使用して QMF セッション中に、リモート作業単位を分散ネットワーク内の別のシステムに接続することができます。また、QMF CONNECT コマンドを使用して、QMF によってサポートされるリモート・データベースにアクセスすることもできます。リモート・システムに接続すると、そのシステムが現行ロケーション になります。アプリケーションを作成する場合、このコマンドを以下のインターフェースやプロシージャから出すことができます。

- 呼び出し可能インターフェース
- コマンド・インターフェース
- プロシージャ (線形プロシージャまたはロジックを持つプロシージャ)

QMF CONNECT コマンドを使用してリモート作業単位を開始すると、アプリケーションの特定の側面が影響を受ける可能性があります。以下の考慮事項があります。

- アプリケーションが新しいロケーションに接続すると、QMF プロファイル、コマンド同義語、および機能キーが、新しいロケーション (現行の) での各値に再初期化されます。
- QMF を開始し QMF コマンドを発行するすべての呼び出し可能インターフェース・プログラムおよびコマンド・インターフェース・プログラムは、ユーザーと同じシステム (ローカル・システム) に常駐していなければなりません。プログラムは、ローカル・システムで QMF を開始すれば、QMF CONNECT を発行してリモート・データベースに接続することができます。データベース・オブジェクトに影響を与える以後のすべての QMF コマンドまたは SQL ステートメントは、現行ロケーション (リモート・データベース) で実行されます。

アプリケーションでの QMF コマンド

- QMF によって開始されるすべてのプログラムは、QMF を実行中のオペレーティング・システム (ローカル・システム) の規則に従っていなければなりません。
- コマンドのタイプによって、リモート作業単位での動作は異なります。アプリケーションでリモート作業単位を使用する場合、システム固有のすべてのコマンドおよび大部分の QMF コマンドは、QMF を実行中のシステム (通常は、ローカル・システム) で実行されることに注意してください。ただし、QMF コマンドが、
 - SQL コマンドをデータベースに送信する場合
 - データベースに保管されている QMF オブジェクトおよびデータを使用または変更する場合には、これらのコマンドは、*現行ロケーション* のデータベースに影響を与えます。

例

CMS を実行中のローカル VM システム (SANJOSE) にログオンしているものとします。以下に挙げることを行う REXX 呼び出し可能インターフェース・プログラムを作成します。

1. QMF セッションを開始する。

```
CALL DSQCIX "START"
```

2. リモート DB2 データベース (DALLAS) に接続する。

```
CALL DSQCIX "CONNECT TO DALLAS"
```

3. リモート・データベースにデータを照会し、データをフォーマット設定し、報告書を印刷するロジックを持つプロシージャーを実行する。

```
CALL DSQCIX "RUN PROC EARNINGS"
```

プロシージャー EARNINGS には次のロジックが含まれています。

```
⋮  
"RUN QUERY EARNQ (FORM=EARNF"  
"PRINT REPORT"  
⋮
```

このプロシージャーには、別の CONNECT コマンドは含まれていません。

4. QMF セッションを終了する。

```
CALL DSQCIX "EXIT"
```

このプログラムを作成する場合、以下のことに注意してください。

- アプリケーション・プログラムはローカル (SANJOSE) VM システムに常駐していなければなりません。

- QMF セッションはローカル (SANJOSE) VM システムで開始します。
- プロシージャーはリモート・データベース (DALLAS) に常駐していなければなりません。58ページの3 のステップでアプリケーションがプロシージャーを実行すると、DALLAS が現行ロケーションになります。
- 58ページの2 のステップで CONNECT コマンドの後にアプリケーションまたはプロシージャーで使用するすべての QMF オブジェクト (この場合は、照会および書式) は、リモート・データベース (DALLAS) に常駐していなければなりません。
- 58ページの3 のステップでプロシージャーで実行する SQL 照会 EARNQ は、DALLAS での DB2 データベースに対して実行されます。
- プロシージャー EARNINGS の PRINT コマンドは、現行ロケーション (DALLAS) のプロファイルによって指定されているプリンターで報告書を印刷します。この例では、現行ロケーション (DALLAS) のプロファイルによって、プリンターがローカル VM システム (SANJOSE) にあると定義されていると想定しています。

QMF CONNECT コマンドを使用してのリモート・ロケーションへの接続の詳細については、オンライン・ヘルプを参照してください。

END

QMF セッションを終了するために、アプリケーション中に END コマンドを組み込むことができます。対話式 QMF セッションを終了して制御をアプリケーションに戻すために、エンド・ユーザーが終了機能キーを押すか、またはコマンド行に END コマンドを入力する必要があるように、アプリケーションを設計することもできます。

END コマンドを支配する規則は、END コマンドを発行するセッションのタイプによって異なります。この節では、以下の各タイプの QMF セッションでの END コマンドの機能について説明します。

- 呼び出し可能インターフェースによって開始されたセッション
- 初期プロシージャーを伴う、ISPF を使用する対話式セッション
- 初期プロシージャーを伴わない、ISPF を使用する対話式セッション
- INTERACT コマンドによって開始された対話式セッション
- バッチ・モード・セッション

呼び出し可能インターフェースによって開始されたセッション

END コマンドは、呼び出し可能インターフェースによって開始された対話式セッションでエンド・ユーザーによって出されると、対話式セッションを終了

アプリケーションでの QMF コマンド

し、制御を呼び出しアプリケーションに戻します。QMF は、アクティブ・セッションを終了する前に、ホーム・パネルを現行パネルにします。QMF はアクティブのままです。QMF は、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションによって開始された後は、EXIT コマンドまたは重大エラーによってのみ終了します。

初期プロシージャ (DSQSRUN) を伴う対話式セッション

次のキーワードを使用して QMF を開始すると、QMF は初期プロシージャを実行する対話式セッションを開始します。

```
DSQSRUN=xxxxx,DSQSMODE=I
```

ここで、xxxxx (DSQSRUN キーワードの値) は、QMF 初期プロシージャの名前です。このキーワードの説明は 75 ページの『START コマンドのキーワード』にあります。

QMF を開始すると、QMF は初期プロシージャを実行します。このプロシージャが終了すると、現行パネルがホーム・パネルでない限り、ユーザーは対話式セッションにいます。現行パネルがホーム・パネルの場合、QMF は対話式セッションを開始しません。その代わりに、以下の両方の条件が真の場合、QMF はただちに初期プロシージャを再始動します。

- 重大エラーが発生していない。
- DSQEC_RERUN_IPROC グローバル変数が 1 に設定されている。

プロシージャの最後の現行パネルがホーム・パネルになるような初期プロシージャは作成しないようにしてください。初期プロシージャの最後の現行パネルがホーム・パネルであると、割り込み不能ループが発生し、QMF は、開始されていないか、または初期プロシージャを実行中であるように見えます。これを回避するには、以下のいずれかを実行してください。

- プロシージャの最後の現行パネルがホーム・パネルでないようにする。
- プロシージャに QMF EXIT コマンドまたは INTERACT コマンドを組み込む。

エンド・ユーザーが対話式セッションで END コマンドおよび DSQEC_RERUN_IPROC= 1 を出すと、QMF は単純に初期プロシージャを再始動します。セッションを終了するには、EXIT コマンドを使用してください。

QMF が呼び出し可能インターフェースによって開始されていない場合には、DSQ_RERUN_IPROC を使用して、QMF が初期プロシージャを再実行するかどうかを制御することができます。DSQEC_RERUN_IPROC = 0 を設定する

と、END コマンドの実行時に初期プロシージャーが再実行されなくて QMF が終了します。この変数は、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションには影響を及ぼしません。

初期プロシージャーを伴わない対話式セッション

この場合、QMF の開始時に DSQSRUN パラメーターは指定しません。これによって、ユーザーが制御を受ける前にどのプロシージャーも実行されなくなります。

エンド・ユーザーがこのような対話式セッション内から END コマンドを出すと、QMF は以下のいずれかを実行します。

- 現行パネルがホーム・パネルでない場合、現行パネルをホーム・パネルにします。
- 現行パネルがホーム・パネルであれば、セッションを終了とマークする。END コマンドをオンラインで出せば、セッションはただちに終了します。アプリケーションで出すと、セッションはアプリケーションの終了時に終了します。

INTERACT コマンドによって開始された対話式セッション

アプリケーションは、64ページの『INTERACT』で説明する INTERACT コマンドを使用すれば、現在の対話式 QMF セッション内で新しい対話式 QMF セッションを開始することができます。古いセッションは、初期プロシージャーを伴うかどうかに関係なく、基本セッションであっても別のアプリケーションによって開始されたセッションであってもかまいません。

新しいセッションでの END コマンドは、ユーザーがオンラインで入力することもアプリケーションで発行することもできます。いずれの方法で END コマンドを実行しても、現行パネルが何であれ、対話式セッションは終了とマークされます。

END コマンドをオンラインで出せば、セッションはただちに終了します。アプリケーションで出すと、セッションはアプリケーションの終了時に終了します。セッションが終了すると、制御はそれを開始したアプリケーションに戻ります。

バッチ・モード・セッション

QMF バッチ・モード・セッションは、QMF でサポートされるすべての環境の非対話式セッションで実行されます。デフォルトであるバッチ・モード (DSQSMODE=BATCH) を指定することによって、QMF を画面表示なしで開始

アプリケーションでの QMF コマンド

することができます。DSQQMFE を使用する場合、DSQSRUN を使用して初期プロシージャーを指定する必要があります。ただし、呼び出し可能インターフェースを使用する場合、初期プロシージャーを指定する必要はありません。

バッチ QMF セッション中に、初期プロシージャーは END コマンドを出すことも、END コマンドを出すアプリケーションを開始することもできます。結果は、初期プロシージャーを伴わない対話式セッションの場合と似ています。END コマンドによって、以下の処理が行われます。

- 現行パネルがホーム・パネルでない場合、現行パネルをホーム・パネルにする。
- 現行パネルがホーム・パネルであれば、セッションを終了とマークする。

END コマンドは、初期プロシージャーによって出された場合、セッションをただちに終了します。アプリケーションで出された場合、セッションはアプリケーションが QMF EXIT コマンドを出すと、そのたびに終了します。

セッション中、対話は許可されません。したがって、セッションは新しいセッションを開始できません。

EXIT

EXIT コマンドは、QMF セッションの開始方法に関係なく同じように機能します。このコマンドは、ユーザーのすべてのセッションを終了とマークします。バッチ・モードでは、1 つのセッションしかありません。対話式セッションの場合、基本セッションと、INTERACT コマンドによって開始されたすべてのセッションがあります。

コマンド行に EXIT を入力すると、これを入力しているセッションがただちに終了します。INTERACT コマンドによって開始した各セッションは、そのセッションを開始したアプリケーションが完了すると終了します。アプリケーションで EXIT コマンドを出した場合、セッションは、元の QMF セッションが終了すると、終了します。INTERACT コマンドによって開始したすべての対話式セッションは、QMF が終了する前に終了させる必要があります。

QMF を使用してアプリケーションを実行する場合、呼び出し可能インターフェース・プログラムに QMF EXIT ステートメントを組み込むことが大切です。このコマンドを組み込まないと、QMF セッションは、ログオフ時またはバッチ・ジョブの完了時までアクティブのままになります。

ユーザーまたはアプリケーションが EXIT コマンドを出すと、QMF は DSQAO_TERMINATE を 1 (終了とマークする) に設定します。QMF 内で実

行中のアプリケーションだけが、このグローバル変数をテストし使用することができます。QMF がメイン QMF セッションに戻ったとき、DSQAO_TERMINATE が 1 に設定されていると、QMF はただちに終了してリソースを解放します。

GET GLOBAL

GET GLOBAL コマンドを使用すると、アプリケーションの QMF グローバル変数にアクセスできます。REXX 以外の言語のために、QMF は GET GLOBAL コマンドの拡張構文を用意しています。

▶▶ GET Global (—| 変数定義 |—————▶▶

変数定義:

|—number of varnames—, —varname lengths—, —varnames—, —————|

|—value lengths—, —values—, —value type——————|

GET GLOBAL コマンドに指定するパラメーターは、アプリケーション・プログラムが変数名および GET GLOBAL コマンドによって戻される値を保管するために使用する記憶域を定義します。

number of varnames (変数の数)

要求する変数の数。

varname lengths (変数名の長さ)

指定する各変数名の長さのリスト。

変数名の長さは、記憶域内のグローバル変数名の実際の長さに等しくなければなりません。後書きブランクで埋め込まれた 18 文字の区域が許可されます。

varnames (変数名)

QMF 変数の名前前のリスト。

QMF は後書きブランクを削除するので、グローバル変数名には後書きブランクを指定してはなりません。

value lengths (値の長さ)

変数の値の長さのリスト。

次の規則が変数値に適用されます。

アプリケーションでの QMF コマンド

- 指定した値の長さが、QMF に保管されている値の長さより短い場合、QMF は右側を切り捨て、右側が切り捨てられた値を戻します。
- 指定した値の長さが、QMF に保管されている値の長さより長い場合、QMF は後書きブランクで埋めた値を戻します。
- 整数の長さは、常に 4 バイトでなければなりません。

values (値)

変数値のリスト。

value type (値のタイプ)

値が入る記憶域のデータ・タイプ。これは、文字または整数でなければなりません。

INTERACT

INTERACT コマンドはエンド・ユーザーを対話式 QMF セッションまたは GDDM ICU セッションに置きます。エンド・ユーザーは、これらのセッションにいる間、これらのプロダクトの通常の対話式セッションにいる場合と同様にコマンドを入力することができます。

INTERACT には、セッションとコマンドという 2 つの形式があります。

セッション形式の INTERACT

INTERACT コマンドを出すと、QMF はユーザーを現行パネルに置いて、ユーザーが QMF コマンドを対話式に出せるようにします。INTERACT コマンドは、現行セッション内で別の QMF 「セッション」を作りだします。

INTERACT コマンドは、ユーザーを対話式 QMF セッションまたは対話式 GDDM ICU セッションに置くことができます。

- 対話式 QMF セッションの場合

通常 QMF パネルを表示する QMF コマンドの後に INTERACT コマンドを出します。このセッションでは、ユーザーは対話式 QMF に有効なすべてのコマンドを入力することができます。

- 対話式 GDDM ICU セッションの場合

通常 QMF に GDDM ICU を開始させ、ICU パネルを表示させるコマンドの後に INTERACT コマンドを出します。このセッションで、ユーザーは ICU に有効なすべてのコマンドを入力することができます。

シナリオ

以下のように、報告書を作成するために 1 つのステップしか必要としないプロシージャーを実行する場合、

```
/* This procedure prints the weekly sales report. */
"RUN QUERY WEEKLY_SALES_Q (FORM=WEEKLY_SALES_F"
"PRINT REPORT"
```

図 10. INTERACT コマンドがない単純なプロシージャー

QMF は、フォーマット設定済みデータおよび "OK,your procedure was run (プロシージャーが実行されました)" というメッセージが入っている REPORT パネルを表示します。

しかし、複数のステップを含むプロシージャーを作成することもできます。プロシージャーの中間結果を見たい場合、INTERACT コマンドを使用する必要があります。複数の照会を実行するプロシージャーの中間結果を見るには、最初の RUN コマンドの直後に INTERACT コマンドを挿入します。

```
/* This procedure generates a report showing annual sales. */
"RUN QUERY WEEKLY_SALES_Q (FORM=WEEKLY_SALES_F"
"INTERACT"
"RUN QUERY YEAR_TOTAL_Q (FORM=YEAR_TOTAL_F"
```

図 11. プロシージャーでの INTERACT の使用

そして、ホーム・パネルからこのプロシージャーを実行すると、QMF はフォーマット設定済みデータが入っている REPORT パネルを表示します。次に、REPORT パネルから END コマンドを入力するとプロシージャーが継続され、2 番目の照会が実行され、最終報告書が表示されます。INTERACT コマンドを省略すると、QMF は最初の照会の結果を表示せずに最終報告書だけを表示します。

INTERACT コマンドを、呼び出し可能インターフェースを介して出しても、同じ結果が得られます。ただし、REXX では同じコマンドが次のようになります。

```
⋮
call dsqcix "RUN QUERY WEEKLY_SALES_Q (FORM=WEEKLY_SALES_F"
call dsqcix "INTERACT"
call dsqcix "RUN QUERY YEAR_TOTAL_Q (FORM=YEAR_TOTAL_F"
⋮
```

図 12. REXX アプリケーションでの INTERACT の使用

Call dsqcix "INTERACT" の行は、呼び出し可能インターフェースを介して INTERACT コマンドを出すための REXX 構文です。呼び出し可能インターフ

アプリケーションでの QMF コマンド

エースを介して INTERACT コマンドを出す場合には、使用するプログラム言語に適した構文を使用しなければなりません。

報告書の表示の抑止

QMF 呼び出し可能インターフェース・アプリケーションで照会を実行すると、QMF はデフォルトでは結果の報告書を表示します。ただし、DSQDC_DISPLAY_RPT グローバル変数をゼロ (0) に設定することによって、結果の報告書を自動的に表示しないように QMF に指示することができます。START コマンドで DSQADPAN=0 を指定しても、このグローバル変数を設定することができます。

このグローバル変数は、アプリケーションから RUN QUERY コマンドを出した場合にのみ有効です。このグローバル変数は、QMF コマンド行から RUN QUERY を出した場合には、報告書の表示に影響を与えません。

INTERACT セッションの終了

ユーザーが END コマンドを出すと、制御は INTERACT コマンドを出したプロセスに戻ります。ただし、2 つのセッションは独立していません。INTERACT セッション中に実行したすべてのことが、古いセッションの再開時に有効のまま残ります。たとえば、ユーザーが新しい対話式セッションで現行の書式オブジェクトを変更した場合、この新しいセッションが終了するとき、古いセッションでの現行の書式オブジェクトにこれらの変更が組み込まれています。

ユーザーが QMF オブジェクト・パネルから END コマンドを出した後、(対話式 QMF のように) アプリケーションに QMF ホーム・パネルを表示させたい場合、246ページの『INTERACT ループを使用する REXX の例』のロジックを追加してください。

コマンド形式の INTERACT

コマンド・インターフェース (DSQCCI) は、コマンド・インターフェース・アプリケーションがコマンド形式の INTERACT を使用し、QMF が対話式セッション (DSQSMODE=I) を実行している場合にのみ、QMF コマンドを対話式に実行します。

コマンド形式の INTERACT は、呼び出し可能インターフェースを介して出したコマンドには影響を与えません。呼び出し可能インターフェースにおいて、コマンドを対話式に実行するかどうかを制御する唯一の方法は、START コマンドのキーワード DSQSMODE を設定することです。DSQSMODE キーワードの詳細については、76ページの表7を参照してください。

アプリケーションでの QMF コマンド

HELP

このパラメーターを使用して、この状態で通常表示されるメッセージに定義されているヘルプ・パネル以外のヘルプ・パネルを指定できます。

helppanel を適切なパネル ID で置換します。

QMF パネルを表示したい場合、このパネルの定義は DSQPNLE にあるので、パネルの変更はできません。

ISPF では、独自のパネルを作成して表示したい場合、パネルの定義を ISPF パネル・ライブラリーに入れる必要があります。また、このライブラリーを、ISPLIB ファイルまたはデータ・セットに連結する必要があります。このパネルは、メニューまたはデータ入力パネルではなく、ヘルプ・パネルでなければなりません。

ISPF において、*number* (番号) を指定した場合、*helppanel* (ヘルプ・パネル) はデフォルトで、*number* (番号) によって指定したメッセージ定義を示すヘルプ・パネル標識になります。

ISPF において、*number* (番号) によって指定したメッセージ定義がヘルプ・パネル標識を定義していない場合、MESSAGE コマンドはメッセージ・ヘルプを提供しません。その代わりに、ユーザーがヘルプを要求すると、オブジェクト・パネルに関する QMF ヘルプがユーザーの画面に表示されます。

STOPPROC

Stopproc を使用すると、プロシージャ終了スイッチを設定することによって線形プロシージャの実行を抑止できます。次のコマンドは、プロシージャ終了スイッチを設定します。

```
Message (Stopproc=Yes
```

Stopproc=Yes の場合、プロシージャ終了スイッチがオンになります。デフォルト値は No (オフ) です。このスイッチは線形プロシージャだけに影響を与えます。

このスイッチがオンの間、制御を受けたすべての QMF プロシージャは、実行をただちに終了します。このスイッチがオフの間、プロシージャは通常どおり実行されます。

スイッチがオフの場合、オンにできるのは MESSAGE コマンドだけです。スイッチがオンの場合、以下のいずれかが発生するまでオンのままです。

- 他の QMF コマンドが発行される。このコマンドとは、スイッチをオンにするオプションが指定された MESSAGE コマンドを除く、すべての QMF コマンドです。

- アプリケーションの終了時に、制御がユーザーに戻される。ユーザーは、QMF プロシージャーを実行するオンライン・コマンドをいつでも出すことができます。

変数 `DSQCM_MESSAGE` を調べれば、プロシージャー終了スイッチがオンかどうかを検査することができます。終了オプションが有効である場合、この変数には終了スイッチをオンにした `MESSAGE` コマンドに関するメッセージが入っています。

TEXT オプション

`TEXT=` を使用すれば、メッセージを定義したり、ISPF メッセージ定義内のテキストを指定変更することができます。 *value* (値) をメッセージに使用する文字ストリングで置換します。空白文字を含む値は、区切り文字で囲む必要があります。メッセージ値に使用することができる有効な区切り文字は、単一引用符、括弧、および二重引用符です。区切り文字に二重引用符を使用した場合、二重引用符はメッセージの一部として表示されます。メッセージ値の最大長は、1 バイト文字で 78 文字です。78 文字を超えるメッセージ値は、最初の 78 文字を残し切り捨てられます。QMF はテキストを大文字変換しませんが、MESSAGE が `DSQCCI` (コマンド・インターフェース) を介して出された場合、ISPF はテキストを大文字変換する場合があります。

メッセージに引用符が入っている場合、`TEXT=` の指定では二重引用符を使用する必要があります。

ISPF において、デフォルトは、*number* (番号) によって指定された ISPF メッセージの長メッセージ・テキスト であり、これが生成されるメッセージになります。テキストはそのままの状態で見えます。ユーザーの QMF プロファイルの `CASE` 設定値に関係なく、大文字への変換は行われません。

メッセージ生成のための MESSAGE コマンドの使用例

プロシージャーを使用して、2 つの照会を実行し、2 つの報告書を表示するアプリケーションを作成するものとします。QMF が最初の報告書を表示した後、2 番目の報告書に進む準備ができたときに対話式セッションを終了するように、ユーザーに指示するメッセージを表示する必要があるものとします。70 ページの図13 に示すような線形プロシージャーを作成することができます。このプロシージャーには、`REPORT` パネル上に表示される、`MESSAGE` コマンドによって定義したメッセージが含まれています。メッセージを `REPORT` パネルに表示するには、`MESSAGE` コマンドを `INTERACT` コマンドの直前に置いてください。

アプリケーションでの QMF コマンド

```
⋮  
RUN QUERY WEEKLY_SALES_Q (FORM=WEEKLY_SALES_F  
MESSAGE (TEXT='OK, press END when you are finished viewing this report.'  
INTERACT  
RUN QUERY YEAR_TOTAL_Q (FORM=YEAR_TOTAL_F  
⋮
```

図 13. MESSAGE コマンドの使用例

QMF がこのプロシージャーで INTERACT コマンドを処理するとき、REPORT パネルは次のようになります。

```
Total Earnings: -  
  
Employee: JONES  
Position: MGR  
1=ヘルプ      2=      3=終了      4=印刷      5=図表      6=照会  
7=後         8=先     9=書式     10=左       11=右       12=  
OK, この報告書を見おわたったら終了を押してください。  
コマンド ==>
```

ロジックを持つプロシージャーを使用する場合、図14 に示すように、テキスト・ストリングの代わりに REXX 変数を使用することができます。REXX 変数を使用する場合、*messagetext* テキスト・ストリング内の変数名を二重引用符で囲む必要があります。

```
oktext = 'OK, press END when you are finished viewing this report.'  
"RUN QUERY WEEKLY_SALES_Q (FORM=WEEKLY_SALES_F"  
"MESSAGE (TEXT='oktext'"  
"INTERACT"  
"RUN QUERY YEAR_TOTAL_Q (FORM=YEAR_TOTAL_F"
```

図 14. プロシージャーにおける MESSAGE コマンドでの REXX 変数の使用

ISPF が使用可能な場合の MESSAGE コマンドの例

MESSAGE MSG011X

- メッセージ・テキストは、MSG011X 内の長メッセージです。
- メッセージ・ヘルプ・パネルは、MSG011X 内に (もしあれば) 指定されているパネルです。
- QMF がコマンドを処理した後にプロシージャー終了スイッチを設定するかどうかは、MSG011X のプロシージャー終了スイッチによって決定されます。

MESSAGE MSG011X (HELP=ANELX STOPPROC=YES

- メッセージ・テキストは、MSG011X 内の長メッセージです。

- メッセージ・ヘルプ・パネルは、PANELX という名前のパネルです。
- プロシーチャー終了オプションはオンに変更され、アプリケーション内の QMF 線形プロシーチャーの実行を抑止します。

SET GLOBAL

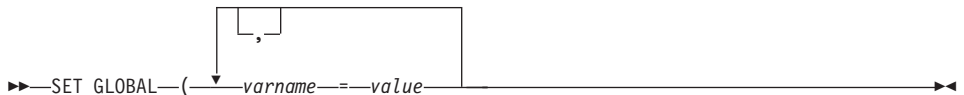
SET GLOBAL コマンドを使用すれば、独自のグローバル変数を作成して QMF コマンドで置換変数として使用することができます。ユーザー独自のグローバル変数を使用することも、QMF によって提供されているグローバル変数を使用することもできます。QMF によって提供されているグローバル変数のリストについては、285ページの『付録F. QMF グローバル変数表』を参照してください。

特定のプロシーチャー用にグローバル変数を設定するには、以下のいずれかを実行してください。

- SHOW GLOBALS パネルで変数を設定する。
変数名の長さは最高 18 文字まで、値の長さは最高 32 768 文字までです。
- コマンド行または SET GLOBAL プロンプト・パネルで、プロシーチャー内の SET GLOBAL コマンドの線形構文を使用する。
- REXX 以外の呼び出し可能インターフェース言語の拡張構文を使用する。
呼び出し可能インターフェースでの SET GLOBAL コマンドの拡張構文使用の詳細については、『SET GLOBAL: 拡張構文』を参照してください。

SET GLOBAL: 線形構文

グローバル変数名の長さは最高 17 文字まで、値の長さは最高 55 文字までです。SET GLOBAL コマンドの線形構文は次のとおりです。



varname=value (変数名 = 値)
変数名に値を割り当てます。

たとえば、DEPT という名前のグローバル変数を設定するには、次のコマンドを出します。

線形プロシーチャーの場合

```
SET GLOBAL (DEPT=38
```

ロジックを持つプロシーチャーの場合

アプリケーションでの QMF コマンド

```
"SET GLOBAL (DEPT=38"
```

SET GLOBAL コマンドの詳細については、*QMF 解説書* を参照してください。

グローバル変数は、定義後、変数をリセットするか、QMF セッションを終了するまで定義済みのまま残ります。RESET GLOBAL コマンド使用の詳細については、*QMF 解説書* を参照してください。

SET GLOBAL: 拡張構文

REXX 以外の言語 (アセンブラー、C、COBOL、FORTRAN、または PL/I) で作成したアプリケーション内でグローバル変数の値を変更するには、*拡張構文* で SET GLOBAL コマンドを使用する必要があります。このコマンドの例は、143ページの『付録A. 呼び出し可能インターフェース言語のサンプル・コード』の該当する言語のサンプル・プログラムを参照してください。

SET GLOBAL 拡張構文コマンドで使用する変数名の最大長は 17 文字です。変数値の最大長は 32 768 文字です。

```
▶▶SET GLOBAL—(—| 変数定義 |—————▶▶
```

変数定義:

```
|—number of varnames—,—varname lengths—,—varnames—,——————|
```

```
|—value lengths—,—values—,—value type——————|
```

number of varnames (変数の数)

要求する変数の数。

varname lengths (変数名の長さ)

指定する各変数名の長さのリスト。

変数名の長さは、記憶域内のグローバル変数名の実際の長さに等しくなければなりません。後書きブランクで埋め込まれた 18 文字の区域が許可されます。

varnames (変数名)

QMF 変数の名前のリスト。

value lengths (値の長さ)

変数値の長さのリスト。

次の規則が変数値に適用されます。

- 指定した値の長さが、記憶域に保管されている値の長さより短い場合、QMF に保管されるときに値の右側が切り捨てられます。
- 指定した値の長さが、記憶域に保管されている値の長さより長い場合、QMF に保管されるときに値の中に認識できない文字が組み込まれる可能性があります。
- 整数の長さは、常に 4 バイトでなければなりません。

QMF は、記憶域内の、ユーザーが割り当てたアドレスから開始して、ユーザーが割り当てた長さの値を使用します。長さが長すぎる場合、QMF は異常終了する可能性があります。

values (値)

変数値のリスト。

value type (値のタイプ)

値が入る記憶域のデータ・タイプ。これは、文字または整数でなければなりません。

REXX 呼び出し可能インターフェースで SET GLOBAL を使用している場合、71ページの『SET GLOBAL』に示すように、SET GLOBAL コマンドの線形構文しか使用できません。この線形構文の場合、グローバル変数名の最大長は 17 文字で、変数値の最大長は 55 文字です。

グローバル変数の使用規則

- SET GLOBAL コマンドでは、RUN コマンドや CONVERT コマンドと異なり、変数名の先頭にアンパーサンドが付きません。
- QMF 書式は、変数名または総計変数名を形成するために設定されたグローバル変数を認識しません。
- QMF 書式は、名前に疑問符があるグローバル変数を認識しません。

グローバル変数名の定義規則

- グローバル変数名は、コマンド行で入力する場合は 17 文字に、呼び出し可能インターフェースを介して入力する場合は 18 文字に制限されています。しかし、SET GLOBAL コマンドの制限のため、17 文字の名前を使用すべきです。
- グローバル変数名は数字を含んでいてかまいませんが、最初の文字だけは数字であってはなりません。
- グローバル変数は DSQ で開始してはなりません。これらの文字は、QMF の事前定義グローバル変数として QMF によって予約されています。
- グローバル変数名の最初の文字は、英字 (A から Z) か、以下に示すいずれかの特殊文字でなければなりません。

value lengths (値の長さ)

各開始コマンド・キーワードの値の長さが入っているリスト。

values (値)

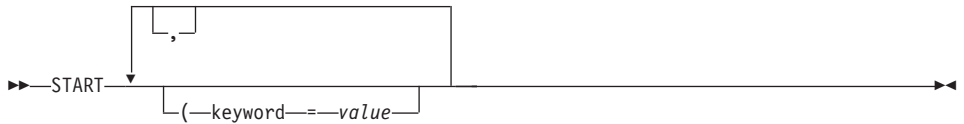
このコマンドに指定する開始コマンド・キーワードの値のリスト。

value type (値のタイプ)

値が入る記憶域のデータ・タイプ。START コマンドの場合、値のタイプは文字でなければなりません。

REXX 呼び出し可能インターフェースの場合の START コマンドの構文

REXX 呼び出し可能インターフェースの場合、START コマンドの構文は次のとおりです。



START コマンドのキーワード

START コマンドには以下のキーワードを指定できます。

DSQADPAN

DSQSIROW

DSQALANG

DSQSMODE²

DSQSBSTG

DSQSPILL

DSQSCMD² (CMS および TSO のみ)

DSQSPLAN (TSO のみ)

DSQSDBCS

DSQSPRID (TSO のみ)

DSQSDBNM

DSQSRSTG (CMS および TSO のみ)

DSQSDBQN (CICS のみ)

DSQSRUN²

DSQSDBQT (CICS のみ)

DSQSSPQN (CICS のみ)

2. このキーワードは SAA コマンド・キーワードです。

アプリケーションでの QMF コマンド

DSQSDEBUG

DSQSSUBS (TSO のみ)

DSQSDCSS (CMS のみ)

DSQSUSER (CICS/VSE のみ)

これらのキーワードの説明は、表7 にあります。

QMF を使用すれば、以下の規則に従って START コマンド・キーワードを指定することができます。

- START コマンドで任意の開始コマンド・キーワードを指定することができます。QMF でサポートされるすべての環境 (CICS を除く) では、REXX プログラム中で、DSQSCMD パラメーターによって指定した DSQSCMD 以外の任意のキーワードを指定することができます。QMF CICS は REXX をサポートしないので、START コマンドですべてのキーワードを指定する必要があります。
- いずれかのキーワードを指定しないと、DSQSCMD キーワードで指定したプログラムに現れる START コマンド・キーワードの値が、QMF によって使用されます。このプログラムを使用していない場合、QMF により各キーワードのデフォルト値が使用されます。
- アプリケーションまたは初期プロシージャで、特定の環境でサポートされないキーワードを指定すると、このようなキーワードは無視されます。この方法によって、環境固有のキーワードを変更せずに、複数の QMF 環境で実行可能な単一のプログラムをコンパイルすることができます。

これらのキーワードおよび環境依存要素による影響の詳細については、ユーザーのプラットフォーム用の QMF インストール (導入) および管理の手引きを参照してください。表7 において、キーワード名に付いている肩文字 SAA (?) は、SAA 開始コマンド・キーワードを示しています。

表7. START コマンドのキーワード、説明、およびデフォルト値

START コマンド のキーワード	説明	デフォルト値
DSQADPAN	DSQDC_DISPLAY_RPT グローバル変数を設定する。この変数は、照会をアプリケーション・プログラム内から実行した場合に、QMF が報告書を表示するかどうかを制御する。値 1 は、照会の実行時に報告書を表示する。報告書を表示しないことを指定するには、値を 0 に設定する。	呼び出し可能インターフェース: 1 バッチ・モードの場合、または DSQQMFE を使用して QMF を対話式で開始した場合: 0

表7. START コマンドのキーワード、説明、およびデフォルト値 (続き)

START コマンド のキーワード	説明	デフォルト値																														
DSQALANG	<p>開始するセッションの主要言語を指定する。このパラメータの値は、1 文字の言語 ID である。このキーワードで指定した主要言語で QMF コマンドを入力または指定する。主要言語が英語以外の言語のときに英語のコマンドを入力したい場合、QMF の 2 国語使用のサポートを使用することができる (49ページの『第6章 2 か国語使用のアプリケーションの作成』参照)。次の表は、この変数に有効な言語 ID の完全なリストである。</p> <table border="0"> <tr> <td>ID</td> <td>言語</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>ドイツ語</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>フランス語</td> </tr> <tr> <td>H</td> <td>ハングル語 (韓国)</td> </tr> <tr> <td>I</td> <td>イタリア語</td> </tr> <tr> <td>K</td> <td>漢字 (日本)</td> </tr> <tr> <td>P</td> <td>ブラジル・ポルトガル語</td> </tr> <tr> <td>Q</td> <td>デンマーク語 (QMF VSE では使用不可)</td> </tr> <tr> <td>R</td> <td>簡体字中国語 (中国)</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>スペイン語</td> </tr> <tr> <td>U</td> <td>大文字英語</td> </tr> <tr> <td>V</td> <td>スウェーデン語 (QMF VSE では使用不可)</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>スイス・フランス語</td> </tr> <tr> <td>Z</td> <td>スイス・ドイツ語</td> </tr> </table>	ID	言語	D	ドイツ語	E	英語	F	フランス語	H	ハングル語 (韓国)	I	イタリア語	K	漢字 (日本)	P	ブラジル・ポルトガル語	Q	デンマーク語 (QMF VSE では使用不可)	R	簡体字中国語 (中国)	S	スペイン語	U	大文字英語	V	スウェーデン語 (QMF VSE では使用不可)	Y	スイス・フランス語	Z	スイス・ドイツ語	E (英語)
ID	言語																															
D	ドイツ語																															
E	英語																															
F	フランス語																															
H	ハングル語 (韓国)																															
I	イタリア語																															
K	漢字 (日本)																															
P	ブラジル・ポルトガル語																															
Q	デンマーク語 (QMF VSE では使用不可)																															
R	簡体字中国語 (中国)																															
S	スペイン語																															
U	大文字英語																															
V	スウェーデン語 (QMF VSE では使用不可)																															
Y	スイス・フランス語																															
Z	スイス・ドイツ語																															

アプリケーションでの QMF コマンド

表 7. START コマンドのキーワード、説明、およびデフォルト値 (続き)

START コマンド のキーワード	説明	デフォルト値
DSQSBSTG	<p>報告書作成に使用する記憶域のバイト数を QMF に伝える。これにより、CICS 内の同じアドレス・スペースに複数のユーザーが存在する場合に、記憶域の量を制限することができる。TSO および CMS でも、この変数を同様の目的で使用できる。</p> <p>TSO および CMS では、このキーワードと DSQSRSTG キーワードの両方を指定した場合、このキーワードが優先する。このキーワードを指定しない場合、DSQSRSTG キーワードが使用される。</p> <p>CICS ユーザーへの注: CICS の場合、DSQSBSTG が常に使用され、DSQSRSTG は使用されない。</p> <p>DSQSBSTG の値を、報告書作成に必要な記憶域の最小サイズより少なく設定すると、QMF は必要な記憶域の最小サイズを自動的に割り振る。この最小サイズは、環境によって異なる。大きな報告書には最小サイズより多くの記憶域が必要な場合がある。</p>	<p>CICS の場合: 500 000 バイト</p> <p>CMS または TSO の場合: 0 バイト</p>
DSQSCMD ² (CMS および TSO のみ)	<p>QMF プログラム・パラメーターを設定する REXX プログラムを指定する。</p> <p>QMF は、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションから START コマンドを受け取ると、このキーワードによって指定されている REXX プログラムを呼び出す。この REXX プログラムは、START コマンドに指定されていないキーワードのデフォルトとして、QMF が使用する QMF プログラム・パラメーターの値を提供する。</p> <p>START (DSQSCMD=<i>yourprogram</i>)</p> <p>CICS ユーザーへの注: QMF CICS は、REXX をサポートしないので、CICS のもとでは、DSQSCMD はサポートされない。CICS のもとで呼び出し可能インターフェースを使用して QMF を開始した場合に、QMF プログラム・パラメーターを設定したければ、START コマンドでキーワードを設定する必要がある。</p>	DSQSCMDE

表7. START コマンドのキーワード、説明、およびデフォルト値 (続き)

START コマンド のキーワード	説明	デフォルト値
DSQSDBCS	<p>端末が DBCS をサポートしない場合に、QMF が 2 バイト文字を許可するかどうかを指定する。値は YES または NO。</p> <p>非 DBCS 端末から 2 バイト文字セット (DBCS) データを印刷する場合、または DBCS データを印刷する QMF バッチ・ジョブを実行する場合、値を YES に設定する必要がある。他の場合、値を NO に設定する必要がある。</p>	NO
DSQSDBNM	<p>QMF セッションの開始時に、接続するロケーションを指定する。ヌル値は、QMF がデフォルト・データベース (リモート作業単位を使用せずに、通常接続するデータベース) に接続することを意味する。</p> <p>インストール先で通信データベースをセットアップしていない場合、ヌル以外の値またはデフォルト・データベースの名前の指定を試みると、エラーが発生する。</p>	NULL
DSQSDBQN (CICS のみ)	<p>CICS 記憶域を QMF トレース・データ用を使用することを指定する。名前は、DSQSDBQT によって選択される CICS キューのタイプの CICS 名前指定に従ってなければならない。CICS 名前指定の詳細については、CICS アプリケーション・プログラミングの手引きを参照。</p>	DSQD
DSQSDBQT (CICS のみ)	<p>QMF トレース・データとして使用する CICS 記憶域のタイプを指定する。</p> <p>値は次のとおり。</p> <p>TD CICS 一時データを使用する。</p> <p>TS CICS 補助一時記憶域を使用する。QMF は大量のトレース・データを生成する可能性があるため、一時記憶域を指定する場合、注意が必要である。</p>	TD
DSQSDEBUG	<p>QMF 初期化時にプロダクト・トレースを行うかどうかを指定する。値は次のとおり。</p> <p>ALL 最大限の詳細 QMF トレースを指定する。</p> <p>NONE 最小限の QMF トレースを指定する。</p>	NONE

アプリケーションでの QMF コマンド

表 7. START コマンドのキーワード、説明、およびデフォルト値 (続き)

START コマンド のキーワード	説明	デフォルト値
DSQSDCSS (CMS のみ)	QMF 実行モジュールが入っている DCSS (非連続共用セグメント) の名前を指定する。	QMF710n、ここで n は 各国語 ID である。 英語の場合、デフォルトは QMF710E である。
DSQSIROW	RUN QUERY、IMPORT DATA、または DISPLAY コマンドで最初のデータ画面を表示する前に QMF が取り出す行数を示す。	100
DSQSMODE ²	作業するモードを QMF に指示する。 I 対話モードを指定する。 B バッチ・モードを指定する。 DSQSMODE の値が B の場合、QMF がバックグラウンド・ジョブで実行できるように、パネル表示は禁止される。	B (バッチ)
DSQSPILL	QMF が予備ファイルまたはデータ・セットを使用するかどうかを指定する。可能な値は YES または NO である。	CICS の場合: NO CMS および TSO の場合: YES
DSQSPLAN (TSO のみ)	QMF に割り当てる DB2 アプリケーション・プラン ID を指定する。	QMF710
DSQSPRID (TSO のみ)	Q.PROFILES から適切な行を選択し、Q.ERROR_LOG 項目を適格化するために、TSO ログオン ID または 1 次許可 ID を使用するかどうかを指定する。許可される値は、PRIMEID または TSOID である。	PRIMEID
DSQSRSTG (CMS および TSO のみ)	ユーザーのアプリケーションおよびユーザーのアプリケーションが呼び出す他のアプリケーションのために予約する、仮想記憶域のバイト数を指定する。QMF 環境からアプリケーションを実行する予定の場合、このパラメーターを使用する。ユーザーのアプリケーションのために記憶域を予約しない場合、QMF は使用可能なすべての仮想記憶域を使用して、大きな報告書を作成する可能性がある。	ゼロ (0)

表7. START コマンドのキーワード、説明、およびデフォルト値 (続き)

START コマンド のキーワード	説明	デフォルト値
DSQSRUN ²	QMF の開始後に実行する QMF 初期プロシージャの名前を指定する。呼び出し可能インターフェースの場合、初期プロシージャは 1 回だけ実行される。 このプロシージャに、グローバル変数およびプロファイル変数を設定してユーザーのセッションをカスタマイズするためのコマンドを組み込むことができる。このプロシージャは、アプリケーションが QMF を対話式に実行する場合にユーザーを QMF 内に置いたり、バッチ操作用の QMF セッションを準備したりすることができる。	NULL
DSQSSPQN (CICS のみ)	QMF 予備データに使用する CICS 一時記憶域キューの名前を指定する。プログラム・パラメーター DSQSPILL の値が YES の場合、この予備域は、報告書データを入れるために使用される。	DSQSid、ここで、id は CICS 端末 ID。
DSQSSUBS (TSO のみ)	QMF がインストールされている DB2 サブシステムの ID を指定する。	DSN
DSQSUSER (CICS/VSE のみ)	CONNECT コマンド上で SQL/DS 許可 ID とパスワードを指定する。DSQSUSER キーワードを指定するには、次のように入力する。 DSQSUSER=SQL ID/password ここで SQL ID は、QMF を開始したユーザーの SQL/DS™ 許可 ID。	システム・カタログに定義されている 3 バイトの VSE オペレーター ID およびパスワード。 DSQSMODE=B を指定して QMF を開始する場合は、指定する必要がある。

コマンド同義語の使用

QMF では、QMF コマンドに似たコマンドであるコマンド同義語を作成できます。コマンド同義語を使用すれば、コマンドの柔軟性が増すので、エンド・ユーザーにとって非常に有用です。たとえば、コマンド同義語は特定のコマンドの機能を実行したり、アプリケーションを開始したりすることができます。QMF ユーザーがコマンド同義語にアクセスできるようにするには、コマンド同義語を 1 つまたは複数のコマンド同義語表に入力する必要があります。ユーザーがコマンド同義語を出すと、QMF はユーザーのアプリケーションを開始する TSO、RUN、CICS、または CMS コマンドを実行します。

コマンド同義語の作成

コマンド同義語を作成するためには、以下のことを行います。

1. 記述コマンドを作成する。

QMF コマンドは、動詞 - 目的語 フォーマットに従います。すべてのコマンドは動詞 (作用語) であり、多くのコマンドには、その後に目的語 (記述名詞) があります。たとえば、END は動詞のみのコマンドであり、CONVERT QUERY は動詞 - 目的語コマンドです。

既存の QMF コマンドと同じ動詞を使用してコマンド同義語を作成することができます。この場合、元の QMF コマンドも、その前にコマンド QMF を指定すれば、使用することができます。コマンド QMF については、*QMF 解説書* を参照してください。

たとえば、週の売上高が入力されたかどうかを調べるために、プロシージャが報告書を実行するとします。今週のデータがない場合、プロシージャは、表編集プログラムを呼び出して、最新の情報を表に追加します。プロシージャの名前に関係なく、コマンド同義語はユーザーにわかりやすくする必要があります。UPDATE SALES のような動詞 - 目的語のペアを選択することができます。

作成するコマンド同義語でパラメーターまたはオプションが必要である場合、置換変数 &ALL を使用できます。

2. 該当するコマンド同義語表を、新しいコマンド同義語を使用して更新する。

使用するコマンド同義語表の名前を知っていなければなりません。変数 DSQAP_SYNONYM_TBL に、各ユーザーのコマンド同義語表の名前が入っています。

データベース管理者は、コマンド同義語表へアクセスすることができます。個人用のコマンド同義語を作成したい場合、ユーザーがコマンド同義語を追加できるように定義した視点が必要である場合があります。

たとえば、コマンド同義語表には、コマンド同義語 UPDATE SALES に関する次のような情報が含まれています。

```
ADD                                Q.COMMAND_SYNONYMS                                1 to 4 of 4
VERB. . . . . ( UPDATE                                )
OBJECT. . . . . ( SALES                                )
SYNONYM_DEFINITION. . ( RUN PROC WEEKLY_SALES        >
REMARKS . . . . . ( procedure that checks to see if the weekly sales fi>
```

追加機能キーを押すと、QMF は、このコマンド同義語をユーザーの表に追加します。ただし、このコマンドを使用する前に、QMF に再接続する必要があります。

3. 必要に応じて、プロファイルを更新する。
このコマンド同義語を新しい表または視点に追加する場合、新しい表または視点の名前をユーザーのプロファイルに追加してください。
4. QMF セッションを終了する。
新しい QMF セッションを開始するまで、QMF は、ユーザーによるコマンド同義語表およびプロファイル表への変更を認識しません。

SAA RUN QUERY の報告書ミニ・セッション

QMF 報告書を生成するアプリケーションを作成する場合、報告書ミニ・セッションを使用することによって、ユーザーによる QMF へのアクセスを制限することができます。報告書ミニ・セッションでは、報告書を表示中にユーザーが発行できるコマンドが QMF によって制限されます。報告書ミニ・セッションに有効なコマンドと無効なコマンドは、84ページの表8 と 85ページの表9 にリストされています。

報告書ミニ・セッションは、ネスト・セッション (セッション内のセッション) として機能します。ミニ・セッション内で、最初の QMF セッションはそのまま残りますが、報告書の表示中は、一時的に使用不可になります。ミニ・セッションは、END コマンドを発行するまで (または、終了機能キーを押すまで) 現行のアクティブ・セッションになります。ミニ・セッションを終了すると、アプリケーションでの指示に従って、最初の QMF セッションまたは呼び出しアプリケーションに戻ります。アプリケーションは、報告書ミニ・セッションが終了するまで、後続のコマンドを発行することができません。

有効な QMF グローバル変数 DSQDC_DISPLAY_RPT によって、QMF が報告書ミニ・セッションを開始するかどうかが決まります。なぜなら、DSQDC_DISPLAY_RPT によって、照会の実行後に QMF が報告書を表示するかどうかが決まるからです (1 に設定されている場合は表示し、0 に設定されている場合は表示を抑制します)。

呼び出し可能インターフェースを使用して QMF を開始する場合、以下のようになります。

- グローバル変数 DSQDC_DISPLAY_RPT のデフォルト値は 1 です。
(DSQQMFE を使用して QMF を開始した場合、それが対話式であるかバッチ・モードであるかに関係なく、このグローバル変数のデフォルト値は 0 です)。
- 照会を実行するプロシージャまたはアプリケーションを実行すると、QMF は報告書ミニ・セッションを開始します。このミニ・セッション内で、QMF は照会結果の報告書を表示します。

アプリケーションでの QMF コマンド

- プロシージャまたはアプリケーションが照会を実行しない場合、または照会を SQL パネルから実行する場合、QMF は報告書ミニ・セッションを開始しません。

QMF に報告書ミニ・セッションを開始させたくない場合、以下のいずれかを実行してください。

- DSQDC_DISPLAY_RPT の値を 0 に変更する。
- 呼び出し可能インターフェースから QMF を開始するときに、DSQADPAN パラメーターを 0 に設定する。

グローバル変数の詳細については、71ページの『SET GLOBAL』を参照してください。

報告書ミニ・セッションから、以下のコマンドおよびこれらのコマンドの同義語を発行することができます (制約事項は括弧内に示してあります)。

表 8. ミニ・セッションで有効なコマンド

BACKWARD	FORWARD	RETRIEVE
BOTTOM	GET GLOBAL	RIGHT
CANCEL (ポップアップ・ウィンドウがアクティブの場合)	HELP	SAVE (データ)
CICS	INTERACT	SET (プロファイル、グローバル変数)
CMS	ISPF	SHOW (報告書、図表)
DISPLAY (報告書、図表)	LEFT	SWITCH (ヘルプがアクティブの場合)
END	MESSAGE	TOP
ENTER	PRINT (報告書、図表)	TSO
	QMF	

表9 は、ミニ・セッションで無効 なコマンドのリストです。

表9. ミニ・セッションで無効なコマンド

ADD	ERASE	REDUCE
CANCEL	EXIT	REFRESH
CHANGE	EXPORT	RESET GLOBAL
CHECK	EXTRACT	RESET (照会、プロシ ジャー、書式)
CLEAR	GETQMF	
CONNECT	IMPORT	RUN
CONVERT	INSERT	SAVE
DELETE	INTERACT	SEARCH
DESCRIBE	IRM	SHOW
DISPLAY (照会、プロシ ジャー、プロファイ ル、書式)	LIST	SORT
	NEXT	SPECIFY
	PREVIOUS	START
DRAW	PRINT (照会、プロシ ジャー、プロファイル、 書式)	SWITCH
EDIT		
ENLARGE		

無効なコマンドを発行する exec、CLIST、またはプロシージャを実行すると、QMF はエラー・メッセージを戻します。

アプリケーションでの QMF コマンド

第8章 QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

QMF 環境の外で QMF オブジェクトを使用するアプリケーションを作成することができます。QMF 環境の外に QMF オブジェクトを置くには、QMF の EXPORT コマンドと IMPORT コマンドを使用する必要があります。

以下のオブジェクトをエクスポートすることができます。

図表 データ
書式 プロシージャ
照会 報告書
表

オブジェクトをエクスポートすると、オブジェクトは QMF によって外部フォーマットに変換され、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューに置かれます。QMF オブジェクトの外部フォーマットは、QMF アプリケーション開発の強力な要素です。IMPORT コマンドは、外部フォーマットをファイル、データ・セット、または CICS データ・キューから読み取り、(コマンドの発行方法に従って) オブジェクトを QMF 一時記憶域またはデータベースに置きます。

データ・オブジェクトおよび表オブジェクトは、QMF フォーマットまたは IXF フォーマットでエクスポートすることができます。書式オブジェクト、指示照会オブジェクト、および報告書オブジェクトのフォーマットは、エンコード・フォーマットと呼ばれる複雑なフォーマットです。図表は、図形データ・フォーマット (GDF)、GDDM フォーマットでエクスポートされます。

本章では、すべての QMF エクスポート・フォーマットについて説明し、アプリケーションでの使用方法を示します。249ページの『付録B. エクスポート / インポート・フォーマット』で、データの QMF フォーマットについて説明し、エンコード・フォーマット・オブジェクトに関する表番号とフィールド番号を定義しています。IXF フォーマットの詳細については、265ページの『付録C. 統合交換フォーマット (IXF)』を参照してください。

CICS ユーザー: IMPORT コマンドまたは EXPORT コマンドを使用するアプリケーションを作成する場合には、134ページの『CICS キューを使用する場合の規則と考慮事項』を参照してください。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

IMPORT コマンドおよび EXPORT コマンドの構文については、*QMF 解説書*を参照してください。QMF オブジェクトのインポートおよびエクスポートについては、オンライン・ヘルプを参照してください。

エクスポートしたファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを使用して何ができるか

インポート / エクスポート機能によって以下の操作を実行できます。

- 照会結果をアプリケーションに提供する。
多くのアプリケーションの目的は、QMF 照会によって作成されたデータを使用することです。QMF EXPORT コマンドを使用すれば、データベースからデータを取り出し、それをアプリケーションに取り入れることができます。
- アプリケーション内でオブジェクトを作成し、QMF 内で使用する。
オブジェクトに関する適切なフォーマットを使用して、QMF 環境の外側でオブジェクトを作成することができます。オブジェクトが入っているファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを QMF にインポートすると、新しい QMF オブジェクトが作成されます。
報告書と図表は、QMF にインポートできません。
- データベースに非 QMF オブジェクトを保管する。
オブジェクトをプロシージャ・オブジェクトまたは照会オブジェクトとしてインポートする場合、QMF はオブジェクトをそのまま QMF 環境に持ち込み、追加のレコードまたはフィールドをインポート・ファイルに挿入しません。レコード長が 79 バイト以下の任意のプログラムまたはファイルをインポートすることができます。
- QMF オブジェクトを他の環境またはプロダクトで使用できるようにする。

注意:

システムまたは環境間で転送された、エクスポート・オブジェクトには、そのエクスポート・オブジェクトを変更または破棄してしまう可能性のある変換が行われるリスクがあります。IBM は、エクスポート・オブジェクトを、たとえば、EBCDIC および ASCII システムといった異なる CCSID または文字セットを使用して稼働している環境間や、異なる NLF 環境間で転送することはお勧めしません。

CONVERT QUERY コマンドを使用すれば、指示照会または QBE 照会を SQL 照会に変換し、それをエクスポートして他のプロダクトで使用することができます。CONVERT コマンドの詳細については、*QMF 解説書*を参照してください。

QMF オブジェクトを以下のように転送することができます。

- VM 内の CMS セッション間
 - TSO またはネイティブ OS/390 バッチのものとの QMF と CICS 区画外一時データ・キューを使用する CICS のものとの QMF 間
 - SENDFILE によるネットワーク上
- データベースの外にオブジェクトおよびデータを保管する。
たとえば、プログラムの途中で外部プログラムが処理できるようにデータをエクスポートすることができます。
 - 2 国語使用のアプリケーションを作成する。
主要言語で QMF 書式を作成してから、EXPORT コマンドで LANGUAGE= オプションを使用して英語に変換することができます。また、IMPORT および EXPORT コマンドで LANGUAGE= オプションを使用して、英語の書式を主要言語に変換することもできます。

データのエクスポートと保管

EXPORT DATA と SAVE DATA の相違点は、オブジェクトを保管する場所と方法にあり、これによって結果の使用方法が異なります。

- データ・オブジェクトをエクスポートすると、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューが作成されます。それぞれを順次に読み取り、変更し、印刷できますが、これらのすべての操作は、QMF アプリケーション・プログラムまたは他の外部アプリケーションを介して行います。
- SAVE DATA コマンドはデータベース表を作成します。保管済みのデータを使用して行うアクションは、データベースを介して行う必要があります。

データ・オブジェクトと表オブジェクト

照会を実行すると、QMF は結果を報告書に表示します。報告書は、データ・オブジェクトまたは報告書オブジェクトとしてエクスポートすることができます。報告書オブジェクトをエクスポートする場合、このオブジェクトは、書式オブジェクトに指定されているデータのフォーマットを保持します。報告書オブジェクトを HTML 報告書としてエクスポートすると、適切な HTML 3.0 コーディングでパッケージされます。この報告書をワールド・ワイド・ウェブ (WWW) 上で表示するために Web サーバーに置くことができます。QMF のデータ・オブジェクトと表オブジェクトは、生データの形でエクスポートされます。報告書オブジェクトの詳細については、123ページの『報告書オブジェクト』を参照してください。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

表の表示用の生データは、データ・オブジェクトとして一時記憶域に保管されます。データベースに保管されたりレシヨナル表および視点は、表オブジェクトと呼ばれます。一時記憶域内の表 (DATA) とデータベースに保管されている表 (TABLE) のエクスポート・フォーマットは同じです。データとしてエクスポートしたオブジェクトを表としてインポートできます。また、逆も可能です。

データ・オブジェクトと表オブジェクトは、QMF フォーマットまたは統合交換フォーマット (IXF) でエクスポートすることができます。

必要なエクスポート・フォーマットを QMF に指示するために、EXPORT コマンドで DATAFORMAT=QMF または DATAFORMAT=IXF を指定することができます。QMF フォーマットがデフォルトです。QMF フォーマットの説明は、249ページの『データの QMF フォーマット』にあります。

IXF には、2 進フォーマットと文字フォーマットという 2 つのフォーマットがあります。この説明は、94ページの『2 進数と文字』にあります。IXF フォーマットの説明は、265ページの『付録C. 統合交換フォーマット (IXF)』にあります。

&ファイルにユーザー固有の表を作成するには、QMF フォーマットまたは IXF フォーマットを指定して必要なデータが入っているファイル、データ・セット、または CICS データ・キューをインポートします。必要に応じて、望ましいフィールドを組み込み、ユーザー固有のデータを追加します。次に、このファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを表オブジェクトとして QMF にインポートしてください。ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを表オブジェクトとしてデータベースにインポートするコマンドの例を次に示します。

```
IMPORT TABLE MYTABLE FROM MYDATA
```

EXPORT コマンドおよび IMPORT コマンドの詳細については、*QMF 解説書*を参照してください。CICS/VSE ユーザーは、134ページの『CICS キューを使用する場合の規則と考慮事項』を参照してください。

QMF フォーマットのデータ・オブジェクトの解釈: 例

データ・レコードの長さが分かれば、ヘッダー・レコードの長さを計算することができます。この例では、各データ・レコードの長さは 23 バイトです。249ページの『データの QMF フォーマット』では、最初の 12 バイトにレベル情報と番号情報が入っていることを説明しています。データの列ごとに 24 バイトがあり、3 つの列があります。したがって、この 3 つの列から構成されるデータ・オブジェクトの場合、ヘッダーは 84 バイトになります。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

$$(12 + (24 \times 3) = 84)$$

Q.STAFF から次のデータをエクスポートする場合は、

ID	NAME	COMM
10	SANDERS	-
20	PERNAL	612.45

各列の幅を計算するために、次のような表を使用します。

表 10. 列の幅の計算

列名	データ・タイプ	データ・タイプの幅 (ヘッダーの長さ)	列の幅
ID	SMALLINT	2	2 + 2 = 4
NAME	VARCHAR	9	2 + 2 + 9 = 13
COMM	DECIMAL (7,2)	7	(7 + 1)/2 + 2 = 6
データ・レコードの長さ:			23

各ヘッダー・レコードの長さは、データ・レコードと同じ 23 バイトです。ヘッダーの 84 バイトは、4 つの 23 バイトのヘッダー・レコードに渡って分散され、最後のレコードは空白で埋め込まれます。

図15 は、報告書からのヘッダーおよびその 16 進数表示を示しています。反転表示の番号は、図の下の注を示しています。

```

R E L      1 . 0                I D
1  D9 C5 D3 40 F1 4B F0 40 0004 0003 C9 C4 40 40 40 40 40 40 40 40
   1                               2 3 4
                                N   N A M E
2  40 40 40 40 40 40 40 01F4 0002 D5 00 D5 C1 D4 C5 40 40 40 40 40
   5 6 7
                                Y   C O M M
3  40 40 40 40 40 40 40 01C0 0009 E8 00 C3 D6 D4 D4 40 40 40 40 40
   Y
4  40 40 40 40 40 40 40 01E4 07 02 E8 00 40 40 40 40 40 40 40

```

図 15. QMF フォーマットでエクスポートされたデータ・オブジェクトのサンプル・ヘッダー・レコード。40 は、16 進数コード・空白文字を表します。

92ページの図16 は、報告書からのデータおよびその 16 進数表示を示しています。各バイト位置の意味の詳細については、249ページの『データの QMF フォーマット』を参照してください。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

```
          10          S A N D E R S
1  00 00 00 0A 00 00 00 07 E2 C1 D5 C4 C5 D9 E2 00 00 FF FF 00 00 00 40 40
   8          9          10
          20          P E R N A L
2  00 00 00 14 00 00 00 06 D7 C5 D9 D5 C1 D3 00 00 00 00 00 00 61 24 5C
```

図 16. QMF フォーマットでエクスポートされたデータ・オブジェクトのサンプル・データ・レコード

1 REL 1.0

オブジェクト・フォーマット・レベル: 1.0

オブジェクト・フォーマット・レベルは、このオブジェクトが使用するオブジェクト・フォーマットのバージョンを QMF に指示します。

QMF オブジェクト・フォーマットを変更するたびに、レベル番号が変更されます。オブジェクト・フォーマットは、新しいリリースごとに変更されるわけではありません。

2 X'0004'

ヘッダー・レコード数: 4

3 X'0003'

データ列数: 3

4 X'C9 C4'

列名: ID

5 X'1F4'

データ・タイプ: SMALLINT

6 X'0002'

列幅: 2

7 X'D5'

ヌルの使用: N は NO を意味する

8 X'0A'

最初のデータ・レコードの最初の列の値: 10

9 X'07'

最初のデータ・レコードの 2 番目の列の名前の長さ: 7

10 X'FFFF'

標識情報: 列にはヌル値が入る

データ・オブジェクトまたは表オブジェクトをエクスポートしたときに生成されるファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの詳細については、133ページの『外部化 QMF オブジェクトの仕様』を参照してください。

IXF フォーマットの例については、265ページの『付録C. 統合交換フォーマット (IXF)』を参照してください。

データ・オブジェクトと表オブジェクトのエクスポート / インポートに関する規則と情報

データ・オブジェクトまたは表オブジェクトのインポートおよびエクスポートに関する一般的な考慮事項を以下に示します。

ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューは割り振られたままになる

QMF IMPORT DATA コマンドは、データを QMF 一時記憶域に保管してから、報告書を画面に表示するようになります。実際には、データの一部だけが保管され、表示されます。ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューはオープンの状態であり、QMF に割り振られています。ユーザーがファイル、データ・セット、または CICS データ・キューをスクロールすると、QMF がレコードを読み取ります。

この接続は、データ・オブジェクトが置換またはリセットされるまで、あるいは QMF がすべてのレコードを読み取るまで保持されます。この時点で、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューはクローズされ、QMF に割り振られているとは見なされなくなります。これは、アプリケーションが、IMPORT DATA コマンドによって QMF に割り振られたファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを、削除または変更してはならないことを意味します。アプリケーションは、読み取っていたデータ・セットを変更または削除する前に、別のデータ・ソースを使用して開始するか、QMF 一時データ記憶域を空にする (RESET DATA) 必要があります。

IMPORT コマンドの実行中、QMF は、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを読み取る際にロック しません。すなわち、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを読み取る際に変更されないようにするステップを実行しません。QMF が読み取りを終了する前に、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー がなんらかの方法で消去または変更されると、結果は予測不可能になり、システム・エラーの原因になります。

QMF がオブジェクトを完成する必要がある場合で、そのデータ・オブジェクト用に十分な記憶域がない場合、不完全データ・プロンプトが表示されます。QMF がデータ・オブジェクトを完成する必要があるのは、たとえば、同じファイル、データ・セット、または CICS データ・キューへのオブジェクトのエクスポートが要求されたときです。この状態は、現在 EXPORT コマンドで指

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

定した同じファイル、データ・セット、または CICS データ・キューから、以前に `IMPORT DATA` コマンドを実行していることを意味します。不完全データ・プロンプトおよび実行すべきアクションの詳細については、次のインストールおよび管理に関するいずれかの資料を参照してください。

2 進数と文字

QMF フォーマット、または IXF フォーマットの 2 進数フォーマット (`OUTPUTMODE=BINARY`) を使用して、データ・オブジェクトまたは表オブジェクトをエクスポートすると、データは生の 2 進数フォーマットになります。しかし、IXF の文字フォーマット (`OUTPUTMODE=CHARACTER`) を使用すると、エクスポート後のデータは EBCDIC 形式になります。書式、報告書、プロシージャ、および SQL 照会オブジェクトのエクスポート後のデータも EBCDIC 形式になります。

PL/I、COBOL、および アセンブラーなどの言語で作成したアプリケーション・プログラムは、通常、2 進数データを文字データより速く、効率的に読み取り、処理することができます。1 つの IBM プロダクトから別のプロダクトへデータを交換する場合には、2 進数の方がより効率的に実行されます。しかし、アプリケーション・プログラムを REXX で作成する場合、またはデータを編集プログラムで処理する場合には、EBCDIC (文字) データの方がより効率的です。

エラー

QMF は、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューからデータをインポートした後、報告書パネルおよび確認メッセージを表示します。ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューにフォーマット・エラーが含まれていると、QMF は報告書パネルを表示しないで、代わりに、`IMPORT` コマンドを処理する前に現行パネルであったオブジェクト・パネルに、エラー・メッセージを表示します。ただし、現行のオブジェクト・パネルが報告書パネルであった場合、QMF は、インポート後のデータにエラーを検出すると、ホーム・パネルとエラー・メッセージを表示します。

書式オブジェクトと異なり、データ・オブジェクトまたは表オブジェクトをインポートする場合の入力ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューのフォーマットは、同じオブジェクトを `EXPORT DATA` または `EXPORT TABLE` コマンドを使用してエクスポートしたときに生成されるはずの出力ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューのフォーマットと正確に一致していなければなりません。

プロシージャおよび SQL 照会

これらのオブジェクトを示すファイル、データ・セット、または CICS データ・キューのフォーマットは、すべてのオブジェクトのなかで最も単純です。ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの各レコードは、画面に表示される行のイメージ (79 バイトの固定長レコード) と本質的に同じです。

次に SQL 照会を示します。

```
SQL query                                MODIFIED LINE 1
SELECT *
FROM Q.STAFF
```

次に、対応する外部フォーマットの照会を示します。

```
*** Top of File ***
SELECT *
FROM Q.STAFF
```

```
*** End of File ***
```

レコード・フォーマットが単純なので、QMF の外側での SQL 照会またはプロシージャの、作成あるいは編集は非常に単純です。SQL 照会またはプロシージャは、79 バイトの照会またはプロシージャのレコードが入っている固定長のファイル、データ・セット、または CICS データ・キューから構成されます。結果のファイル、データ・セット、または CICS データ・キューをインポートすれば、照会またはプロシージャは QMF 一時記憶域に置かれるので、実行することができます。

図表オブジェクト

図表オブジェクトは、エクスポートして、QMF 環境の外で処理することができます。図表は、QMF オブジェクトとしてデータベースに保管したり、データベースから取り出したりすることができません。図表は、QMF にインポートできません。

QMF が図表オブジェクトをエクスポートする場合、データを報告書フォーマットから図形データ・フォーマット (GDF) に変換します。GDDM フォーマットの 1 つである GDF は、データ交換用の既存の標準です。たとえば、エクスポート後の図表データを GDDM ユーティリティーを使用して印刷したり、

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

文書スクリプト・ファイルに組み込んだりすることができます。GDF フォーマットの詳細については、*GDDM アプリケーション・プログラミングの手引き*を参照してください。

エクスポート後の図表オブジェクトを、GDF フォーマットに設定されたファイルまたはデータ・セットと同様に使用することができます。以下に例を示します。

- アプリケーションは、文書構成プログラム (DCF) を使用して QMF 報告書 (印刷済みの報告書またはエクスポート後の報告書) と QMF 図表 (エクスポート後の図表) を結合し、フォーマット設定済みの情報をプリンターに送信することができます。
- アプリケーションは、GGXA などのグラフィックス・エディターを使用して、エクスポート後の QMF 図表を変更したり微調整したりすることができます。

エンコード・オブジェクト

書式オブジェクトおよび指示照会オブジェクトは、エンコード・フォーマットでエクスポートとインポートが行われます。エンコード・フォーマットは、オブジェクトを表構造に変換するフォーマットです。エンコード・フォーマットによって、オブジェクトの個々の部分を容易に処理することができます。報告書オブジェクトもエンコード・フォーマットでエクスポートされますが、報告書をインポートすることはできません。

書式、報告書、または指示照会 (リレーショナルまたはエンティティ・リレーションシップ) のエンコード・フォーマットは、以下のレコードから構成されます。

- 固定書式レコード: ヘッダー・レコード (H) (97 ページを参照)
- 可変長フォーマット・レコード
 - データ値レコード (V) (101 ページを参照)
 - データ表記レコード (T) (103 ページを参照)
 - 表行レコード (R) (106 ページを参照)
 - オブジェクト・レコードの終わり (E) (108 ページを参照)

アスタリスク (*) によって示されているアプリケーション・データ・レコードは、エクスポート後のファイル内のオブジェクトに関連する情報とコメントを保管するために、アプリケーション・プログラムで使用することができます。詳細については、108ページの『アプリケーション・データ・レコード (*)』を参照してください。

上記のレコードの他に、エクスポート後の報告書に以下のレコードを入れることができます。

- 報告書行レコード (L) (126 ページを参照)
- データ継続レコード (C) (128 ページを参照)

エクスポートされたファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの仕様については、133ページの『外部化 QMF オブジェクトの仕様』を参照してください。

固定フォーマット・レコード

大部分のレコードは、可変長フォーマットです。しかし、ヘッダー・レコードは、レコードが入っているファイルまたはデータ・セットが可変長フォーマットの場合でも固定フォーマットです。

ヘッダー・レコード (H)

ヘッダー・レコードは、エクスポート後の書式、報告書、または指示照会の内容を識別するために使用されます。ヘッダー・レコードは、エクスポート・ファイルの最初のレコードです。このレコードは、オブジェクトの特性について記述します。

ヘッダー・レコードには、表11 に示す情報が入っています (アスタリスクは、そのフィールドがインポートに必要であることを示しています)。

表 11. ヘッダー・レコード情報

バイト位置	情報とタイプ
01*	ヘッダー・レコード標識 (H)
02	ブランク
03-05*	プロダクト ID (QMF)
06	ブランク
07-08	書式、報告書、または指示照会がエクスポートされた QMF のリリース・レベル: 11 (QMF バージョン 7 を示す)
09	ブランク
10*	オブジェクトのタイプ: F (書式)、R (報告書)、T (リレーショナル指示照会)、E (ER 指示照会)
11	ブランク
12-13*	QMF オブジェクト・レベル: 01 (報告書)、04 (書式)、01 (リレーショナル指示照会または ER 指示照会)
14	ブランク

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

表 11. ヘッダー・レコード情報 (続き)

バイト位置	情報とタイプ
15*	オブジェクトのフォーマット: E (書式、報告書、およびリレーショナル指示照会または ER 指示照会の各オブジェクトのエクスポートに使用されたフォーマット)
16	ブランク
17	オブジェクトの状況 E - エラーを含んでいる (書式の場合のみ)、W - 警告を含んでいる、V - 有効
18	ブランク
19	全オブジェクトまたは部分オブジェクトの標識: W (全オブジェクト)
20	ブランク
21	オブジェクトのエクスポート時に使用された国語: E (英語)
22	ブランク
23*	インポート時に、一時記憶域内のオブジェクトに行うアクション: R (オブジェクトの置換)
24	ブランク
25-26	後続の各レコードの先頭にある制御域の長さ: 01 (書式)、02 (報告書)、01 (リレーショナル指示照会または ER 指示照会)
27	ブランク
28-29	V レコードおよび T レコードに指定されている整数の長さフィールドの長さ (03)
30	ブランク
31-38	日付スタンプ: yy/mm/dd
39	ブランク
40-44	時刻スタンプ: hh:mm
45	ブランク
46-50	SSSSS, (OS/2 [®] オブジェクト)
51	ブランク
52-56	DDDDD (OS/2 オブジェクト)

H レコード内のオブジェクト・レベルが、オブジェクトのフォーマットの変更を示します。すべてのオブジェクト・フォーマットは、オブジェクト・レベル 01 から開始されます。QMF の新しいリリースでオブジェクト・フォーマットが変更されると、オブジェクト・レベルは 1 ずつ増加します。オブジェクト・レベルは、フォーマットの変更によって、アプリケーションにエラーが生じる可能性がある場合にのみ増加します。報告書、書式、および指示照会の各

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

オブジェクト・タイプのレベルの変更を検査してください。このエンコード・フォーマットについては、92ページの図16 を参照してください。

たとえば、書式オブジェクトの外部フォーマットによる切れ目情報の処理は、バージョン 3.2 とそれより前のリリースでは異なります。この変更のため、書式オブジェクトのオブジェクト・レベルは、バージョン 3.2 で 03 から 04 に増加します。一般に、以下の変更によって、オブジェクト・レベルが増加します。

- V レコードまたは R レコードのフィールド番号が除去されたか、置換された。
- 特定のレコード・タイプのレイアウトが再定義された。

ただし、フィールドの新しい値、または新しいフィールド番号によって、アプリケーションにエラーが生じることはありません。インポートするオブジェクトによってアプリケーションに問題が生じないことを確認するために、オブジェクト・レベル値を検査してください。

指示照会用の H レコードの例

H QMF 11 T 01 E V W E R 01 03 98/11/20 17:12

例からの値	説明
H QMF 11 T	バージョン 7 QMF リレーショナル指示照会のヘッダー・レコード
01	指示照会の構造のオブジェクト・レベルは 1
E	フォーマット・タイプは、書式、報告書、および指示照会用
V	エクスポート後の指示照会にエラーまたは警告が含まれていない
W	ファイルに指示照会全体が含まれている
E	オブジェクトのエクスポート時に使用された国語は英語
R	インポート時に、一時記憶域のオブジェクトが置換される
01	制御域の長さは 1 バイト
03	整数長さフィールドの長さは 3 バイト
98/11/20	日付スタンプ
17:12	タイム・スタンプ

指示照会エンコード・フォーマットの完全な例については、112ページの図18 を参照してください。

書式用の H レコードの例

H QMF 11 F 04 E V W E R 01 03 98/12/16 22:08

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

例からの値	説明
H QMF 11 F	バージョン 7 QMF 書式ヘッダー・レコード
04	書式の構造のオブジェクト・レベルは 4
E	フォーマット・タイプは、書式、報告書、および指示照会用
V	エクスポート後の書式にエラーまたは警告が含まれていない
W	ファイルに書式全体が含まれている
E	オブジェクトのエクスポート時に使用された国語は英語
R	インポート時に、一時記憶域のオブジェクトが置換される
01	制御域の長さは 1 バイト
03	整数長さフィールドの長さは 3 バイト
98/12/16	日付スタンプ
22:08	タイム・スタンプ

書式エンコード・フォーマットの完全な例については、115ページの図19 を参照してください。

報告書用の H レコードの例

H QMF 11 R 01 E V W E R 02 03 98/10/14 16:20

例からの値	説明
H QMF 11 R	バージョン 7 QMF 書式ヘッダー・レコード
01	報告書の構造のオブジェクト・レベルは 1
E	フォーマット・タイプは、書式、報告書、および指示照会用
V	エクスポート後の報告書にはエラーまたは警告が含まれていない
W	ファイルに報告書全体が含まれている
E	オブジェクトのエクスポート時に使用された国語は英語
R	無視される
02	制御域の長さは 2 バイト
03	整数長さフィールドの長さは 3 バイト
98/10/14	日付スタンプ
16:20	タイム・スタンプ

報告書エンコード・フォーマットの完全な例については、125ページの図21 を参照してください。

可変長フォーマット・レコード

固定フォーマット・レコードである H レコードを除いて、すべてのレコードは可変長フォーマット・レコードです。

標識 レコード・タイプ

- V** データ値 (『データ値レコード (V)』を参照)
- T** データ表記述 (103ページの『データ表記述レコード (T)』を参照)
- R** 表行 (106ページの『表行レコード (R)』を参照)
- E** オブジェクトの終わり (108ページの『オブジェクトの終わりレコード (E)』を参照)
- *** アプリケーション・データ (108ページの『アプリケーション・データ・レコード (*)』を参照)
- L** 報告書行 (126ページの『報告書行レコード (L)』を参照)
- C** データの継続 (128ページの『データ継続レコード (C)』を参照)

可変長フォーマット・レコードが入力時に受け入れられます。これは、レコードを含んでいるファイル、データ・セット、または CICS データ・キューではなく、レコード自体のことです。可変長フォーマット・レコードの一般的なフォーマットは次のとおりです。

制御域	レコード・データ域
-----	-----------

制御域は次のとおりです。

バイト位置 説明

- 01** レコード ID (H、V、T、R、E、*、L、C)
- 02** ブランク (省略される場合がある。特定のタイプの可変長フォーマット・レコードを参照)

レコード・データ域は、個々のレコードに関する情報が入っている可変長域です。この区域の各フィールドは、区切り文字 (本書の場合はブランク文字) によって分離されます。

データ値レコード (V)

値レコードは、オブジェクトの単一フィールドの値 (たとえば、書式でのヘッダーの前のブランク行) を提供するために使用されます。V レコードには以下のデータが含まれています。

- オブジェクトに固有のフィールド番号
- フィールドの長さ
- フィールドの値

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

249ページの『付録B. エクスポート / インポート・フォーマット』は、指示照会、書式、および報告書オブジェクトに含まれているフィールドに割り当てられているフィールド番号をリストしています。

V レコードの内容は次のとおりです。

V レコードの制御域

バイト位置	説明
01	値レコード ID (V)
02	ブランク (報告書の場合にのみ使用され、書式および指示照会の場合には省略される)

V レコードのレコード・データ域

バイト位置	説明
01	ブランク
02-05	フィールド番号 (1001-9999)
06	ブランク
07-09	データ値の長さ (000-999) アスタリスク (*) に続く 2 つのブランクでもよい。アスタリスクは、データ値がレコードの終わりによって区切られていることを示す。
10	ブランク
11- 終わり	データ

注:

- レコード・データ域のバイト位置は、制御域の終わりからのオフセットであり、その長さはヘッダー・レコードに示されています。
- 省略されたデータ値 (長さフィールドの後がレコード終わりまたはブランクのみ) は、フィールドにヌル値が入っていることを示します。
- 長さフィールドがゼロの場合、フィールドのデフォルト値が適用され、警告メッセージが出されます。
- 指定された長さが、後に続く実際のデータと異なる場合、QMF によって警告が出されます。

V レコードの例

書式 V 1511 * NONE

(フィールド番号の全リストについては、254 ページを参照してください。)

フィールド 折り返し報告書行の幅
値 'NONE'

報告書 V 1001 006 PERIOD

(フィールド番号の全リストについては、261 ページを参照してください。)

フィールド プロファイル DECIMAL オプション
長さ 6
値 'PERIOD'

指示照会 V 1501 001 K

(フィールド番号の全リストについては、252 ページを参照してください。)

フィールド 重複行
長さ 1
値 'K' (保持)

データ表記レコード (T)

エンコード・フォーマットでは、オブジェクトの大部分のデータが表に現れます。これらはデータベースのリレーショナル表ではなく、エンコードされたフォーマット内の情報をグループ化する方法です。

各 T レコードは 1 つの表を定義し、各表はオブジェクトの特定の部分 (たとえば、書式内の合計計算) に対応しています。したがって、エクスポート後の 1 つのファイルには、このような多くのエンコード表が入っている可能性があります。エンコード表および各列のフィールド番号については、249 ページの『付録B. エクスポート / インポート・フォーマット』を参照してください。

T レコードの後には常に R レコードが続きます。T レコードは、その後にくる R レコードについて記述します。T レコードの後に R レコードがない場合、その表は省略されます。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

アプリケーション・プログラムがエクスポート後の書式、報告書、または指示照会の表の内容を参照する場合、T レコード内のエンコードを使用して、R レコード内の値を正しく見つけるようにしてください。アプリケーション・プログラムで R レコード内の情報を見つけるために、固定オフセットを使用してはなりません。

T レコードの内容は次のとおりです。

T レコードの制御域

バイト位置	説明
01	表レコード ID (T)
02	ブランク (報告書の場合にのみ使用され、書式および指示照会の場合には省略される)

T レコードのレコード・データ域

以下のリストに示したバイト位置は、制御域の終わりからのオフセット です。制御域の長さはヘッダー・レコードに示されています。

バイト位置	説明
01	ブランク
02-05	表番号 (1001-9999)
06	ブランク
07-09	この表内の行数 (R レコード)。数値の代わりに使用されたアスタリスク (*) は、表が、後続のすべての R レコードから構成されることを意味する。
10	ブランク
11-13	レコード (000-999) 内の列数
14	ブランク
15-18、24-27、...	この列のフィールド番号 (反復フィールド)
19、28、...	ブランク (反復フィールド)
20-22、29-31、...	この列のデータ値の長さ (反復フィールド)

バイト 11-13 (列数) は、後続のフィールド番号 / データ値の長さのペアの個数を示します。これは、バイト 15-22 の情報が列ごとに反復されることを意味します。

T レコードの例 (書式)

T 1110 * 002 1112 007 1113 018

(フィールド番号の全リストについては、254 ページを参照してください。)

フィールド	列ヘッダー表
行	すべて
列	2
列フィールド	列データ・タイプ
長さ	7
列フィールド	列ヘッダー
長さ	18

T レコードの例 (指示照会)

T 1110 008 002 1112 001 1113 027

(フィールド番号の全リストについては、252 ページを参照してください。)

フィールド	表定義の表
行	8
列	2
列フィールド	表 ID
長さ	1
列フィールド	表名
長さ	27

T レコードの例 (報告書)

T 1010 005 003 1012 008 1013 003 1014 006

(フィールド番号の全リストについては、261 ページを参照してください。)

フィールド	フォーマット設定済み報告書表
行	5
列	3
列フィールド	BREAKn
長さ	8
列フィールド	データ用の編集コード
長さ	3
列フィールド	データが入っているフィールドの開始位置
長さ	6

規則および注:

1. 書式または指示照会をインポートする場合、R レコード数が、T レコードのレコード・データ域のバイト 07-09 に指定されている行カウントと一致していなければなりません。さもないと、QMF は警告を出します。
2. 書式または指示照会をインポートする場合、バイト 11-13 に示されている列数が、後続のバイトにあるフィールド番号 / 長さのペア数と一致していなければなりません。さもないと、QMF は警告を出します。
3. フィールド番号 / 長さのペア数は、表内の列数に限定されます。また、その並び順は任意です。
4. 長さがゼロの列 (またはこの表に含まれていない列) は、一時記憶域内のオブジェクトの更新時にデフォルト値に設定され、警告が出されます。指示照会の場合は、常にそうとは限りません。可能な場合はデフォルトが提供されますが、他の場合はエラーになります。
5. 列フィールドをブランクに設定するには、列の T レコードに正の長さがあり、R レコードにブランク値がなければなりません。

表行レコード (R)

R レコードは、エンコード表内の単一行に関する値のセットを提供します。R レコードには、関連する T レコードによって記述されている順に並べられた値のリストが入っています。R レコードは、T レコードに指定されているデータ値の位置と長さの記述に一致しています。R レコードの内容は次のとおりです。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

規則および注:

1. R レコードは、別の R レコードまたは T レコードの直後に続いていなければなりません。
2. データ値の数 (v..v) は、関連する T レコード内の記述に一致していなければなりません。
3. 関連する T レコード内の長さがゼロのデータ値は、オブジェクトのこの行と列に値が適用されないこと、すなわち、デフォルト値に設定されることを示します。ただし、T レコード内にフィールドが存在する場合、R レコードにこのフィールド用の余分なブランクが入っていなければなりません (長さがゼロの値によって、R レコード内では 1 つのブランクの後に別のブランクが続きます)。

オブジェクトの終わりレコード (E)

E レコードは、エクスポートしたオブジェクトの終わりを指定します。これは、エクスポートしたファイルの最後のレコードで、文字 E として現れます。エクスポート後の報告書の場合、E レコードの後にブランク文字が続いて、制御域を終了します。書式の場合、ブランクは省略されます。

E レコードに続くレコードはすべて無視されます。E レコードがインポート中のファイルに組み込まれていない場合、QMF はファイルの終わりがオブジェクトの終わりを暗黙指定していると想定します。

アプリケーション・データ・レコード (*)

アプリケーション・データ・レコードによって、アプリケーション・プログラムは、外部ファイルの特定のオブジェクトに関連するコメントなどの固有のデータを組み込むことができます。アプリケーション・プログラムは、これらレコードをコメント・レコードとして頻繁に使用して、ファイル内のオブジェクトをさらに詳細に記述します。アスタリスクに続く情報は基本的に無視され、入力処理に影響を与えません。

アプリケーション・データ・レコードは、ヘッダー (H) レコードの前を除く外部ファイル内のどこにでも置くことができます。QMF はエクスポート時にアプリケーション・データ (*) レコードを書き込みません。しかし、これらのレコードを、作成後のファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内で使用することができます。これらのレコードは、コメント・レコードとして役に立ちます。アプリケーション・データ・レコードの内容は次のとおりです。

バイト位置	説明
01	アプリケーション・データ・レコード ID (*)

02- レコードの終わり データ

アプリケーション・データ・レコードの例

*This is the form that groups by DEPT.

このようなコメントが、エクスポートされた書式内に組み込まれます。

エンコード・フォーマット・オブジェクトのエクスポート

エンコード・フォーマットを使用してオブジェクトをエクスポートすると、以下の処理が行われます。

- すべての表番号とフィールド番号は、4桁の番号として書き込まれます。
- 表の各列は、オブジェクト内に通常現れる並び順に書き込まれます。ただし、最大長の列は表レコードおよび関連する行レコードの右端に移動されます。
- 数値の長さは、必要に応じた先行ゼロを含めて、3桁です。
- ブランク文字は、すべてのレコード内で区切り文字として使用されます。
- 各レコードの最後の文字の後には、区切り文字は書き込まれません。
- すべての予約フィールド内にはブランクが書き込まれます。
- Eレコードが、出力ファイルに書き込まれる最後のレコードです。

エンコード・フォーマットのオブジェクトのインポート

書式、報告書、または指示照会をインポートする場合、以下のことに注意してください。

- ファイルの構成は、可変長レコードの場合も固定長レコードの場合もあります。133ページの『外部化 QMF オブジェクトの仕様』および 249ページの『付録B. エクスポート / インポート・フォーマット』を参照してください。
- レコード ID (H、V、T、R、E、*、L、または C) が各レコードの最初の位置になければなりません。
- 最初の 2 バイトは、制御情報 (制御域) 用に予約されています。
- 各データ・フィールド (フィールド番号、長さ、および値を含む) の前後に区切り文字が 1 つずつ必要です。例外として、レコード内の最後のデータ・

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

フィールドの場合、レコード終わりが区切り文字のように機能するので、後に区切り文字を続ける必要はありません。(本書の例では、区切り文字として空白文字を使用しています。)

- QMF は、IMPORT 時に重複するデータ値または表を検出すると、前の値または表を置換します。しかし、特定のオブジェクトの規則に違反する重複は許可されません。たとえば、書式用に提供された列数は、最初の COLUMNS 表の処理後に変更できません。
- 表番号、フィールド番号、および数値の長さに、先行ゼロまたは先行空白を組み込むことができます。しかし、後書き空白 (空白区切り文字を除く) は許可されません。フィールドは右寄せしなければなりません。
- 長さまたはカウントの代わりに * を使用した場合、左寄せされ、後書き空白で埋められます。
- データ入力フィールド用に提供された値がフィールドより短い場合、後書き空白で埋められます。長い場合は、切り捨てられます。
- レコードが固定フォーマットの長さより短い場合、指定されずに残されたフィールドは空白と想定されます。

指示照会オブジェクト

この節では、リレーショナル指示照会の外部フォーマットを示します。

エクスポート後の指示照会オブジェクトには、指示照会の基本パネルの確認域に表示される情報が入っています。エクスポート後の指示照会ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューは、QMF 一時記憶域にインポートしたり、データベースに直接入れることができます。指示照会をインポートする場合、QMF はインポートする照会が、データベース内のデータと整合しているかどうかを検査します。たとえば、インポートする指示照会の表 XYZ に列 A、B、および C がある場合、QMF は、列 A、B、および C がある表 XYZ がデータベース内に存在するかどうかを検査します。

指示照会オブジェクトに関連する表番号とフィールド番号のリストについては、252ページの『指示照会オブジェクトの表番号とフィールド番号』を参照してください。

指示照会オブジェクトのエクスポート

この節では、エクスポート後の指示照会の例を示します。111ページの図17は、エクスポート前の指示照会の指示照会基本パネル確認テキストを示しています。

```
Tables:
  Q.STAFF(A)
  Q.ORG(B)
  Q.STAFF(C)

Join Tables:
  A.DEPT And B.DEPTNUMB
  And A.ID And C.ID

Columns:
  A.ID
  A.DEPT
  A.JOB
  A.SALARY
  DEPTNUMB
  C.SALARY
  C.SALARY+A.COMM

Row Conditions:
  If A.SALARY Is Greater Than 10000
  And A.DEPT Is Equal To 84 or 96

Sort:
  Descending by C.SALARY+A.COMM

Duplicate Rows:
  Keep duplicate rows
```

図 17. エクスポート前のサンプル指示照会

112ページの図18 は、エクスポート後の指示照会のフォーマットを示しています。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

```
H QMF 11 T 01 E V W E R 01 03 98/11/20 17:12
T 1110 003 002 1112 001 1113 050
R A Q.STAFF
R B Q.ORG
R C Q.STAFF
T 1150 002 002 1152 020 1153 020
R A.DEPT          B.DEPTNUMB
R A.ID            C.ID
T 1210 007 002 1212 001 1213 255
R C A.ID
R C A.DEPT
R C A.JOB
R C A.SALARY
R C B.DEPTNUMB
R C C.SALARY
R C C.SALARY+A.COMM
T 1310 009 003 1312 001 1313 008 1314 255
R 1 C            A.SALARY
R 2 IS          GT
R 3              10000
R 4 I
R 1 C            A.DEPT
R 2 IS          EQ
R 3              84
R 3              96
R 4 A
T 1410 001 002 1412 001 1413 255
R D C.SALARY+A.COMM
V 1501 001 K
E
```

図 18. エクスポートしたファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー

指示照会のインポート

アプリケーションが編集または生成した指示照会オブジェクトをインポートする場合、以下のことに注意してください。

- 指示照会ファイルをインポートする場合、インポートするレコードは、ヘッダー (H) レコードの後に決まった順に並んでいなければなりません。並び順は次のとおりでなければなりません。
 1. T レコード (表定義)
 2. R レコード (表名)
 3. T レコード (列定義)
 4. R レコード (列)

5. 行条件レコード (フィールド番号 1310) は、各条件内で、項目タイプ順序番号 (フィールド番号 1312) に従った並び順、すなわち、指示照会の確認域に行データが現れる順と同じでなければなりません。
 6. 残りのレコードの並び順は任意です。
- 表に関する表は、他の表または V レコードの前に現れなければなりません。
 - 表の T レコード内の行カウントの値は、* または 0-15 の整数でなければなりません。行カウントのゼロ値によって、その照会のすべてが無視されます。これは空の照会がインポートされることを意味します。
 - QMF は、指示照会インポートに関する警告を出しません。
 - 2 番目の表に関する表 (表 1110) を指定すると、QMF はエラーを出し、その表の内容は無視されます。
 - 指示照会はインポート時にデフォルト値を提供しません。
 - ソート表がある場合、その前に列表がなければなりません。
 - QMF はインポート・ファイル内の重複レコードを受け入れます。そのレコードの最新値が使用されます。
 - すべての列名は、インポート時に、表 ID によって修飾されていなければなりません。
 - 指示照会を事前割り振りデータ・セットにエクスポートする場合、許可される最小論理レコード長 (LRECL) は 259 バイトです。
 - 指示照会のエクスポート・フォーマットは、使用する国語に関係なく同じです。フォーマットは言語によって異なることはありません。ヘッダー・レコード内の言語バイトは、インポート時に無視されます。指示照会のエクスポート時に使用されるコードについては、252ページの『指示照会オブジェクトの表番号とフィールド番号』を参照してください。
- 合計機能および合計式は変換されません。したがって、合計機能 COUNT、AVG、SUM、MIN、および MAX は変更されないままです。これらは、変換されない SQL 記号です。

書式オブジェクト

書式オブジェクトには、QMF のすべての書式パネルに指定されている情報が入っています。書式をエクスポートすると、変更した書式パネルが QMF によってエンコード・フォーマットに変換されます。以下のパネルは、パネルを変更した場合にのみ、エンコード・フォーマットになります。

- FORM.BREAKn、ここで n = 3 ~ 6
- FORM.CALC

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

- FORM.CONDITIONS
- FORM.DETAIL が 1 より大きい、すべてのバリエーション・パネル

外部フォーマットから未使用のパネルを除去することによって、システム上のスペースを節約することができます。

デフォルト書式の作成: 例

LAYOUT コマンドによって、ユーザーは QMF 一時記憶域にデータがない状態でも (QMF 一時記憶域またはデータベース内の) 書式に基づいたサンプル報告書を表示することができます。LAYOUT は、サンプル・データを生成し、QMF にインポートし、それに書式を適用して報告書を作成します。

CICS ユーザーへの注

LAYOUT コマンドには ISPF が必要ですが、CICS では利用できません。

ユーザーは、書式を作成し、エクスポートし、初期化の一部として QMF にインポートすることによって、照会を実行せずに書式を表示することができます。初期プロシージャータ中に書式をインポートすれば、ユーザーは SHOW FORM を入力することによって書式にアクセスすることができます。

インポートできる最小の書式はヘッダー・レコードと終了レコードです。しかし、FORM.COLUMNS を使用するためには、少なくとも 1 列の情報が必要です。

空の報告書を作成する照会を実行することによって、デフォルト書式を作成することができます。

SQL 照会

```
SELECT JOB  
FROM Q.STAFF  
WHERE NAME='empty_set'
```

QMF によって報告書が表示されたら、EXPORT FORM TO DEFAULT (CICS では (QUEUETYPE=xx パラメーターを含めて) を入力してください。DEFAULT と名付けられたファイル、データ・セット、または CICS データ・キューには、115ページの図19 に示されている情報が入ります。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

H QMF 11 F 04 E V W E R 01 03 98/12/16 22:08

```
T 1110 001 011 1112 007 1113 040 1114 007 1115 006 1116 005 1117 005 1118 003 1119 008 1120 008
  1122 006 1121 050
R CHAR      JOB                2      5      C      1  DEFAULT
  DEFAULT NO
V 1201 001 0
V 1202 001 2
T 1210 001 003 1212 004 1213 006 1214 055
R 1      CENTER
V 1301 001 2
V 1302 001 0
T 1310 001 003 1312 004 1313 006 1314 055
R 1      CENTER
V 1401 002 NO
V 1402 001 1
V 1403 001 0
T 1410 001 003 1412 004 1413 006 1414 055
R 1      RIGHT
V 1501 001 1
V 1502 003 YES
V 1503 003 YES
V 1504 003 YES
V 1505 003 YES
V 1506 003 YES
V 1507 003 YES
V 1508 003 YES
V 1509 003 YES
V 1510 003 YES
V 1511 004 NONE
V 1512 002 NO
V 1513 007 DEFAULT
V 1514 002 NO
V 1515 004 NONE
V 2790 001 1
V 2791 003 YES
V 2805 003 YES
T 2810 001 003 2812 004 2813 006 2814 055
R 1      LEFT
V 2901 002 NO
V 2902 001 1
V 2904 001 0
V 2906 002 NO
V 2907 002 NO
T 2910 001 003 2912 004 2913 006 2914 055
R 1      LEFT
V 3080 001 1
V 3101 002 NO
V 3102 002 NO
V 3103 001 0
V 3104 001 0
T 3110 001 003 3112 004 3113 006 3114 055
```

図 19. エクスポートされた書式のサンプル・フォーマット (1/2)

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

```
R 1    LEFT
V 3201 002 NO
V 3202 001 1
V 3203 001 0
V 3204 001 1T 3210 001 003 3212 004 3213 006 3214 055
R 1    RIGHT
V 3080 001 2
V 3101 002 NO
V 3102 002 NO
V 3103 001 0
V 3104 001 0
T 3110 001 003 3112 004 3113 006 3114 055
R 1    LEFT
V 3201 002 NO
V 3202 001 1
V 3203 001 0
V 3204 001 1
T 3210 001 003 3212 004 3213 006 3214 055
R 1    RIGHT
E
```

図 19. エクスポートされた書式のサンプル・フォーマット (2/2)

初期プロシージャ内でコマンド `IMPORT FORM FROM DEFAULT` (CICS では `(QUEUETYPE=xx` パラメーターを含めて) を出すことによって ユーザーがログオンするたびに、デフォルトのファイル、データ・セット、または CICS データ・キューをインポートすることができます。

アプリケーション内の QMF 書式オブジェクトに関する考慮事項

アプリケーションで QMF 書式を使用する場合、以下の点に注意してください。

- **QMF の外側での書式ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの作成**

QMF の外で書式ファイルを作成する場合 (すなわち、`EXPORT FORM` を使用して作成しない 場合)、QMF に正常にインポートするためには完全な書式オブジェクトは不要です。実際に必要なのは、ヘッダー (H) レコードと、それに続く `COLUMNS` 表の `T` レコードと `R` レコードです。書式の残りの部分については、インポート時にデフォルト値が適用されます。

ユーザー固有の書式ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを作成すれば、柔軟性が増します。`EXPORT FORM` を使用した場合に入手するファイル、データ・セット、または CICS データ・キューと正確に同じである必要はありません。たとえば、書式をエクスポートするとき、QMF によって値 (V) レコード内のすべてのデータ値の前に長さが置かれてますが、

書式をインポートするとき、データ値をレコード終わりによって区切ることを指定するための (*) を使用できます。

インポート後の書式内の R レコード・カウントが、QMF によってデフォルト書式の関連領域にすでに割り振られているデフォルト行数より少ない場合、余分な行は QMF によって保持されます。

- **ヘッダー・レコード内のオブジェクト・レベルの検査**

書式ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューのヘッダー・レコード内のオブジェクト・レベルは、書式の生成時のフォーマット構造のレベルを示します。(オブジェクト・レベルは、97 ページで説明したようにヘッダー・レコードのバイト 12 および 13 に示されます。) アプリケーションが書式ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの内容を適切に解釈しているかを確認するには、オブジェクト・レベルが、アプリケーションがベースとしているフォーマットを示しているかどうかを検査します。

- **アプリケーション・データ・レコードの使用**

108ページの『アプリケーション・データ・レコード (*)』で説明したアプリケーション・データ・レコードは、アプリケーション・プログラム内で役に立ちます。このレコードによって、書式オブジェクトに関するファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内に、ユーザー固有のコメントを組み込むことができます。このレコードは、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内のヘッダー・レコードの後の任意の場所に置くことができます。QMF は、このようなレコードを読み取ると、レコード内の * の後にあるすべてのデータを無視します。したがって、このレコードは、インポート・プロセスに何の影響も与えません。

- **日付 / 時刻情報のインポートとエクスポート**

インストール先が日付 / 時刻データ・タイプをサポートしている場合に、日付 / 時刻情報がある書式をエクスポートした後、日付 / 時刻データ・タイプをサポートしない QMF のインストール先で、この書式をインポートすることはできません。インポートを試みると、IMPORT コマンド処理が停止し、QMF によってエラー・メッセージが出されます。

- **QMF バージョン 3.2 用に変更された切れ目フィールド番号**

各切れ目パネル用の表およびフィールド番号を組み込む代わりに、QMF バージョン 3.2 は、今後、1 つのフィールド番号 (3080) を後続の情報を受け取る切れ目パネルを示すための『トリガー』として使用します。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

エクスポートするファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内に切れ目パネルを作成した場合、フィールド 3080 を、必要な切れ目パネルの番号に設定することができます。このフィールドの有効値は、1 ～ 6 のみです。

エンコードされたファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内の 6 つの切れ目パネルのうちの任意のパネルを、すべてのパネルを定義せずに使用することができます。たとえば、切れ目パネル 1 ～ 4 を作成せずに、切れ目パネル 5 を作成することができます。

• 書式アプリケーション移行援助プログラム

QMF は、バージョン 3.2 で切れ目パネル用に新しいフィールド番号をインストールし、これらの新しい番号は QMF の以前のバージョンとの互換性がないので、エクスポート後の書式のオブジェクト・レベルはオブジェクト・レベル 4 に増加しました。書式オブジェクトは、QMF バージョン 3 リリース 1 とバージョン 3 リリース 1 モディフィケーション・レベル 1 (バージョン 3.1.1) の間またはバージョン 3.1.1 とバージョン 3.2 の間で変更されていません。

QMF バージョン 2.4 またはそれ以前 (QMF VSE バージョン 1 を含む) から QMF バージョン 3.2 にアップグレードする場合、現在のアプリケーションをアップグレードして、新しい切れ目フィールド番号を反映させる必要があります。ただし、QMF バージョン 3.2 には、書式アプリケーション移行援助プログラムが用意されているので、バージョン 3.2 をインストールしても、古い切れ目フィールド番号を使用する既存のアプリケーションを使用し続けることができます。

QMF バージョン 3.2 書式オブジェクトをエクスポートする場合、この援助プログラムは、これらの書式オブジェクト内の新しい切れ目フィールド番号を QMF バージョン 2.4 の対応するフィールド番号に変換します。このようにすれば、直接のアップグレードを行わずに、QMF バージョン 3.2 によって既存のアプリケーションを実行できます。

重要: 書式アプリケーション移行援助プログラムを使用しても、エクスポート後の QMF バージョン 3.2 の書式を QMF バージョン 2.4 で使用することはできません。

書式アプリケーション移行援助プログラムのセットアップについては、*Installing and Managing QMF for VM/ESA* または *QMF (OS/390 版) インストールおよび管理の手引き* を参照してください。

• CICS で書式を使用する場合の制約

QMF CICS のもとでは、REXX は使えないので、REXX に基づいている QMF 書式上の区域は、CICS 環境でその書式を実行する場合、機能しません。このような区域には、FORM.CALC パネル、FORM.CONDITIONS パネ

ル、および定義指定ウィンドウでのすべての入力が含まれます。したがって、REXX 計算、条件付き行フォーマット設定、および列定義は、QMF CICS ユーザーは使えません。

入出力用の書式ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューを制御についてのその他の情報および規則については、109ページの『エンコード・フォーマットのオブジェクトのインポート』を参照してください。

書式オブジェクトのインポート

書式をインポートする場合、以下のフィールドは大文字でなければなりません。

- すべてのレコードのレコード ID
- ヘッダー・レコード内の以下のフィールド
 - プロダクト ID (QMF)
 - オブジェクトのタイプ (F)
 - オブジェクトのフォーマット (E)
 - オブジェクトに対するアクション (R)
- COLUMNS 表に関する R レコード内のデータ・タイプ値 (NUMERIC、CHAR、GRAPHIC、UNKNOWN)。インストール先が日付 / 時刻データ・タイプをサポートしている場合、データ・タイプ値 DATE、TIME、および TIMEST も大文字でなければなりません。
- 書式パネル内で使用されるすべての書式キーワードおよび置換変数。書式をインポートする場合、書式内のすべての入力はそのまま残されます。書式キーワードが小文字の場合、書式パネル内のエラー標識がオンになります。エラーを訂正するには、フィールドに重ねて入力してください。データ・タイプ値が大文字でない場合、エラーが生じて IMPORT が終了します。

ヘッダー・レコードの直後に、COLUMNS 表の T レコード (フィールド番号 1110) が続いているなければなりません。このレコードには、表内の行数の数値カウントが入っていないなければなりません (* 行カウントは許可されません)。

COLUMNS 表全体を読み取った場合、指定されていないフィールドはデフォルト値に設定されて、書式が表示されます。

バリエーション・パネル

バリエーション番号フィールド (フィールド番号 2790) は、このフィールドに続くすべてのバリエーション・パネル情報によって、どのバリエーション・パネルが更新されるかを示します。この V レコードは、特定のバリエーション・パネルの他のすべての V、T、および R レコードの前に来なければなりません。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

特定のバリエーション用の値が、エンコード・フォーマットに複数回現れた場合、後の値が前の値を置換します。書式内のバリエーションの数は、書式内の最高のバリエーション番号に等しい数です。インポート時には、バリエーション番号の並び順は無関係です。

変換後の書式

英語の書式を英語以外のセッションにインポートするとき、H レコード内の各国語 ID が E であると、QMF は自動的に書式内の予約語を現行セッションの言語に変換します。

インポート書式でのデータ・タイプ、編集コード、および幅の省略

COLUMNS 表では、データ・タイプ (フィールド番号 1112)、編集コード (フィールド番号 1117)、および幅 (フィールド番号 1116) を以下の規則に従ってオプションで省略することができます。

- データ・タイプと幅を省略する場合には、編集コードを指定する必要があります。指定した編集コードに基づいて、データ・タイプと幅の適切なデフォルトが QMF によって挿入されます。
- 編集コードと幅を省略する場合、データ・タイプを指定する必要があります。編集コードと幅のデフォルト値が QMF によって提供されます。
- 幅は、データ・タイプまたは編集コードと共に指定する必要があります。

表12 には、列データ・タイプ・フィールドの値に関する情報が示してあります。

表 12. 列データ・タイプ・フィールドの値

データ・タイプ値 (QMF 書式)	データ・タイプ		意味
	番号 (データ ベース書式)	文字ストリング (データベース書式)	
DATE	384	DATE	日付
TIME	388	TIME	時刻
TIMEST	392	TIMESTAMP	タイム・スタンプ
NUMERIC	496	INTEGER	整数
	500	SMALLINT	小整数
	484	DECIMAL	10 進数
	480	FLOAT	浮動小数点
CHAR			可変文字
	448	VARCHAR	固定文字
	452	CHAR	長可変
	456	LONG VARCHAR	文字
	904	ROWID	行 ID

表 12. 列データ・タイプ・フィールドの値 (続き)

データ・タイプ値 (QMF 書式)	データ・タイプ		意味
	番号 (データ ベース書式)	文字ストリング (データベース書式)	
			可変図形
	464	VARGRAPHIC	固定図形
	468	GRAPHIC	長可変
GRAPHIC	472	LONG VARGRAPHIC	図形

上記のデータ・タイプ値の他に、U、V、または無効な編集コードに対して QMF が使用する UNKNOWN データ・タイプがあります。

インポート中のエラーの検出

QMF がインポート中に書式ファイルのフォーマットでエラーを検出すると、インポート機能はエラーおよびファイル内のエラーの場所について示すメッセージを出して終了します。

エラーがヘッダー・レコード内で検出されても、書式が一時記憶域内にすでに存在している場合は、既存の書式が表示されます。書式が正常にインポートされた場合は、QMF によってその書式パネルが表示されます。

ヘッダー・レコードが読み取られた後でエラーが検出された場合、一時記憶域内の既存の書式が廃棄され、ホーム・パネルが表示されます。しかし、データ・オブジェクトが存在している場合、QMF によってデータのデフォルト書式が生成されます。ただし、表示はされません。

特定の小さなエラーが QMF によって検出されても、インポートは終了しません。このような場合、QMF は警告メッセージを出し、可能であれば、デフォルト値を適用します。次に例を示します。

V レコード

- ゼロの長さフィールド
- 指定された長さフィールドが、実際に提供されたデータの長さとは一致しない場合

T レコード

- ゼロの列の長さ
- 指定された列数が、後続のフィールド番号 / 長さのペアと一致しない場合

以下の 2 つのうちのいずれかの方法で、エラーと警告に応答することができます。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

- 1 度に 1 つずつ問題を修正する
- SET PROFILE (TRACE=L2) を指定して IMPORT FORM を実行する

SET PROFILE (TRACE=L2) を指定して IMPORT FORM を実行すれば、IMPORT コマンドに関連するすべてのメッセージ番号のリストを入手できます。次のコマンド

```
HELP message_number
```

を実行すると、当該メッセージ番号のエラー・メッセージが表示されます。

書式オブジェクトのエクスポート

QMF バージョン 1 リリース 2 より前にエクスポートされた書式のフォーマットは、この節で説明するフォーマットとは異なりますが、QMF は、QMF の以前のリリースを使用してエクスポートされた書式も受け入れます。このような書式を、新しいリリースにインポートし表示する場合、若干のパフォーマンス低下が起こる可能性があります。

254ページの『書式オブジェクトの表番号とフィールド番号』は、書式オブジェクトの様々な部分へのフィールド番号の割り当てをリストしています。また、エクスポート後のファイル内で、書式のどの部分が表で、どの部分がそれぞれの値であるかも示しています。列データ・タイプ (フィールド 1112) は、書式パネルに表示されませんが、外部フォーマットの書式に関連しています。

書式のインポート時に列データ・タイプは不要です。インポート時に列データ・タイプがない場合、QMF は編集コードからデフォルトのデータ・タイプ情報を提供します。詳細については、119ページの『書式オブジェクトのインポート』を参照してください。エクスポート時に QMF が提供するデータ・タイプ・キーワード (フィールド番号 1112) は、指定された編集コードに基づいています。U、V、または無効な編集コードについては、QMF はデータ・タイプ・キーワード UNKNOWN を指定します。123ページの表13 は、QMF が、指定された編集コードについて生成するデータ・タイプ・キーワードを示しています。この表では、x は表示される 10 進数の桁数を表し、0 から 99 の整数になります。

表 13. 指定された編集コードに対して生成されるデータ・タイプ・キーワード

指定された編集コード	データ・タイプ・ キーワード
B、BW、C、CW、CT、CDx、X、XW	CHAR
G、GW	GRAPHIC
E、D、I、J、K、L、P、EZ、DZ、IZ、JZ、KZ、LZ、 PZ、DZC、Dx、Ix、Jx、Kx、Lx、Px	NUMERIC
TDXx	DATE
TTXx	TIME
TSI	TIMEST
U、V	UNKNOWN
上記以外 (無効)	UNKNOWN

バリエーション・パネル

書式をエクスポートする場合、QMF はデフォルト値から変更された値を持つバリエーション・パネルだけをエクスポートします。したがって、外部書式のバリエーションの合計数が、パネル上のバリエーション・カウント標識に示されている数より少ない場合があります。各バリエーション番号を変更して、そのバリエーションを連続する順序の中に戻すことができます。

変換後の書式

英語以外のセッションから書式をエクスポートする場合、現行セッションの言語または英語のいずれかを指定できます。このため、H レコード内の各国語 ID が、書式のエクスポート元のセッションの言語を示していない可能性があります。

報告書オブジェクト

QMF によって報告書を表示すると、書式と一時記憶域内のデータ・オブジェクトの対話の結果を見ることができます。報告書オブジェクトは、一時記憶域には存在しません。報告書をエクスポートすると、QMF によって、実際には書式とデータ・オブジェクトの対話がエクスポートされます。報告書は、データベースに保管できません。また、エクスポート後の報告書を QMF にインポートすることもできません。しかし、エクスポート後の報告書を使用して、以下のことを行えます。

- 報告書からデータを取り出して、アプリケーションで使用する。
- 報告書の外観を印刷用に変更し、アプリケーションによって再表示する。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

報告書のエクスポート例

この例は、レベル 1 の切れ目がある報告書を示しています。図20 は、エクスポートされる報告書を示しています。横方向の報告書の例については、129 ページを参照してください。

フィールド番号のリストについては、261ページの『報告書オブジェクト用の表番号とフィールド番号』を参照してください。

REPORT	LINE 1	POS 1	79
J & H SUPPLY COMPANY AVERAGE SALARIES (DEPTS 10, 15, 20) REPORT 17			
DEPT	JOB	AVERAGE	SALARY
-----	-----	-----	-----
10	MGR	20865.86	
	*	20865.86	
15	CLERK	12383.35	
	MGR	20659.80	
	SALES	16502.83	
	*	15482.33	
20	CLERK	13878.68	
	MGR	18357.50	
	SALES	18171.25	
	*	16071.53	
		=====	
		17473.24	
COMPANY NAME REPORT 17			

図 20. QMF の表報告書

125ページの図21 は、図20 に示した報告書のエクスポート後のフォーマットを示しています。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

```

H QMF 11 R 01 E V W E R 02 03 98/10/14 11:24
V 1001 006 PERIOD
V 1002 003 016
T 1010 003 006 1013 005 1014 006 1015 006 1016 006 1017 006 1012 008
R L 000001 000003 000008 000001 BREAK1
R C 000009 000011 000015 000001 GROUP
R L2 000016 000018 000027 000001 AVERAGE
L 110 10100000 J & H SUPPLY COMPANY
L 110 10100000 AVERAGE SALARIES (DEPTS 10, 15, 20)
L 110 10100000 REPORT 17
L 110 10000000
L 110 10000000
L 170 10000000 AVERAGE
L 170 10000000 DEPT JOB SALARY
L 170 10010000 -----
L 181 11000000 10 MGR 20865.86
L 151 10010000 -----
L 151 11100000 * 20865.86
L 151 10000000
L 181 11000000 15 CLERK 12383.35
L 181 11000000 MGR 20659.80
L 181 11000000 SALES 16502.83
L 151 10010000 -----
L 151 11100000 * 15482.33
L 151 10000000
L 181 11000000 20 CLERK 13878.67
L 181 11000000 MGR 18357.50
L 181 11000000 SALES 18171.25
L 151 10010000 -----
L 151 11100000 * 16071.52
L 151 10000000
L 190 10010000 =====
L 190 11000000 17473.24
L 120 10000000
L 120 10000000
L 120 10100000 COMPANY NAME
L 120 10100000 REPORT 17
E
    
```

図21. エクスポート後のサンプル報告書のフォーマット

QMF は、報告書をエクスポートするとき、フォーマット設定済み報告書の全テキストと報告書の内容を解釈するための追加情報を書き込みます。

ヘッダー・レコードは、エクスポート・ファイルの最初のレコードです。この後に適切な V、T、および R の各レコードが続きます。報告書が横方向スタイルの報告書の場合には、最初のグループの後に、V、T、および R の各レコードから構成される別のグループが続きます。

H、V、T、R、および E の各レコードの他に、エクスポート報告書には、以下の 2 つの追加のレコード・タイプも必要です。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

報告書行レコード (L)
データ継続レコード (C)

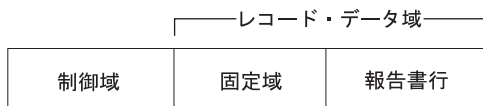
これらの 2 つのレコードは、V、T、および R の各レコードの最後のグループの後に続きます。

アプリケーションで報告書のフォーマット設定済みデータのみを使用したい場合、QMF に印刷出力をファイル、データ・セット、または CICS データ・キューに送らせることができます。このファイル、データ・セット、または CICS データ・キューにはレイアウト情報がなく、フォーマット設定済みデータのみが入ります。ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューに印刷するためにプリンターの指定を行う方法については、以下の資料を参照してください。

QMF (MVS 版) 導入および管理の手引き、
Installing and Managing QMF for VM/ESA、
Installing and Managing QMF for VSE/ESA

報告書行レコード (L)

報告書内のフォーマット設定済みの各行は、L レコードによって記述されます。報告書内の行ごとに 1 つの L レコードがあります。他の可変長フォーマット・レコード (V、T、R) と同様に、L レコードは制御域に続くレコード・データ域から構成されます。制御域のフォーマットは、他のレコードに似ています。レコード・データ域は、固定域に続くフォーマット設定済みの報告書行自体からなります。固定域は、その後続く報告書行に関する情報を提供しません。



L レコードの内容は次のとおりです。

L レコードの制御域:

バイト位置	説明
01	値レコード ID (L)
02	継続標識。現行レコードをデータ継続レコードに継続するかどうかを示す (128ページの『データ継続レコード (C)』参照)。 <ul style="list-style-type: none">• C は継続を示す

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

- D は、現行レコード終わりと次のレコードのデータ部分の先頭に、DBCS 区切り文字 S0 と SI を挿入して、継続することを示す
- ブランクは継続しないことを示す

(以下の説明の後にある注 1 および 128ページの2 参照。)

L レコードのレコード・データ域 (固定域)

バイト位置	説明
01	ブランク
02-04	報告書構成部分標識。 110 = ページ・ヘッダー、120 = ページ後書き、13n = 切れ目ヘッダー (n は切れ目番号、1-6)、15n = 切れ目後書き (n は切れ目番号、1-6)、170 = 列ヘッダー、171 = 明細ヘッダー、180 = 明細行、181 = グループ合計行、190 = 最終後書き
05	ブランク
06-13	行タイプ属性。バイト 06 は常に 1。バイト 7-13 の各バイトは、フォーマット設定済みの報告書の行に、対応する行タイプ属性があるかどうかを示す (1 = 属性がある、0 = 属性がない)。

バイト位置	説明
06	1
07	データ
08	テキスト
09	区切り文字
10	列の折り返し。注 3 を参照。
11	行の折り返し。注 3 を参照。
12	2 番目のデータ行 (横方向報告書のみ)。注 4 を参照。
13	予約済み
14	ブランク

L レコードのレコード・データ域 (報告書行):

バイト位置	説明
01- 終わり	実際のフォーマット設定済み報告書行

L レコードの例

L 151 11100000 DEPARTMENT TOTALS 93,659.45

(切れ目 1 後書き行にはテキストとデータが入る)

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

注:

1. C レコードは、制御域のバイト 2 にある継続文字によってマークされている L レコードの直後に続きます。
2. 制御域内の継続標識として D が指定されている場合、現行レコードが長すぎて単一の物理レコードに収まらないこと、および、レコードを分割するプロセスで、継続する DBCS データの整合性を保持するために、現行レコードと次のレコードに、S0 (シフトアウト) と SI (シフトイン) 文字が追加されたことを意味します。
3. 列の折り返し (バイト 10) と行の折り返し (バイト 11) に関する属性は、複数の物理的な 報告書行への、単一の論理報告書行の継続を示すために使用されます。特定の L フォーマット・レコード内にいずれかの属性がある場合、列データまたは折り返し行が、次の L フォーマット・レコードに継続されることを意味します。
4. パーセント列または累積合計列を含む横方向報告書には、グループ (さらに、切れ目および最終) 合計ごとに 2 つのデータ行を入れることができます。最初の合計データ行には、固有の横方向値ごとに横方向に計算された、列の累積パーセント値または累積合計値が入ります。2 番目の合計データ行には、(報告書内または制御の切れ目内の) グループごとに下方向に計算された列の累積パーセント値または累積合計値が入ります。2 番目のデータ行 (バイト 12) の行タイプは、この特性を持つエクスポート後の報告書内の 2 番目のデータ行を示します。

データ継続レコード (C)

C レコードは、値または値のセットを複数のレコードに継続するために使用します。このレコードは、継続するレコードの直後に続けます。C レコードのフォーマットは、継続する元のレコードのフォーマットに対応します。QMF は、L レコードを継続するためにだけ C レコードを使用します。C レコードには以下の区域があります。

C レコードの制御域:

バイト位置	説明
01	値レコード ID (C)
02	継続標識。現行レコードを別の C レコードに継続するかどうかを示す。 <ul style="list-style-type: none">• C は継続を示す• D は、現行レコード終わりと次のレコードのデータ部分の先頭に、DBCS 区切り文字 S0 と SI を挿入して、継続することを示す

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

- ブランクは継続しないことを示す

(128ページの1 および 128ページの2 の注を参照してください。)

C レコードのレコード・データ域

以下のリストに示したバイト位置は、制御域の終わりからのオフセットです。制御域の長さはヘッダー・レコードに示されています。

バイト位置	説明
01	ブランク
02- 終わり	継続する値または値のセット

C レコードの例

単一の報告書行の値がテキストの途中で分割されるが、別の継続レコードには継続されない報告書行の継続

```
C ARS ----> <---- TOTAL ---->
```

単一の報告書行の値がテキストの途中で分割され、かつ、レコードが別の C レコードに継続される報告書行の継続

```
CC ERK ----> <---- MGR ----> <---- SAL
```

横方向報告書のエクスポート例

130ページの図22 は、エクスポート後の横方向スタイルの報告書を示しています。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

REPORT	LINE 1	POS 1	79
J & H SUPPLY COMPANY DEPT AVERAGE SALARIES REPORT 18 (ACROSS REPORT)			
<----- JOB ----->			
<- CLERK --> <- MGR --> <- SALES --> <- TOTAL -->			
DEPT	AVERAGE SALARY	AVERAGE SALARY	AVERAGE SALARY
-----	-----	-----	-----
10		20865.86	20865.86
15	12383.35	20659.80	15482.33
20	13878.68	18357.50	16071.53
38	12482.25	17506.75	15457.11
	=====	=====	=====
	12914.76	19998.21	17372.10
			16880.26
COMPANY NAME REPORT 18 PAGE 1			

図22. サンプル横方向報告書. この報告書は QMF 横方向報告書機能を使用しています。

131ページの図23 は、図22 の結果のエンコード・フォーマットを示しています。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

```

H QMF 11 R 01 E V W E R 02 03 98/10/14 16:20

V 1001 006 PERIOD
V 1002 003 016
T 1010 002 006 1013 005 1014 006 1015 006 1016 006 1017 006 1012 008
R L      000001 000003 000008 000001 GROUP
R L2     000003 000005 000014 000001 AVERAGE
V 2001 005 C
V 2002 003 001
V 2003 003 YES
T 2010 004 003 2012 006 2013 006 2014 006
R 000014 000018 000009
R 000029 000031 000023
R 000042 000046 000037
R 000056 000060 000051
L 110 10100000
L 110 10100000
L 110 10100000
L 110 10000000
L 110 10000000
L 170 10000000
L 170 11000000
L 170 10000000
L 170 10000000
L 170 10010000
L 181 11000000
L 181 11000000
L 181 11000000
L 181 11000000
L 190 10010000
L 190 11000000
L 120 10000000
L 120 10000000
L 120 10100000
L 120 10100000
L 120 10100000
E

```

J & H SUPPLY COMPANY
DEPT AVERAGE SALARIES
REPORT 18 (ACROSS REPORT)

		<----- JOB ----->			
	DEPT	<- CLERK --> AVERAGE SALARY	<-- MGR ---> AVERAGE SALARY	<- SALES --> AVERAGE SALARY	<- TOTAL --> AVERAGE SALARY
L 170 10010000	-----	-----	-----	-----	-----
L 181 11000000	10		20865.86		20865.86
L 181 11000000	15	12383.35	20659.80	16502.83	15482.33
L 181 11000000	20	13878.68	18357.50	18171.25	16071.53
L 181 11000000	38	12482.25	17506.75	17407.15	15457.11
L 190 10010000		=====	=====	=====	=====
L 190 11000000		12914.76	19998.21	17372.10	16880.26
L 120 10000000					
L 120 10000000					
L 120 10100000				COMPANY NAME	
L 120 10100000				REPORT 18	
L 120 10100000				PAGE 1	

図 23. エクスポート後の横方向スタイル報告書のフォーマット

HTML 報告書

HTML 用の報告書をエクスポートすると、QMF はその本文の前後に必要な HTML タグを置きます。これによって、その報告書を Web サーバー上に置いて、HTML 3.0 準拠の Web ブラウザーで表示することができます。132ページの図24 は、QMF が報告書の前後に置く HTML コーディングを示しています。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>
Report
</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<PRE>

                J & H SUPPLY COMPANY
      AVERAGE SALARY (DEPTS 10, 15, 20)
                REPORT 17

      DEPT  JOB          AVERAGE
      ----  -
      10    MGR          20865.86
                        -----
                        * 20865.86

      15    CLERK        12383.53
           MGR          20659.80
           SALES        16052.83
                        -----
                        * 15482.33

      20    CLERK        13878.67
           MGR          18357.50
           SALES        18171.25
                        -----
                        * 16071.52
                        =====
                        17473.52

                COMPANY NAME
                REPORT 17

</PRE>
</BODY>
</HTML>
```

図 24. HTML 報告書のコーディング・サンプル

QBE 照会

QBE 照会オブジェクトは、QMF の内部フォーマットを使用してエクスポートされます。このフォーマットは、どのような方法でも変更できません。

外部化 QMF オブジェクトの仕様

表14 は、TSO ファイル、CMS IMPORT ファイル、および CMS EXPORT ファイルの仕様をリストしています。

CICS の場合、レコード・サイズは 表14 に示すサイズと同じですが、強制されるわけではありません。たとえば、一時記憶域キューから、レコード・サイズが 32k の SQL 照会をインポートした場合、QMF はそれを 79 バイトに切り捨てます。

レコード・フォーマットは、CICS 一時記憶域または一時データ・キューの要素ではありません。一時記憶域キューは、レコードをそのフォーマットに関係なく保持します。一時データ・キューは、宛先管理テーブル (DCT) に対して定義され、レコード・フォーマットは無視されます。

キュー名は、ユーザーが生成し、デフォルトの接頭部または接尾部はありません。CICS TS キュー名は 8 バイトです。TD キュー名は 4 バイトです。

表 14. ファイルおよびデータ・セットの属性

オブジェクト	レコード・サイズ	レコード・フォーマット (CMS/TSO)
データまたは表 (QMF フォーマット)	最大サイズ: 7000 バイト	レコードは固定長でなければならない。
データまたは表 (IXF フォーマット)	最大サイズ: 32756 (注 2 参照) インポート時に IXF ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューとして QMF が受け入れる最小 LRECL は 49 バイト	レコードは可変長でなければならない。
指示照会	最大: 7290 バイト 最小: EXPORT では 266 バイト、IMPORT では 41 バイト	レコードは EXPORT では可変長でなければならないが、IMPORT では固定長または可変長のいずれでもよい。
SQL 照会	EXPORT では 79 バイト、IMPORT では 255 バイト以下ならばよいが、79 バイトに切り捨てられる。	レコードは EXPORT では固定長でなければならないが、IMPORT では固定長または可変長のいずれでもよい。
QBE 照会	1024 バイトでなければならない (注 3 参照)。	レコードは可変長でなければならない。
書式	最大: 7290 バイト 最小: EXPORT では 161 バイト、IMPORT では 23 バイト	レコードは EXPORT では可変長でなければならないが、IMPORT では固定長または可変長のいずれでもよい。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

表 14. ファイルおよびデータ・セットの属性 (続き)

オブジェクト	レコード・サイズ	レコード・フォーマット (CMS/TSO)
プロシージャ	EXPORT では 79 バイト、IMPORT ではどのようなサイズでもよいが、79 バイトに切り捨てられる。	レコードは EXPORT では固定長でなければならないが、IMPORT では固定長または可変長のいずれでもよい。
報告書	最大: 7290 バイト 最小: 65 バイト	レコードは可変長でなければならない。
HTML 報告書	最大: 32000 バイト	レコードは可変長でなければならない。

注:

1. EXPORT または IMPORT コマンドでは、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの名前を指定する必要があります。名前の詳細については、*QMF 解説書* を参照してください。
2. 定義列が入っているエクスポート後の書式の最小の LRECL は、161 バイトです。この最小値は、列ヘッダー位置合わせ、列データ位置合わせ、列定義式、およびヌル受け渡しに関する情報を含む、QMF 書式に対するバージョン 3.2 の強化に適応します。書式に列定義情報が入っていない場合、CMS の最小 LRECL は 113 バイトです。
3. 空の QBE 照会は 828 バイトです。
4. レコード・サイズは、通常、エクスポート中の表内のデータ行の長さ (ヌル標識および DBCS 区切り文字のスペースを含む)、プラス IXF D タイプ・レコード・カウント・フィールドの長さ (5 バイト) です。行の長さから引き出されたレコード・サイズが、最長の IXF ヘッダー・レコードの長さ (81 バイト) より短い場合、レコード・サイズは 81 バイトに設定されます。

CICS キューを使用する場合の規則と考慮事項

規則:

1. CICS では、IMPORT と EXPORT のいずれの場合も、QUEUETYPE オプションを指定する必要があります。デフォルト値はありません。
2. CICS では、一時データ (TD) キューからオブジェクトをインポートする場合、正しいオブジェクト・タイプを指定する必要があります。キューは、QMF がその内容を取り出すと、空になります。たとえば、一時データ・キュー内のオブジェクト・タイプがプロシージャの場合に、「書式」を指定すると、QMF によってエラー・メッセージが出されます。しかし、そのキ

キューは現在は空になっているので、(訂正したオブジェクト・タイプを指定しても) 同じキューを使用して **IMPORT** コマンドをもう 1 度正常に出すことはできません。

3. CICS では、**IMPORT** コマンドを出す前に、一時データ・キューまたは一時記憶域 (TS) キューに、単一の完全な QMF オブジェクトが入っていなければなりません。
4. 一時データ・キューへエクスポートする場合、**EXPORT** コマンドを出す前に、そのキューがオープンされていて、使用可能で、かつ、空でなければなりません。CICS 一時データ・キューに関する情報については、*CICS (VSE/ESA 版) 適用業務プログラミングの手引き* を参照してください。

考慮事項:

QMF は CICS 一時データ・キューを、一時記憶域キューとは異なる方法で処理します。

- **一時データ・キュー:** QMF は、オブジェクトを画面に表示する前に一時データ・キュー全体をインポートします。これは、キュー全体の内容が記憶域または予備域に収まらなければならないことを意味します。さらに、表示するオブジェクトが大きい場合、QMF が画面にオブジェクトを表示する前に、遅れが生じる可能性があります。

CICS の区画内一時データ・キューは、最高 32K のデータ行まで保持できます。区画外一時データ・キューは、オブジェクトを保持するために必要な大きさになります。

- **一時記憶域キュー:** QMF は、ユーザーに表示する前に、約 100 行の一時記憶域を読み取ります。一時記憶域キューは、最高 32K のデータ行まで保持することができます。

記憶域の考慮事項および予備域の詳細については、*Installing and Managing QMF for VSE/ESA* または *QMF (MVS 版) 導入および管理の手引き* を参照してください。

- **キューへの QMF オブジェクトの追加:** QMF は、**IMPORT** および **EXPORT** コマンドで **SUSPEND** パラメーターを使用して、CICS にコマンドの実行時期を制御させます。

IMPORT および **EXPORT** コマンドの **SUSPEND** パラメーターは、照会が使用中である場合に行うべきアクションを指定します。**SUSPEND** パラメーターを **YES** に設定した場合、QMF は CICS データ・キュー名に関して CICS ENQ (待機) を発行します。これは、キューが使用可能になるまで待機してから QMF オブジェクトをキューに書き込むように CICS に指示して、QMF トランザクションがキューによって処理中の他のジョブを妨害しないようにします。

QMF オブジェクトのインポートとエクスポート

SUSPEND パラメーターを NO に設定した場合、EXPORT コマンドは取り消され、メッセージが戻されます。SUSPEND のデフォルト値は NO です。QMF が自動 ENQ を発行した場合、EXPORT および IMPORT コマンドの SUSPEND オプションに反映されます。

第9章 QMF アプリケーションのデバッグ

エラー処理コマンドとアプリケーション・サポート・コマンドに加えて、QMF にはユーザーのプログラムのためのデバッグ機能も用意されています。本章で説明する技法は、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションに適用されます。

ISPF のデバッグ技法については、41ページの『第5章 ISPF を使用する QMF アプリケーションの作成』を参照してください。また、TRACE ステートメントを介して REXX トレース機能を使用することができます。このステートメントの詳細については、REXX 解説書 を参照してください。

呼び出し可能インターフェース・アプリケーションのデバッグ

QMF には、アプリケーションのデバッグのために、L と A という 2 つのトレース・オプション、およびいくつもの異なるレベルのトレース方法が用意されています。

トレース用の L オプションの使用

L オプションによって、QMF セッションを開始する前に割り振った外部 QMF トレース・データ出力にメッセージとコマンドを書き込むように QMF に指示することができます。選択できる L オプションは 2 つあります。

- L1** すべての QMF メッセージを QMF トレース・データ出力に書き込む。
- L2** すべての QMF メッセージおよび コマンドを QMF トレース・データ出力に書き込む。たとえば、L2 を使用して、Q.SYSTEM_INI システム初期化プロシージャ・コマンドおよびメッセージをトレースして、デバッグすることができます。

L オプションは以下のいずれかの方法で設定することができます。

1. DISPLAY PROFILE コマンドを出し、PROFILE オブジェクトが表示されたら、TRACE オプションを L1 または L2 に変更する。
2. 次のコマンドを出します。

```
SET PROFILE (TRACE=x
```

ここで x は L1 または L2。

QMF アプリケーションのデバッグ

トレース・データ出力を自分で割り振った場合には、端末でトレース情報を印刷したり、後で表示したりすることができます。いずれの場合も、QMF セッションの後でデータを調べることができます。割り振りの詳細については、139 ページの『QMF トレース・データ出力の割り振り』を参照するか、インストール先の情報センターにお問い合わせください。

トレース用の A オプションの使用

A オプションによって、QMF アプリケーション・サポート・サービスのトレース・レベルを指定することができます。

A オプションの設定値は、A0、A1、または A2 です。A0 はデフォルト値で、A トレースを実行しないことを示すシグナルとして解釈されます。A1 および A2 により、この順に詳細さのレベルを上げて結果を要求することができます。これは、他の QMF トレース・オプションにも使用されるパターンです。これらのトレース・オプションおよび他のトレース・オプションの詳細については、*QMF (MVS 版) 導入および管理の手引き*、*Installing and Managing QMF for VM/ESA*、または *Installing and Managing QMF for VSE/ESA* を参照してください。

A オプションの指定は、L オプションの指定と同様に、QMF SET コマンドを介して、または DISPLAY PROFILE コマンドの実行後に画面上にこのオプションを入力することによって行います。たとえば、デバッグするアプリケーションを呼び出す直前に、次のように入力することができます。

```
SET PROFILE (TRACE=L2A1)
```

この後、アプリケーションを開始すると、L2 トレースと A1 トレースの両方が有効になっています。

現在の A オプションの設定値を判別するには、変数 DSQAO_APPL_TRACE を調べてください。この値は、0、1、または 2 で、それぞれ設定値 A0、A1、または A2 を示します。DSQAO_APPL_TRACE の値を使用すれば、図25 に示すようにアプリケーションに必要なトレースの種類を選択することができます。

```

/* REXX program to set tracing */
call dsqcix "GET GLOBAL(A_TRACE=DSQAO_APPL_TRACE"
if a_trace > 0 then
do
  /* trace code for both A1 and A2 */
  :
  if a_trace = 2 then
  do
    /* trace code for just A2 */
    :
  end
end
end

```

図 25. トレース設定のサンプル REXX プログラム

図25 に示すようなネスト DO グループは、アプリケーションのどこにでも置くことができます。このような場合、アプリケーションのデバッグに役立つように特定のデータ域の「スナップショット・ダンプ」が取られるか、特定の重要な変数の値が印刷されるか、デバッグ・モジュールがロードされるか他の診断プロシージャが実行されます。何が実行されるかは、アプリケーションの実行時に A オプションとして有効である設定値によって異なります。

A オプション・コードは、大きなアプリケーションの場合に適しています。デバッグを終了した後、アプリケーションにこのコードを残すことを考えてください。この場合、A0 を設定してアプリケーションを実行すれば、A トレース出力は作成されません。アプリケーションを変更してバグが入り込んだ可能性がある場合、このコードを再び実行することができます。

トレースをオフにする

アプリケーションをテストした後にトレースをオフにするには、次のコマンドを出します。

```
SET PROFILE (TRACE=NONE
```

これによって、QMF セッションの残りの部分のトレースが中止されますが、永続 QMF プロファイルは影響を受けません。

QMF トレース・データ出力の割り振り

トレースを使用する場合、QMF を呼び出す前に、QMF トレース・データ出力を割り振る必要があります。この出力を、始動プロシージャを介して自動的に割り振ることができます。この場合でも、元の割り振りが要件に合わない場合には、出力の再割り振りが必要なことがあります。

QMF アプリケーションのデバッグ

CMS または TSO で QMF トレース・データ出力を割り振る方法の例については、該当する言語について説明している章にある、アセンブルまたはコンパイルおよび実行のコーディング例を参照してください。

アセンブラー アセンブラー言語インターフェース (143 ページ以降)

C 言語 C 言語インターフェース (168 ページ以降)

COBOL COBOL 言語インターフェース (187 ページ以降)

FORTRAN FORTRAN 言語インターフェース (205 ページ以降)

PL/I PL/I 言語インターフェース (221 ページ以降)

REXX REXX 言語インターフェース (239 ページ以降)

各例のコマンドは、順次トレース・データ出力を割り振っています。この出力は QMF セッションの終了後に端末で調べることができます。出力は固定長の 80 文字のレコードから構成されます。トレース情報は、1 行につき 80 文字にフォーマット設定されます。端末画面で、出力の行全体を表示することができます。

CICS では、QMF がトレース・データを置くロケーションを、プログラム・パラメーター DSQSDBQT および DSQSDBQN を使用して指定することができます。QMF は大量のトレース・データを生成する可能性があるため、CICS 一時記憶域を使用する場合は注意が必要です。CICS 一時記憶域は、メッセージまたは少量のアプリケーション・トレース・データのみを使用することをお勧めします。

QMF MESSAGE コマンドによるトレースの使用

QMF MESSAGE コマンドを、アプリケーションの終了時にメッセージの表示以外に使用することができます。すなわち、QMF トレース・データ出力にメッセージを記録するために使用することができます。そのためには、TRACE に関する L オプションを L1 または L2 に設定して、アプリケーションを実行します。(それを行う方法については、137ページの『トレース用の L オプションの使用』を参照してください。) これにより、MESSAGE コマンドを介して処理されたすべてのメッセージが、他の QMF メッセージ (および L2 を使用した場合には、コマンド) と共に、QMF トレース・データ出力に記録されます。

MESSAGE コマンドをプログラム内の重要なロケーションに置くことによって、有用な情報を QMF トレース・ファイルにログを記録することができます。QMF セッションの後、そのファイルを端末で、または印刷出力で調べることができます。QMF トレース・データ出力の詳細については、139ページの『QMF トレース・データ出力の割り振り』を参照してください。

例

アプリケーションが、次の例に示すようなコマンドを出したとします。

```
call dsqcix "SET PROFILE (TRACE=L2"  
:  
call dsqcix "MESSAGE (TEXT='QUERYA COMPLETED SUCCESSFULLY'"  
:  
call dsqcix "MESSAGE (TEXT='EXECB ENTERED WITH VALUE OF 7'"  
:  
:
```

メッセージ 'QUERYA COMPLETED SUCCESSFULLY' および 'EXECB ENTERED WITH VALUE OF 7' を含むレコードが、QMF トレース・データ出力に書き込まれます。

QMF メッセージは、リリースによって異なる可能性があるので、QMF トレース・データ出力をアプリケーションの入力として使用してはなりません。

START コマンドおよび他の QMF コマンド上のエラーのデバッグ

DSQCOMM のレベルによっては、DSQCOMM 内にメッセージ・テキストが入ることがあります。START コマンド (または他の QMF コマンド) が失敗した場合、このメッセージ・テキストはデバッグにとって非常に価値があります。現行レベルの DSQCOMM を使用している場合、このメッセージ・テキストを使用することができます。QMF のすべてのエラー・メッセージについては、*QMF* メッセージおよびコード を参照してください。

付録A. 呼び出し可能インターフェース言語のサンプル・コード

この付録には、以下の QMF 呼び出し可能インターフェース言語のサンプル・コードがあります。

アセンブラー	『アセンブラー言語インターフェース』
C 言語	168ページの『C 言語インターフェース』
COBOL	187ページの『COBOL 言語インターフェース』
FORTRAN	205ページの『FORTRAN 言語インターフェース』
PL/I	221ページの『PL/I 言語インターフェース』
REXX	239ページの『REXX 言語インターフェース』

この付録には、QMF によってサポートされる各言語のサンプル・プログラムがあります。各サンプル・プログラムは、以下のことを行います。

- QMF を開始する。
- 3 つのグローバル変数を設定する。
- Q1 と呼ばれる照会を実行する。
- 書式 F1 を使用して結果の報告書を印刷する。
- QMF セッションを終了する。

照会 Q1 または 書式 F1 は QMF では提供されませんが、サンプル・プログラムは、これらのオブジェクトを使用するように書かれています。

この付録では、呼び出し可能インターフェースを使用して、プログラムをアセンブルまたはコンパイルし、リンク・エディットし、実行する方法も示しています。QMF は、以下の例にある REXX EXEC、JCL、または CLIST を出荷していませんが、これらをコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

アセンブラー言語インターフェース

アセンブラー言語を使用する場合、呼び出し可能インターフェースでアセンブラー H または高水準アセンブラー (HLASM) を使用する必要があります。QMF には、アセンブラー言語用に 1 つの関数呼び出し DSQCIA が用意されています。

CICS/VSE の場合、31 ビット・アドレッシングを構成するために HLASM を使用する必要があります。

アセンブラー用のインターフェース連絡域マッピング (DSQCOMMA)

DSQCOMMA はアセンブラー用の DSQCOMM マッピングであり、プロダクトと共に出荷されます。表15 は、DSQCOMMA の各値を示しています。

表 15. DSQCOMMA のインターフェース連絡域

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ_RETURN_CODE	DS F	QMF コマンドの実行後の状況を示す。値は次のとおり。 DSQ_SUCCESS 要求が正常に実行された。 DSQ_WARNING 警告を伴って終了した。 DSQ_FAILURE コマンドが正しく実行されなかった。 DSQ_SEVERE 重大エラー。QMF セッションが終了した。
DSQ_INSTANCE_ID	DS F	START コマンドの実行時に、QMF によって設定される ID
DSQ_COMM_LEVEL	DS CL12	DSQCOMM のレベルを識別する。QMF START コマンドを出す前に、DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL の値に設定する必要がある。
DSQ_PRODUCT	DS CL2	使用中の IBM 照会プロダクトを識別する。
DSQ_PRODUCT_RELEASE	DS CL2	使用中の照会プロダクトのリリース・レベルを識別する。
DSQ_RESERVE1	DS XL28	将来の使用のために予約されている。
DSQ_MESSAGE_ID	DS CL8	完了メッセージ ID
DSQ_Q_MESSAGE_ID	DS CL8	照会メッセージ ID
DSQ_START_PARM_ERROR	DS CL8	パラメーター・エラーのために START が失敗したときの、エラーがあるパラメーター

表 15. DSQCOMMA のインターフェース連絡域 (続き)

構造名	データ・ タイプ	説明
DSQ_CANCEL_IND	DS C	QMF コマンドの実行中にユーザーが取り消したかどうかによって、以下の 2 つの値のいずれかが入る。 <ul style="list-style-type: none"> • DSQ_CANCEL_YES • DSQ_CANCEL_NO
DSQ_RESERVE2	DS XL23	将来の使用のために予約されている。
DSQ_RESERVE3	DS XL156	将来の使用のために予約されている。
DSQ_MESSAGE_TEXT	DS CL128	完了メッセージ・テキスト
DSQ_Q_MESSAGE_TEXT	DS CL128	照会メッセージ・テキスト

アセンブラー言語用の関数呼び出し

アセンブラー言語の関数呼び出しには、DSQCIA と DSQCIA 拡張構文という 2 つのフォーマットがあります。

DSQCIA

この呼び出しは、アプリケーション・プログラム変数にアクセスする必要がない QMF コマンド用です。大部分の QMF コマンドに、この呼び出しを使用します。

```
CALL DSQCIA,(DSQCOMM,CMDLTH,CMDSTR),VL
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。FULLWORD パラメーター

CMDSTR

実行する QMF コマンド。CMDLTH によって指定した長さの大文字ストリング

VL はアセンブラーの VARIABLE LIST ステートメントです。

呼び出し可能インターフェースのサンプル

DSQCIA 拡張構文

拡張構文フォーマットの DSQCIA 関数は、アプリケーション・プログラム変数へのアクセスが必要な 3 つの QMF コマンド (START および拡張フォーマットの GET GLOBAL と SET GLOBAL) 用です。

```
CALL DSQCIA, (DSQCOMM, CMDLTH, CMDSTR,  
             PNUM, KLTH, KWORD, VLTH, VALUE, VTYPE), VL
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。FULLWORD パラメーター

CMDSTR

実行する QMF コマンド。CMDLTH によって指定した長さの大文字ストリング

PNUM

コマンド・キーワード数。FULLWORD パラメーター

KLTH

指定する各キーワードの長さ。FULLWORD パラメーターまたは FULLWORD パラメーターの配列

KWORD

QMF キーワード (単数または複数)。KLTH によって指定した長さと同じの、文字または文字の構造

VLTH

キーワードに関連する各値の長さ。FULLWORD パラメーターまたは FULLWORD パラメーターの配列

VALUE

各キーワードに関連する値。この値のタイプを VTYPE パラメーターに指定します。この値は、文字、文字の構造、FULLWORD パラメーター、または FULLWORD パラメーターの配列のいずれかです。

VTYPE

値ストリング VALUE の QMF データ・タイプ。このタイプの値は、通信マクロ DSQCOMM に提供されている以下の 2 つの値のいずれかです。

- 文字値を示す DSQ_VARIABLE_CHAR。VTYPE が DSQ_VARIABLE_CHAR である場合、VALUE は妥当性検査されません。

- 整数値を示す DSQ_VARIABLE_FINT。VTYPE が DSQ_VARIABLE_FINT であれば、VALUE は妥当性検査されます。VALUE は整数でなければなりません。

VALUE フィールドに指定したすべての値のデータ・タイプを VTYPE に指定する必要があります。

VL はアセンブラの VARIABLE LIST ステートメントです。

移行情報

DSQCOMM はバージョン 2 リリース 4 とバージョン 3.2 の間で変更されました。

- 古い DSQCOMM を使用し続ける場合、プログラムを再アセンブルする必要はありません。
- DSQCIA のバージョン 3.2 を使用する場合、バージョン 2 リリース 4 プログラムをリンク・エディットし直す必要があります。

バージョン 3.2 の DSQCOMM には、START コマンドにエラーがある場合に特に有用なメッセージ・テキストが用意されています。新しい DSQCOMM を使用する場合、プログラムを再アセンブルして、DSQ_COMM_LEVEL (DSQCOMM の) を DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL に初期化する必要があります。この値を設定しない場合、QMF は DSQCOMM をバージョン 2 リリース 4 のレベルとして扱います。

バージョン 3.2 レベルの DSQCOMM の長さは 512 バイトで、バージョン 2 リリース 4 の場合の 256 バイト使用可能から増加しています。256 バイトの限度がある構造の移動または初期化に使用した命令 (たとえば、MVC) は、大きなデータ域を処理できる命令に変更する必要があります。

CICS/MVS ユーザーへの注

DSQCIA はバージョン 3 リリース 1 モディフィケーション・レベル 1 とバージョン 3 リリース 2 の間で変更されました。QMF が提供する関数呼び出しとメイン QMF プログラム間のインターフェースが、CALL インターフェースから EXEC CICS LINK インターフェースに変更されました。新しいインターフェースは、ユーザー・プログラムと QMF プロダクトからの分離性が高くなっています。インターフェースが変更されたので、呼び出し可能インターフェースを使用したプログラムを再びリンク・エディットする必要があります。

呼び出し可能インターフェースのサンプル

アセンブラー・プログラミングの例

サンプル・ソース・コード・リストを、ここで見ることも、オンラインでアクセスすることもできます。

- MVS の場合、サンプル・プログラムはライブラリー QMF710.SDSQSAPE のメンバーです。
- VM の場合、サンプル・プログラムはプロダクション・ディスクにあります。
- VSE の場合、サンプル・プログラムは QMF サブライブラリーにあり、名前は DSQABFAC.Z です。

アセンブラー呼び出し可能インターフェースのサンプル・プログラムは、以下の機能を実行します。

- QMF を開始する。
- 3 つのグローバル変数を設定する。
- Q1 と呼ばれる照会を実行する。
- 書式 F1 を使用して結果の報告書を印刷する。
- QMF セッションを終了する。

照会 Q1 または 書式 F1 は QMF では提供されませんが、サンプル・プログラムは、これらのオブジェクトを使用しています。

この節では、呼び出し可能インターフェースを使用するアセンブラー・プログラムをアセンブルし、リンク・エディットし、実行する方法も示します。この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

CICS/MVS および CICS/VSE 用のサンプル・アセンブラー・プログラム
プログラム DSQABFAC は、CICS 用の QMF と共に出荷されます。

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

TITLE 'Sample HLASM Query Callable Interface'                                00001000
***** 00002000
* 00003000
* Sample Program: DSQABFAC 00004000
* Assembler Version of the SAA Query Callable Interface 00005000
* 00006000
***** 00007000
DSQABFAC DFHEIENT CODEREG=(12),DATAREG=(13),EIBREG=(11) 00008000
SPACE 1 00009000
***** 00010000
* Start a query interface session * 00011000
***** 00012000
LA R4,CICOMM ESTABLISH ACCESS TO DSQCOMM 00013000
USING DSQCOMM,R4 00014000
SPACE 1 00015000
MVC DSQ_COMM_LEVEL,DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL 00016000
ST R4,QMFP1 Address of DSQCOMM 00017000
LA R1,STARTQIL Address of START command length 00018000
ST R1,QMFP2 00019000
LA R1,STARTQI Address of START command 00020000
ST R1,QMFP3 00021000
LA R1,1 One Start command parameter 00022000
ST R1,NUMPARMS 00023000
LA R1,NUMPARMS Address of number of parameters 00024000
ST R1,QMFP4 00025000
LA R1,STARTKYL Address of keyword lengths 00026000
ST R1,QMFP5 00027000
LA R1,STARTKY Address of keywords 00028000
ST R1,QMFP6 00029000
LA R1,STARTVL Address of value lengths 00030000
ST R1,QMFP7 00031000
LA R1,STARTV Address of values 00032000
ST R1,QMFP8 00033000
LA R1,DSQ_VARIABLE_CHAR Address of value data type 00034000
ST R1,QMFP9 00035000
OI QMFP9,X'80' Set end of parameter list 00036000
LA R1,QMFLIST Address of parameter list 00037000
CALL DSQCIA 00038000
SPACE 1 00039000

```

図 26. DSQABFAC、CICS/MVS および CICS/VSE 用のサンプル HLASM プログラム (1/5)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

***** 00040000
* Set numeric values into query using SET command * 00041000
***** 00042000
SPACE 1 00043000
LA R1,20 Set values for SET GLOBAL command 00044000
ST R1,VVAL1 00045000
LA R1,40 00046000
ST R1,VVAL2 00047000
LA R1,84 00048000
ST R1,VVAL3 00049000
LA R1,SETGL Addr of SET GLOBAL command length 00050000
ST R1,QMFP2 00051000
LA R1,SETG Address of SET GLOBAL command 00052000
ST R1,QMFP3 00053000
LA R1,3 Three SET GLOBAL variables 00054000
ST R1,NUMPARMS 00055000
LA R1,NUMPARMS Address of number of parameters 00056000
ST R1,QMFP4 00057000
LA R1,VNAME1L Address of variable name lengths 00058000
ST R1,QMFP5 00059000
LA R1,VNAME1 Address of variable names 00060000
ST R1,QMFP6 00061000
LA R1,VVAL1L Address of value lengths 00062000
ST R1,QMFP7 00063000
LA R1,VVAL1 Address of values 00064000
ST R1,QMFP8 00065000
LA R1,DSQ_VARIABLE_FINT Address of value data type 00066000
ST R1,QMFP9 00067000
OI QMFP9,X'80' Set end of parameter list 00068000
LA R1,QMFP9L Address of parameter list 00069000
CALL DSQCIA 00070000
SPACE 1 00071000
***** 00072000
* Run a query * 00073000
***** 00074000

```

図 26. DSQABFAC、CICS/MVS および CICS/VSE 用のサンプル HLASM プログラム (2/5)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

LA    R1,QUERYL           Addr of RUN QUERY command length  00075000
ST    R1,QMFP2            00076000
LA    R1,QUERY           Address of RUN QUERY command      00077000
ST    R1,QMFP3            00078000
OI    QMFP3,X'80'        Set end of parameter list      00079000
LA    R1,QMFPLIST        Address of parameter list      00080000
CALL  DSQCIA             00081000
SPACE 1                  00082000
***** 00083000
* Print the result of the query * 00084000
***** 00085000
LA    R1,REPTL           Addr of PRINT Report command lth  00086000
ST    R1,QMFP2            00087000
LA    R1,REPT            Address of PRINT Report command  00088000
ST    R1,QMFP3            00089000
OI    QMFP3,X'80'        Set end of parameter list      00090000
LA    R1,QMFPLIST        Address of parameter list      00091000
CALL  DSQCIA             00092000
SPACE 1                  00093000
***** 00094000
* End the query interface session * 00095000
***** 00096000
LA    R1,ENDQIL          Address of EXIT command length  00097000
ST    R1,QMFP2            00098000
LA    R1,ENDQI           Address of EXIT command      00099000
ST    R1,QMFP3            00100000
OI    QMFP3,X'80'        Set end of parameter list      00101000
LA    R1,QMFPLIST        Address of parameter list      00102000
CALL  DSQCIA             00103000
SPACE 1                  00104000
***** 00105000
* Return * 00106000
***** 00107000
SPACE 1                  00108000

```

図 26. DSQABFAC、CICS/MVS および CICS/VSE 用のサンプル HLASM プログラム (3/5)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

XR      R15,R15          ZERO RETURN CODE          00109000
DFHEIRET RCREG=15      00110000
*****
* Data Areas *
*****
SPACE 1          00114000
* Query Interface commands 00115000
SPACE 1          00116000
STARTQI DC C'START'      START FUNCTION          00117000
SETG   DC C'SET GLOBAL'  SET GLOBAL FUNCTION     00118000
QUERY  DC C'RUN QUERY Q1' RUN QUERY             00119000
REPT   DC C'PRINT REPORT (FORM=F1)' PRINT REPORT 00120000
ENDQI  DC C'EXIT'        END INTERFACE           00121000
SPACE 1          00122000
DS      0F          00123000
STARTQIL DC AL4(L'STARTQI) LENGTH OF START FUNCTION 00124000
SETGL   DC AL4(L'SETG)    LENGTH OF SET GLOBAL FUNCTION 00125000
QUERYL  DC AL4(L'QUERY)   LENGTH OF RUN QUERY COMMAND 00126000
REPTL   DC AL4(L'REPT)    LENGTH OF PRINT REPORT COMMAND 00127000
ENDQIL  DC AL4(L'ENDQI)   LENGTH OF END INTERFACE COMMAND 00128000
SPACE 1          00129000
* START command keyword 00130000
SPACE 1          00131000
STARTKY DC C'DSQSMODE'    00132000
STARTV  DC C'INTERACTIVE' 00133000
DS      0F          00134000
STARTKYL DC AL4(L'STARTKY) 00135000
STARTVL  DC AL4(L'STARTV)  00136000
SPACE 1          00137000
* SET GLOBAL command variable names 00138000
SPACE 1          00139000
VNAME1  DC C'MYVAR01'      00140000
VNAME2  DC C'SHORT'        00141000
VNAME3  DC C'MYVAR03'      00142000
DS      0F          00143000
VNAME1L DC AL4(L'VNAME1)   00144000
VNAME2L DC AL4(L'VNAME2)   00145000
VNAME3L DC AL4(L'VNAME3)   00146000
SPACE 1          00147000
* SET GLOBAL command values 00148000
SPACE 1          00149000
VVAL1L  DC AL4(L'VVAL1)    00150000
VVAL2L  DC AL4(L'VVAL2)    00151000
VVAL3L  DC AL4(L'VVAL3)    00152000
* Callable interface communications definition 00153000
DSQCOMMA 00154000

```

図 26. DSQABFAC、CICS/MVS および CICS/VSE 用のサンプル HLASM プログラム (4/5)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

* Equates for registers 0-15                                00155000
R0      EQU 00                                             00156000
R1      EQU 01                                             00157000
R2      EQU 02                                             00158000
R3      EQU 03                                             00159000
R4      EQU 04                                             00160000
R5      EQU 05                                             00161000
R6      EQU 06                                             00162000
R7      EQU 07                                             00163000
R8      EQU 08                                             00164000
R9      EQU 09                                             00165000
R10     EQU 10                                             00166000
R11     EQU 11                                             00167000
R12     EQU 12                                             00168000
R13     EQU 13                                             00169000
R14     EQU 14                                             00170000
R15     EQU 15                                             00171000
* Local variables located in CICS working storage           00172000
DFHEISTG DSECT                                             00173000
          ORG DFHEIUSR                                     00174000
NUMPARMS DS F          NUMBER OF KEYWORDS                00175000
* QMF SET GLOBAL command values                           00176000
VVAL1   DS F                                             00177000
VVAL2   DS F                                             00178000
VVAL3   DS F                                             00179000
* QMF Callable interface parameter list                   00180000
QMFLIST DS 0D                                             00181000
QMFP1   DS F                                             00182000
QMFP2   DS F                                             00183000
QMFP3   DS F                                             00184000
QMFP4   DS F                                             00185000
QMFP5   DS F                                             00186000
QMFP6   DS F                                             00187000
QMFP7   DS F                                             00188000
QMFP8   DS F                                             00189000
QMFP9   DS F                                             00190000
* Callable interface communications area                   00191000
CICOMM  DS CL(DSQCOMM_LEN)                               00192000
          CSECT                                         00193000
          SPACE 1                                       00194000
          END DSQABFAC                                   00195000

```

図 26. DSQABFAC、CICS/MVS および CICS/VSE 用のサンプル HLASM プログラム (5/5)

TSO および CMS 用のサンプル・アセンブラー・プログラム

TSO および CMS の場合、QMF はプロダクトと共に次のプログラムを出荷します。プログラム名は DSQABFA です。

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

DSQABFA TITLE 'SAMPLE SAA QUERY CALLABLE INTERFACE'
DSQABFA CSECT
*****
*
* Sample Program: DSQABFA
* Assembler Version of the SAA Query Callable Interface
*
*****
SPACE 1
STM R14,R12,12(R13)      SAVE ENTRY REGISTERS
BALR R12,0              INITIALIZE BASE REGISTER
USING *,R12
LA R2,SAVEAREA          CHAIN SAVE AREAS
ST R2,8(R13)
ST R13,SAVEAREA+4
LR R13,R2               ESTABLISH SAVE AREA
SPACE 1
*****
* Start a query interface session
*****
LA R4,CICOMM            ESTABLISH ACCESS TO DSQCOMM
USING DSQCOMM,R4
SPACE 1
MVC DSQ_COMM_LEVEL,DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL
LA R1,1                1 PARAMETER
ST R1,NUMPARMS
CALL DSQCIA,
(CICOMM,
STARTQIL,
STARTQI,
NUMPARMS,
STARTKYL,
STARTKY,
STARTVL,
STARTV,
DSQ_VARIABLE_CHAR),VL VALUES ARE CHARACTERS
SPACE 1
X
X
X
X
X
X
X
X
X
X

```

図 27. DSQABFA、TSO および CMS 用のサンプル・アセンブラー・プログラム (1/4)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

*****
* Set numeric values into query using SET command
*****
SPACE 1
LA R1,20 SET VALUES TO BE MODIFIED
ST R1,VVAL1
LA R1,40
ST R1,VVAL2
LA R1,84
ST R1,VVAL3
LA R1,3 3 PARAMETERS
ST R1,NUMPARMS
SPACE 1
CALL DSQCIA, X
(CICOMM, X
SETGL, SET GLOBAL COMMAND LENGTH X
SETG, SET GLOBAL COMMAND X
NUMPARMS, NUM OF VARIABLES TO BE SET X
VNAME1L, VARIABLE NAME LENGTHS X
VNAME1, VARIABLE NAMES X
VVAL1L, VALUE LENGTHS X
VVAL1, VALUES X
DSQ_VARIABLE_FINT),VL VALUES ARE INTEGERS
SPACE 1
*****
* Run a query
*****
SPACE 1
CALL DSQCIA, X
(CICOMM, X
QUERYL, QUERY COMMAND LENGTH X
QUERY),VL TEXT OF QUERY COMMAND
SPACE 1
*****
* Print the result of the query
*****
SPACE 1
CALL DSQCIA,(CICOMM,REPTL,REPT),VL
SPACE 1
*****
* End the query interface session
*****
SPACE 1
CALL DSQCIA,(CICOMM,ENDQIL,ENDQI),VL
SPACE 1

```

図 27. DSQABFA、TSO および CMS 用のサンプル・アセンブラー・プログラム (2/4)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

*****
* Return
*****
    SPACE 1
    SR   R15,R15           SET RETURN CODE
    L    R13,4(R13)
    L    R14,12(R13)      RESTORE CALLER REGISTERS
    LM   R0,R12,20(R13)
    BR   R14
    EJECT

*****
* Data Areas
*****
    SPACE 1
* Query Interface commands
    SPACE 1
STARTQI DC C'START'           START FUNCTION
SETG    DC C'SET GLOBAL'     SET GLOBAL FUNCTION
QUERY   DC C'RUN QUERY Q1'   RUN QUERY
REPT    DC C'PRINT REPORT (FORM=F1)' PRINT REPORT
ENDQI   DC C'EXIT'           END INTERFACE
    SPACE 1
    DS   0F
STARTQIL DC AL4(L'STARTQI)    LENGTH OF START FUNCTION
SETGL    DC AL4(L'SETG)      LENGTH OF SET GLOBAL FUNCTION
QUERYL   DC AL4(L'QUERY)     LENGTH OF RUN QUERY COMMAND
REPTL    DC AL4(L'REPT)      LENGTH OF PRINT REPORT COMMAND
ENDQIL   DC AL4(L'ENDQI)     LENGTH OF END INTERFACE COMMAND
    SPACE 1
* START command keyword
    SPACE 1
STARTKY DC C'DSQSMODE'
STARTV  DC C'INTERACTIVE'
    DS   0F
STARTKYL DC AL4(L'STARTKY)
STARTVL  DC AL4(L'STARTV)
    SPACE 1

```

図 27. DSQABFA、TSO および CMS 用のサンプル・アセンブラー・プログラム (3/4)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

* SET GLOBAL command variable names
    SPACE 1
VNAME1 DC C'MYVAR01'
VNAME2 DC C'SHORT'
VNAME3 DC C'MYVAR03'
    DS 0F
VNAME1L DC AL4(L'VNAME1)
VNAME2L DC AL4(L'VNAME2)
VNAME3L DC AL4(L'VNAME3)
    SPACE 1
* SET GLOBAL command values
    SPACE 1
VVAL1 DS F
VVAL2 DS F
VVAL3 DS F
VVAL1L DC AL4(L'VVAL1)
VVAL2L DC AL4(L'VVAL2)
VVAL3L DC AL4(L'VVAL3)
    SPACE 1
NUMPARMS DS F NUMBER OF KEYWORDS
    SPACE 1
* callable interface communications area
    SPACE 1
CICOMM DS CL(DSQCOMM_LEN)
    SPACE 1
SAVEAREA DS 18F
    EJECT
    DSQCOMMA
    SPACE 1
R0 EQU 00 EQUATES FOR REGISTERS 0-15
R1 EQU 01
R2 EQU 02
R3 EQU 03
R4 EQU 04
R5 EQU 05
R6 EQU 06
R7 EQU 07
R8 EQU 08
R9 EQU 09
R10 EQU 10
R11 EQU 11
R12 EQU 12
R13 EQU 13
R14 EQU 14
R15 EQU 15
    SPACE 1
    END DSQABFA

```

図 27. DSQABFA、TSO および CMS 用のサンプル・アセンブラー・プログラム (4/4)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

アセンブラー用の DSQCOMM

この連絡域は、バージョン 2 リリース 4 とバージョン 3.2 の間で変更されました。 QMF はこのファイルを DSQCOMMA として出荷します。

```
MACRO 00001000
DSQCOMMA 00002000
***** 00003000
* Callable Interface - variable constants * 00004000
***** 00005000
* 00006000
* Communications Level ID 00007000
* 00008000
DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL DC CL12'DSQL>001002<' 00009000
* 00010000
* Query Product IDs 00011000
* 00012000
DSQ_QRW DC C'01' 00013000
DSQ_QMF DC C'02' 00014000
DSQ_QM4 DC C'03' 00015000
* 00016000
* Query Product Release IDs 00017000
* 00018000
DSQ_QRW_V1R2 DC C'01' 00019000
DSQ_QRW_V1R3 DC C'02' 00020000
DSQ_QMF_V2R4 DC C'01' 00021000
DSQ_QMF_V3R1 DC C'02' 00022000
DSQ_QMF_V3R1M1 DC C'03' 00023000
DSQ_QMF_V3R2 DC C'04' 00024000
DSQ_QMF_V3R3 DC C'05' 00025000
DSQ_QMF_V6R1 DC C'06' 00026000
DSQ_QM4_V1R1 DC C'01' 00027000
* 00028000
* Extended parameter data types 00029000
* 00030000
DSQ_VARIABLE_CHAR DC C'CHAR' 00031000
DSQ_VARIABLE_FINT DC C'FINT' 00032000
* 00033000
* Return codes 00034000
* 00035000
DSQ_SUCCESS EQU 0 00036000
DSQ_WARNING EQU 4 00037000
DSQ_FAILURE EQU 8 00038000
DSQ_SEVERE EQU 16 00039000
* 00040000
* Instance ID values 00041000
* 00042000
DSQ_CONTINUE EQU 0 00043000
* 00044000
```

図 28. DSQCOMMA、アセンブラー連絡域 (1/2)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```

* Cancel indicator                                00045000
*                                                  00046000
DSQ_CANCEL_YES      EQU  C'1'                    00047000
DSQ_CANCEL_NO       EQU  C'0'                    00048000
*                                                  00049000
*                                                  00050000
DSQ_INTERACTIVE     EQU  C'1'                    00051000
DSQ_BATCH           EQU  C'2'                    00052000
*                                                  00053000
DSQ_YES             EQU  C'1'                    00054000
DSQ_NO              EQU  C'2'                    00055000
*                                                  00056000
*****                                           00057000
* Callable Interface Communications Area          * 00058000
*****                                           00059000
DSQCOMM             DSECT
DSQ_RETURN_CODE     DS    F                      FUNCTION RETURN CODE 00061000
DSQ_INSTANCE_ID     DS    F                      ID ESTABLISHED IN START CMD 00062000
DSQ_COMM_LEVEL      DS    CL12                   COMMUNICATIONS LEVEL ID 00063000
DSQ_PRODUCT         DS    CL2                    QUERY PRODUCT ID      00064000
DSQ_PRODUCT_RELEASE DS    CL2                    QUERY PRODUCT RELEASE ID 00065000
DSQ_RESERVE1        DS    CL28                   RESERVED               00066000
DSQ_MESSAGE_ID      DS    CL8                    COMPLETION MESSAGE ID 00067000
DSQ_Q_MESSAGE_ID    DS    CL8                    QUERY MESSAGE ID      00068000
DSQ_START_PARM_ERROR DS    CL8                   START PARAMETER IN ERROR 00069000
DSQ_CANCEL_IND      DS    C                      CMD CANCEL INDICATOR  00070000
DSQ_RESERVE2        DS    CL23                   RESERVED               00071000
DSQ_RESERVE3        DS    CL156                  RESERVED               00072000
DSQ_MESSAGE_TEXT    DS    CL128                  COMPLETION MESSAGE    00073000
DSQ_Q_MESSAGE_TEXT  DS    CL128                  QUERY MESSAGE         00074000
        SPACE 1
DSQCOMM_LEN         EQU  *-DSQCOMM              LENGTH OF DSQCOMM AREA 00076000
        MEND                                     00077000

```

図 28. DSQCOMM、アセンブラー連絡域 (2/2)

CICS でのアセンブラー・プログラムの実行

プログラムは、作成した後、実行する前に、変換し、アセンブルし、リンク・エディットする必要があります。この節にリストした例は、そのために必要なステップを示しています。この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

MVS での CICS 用の変換、アセンブル、およびリンク・エディット

QMF 呼び出し可能インターフェースを使用するプログラムを変換し、アセンブルし、リンク・エディットする場合、以下のことに注意してください。

呼び出し可能インターフェースのサンプル

- 連絡域マクロ DSQCOMMA がアセンブル・ステップで使用可能であるか、またはそれを DSECT としてプログラムにコピーする必要がある。
- プログラムのリンク・エディット・フェーズで QMF インターフェース・モジュール DSQCIA が使用可能でなければならない。

次の JCL は、CICS 提供のプロシージャ DFHEBTAL の例を示しています。このプロシージャの使用方法については、*CICS (VSE/ESA 版) システム定義の手引き* を参照してください。

```
//sampasm JOB
// EXEC PROC=DFHEBTAL
//TRN.SYSIN DD *
*ASM XOPTS(CICS translator options .....
      .
      Your program or copy of QMF sample DSQABFA
      .
/*
/** Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMM
//ASM.SYSLIB DD DSN=QMF710.SDSQSAPE,DISP=SHR
/** Provide Access to QMF Interface Module
//LKED.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//LKED.SYSIN DD *
      INCLUDE CICSLOAD(DFHEAI)
      INCLUDE CICSLOAD(DFHEAI0)
      INCLUDE QMFLOAD(DSQCIA)
      ORDER DFHEAI,DFHEAI0
      ENTRY sampasm
      MODE AMODE(31) RMODE(ANY)
      NAME sampasm(R)
/*
```

図 29. CICS 変換プログラム、アセンブラー、リンケージ・エディターの実行用 JCL

VSE での CICS 用の変換、アセンブル、およびリンク・エディット

以下の VSE ジョブ制御は、VSE/ESA で実行中の CICS に HLASM プログラムをインストールする例です。この例は、QMF と共に出荷され、DSQ3CIAC.Z という名前で QMF サブライブラリーに置かれています。詳細については、*CICS (VSE/ESA 版) システム定義の手引き* を参照してください。

インストール先で HLASM を使用している場合、システム管理者が E-Deck のマクロ処理を扱う VSE ライブラリー出口を設定していることを確認してください。この出口は DSQCOMMA を読み取ります。この出口のセットアップ方

法の詳細な説明については、*VSE Guide to System Functions* および *IBM High-Level Assembler Programmer's Guide for OS/390, VM and VSE* を参照してください。

次の HLASM コンパイラー・オプションを使用して、プログラムをアセンブルしてください。

```
'LIBMAC,USING(NOLIMIT,NOWARN),EXIT(LIBEXIT(EDECKXIT(ORDER=EA)))'
```

LIBEXIT パラメーターには、CICS 変換プロセスによって作成された CICS マクロ定義が入っています。

```
// JOB DSQ3CIAC
* -----
* Install QMF Callable Interface (HLASM)
* -----
// SETPARM VOLID=valid      *-- update valid for syspch
// SETPARM START=rtrk      *-- update start track/block (syspch)
// SETPARM SIZE=ntrks      *-- update number of tracks/blocks (syspch)
* -----
// DLBL IJSYSPH,'ASM.TRANSLATION',0
// EXTENT SYSPCH,,1,0,&START,&SIZE.
ASSGN SYSPCH,DISK,VOL=&VOLID.,SHR
* Library search chain must contain the QMF, CICS and HLASM sublibrary
// LIBDEF *,SEARCH=(PRD2.PROD,PRD1.BASE,PRD2.CONFIG)
// LIBDEF PHASE,CATALOG=PRD2.PROD
* -----
* Step 1: Translate Callable Interface program
* -----
* You may need to update or remove the SLI statement for your program.
* -----
// EXEC DFHEAP1$
* $$ SLI MEM=DSQABFAC.Z,S=PRD2.PROD
/*
```

図 30. VSE でアセンブラーおよび編集プログラムを実行するためのジョブ制御 (1/2)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```
* -----
* Step 2: Assemble Callable Interface program
* -----
CLOSE SYSPCH,00D
// DLBL IJSYSIN,'ASM.TRANSLATION',0
// EXTENT SYSIPT
ASSGN SYSIPT,DISK,VOL=&VOLID.,SHR
// OPTION CATAL,DECK,SYM,ERRS
  PHASE DSQABFAC,*
    INCLUDE DFHEAI
    INCLUDE DFHEAIO
    INCLUDE DSQCIA
    INCLUDE DSQCLOD2
    INCLUDE DSQCMCVP
// EXEC ASMA90,SIZE=(ASMA90,50K),
    PARM='LIBMAC,USING(NOLIMIT,NOWARN),EXIT(LIBEXIT(EDECKXITC
    (ORDER=EA)))'
CLOSE SYSIPT,SYSRDR
/*
* -----
* Step 3: Link-edit Callable Interface program
* -----
// EXEC LNKEDT,PARM='AMODE=31,RMODE=ANY'
/*
/ &
// JOB RESET
ASSGN SYSIPT,SYSRDR IF 1A93D, CLOSE SYSIPT,SYSRDR
ASSGN SYSPCH,00D IF 1A93D, CLOSE SYSPCH,00D
/ &
```

図 30. VSE でアセンブラーおよび編集プログラムを実行するためのジョブ制御 (2/2)

VM の CMS のもとでのプログラムのアセンブルおよび実行

次のサンプル・プログラムは、アセンブラー H コンパイラーを使用して、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをアセンブルして実行します。この例の REXX EXEC は QMF では出荷されませんが、ここからコピーして、インストール先に合うように変更することができます。

```

/*****
/* Assemble your program and execute it.
*/
/*****
TRACE off
ADDRESS CMS

/*****
/* Assemble the program
*/
/*****
"ERASE TEMPP MACLIB A"
"MACLIB GEN TEMPP DSQCOMMA"
Maclist = "TEMPP DMSSP CMSLIB OSMACRO"
"GLOBAL MACLIB" Maclist
"HASM yourname"

/*****
/* Access SQL/DS and initialize database
*/
/*****
"EXEC PRODUCT SQLDS"
"EXEC SQLINIT DBNAME(SQLDBA)"

/*****
/* Access GDDM product disk
*/
/*****
"EXEC PRODUCT GDDM"

/*****
/* Issue Filedefs for QMF product
*/
/*****
/* DEBUG = DDNAME FOR QMF DIAGNOSTICS OUTPUT
*/
"FILEDEF DSQDEBUG PRINTER ( LRECL 80 BLKSIZE 80 RECFM FBA PERM"
/* PRINT = DDNAME FOR QMF PRINTED OUTPUT
*/
"FILEDEF DSQPRINT PRINTER ( LRECL 133 BLKSIZE 133 RECFM FBA PERM"
/* EDIT = DDNAME FOR QMF EDIT TRANSFER FILE
*/
"FILEDEF DSQEDIT DISK QMFEDIT FILE A (PERM"
/* DSQSIDE = DDNAME FOR QMF SPILL FILE
*/
"FILEDEF DSQSPILL DISK DSQSIDE DATA A1 (PERM"
/* DSQPNLE = DDNAME FOR PANEL FILE
*/
"FILEDEF DSQPNLE DISK DSQPNLE FILE * (PERM"
"FILEDEF ISPLLIB CLEAR"
"FILEDEF ISPLLIB DISK DSQDLIB LOADLIB *"

```

図 31. プログラムをアセンブルし、実行する REXX プログラム (1/2)

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```
/* Provide access to QMF and GDDM program libraries */
GLOBAL LOADLIB DSQDLIB "
GLOBAL TXTLIB ADMRLIB ADMPLIB ADMGLIB"

Say "Starting to execute 'ASSEMBLER' program"
ADDRESS CMS "RUN yourname"

Exit 0
```

図 31. プログラムをアセンブルし、実行する REXX プログラム (2/2)

TSO でのアセンブラー・プログラムの実行

プログラムは、TSO で実行する前に、アセンブルし、リンク・エディットする必要があります。以下の節には、プログラムをアセンブルしリンク・エディットするサンプル・ジョブ、および ISPF を使用する場合と使用しない場合に、TSO 内でアセンブル済みプログラムを実行するためのサンプル・プログラムがあります。

TSO でのアセンブルとリンク・エディット

以下のサンプル・ジョブは、アセンブラー H を使用してプログラムをアセンブルし、リンク・エディットします。いくつかのパラメーターは、インストール先によって異なることがあります。詳細については、インストール先の QMF 管理者にお問い合わせください。


```

//sampasm JOB
//STEP1 EXEC PROC=ASMHCL
/* Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMM
//C.SYSLIB DD DSN=QMF710.SAMPLIB,DISP=SHR
//C.SYSIN DD *
        .
        Your program or copy of QMF sample DSQABFA
        .
/*
/* Provide Access to QMF Interface Module
//L.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//L.SYSIN DD *
        INCLUDE QMFLOAD(DSQCIA)
        ENTRY sampasm
        MODE AMODE(31) RMODE(ANY)
        NAME sampasm(R)
/*

```

図 32. TSO でのアセンブラーおよびリンケージ・エディターの実行のための JCL

プログラムは、正常にアセンブルした後、実行することができます。

ISPF のもとの TSO での実行

ユーザーのプログラムは、正常にアセンブルした後、次のようなプログラムを作成することによって、ISPF のもとの実行することができます。

呼び出し可能インターフェースのサンプル

```
PROC 0
CONTROL ASIS
/*****
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****
/* Datasets used by TSO */
/*****
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE','ISR.ISRCLIB')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****
/* Datasets used by ISPF */
/*****
ALLOC FI(ISPLLIB) SHR REUSE +

        DA('QMF710.SDSQLOAD','ADM.GDDMLOAD','DSN.DSNEXIT','DSN.DSNLOAD')
ALLOC FI(ISPMLIB) SHR REUSE +
        DA('QMF710.SDSQMLBE','ISR.ISRMLIB','ISP.ISPMLIB')
ALLOC FI(ISPPLIB) SHR REUSE +
        DA('QMF710.SDSQPLBE','ISR.ISRPLIB','ISP.ISPPLIB')
ALLOC FI(ISPSLIB) SHR REUSE +
        DA('QMF710.SDSQSLBE','ISR.ISRSLIB','ISP.ISPSLIB')
ALLOC FI(ISPTLIB) SHR REUSE +
        DA('ISR.ISRTLIB','ISP.ISPTLIB')
/*****
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****
ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM) DA('QMF710.DSQCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****
/* Datasets used by QMF */
/*****
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****
/* Start your program as the initial ISPF dialog */
/*****
ISPSTART PGM(sampasm) NEWAPPL(DSQE)
EXIT CODE(4)
```

図 33. ISPF のもとの TSO でのプログラム実行のための CLIST

EXIT CODE(4) は ISPF 後処理パネルを抑止します。

ISPF を使用しない TSO での実行

ユーザーのプログラムは、正常にアSEMBルした後、次のようなプログラムを作成することによって、ISPF を使用しない TSO で実行することができます。

```

PROC 0
CONTROL ASIS
/*****
/* Note: QMF, DB2 and GDDM load libraries must be allocated */
/*       before executing this CLIST.                               */
/*       Name of QMF load library is "QMF710.SDSQLOAD".           */
/*****
/* Specify attribute list for dataset allocations                 */
/*****
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80)  RECFM(F B)   BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB  LRECL(79)  RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****
/* Datasets used by TSO                                         */
/*****
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****
/* QMF/GDDM Datasets                                           */
/*****
ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM)  DA('QMF710.DSQCFRM')  SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM')    SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF)   DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS)  DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****
/* Datasets used by QMF                                         */
/*****
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP)  SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT)  NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE)  DA('QMF710.DSQPNLE')  SHR REUSE
/*****
/* Start your program using TSO CALL command                   */
/*****
CALL sampasm
EXIT CODE(0)

```

図 34. ISPF を使用しない TSO でのプログラム実行用の CLIST

C 言語インターフェース

C 言語インターフェース

ここに示す C 言語呼び出し可能インターフェースは、他の SAA 言語の呼び出し可能インターフェースに対応しています。

C 言語のために、QMF には DSQCOMMC 通信マクロ、および DSQCICE と DSQCIC という 2 つの関数呼び出しが用意されています。

注: C++ アプリケーションから QMF にアクセスするには、C で作成されたインターフェースが必要です。

C 言語用のインターフェース連絡域マッピング (DSQCOMMC)

DSQCOMMC は C 言語用の DSQCOMM マッピングであり、プロダクトと共に出荷されます。表16 は、DSQCOMMC の各値を示しています。

表 16. DSQCOMMC のインターフェース連絡域

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ_RETURN_CODE	符号付き長整数	QMF コマンドの実行後の状況を示す。値は次のとおり。 DSQ_SUCCESS 要求が正常に実行された。 DSQ_WARNING 警告を伴って終了した。 DSQ_FAILURE コマンドが正しく実行されなかった。 DSQ_SEVERE 重大エラー。QMF セッションが終了した。
DSQ_INSTANCE_ID	符号付き長整数	START コマンドの実行時に、QMF によって設定される ID
DSQ_COMM_LEVEL	文字、長さ 12	DSQCOMM のレベルを識別する。QMF START コマンドを出す前に、DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL の値に設定する必要がある。
DSQ_PRODUCT	文字、長さ 2	使用中の IBM 照会プロダクトを識別する。
DSQ_PRODUCT_RELEASE	文字、長さ 2	使用中の照会プロダクトのリリース・レベルを識別する。
DSQ_RESERVE1	文字、長さ 28	将来の使用のために予約されている。

表 16. DSQCOMM のインターフェース連絡域 (続き)

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ_MESSAGE_ID	文字、長さ 8	完了メッセージ ID
DSQ_Q_MESSAGE_ID	文字、長さ 8	照会メッセージ ID
DSQ_START_PARM_ERROR	文字、長さ 8	パラメーター・エラーのために START が失敗したときの、エラーがあるパラメーター
DSQ_CANCEL_IND	文字、長さ 1	QMF コマンドの実行中にユーザーが取り消したかどうかによって、以下の 2 つの値のいずれかが入る。 DSQ_CANCEL_YES DSQ_CANCEL_NO
DSQ_RESERVE2	文字、長さ 23	将来の使用のために予約されている。
DSQ_RESERVE3	文字、長さ 156	将来の使用のために予約されている。
DSQ_MESSAGE_TEXT	文字、長さ 128	完了メッセージ・テキスト
DSQ_Q_MESSAGE_TEXT	文字、長さ 128	照会メッセージ・テキスト

C 言語用の関数呼び出し

QMF には、C 言語用に DSQCIC と DSQCICE という 2 つの関数呼び出しが用意されています。

DSQCIC

この呼び出しは、アプリケーション・プログラム変数にアクセスする必要がない QMF コマンド用です。大部分の QMF コマンドに、この呼び出しを使用します。

```
DSQCIC (&DSQCOMM,&CMDLTH,&CMDSTR)
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。長タイプのパラメーター

CMDSTR

実行する QMF コマンド。CMDLTH によって指定した長さの、無符号文字タイプ of 配列として指定します。QMF コマンドは大文字でなければなりません。

C 言語インターフェース

DSQCICE

この呼び出しには、アプリケーション・プログラム変数へのアクセスが必要な 3 つの QMF コマンド (START および拡張フォーマットの GET GLOBAL と SET GLOBAL) 用の拡張構文があります。

```
DSQCICE (&DSQCOMM,&CMDLTH,&CMDSTR,  
         &PNUM,&KLTH,&KEYWORD,  
         &VLTH,&VALUE,&VTYPE);
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。長整数パラメーター

CMDSTR

実行する QMF コマンド。これは、無符号文字タイプの配列です。QMF コマンドは大文字でなければなりません。

PNUM

コマンド・キーワード数。これは、長整数パラメーターです。

KLTH

指定する各キーワード &KEYWORD の長さ。これは、長整数パラメーターまたは長整数パラメーターの配列です。

KEYWORD

QMF キーワード (単数または複数)。各キーワードは、無符号文字配列です。

VLTH

キーワードに関連する各値の長さ。長整数パラメーターまたは長整数パラメーターの配列。

VALUE

各キーワードに関連する値。この値のタイプは、VTYPE パラメーターに指定します。この値は、無符号文字配列、長整数パラメーター、または長整数パラメーターの配列です。

VTYPE

値ストリング VALUE のデータ・タイプ。このタイプの値は、通信マクロ DSQCOMM 提供されている以下の 2 つの値のいずれかです。

無符号文字タイプを示す DSQ_VARIABLE_CHAR

長整数を示す DSQ_VARIABLE_FINT

VALUE フィールドに指定したすべての値のデータ・タイプを、VTYPE に指定する必要があります。

C 言語インターフェースは、他の言語のインターフェースと似ています。しかし、パラメーターに関する以下の考慮事項があります。

- コマンド・ストリング、START、GET、および SET のコマンド・パラメーターは、すべて入力文字ストリングです。これらのパラメーターとして、C では、ヌル値で終了する記憶域を渡す必要があります。ヌル値はパラメーターの長さを含めなければなりません。QMF インターフェースに渡すパラメーター長を入手するために、コンパイル時長さ関数を使用する必要があります。
- ストリングが、ストリングの終わりに到達する前にヌルによって終了しない場合、QMF によってエラーが戻されます。ヌル値 (X'00') は、文字ストリングの終わりを示します。
- 出力文字ストリングである C パラメーター (GET コマンドによって入手した値を含む) の場合、QMF によって、QMF 記憶域からアプリケーションの記憶域にデータが移動され、ストリングの終わりにヌル標識が設定されます。文字ストリングがユーザーの記憶域に収まらない場合には、警告メッセージが出され、データの右側が切り捨てられます。ヌル標識は、常にデータ・ストリングの終わりに置かれます。

移行情報

DSQCOMM はバージョン 2 リリース 4 とバージョン 3.2 の間で変更されました。

- 古い DSQCOMM を使用し続ける場合、プログラムを再コンパイルする必要はありません。
- バージョン 3.2 の DSQCICX を使用する場合、バージョン 2 リリース 4 のプログラムを再びリンク・エディットする必要があります。

ただし、バージョン 3.2 の DSQCOMM には、START コマンドにエラーがある場合に特に有用なメッセージ・テキストが用意されています。新しい DSQCOMM を使用する場合、プログラムを再コンパイルして、DSQ_COMM_LEVEL (DSQCOMM の) を DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL に初期化する必要があります。この値を設定しない場合、QMF は DSQCOMM をバージョン 2 リリース 4 のレベルとして扱います。

MVS での CICS ユーザーへの注

DSQCICX はバージョン 3 リリース 1 モディフィケーション 1 とバージョン 3 リリース 2 の間で変更されました。QMF が提供する関数呼び出しとメイン QMF プログラム間のインターフェースが、CALL インターフェースから EXEC CICS LINK インターフェースに変更されました。新しいインターフェースは、ユーザー・プログラムと QMF プロダクトからの分離性が高くなっています。インターフェースが変更されたので、呼び出し可能インターフェースを使用したプログラムを再びリンク・エディットする必要があります。

C 言語プログラミングの例

この例は、IBM C 言語用の SAA 呼び出し可能インターフェースを示しています。

以下のプログラム DSQABFC は QMF プロダクトと共に出荷されます。サンプル・ソース・コード・リストをここで見ることも、オンラインでアクセスすることもできます。

- OS/390 の場合、サンプル・プログラムはライブラリー QMF710.SDSQSAPE のメンバーです。
- VM の場合、サンプル・プログラムはプロダクション・ディスクにあります。
- VSE の場合、サンプル・プログラムは QMF サブライブラリーにあり、名前は DSQABFC.Z です。

C 言語呼び出し可能インターフェースのサンプル・プログラムは、以下の機能を実行します。

- QMF を開始する。
- 3 つのグローバル変数を設定する。
- Q1 と呼ばれる照会を実行する。
- 書式 F1 を使用して結果の報告書を印刷する。
- QMF セッションを終了する。

照会 Q1 または 書式 F1 は QMF では提供されませんが、サンプル・プログラムは、これらのオブジェクトを使用しています。

この節では、呼び出し可能インターフェースを使用する C 言語プログラムをコンパイルし、リンク・エディットし、実行する方法も示します。この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

```

/*****
/* Sample Program: DSQABFC                               */
/* C Version of the SAA Query Callable Interface          */
/*****

/*****
/* Include standard and string "C" functions            */
/*****
#include <string.h>
#include <stdlib.h>

/*****
/* Include and declare query interface communications area */
/*****
#include <DSQCOMM.C>

int main()
{

    struct dsqcomm communication_area;    /* DSQCOMM from include */

/*****
/* Query interface command length and commands          */
/*****
signed long command_length;
static char start_query_interface[] = "START";
static char set_global_variables[] = "SET GLOBAL";
static char run_query[] = "RUN QUERY Q1";
static char print_report[] = "PRINT REPORT (FORM=F1)";
static char end_query_interface[] = "EXIT";

/*****
/* Query command extension, number of parameters and lengths */
/*****
signed long number_of_parameters;    /* number of variables */
signed long keyword_lengths[10];    /* lengths of keyword names */
signed long data_lengths[10];    /* lengths of variable data */

```

図 35. DSQABFC、サンプル C プログラム (1/3)

C 言語インターフェース

```
/* ***** */
/* Variable data type constants */
/* ***** */
static char char_data_type[] = DSQ_VARIABLE_CHAR;
static char int_data_type[] = DSQ_VARIABLE_FINT;

/* ***** */
/* Keyword parameter and value for START command */
/* ***** */
static char start_keywords[] = "DSQSMODE";
static char start_keyword_values[] = "INTERACTIVE";
/* ***** */
/* Keyword parameter and values for SET command */
/* ***** */
#define SIZE_VAL 8
char set_keywords [3][SIZE_VAL]; /* Parameter name array */
signed long set_values[3]; /* Parameter value array */

/* ***** */
/* MAIN PROGRAM */
/* ***** */

/* ***** */
/* Start a Query Interface Session */
/* ***** */
strncpy (communication_area.dsq_comm_level,
        DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL,
        sizeof(communication_area.dsq_comm_level));
number_of_parameters = 1;
command_length = sizeof(start_query_interface);
keyword_lengths[0] = sizeof(start_keywords);
data_lengths[0] = sizeof(start_keyword_values);
dsqice(&communication_area,;
      &command_length,;
      &start_query_interface[0],
      &number_of_parameters,;
      &keyword_lengths[0],
      &start_keywords[0],
      &data_lengths[0],
      &start_keyword_values[0],
      &char_data_type[0]);
```

図 35. DSQABFC、サンプル C プログラム (2/3)

```

/*****/
/* Set numeric values into query using SET command */
/*****/
    number_of_parameters = 3;
    command_length = sizeof(set_global_variables);
    strcpy(set_keywords[0], "MYVAR01");
    strcpy(set_keywords[1], "SHORT");
    strcpy(set_keywords[2], "MYVAR03");
    keyword_lengths[0] = SIZE_VAL;
    keyword_lengths[1] = SIZE_VAL;
    keyword_lengths[2] = SIZE_VAL;
    data_lengths[0] = sizeof(long);
    data_lengths[1] = sizeof(long);
    data_lengths[2] = sizeof(long);
    set_values[0] = 20;
    set_values[1] = 40;
    set_values[2] = 84;
    dsqcice(&communication_area,;
            &command_length,;
            &set_global_variables[0],
            &number_of_parameters,;
            &keyword_lengths[0],
            &set_keywords[0][0],
            &data_lengths[0],
            &set_values[0],
            &int_data_type[0]);

/*****/
/* Run a Query */
/*****/
    command_length = sizeof(run_query);
    dsqcic(&communication_area, &command_length,;
           &run_query[0]);

/*****/
/* Print the results of the query */
/*****/
    command_length = sizeof(print_report);
    dsqcic(&communication_area, &command_length,;
           &print_report[0]);

/*****/
/* End the query interface session */
/*****/
    command_length = sizeof(end_query_interface);
    dsqcic(&communication_area, &command_length,;
           &end_query_interface[0]);
    exit(0);
}

```

図 35. DSQABFC、サンプル C プログラム (3/3)

C 言語インターフェース

C 用の DSQCOMM

この組み込みファイル DSQCOMM は QMF プロダクトと共に出荷され
ます。

```

/*****
/* C Include for Query Callable Interface (MVS/VM)          */
/*****

/* Structure declare for Communications Area                */

struct dsqcomm {
    long int dsq_return_code; /* Function return code      */
    long int dsq_instance_id; /* id established in start cmd*/
    char dsq_comm_level[12]; /* communications level id   */
    char dsq_product[2]; /* query product id          */
    char dsq_product_release[2]; /* query product release    */
    char dsq_reserve1[28]; /* reserved                   */
    char dsq_message_id[8]; /* completion message ID     */
    char dsq_q_message_id[8]; /* query message ID          */
    char dsq_start_parm_error[8]; /* start parameter in error */
    char dsq_cancel_ind[1]; /* cmd cancelled indicator   */
                                /* 1 = cancelled, 0 = not cancelled*/
    char dsq_reserve2[23]; /* RESERVED AREAS           */
    char dsq_reserve3[156];
    char dsq_message_text[128]; /* Message text              */
    char dsq_q_message_text[128]; /* Query message text        */
};

/* RETURN CODES                                           */

#define DSQ_SUCCESS          0
#define DSQ_WARNING         4
#define DSQ_FAILURE         8
#define DSQ_SEVERE          16

/* Communications Level                                    */

#define DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL "DSQL>001002<"

/* Query Product Codes                                     */

#define DSQ_QRW              "01"
#define DSQ_QMF              "02"
#define DSQ_QM3              "03"

/* Query Product Release Levels                           */

#define DSQ_QRW_V1R2         "01"
#define DSQ_QRW_V1R3         "02"
#define DSQ_QMF_V2R4         "01"
#define DSQ_QMF_V3R1         "02"
#define DSQ_QMF_V3R1M1       "03"
#define DSQ_QMF_V3R2         "04"
#define DSQ_QMF_V3R3         "05"
#define DSQ_QMF_V6R1         "06"
#define DSQ_QM4_V1R1         "01"

```

図 36. DSQCOMM、C 連絡域 (1/2)

C 言語インターフェース

```
/* INSTANCE CODES */
#define DSQ_CONTINUE          0
/* CANCELLED INDICATOR */
#define DSQ_CANCEL_YES      "1"
#define DSQ_CANCEL_NO      "0"
/* VARIABLE TYPES */
#define DSQ_VARIABLE_CHAR   "CHAR"
#define DSQ_VARIABLE_FINT   "FINT"
#define DSQ_INTERACTIVE     "1"
#define DSQ_BATCH           "2"
#define DSQ_YES             "1"
#define DSQ_NO              "2"
/* Call Interface structure */
/* Calling format for normal call with 3 parameters */
#define dsqcic(parm1, parm2, parm3 )\
    dsqcicx( parm1, parm2, parm3)
/* Calling format for call with CMD_EXT area 9 parameters */
#define dsqcice(parm1, parm2, parm3,\
    parm4, parm5, parm6, parm7, parm8, parm9 )\
    dsqcicx( parm1, parm2, parm3, \
    parm4, parm5, parm6, \
    parm7, parm8, parm9 )
/* DECLARE OS LINKAGE FORMAT */
#pragma linkage(dsqcicx, OS)
```

図 36. DSQCOMMC、C 連絡域 (2/2)

CICS のもとでのプログラムの実行

プログラムを作成した後、実行する前に、変換し、コンパイルし、リンク・エディットする必要があります。この節の例は、必要なステップを示していません。この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

CICS のもとで QMF 呼び出し可能インターフェースを使用するプログラムを変換し、コンパイルし、リンク・エディットする場合、以下のことについて考慮してください。

- 連絡域マクロ DSQCOMM C がコンパイル・ステップで使用可能であるか、またはそれをプログラムにコピーする必要がある。
- リンク・エディット・フェーズで QMF インターフェース・モジュール DSQCICX が使用可能でなければならない。

MVS での CICS の場合の変換、コンパイル、およびリンク・エディット

以下の例は CICS 提供のプロシージャ DFHEBTDL を使用しています。このプロシージャの使用方法については、CICS (VSE/ESA 版) システム定義の手引きを参照してください。

```
//sampleC JOB
// EXEC PROC=DFHEBTDL
//TRN.SYSIN DD *
#pragma XOPTS(CICS translator options .....)
.
Your program or copy of QMF sample DSQABFC
.
/*
/* Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMM C
//ASM.SYSLIB DD DSN=QMF710.SDSQSAPE,DISP=SHR
/* Provide Access to QMF Interface Module
//LKED.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//LKED.SYSIN DD *
INCLUDE CICSLOAD(DFHELII)
INCLUDE QMFLOAD(DSQCICX)
ORDER DFHELII
ENTRY sampleC
MODE AMODE(31) RMODE(ANY)
NAME sampleC(R)
/*
```

図 37. CICS 変換プログラム、C コンパイラ、リンケージ・エディターの実行用 JCL

C/370 言語プログラムは AMODE=31 を指定してリンク・エディットする必要があります。

VSE での CICS の場合の変換、コンパイル、およびリンク・エディット

C/370 プリリンク・ステップ時に、サブライブラリー PRD2.PROD (QMF デフォルト・インストール・サブライブラリー) にある IBM 提供のインターフェース・オブジェクト (DSQCICX.OBJ、DSQCLOD2.OBJ、および DSQCMCVP.OBJ) が、LIBDEF * 検索チェーン内で使用可能でなければなりません。

C 言語インターフェース

リンク・エディットの段階では、181ページの図38 に示すように、CICS アセンブラー・インターフェース DFHEAI0 が LIBDEF * 検索チェーン内に存在していなければなりません。

このサンプル・ジョブ制御は、DSQ3CIC.Z. として PRD2.PROD に保管されています。


```

// JOB DSQ3CIC      Sample job to Install QMF Callable Interface (C/370)
* -----
*  Install QMF Callable Interface Example (C/370)
* -----
// SETPARM VOLID=volid          *-- update volid for syspch
// SETPARM START=rtrk          *-- update start track/block
// SETPARM SIZE=ntrks          *-- update number of tracks/blocks
// SETPARM VOLID2=volid2       *-- update volid for work area
// SETPARM START2=rtrk         *-- update start track/block
// SETPARM SIZE2=ntrks         *-- update number of tracks/blocks
* -----
// DLBL  IJSYSPH,'c.translation',0
// EXTENT SYSPCH,,1,0,&START,&SIZE
ASSGN SYSPCH,DISK,VOL=&VOLID,SHR
* Library search chain must contain the QMF, CICS and C/370 sublibrary
// LIBDEF *,SEARCH=(PRD2.PROD,PRD1.BASE,PRD2.CONFIG)
// LIBDEF PHASE,CATALOG=PRD2.PROD
* -----
* Step 1: Translate callable interface program (C/370)
* -----
* You may need to update or remove the SLI statement for your program.
* -----
// EXEC  DFHEDP1$,SIZE=256K
..* $$ SLI MEM=DSQABFC.Z,S=PRD2.QMFD
/*
CLOSE SYSPCH,00D
* -----
* Step 2: Compile callable interface program (C/370)
* -----
// DLBL  IJSYSIN,'c.translation',0
// EXTENT SYSIPT
ASSGN SYSIPT,DISK,VOL=&VOLID,SHR
// DLBL  IJSYSPH,'compiler.output',0
// EXTENT SYSPCH,,1,0,&START2,&SIZE2
ASSGN SYSPCH,DISK,VOL=&VOLID2,SHR
// OPTION DECK
// EXEC EDCCOMP,SIZE=EDCCOMP,PARM='RENT'
CLOSE SYSIPT,SYSRDR
CLOSE SYSPCH,00D
* -----
* Step 3: Pre-link callable interface program (C/370)
* -----
// DLBL  IJSYSIN,'compiler.output',0
// EXTENT SYSIPT
ASSGN SYSIPT,DISK,VOL=&VOLID2,SHR
// OPTION CATAL,NODECK
    PHASE DSQABFC,*
        INCLUDE DFHELII
        INCLUDE DFHEAI0
// EXEC EDCPRLK,SIZE=EDCPRLK
CLOSE SYSIPT,SYSRDR
/*

```

図 38. CICS/VSE 変換プログラム、C コンパイラ、およびリンケージ・エディターの実行用のジョブ制御 (1/2)

C 言語インターフェース

```
* -----  
* Step 4: Link-edit callable interface program (C/370)  
* -----  
// EXEC LNKEDT,PARM='AMODE=24,RMODE=24'  
/*  
/&  
// JOB RESET  
ASSGN SYSIPT,SYSRDR IF 1A93D, CLOSE SYSIPT,SYSRDR  
ASSGN SYSPCH,00D IF 1A93D, CLOSE SYSPCH,00D  
/&
```

図 38. CICS/VSE 変換プログラム、C コンパイラー、およびリンケージ・エディターの実行用のジョブ制御 (2/2)

VM の CMS のもとでのプログラムのコンパイルと実行

以下のプログラムは、IBM C コンパイラーを使用して呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイルし実行します。

この例の REXX EXEC は QMF では出荷されませんが、ここからコピーして、インストール先に合うように変更することができます。

```

/*****
/* Compile your program and run it. */
/*****
TRACE off
ADDRESS CMS
/*****
/* Access C product disk using an exec, PRODUCT, that you write. */
/*****
EXEC PRODUCT ADC370
/*****
/* Compile the program */
/*****
"GLOBAL TXTLIB IBMLIB SCEELKED"
"GLOBAL LOADLIB EDCLINK SCREERUN"
"CC" PNAME "(SOURCE SHOWINC"
/*****
/* Create an executable "C" module file */
/*****
"GLOBAL LOADLIB DSQDLIB SCREERUN"
"GLOBAL TXTLIB EDCBASE ADMRLIB ADMPLIB ADMGLIB"
"CMOD yourname DSQCICX DSQCLOD2 DSQCMCVP"
/*****
/* Access SQL/DS and initialize database */
/*****
"EXEC PRODUCT SQLDS"
"EXEC SQLINIT DBNAME(SQLDBA)"
/*****
/* Access GDDM product disk */
/*****
"EXEC PRODUCT GDDM"
/*****
/* Issue Filedefs for QMF product */
/*****
/* DEBUG = DDNAME FOR QMF DIAGNOSTICS OUTPUT */
"FILEDEF DSQDEBUG PRINTER ( LRECL 80 BLKSIZE 80 RECFM FBA PERM"
/* PRINT = DDNAME FOR QMF PRINTED OUTPUT */
"FILEDEF DSQPRINT PRINTER ( LRECL 133 BLKSIZE 133 RECFM FBA PERM"
/* EDIT = DDNAME FOR QMF EDIT TRANSFER FILE */
"FILEDEF DSQEDIT DISK QMFEDIT FILE A (PERM"
/* DSQSIDE = DDNAME FOR QMF SPILL FILE */
"FILEDEF DSQSPILL DISK DSQSIDE DATA A1 (PERM"
/* DSQPNE = DDNAME FOR PANEL FILE */
"FILEDEF DSQPNE DISK DSQPNE FILE * (PERM"
"FILEDEF ISPLLIB CLEAR"
"FILEDEF ISPLLIB DISK DSQDLIB LOADLIB *"
/*****
/* Provide access to QMF and C program libraries */
/*****
"GLOBAL LOADLIB DSQDLIB SCREERUN"
"GLOBAL TXTLIB EDCBASE ADMRLIB ADMPLIB ADMGLIB"
Say "Starting to run 'C' program"
"yourname"

```

Exit 0

図 39. ユーザーのプログラムをコンパイルし実行する REXX プログラム

付録A. 呼び出し可能インターフェース言語のサンプル・コード

C 言語インターフェース

上記のプログラムは、インストール先に合うように変更する必要がある場合があります。

TSO での C プログラムの実行

以下の節には、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイル・リンク・エディットするサンプル・ジョブ、および ISPF を使用する場合と使用しない場合に、コンパイル済みプログラムを実行するためのサンプル・プログラムがあります。

TSO でのコンパイルとリンク・エディット

以下のジョブは、MVS 用の IBM C コンパイラーを使用して、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイル・リンク・エディットします。いくつかのパラメーターは、インストール先によって異なることがあります。詳細については、インストール先の QMF 管理者にお問い合わせください。

```
//sampleC JOB
//STEP1 EXEC PROC=EDCCL,LPARM='MAP'
//* Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMM
//COMPILE.SYSLIB DD DSN=QMF710.SAMPLIB,DISP=SHR
//COMPILE.SYSIN DD DATA,DLM='<>'

      .
      Your program or copy of QMF sample DSQABFC
      .
<>
//* Provide Access to QMF Interface Module DSQCICX
//LKED.SYSLIB DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
/*
```

図 40. TSO での C コンパイラーとリンケージ・エディターの実行のための JCL

ISPF を使用しない TSO でのプログラムの実行

ユーザーのプログラムを正常にコンパイルした後、実行するために、次のようなプログラムを作成することができます。

```

PROC 0
CONTROL ASIS
/*****/
/* Note: QMF, DB2, GDDM and C load libraries must be */
/* allocated before running this CLIST. */
/* Name of QMF load library is "QMF710.SDSQLOAD". */
/*****/
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****/
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****/
/* Datasets used by TSO */
/*****/
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')

```

図 41. ISPF を使用しない TSO でのプログラム実行のための CLIST (1/2)

```

/*****/
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****/
ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM) DA('QMF710.DSQCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****/
/* Datasets used by QMF */
/*****/
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****/
/* Start your program using TSO CALL command */
/*****/
CALL sampleC
EXIT CODE(0)

```

図 41. ISPF を使用しない TSO でのプログラム実行のための CLIST (2/2)

C 言語インターフェース

ISPF のもとの TSO でのプログラムの実行

ユーザーのプログラムを正常にコンパイルした後、実行するために、次のようなプログラムを作成することができます。

```
PROC 0
CONTROL ASIS
/*****/
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****/
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****/
/* Datasets used by TSO */
/*****/
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE','ISR.ISRCLIB')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
```

図 42. ISPF のもとの TSO での DSQABFC の実行のための CLIST (1/2)

```

/*****/
/* Datasets used by ISPF */
/*****/
ALLOC FI(ISPLLIB) SHR REUSE +

        DA('QMF710.SDSQLOAD','ADM.GDDMLOAD','DSN.DSNEXIT','DSN.DSNLOAD', +
          'EDC.SEDCLINK','PLI.SIBMLINK')
ALLOC FI(ISPMLIB) SHR REUSE +
        DA('QMF710.SDSQMLBE','ISR.ISRMLIB','ISP.ISPMLIB')
ALLOC FI(ISPPLIB) SHR REUSE +
        DA('QMF710.SDSQPLBE','ISR.ISRPLIB','ISP.ISPPLIB')
ALLOC FI(ISPSLIB) SHR REUSE +
        DA('QMF710.SDSQSLBE','ISR.ISRSLIB','ISP.ISPSLIB')
ALLOC FI(ISPTLIB) SHR REUSE +
        DA('ISR.ISRTLIB','ISP.ISPTLIB')
/*****/
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****/
ALLOC FI(ADMGMGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM) DA('QMF710.DSQCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****/
/* Datasets used by QMF */
/*****/
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****/
/* Start your program as the initial ISPF dialog */
/*****/
ISPSTART PGM(sampleC) NEWAPPL(DSQE)
EXIT CODE(4)

```

図42. ISPF のもとの TSO での DSQABFC の実行のための CLIST (2/2)

EXIT CODE(4) は ISPF 後処理パネルを押し止めます。

COBOL 言語インターフェース

ここに示した COBOL 呼び出し可能インターフェースは、他の SAA 言語のインターフェースに対応しています。

COBOL 言語インターフェース

COBOL で呼び出し可能インターフェース・プログラムを作成する場合、VS COBOL II、COBOL/370、MVS および VM 用 IBM COBOL、または VSE 用 IBM COBOL を使用する必要があります。³

COBOL 用のインターフェース連絡域マッピング (DSQCOMMB)

DSQCOMMB は COBOL 用の DSQCOMM マッピングであり、プロダクトと共に出荷されます。表17 は、DSQCOMMB の各値を示しています。

表 17. DSQCOMMB のインターフェース連絡域

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ-RETURN-CODE	PIC 9(8)	QMF コマンドの実行後の状況を示す。値は次のとおり。 DSQ-SUCCESS 要求が正常に実行された。 DSQ-WARNING 警告を伴って終了した。 DSQ-FAILURE コマンドが正しく実行されなかった。 DSQ-SEVERE 重大エラー。QMF セッションが終了した。
DSQ-INSTANCE-ID	PIC 9(8)	START コマンドの実行時に、QMF によって設定される ID
DSQ-COMM-LEVEL	PIC X(12)	DSQCOMM のレベルを識別する。QMF START コマンドを出す前に、DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL の値に設定する必要がある。
DSQ-PRODUCT	PIC X(2)	使用中の IBM 照会プロダクトを識別する。
DSQ-PRODUCT-RELEASE	PIC X(2)	使用中の照会プロダクトのリリース・レベルを識別する。
DSQ-RESERVE1	PIC X(28)	将来の使用のために予約されている。
DSQ-MESSAGE-ID	PIC X(8)	完了メッセージ ID
DSQ-Q-MESSAGE-ID	PIC X(8)	照会メッセージ ID
DSQ-START-PARM-ERROR	PIC X(8)	パラメーター・エラーのために START が失敗したときの、エラーがあるパラメーター

3. COBOL/370 は、CICS/VSE ではサポートされません。

表 17. DSQCOMMB のインターフェース連絡域 (続き)

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ-CANCEL-IND	PIC X(1)	QMF コマンドの実行中にユーザーが取り消したかどうかによって、以下の 2 つの値のいずれかが入る。 DSQ-CANCEL-YES DSQ-CANCEL-NO
DSQ-RESERVE2	PIC X(23)	将来の使用のために予約されている。
DSQ-RESERVE3	PIC X(156)	将来の使用のために予約されている。
DSQ-MESSAGE-TEXT	PIC X(128)	完了メッセージ・テキスト
DSQ-Q-MESSAGE-TEXT	PIC X(128)	照会メッセージ・テキスト

COBOL 用の関数呼び出し

QMF には、COBOL 言語用に 1 つの関数呼び出し DSQCIB が用意されています。これは、通信マクロ DSQCOMMB に記述されています。この関数呼び出しには、DSQCIB と DSQCIB 拡張フォーマットという 2 つのフォーマットがあります。

DSQCIB

この呼び出しは、アプリケーション・プログラム変数にアクセスする必要がない QMF コマンド用です。大部分の QMF コマンドに、この呼び出しを使用します。

```
CALL DSQCIB USING DSQCOMM CMDLTH CMDSTR
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。これは、整数パラメーターです。

CMDSTR

実行する QMF コマンド。これは、CMDLTH によって指定した長さの大文字のストリングです。

DSQCIB、拡張フォーマット

この呼び出しには、アプリケーション・プログラム変数へのアクセスが必要な 3 つの QMF コマンド (START および拡張フォーマットの GET GLOBAL と SET GLOBAL) 用の拡張構文があります。

COBOL 言語インターフェース

```
DSQCIB USING  
DSQCOMM CMDLTH CMDSTR  
PNUM KLTH KWORD VLTH VALUE VTYPE
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング **CMDSTR** の長さ。これは、整数パラメーターです。

CMDSTR

実行する QMF コマンド。これは、**CMDLTH** によって指定した長さの大文字のストリングです。

PNUM

コマンド・キーワード数。これは、整数パラメーターです。

KLTH

指定する各キーワードの長さ。これは、整数パラメーターまたは整数パラメーターの配列です。

KWORD

QMF キーワード (単数または複数)。各キーワードは、**KLTH** によって指定した長さの文字または文字の構造です。すべてのキーワードの長さが同じであれば、文字の配列を使用することができます。

VLTH

キーワードに関連する各値の長さ。これは、整数パラメーターまたは整数パラメーターの配列です。

VALUE

各キーワードに関連する値。この値のタイプは、**VTYPE** パラメーターに指定します。この値は、文字、文字の構造、整数パラメーター、または整数パラメーターの配列です。

VTYPE

値ストリング **VALUE** の QMF データ・タイプ。このタイプの値は、通信マクロ **DSQCOMMB** に提供されている以下の 2 つの値のいずれかです。

文字値を示す **DSQ-VARIABLE-CHAR**

整数値を示す **DSQ-VARIABLE-FINT**

VALUE フィールドに指定したすべての値のデータ・タイプを、**VTYPE** に指定する必要があります。

COBOL との ISPF LIBDEF サービスの使用

QMF インターフェース DSQCIB への動的呼び出しを使用していて、ユーザーの QMF アプリケーションにおいて LIBDEF 関数を使用したい場合は、動的呼び出しを静的呼び出しに変更してください。たとえば、ID 呼び出しステートメント

```
CALL DSQCIB USING ...
```

を次のリテラル呼び出しの形に変更します。

```
CALL "DSQCIB" USING ...
```

移行情報

DSQCOMM はバージョン 2 リリース 4 とバージョン 3.2 の間で変更されました。

- 古い DSQCOMM を使用し続ける場合、プログラムを再コンパイルする必要はありません。
- バージョン 3.2 の DSQCIB を使用する場合、バージョン 2 リリース 4 のプログラムを再びリンク・エディットする必要があります。

新しい DSQCOMM には、START コマンドにエラーがある場合に特に有用なメッセージ・テキストが用意されています。新しい DSQCOMM を使用する場合、プログラムを再コンパイルして、DSQ_COMM_LEVEL (DSQCOMM の) を DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL に初期化する必要があります。この値を設定しない場合、QMF は DSQCOMM をバージョン 2 リリース 4 のレベルとして扱います。

MVS での CICS ユーザーへの注

DSQCIB はバージョン 3 リリース 1 モディフィケーション・レベル 1 とバージョン 3 リリース 2 の間で変更されました。QMF が提供する関数呼び出しとメイン QMF プログラム間のインターフェースが、CALL インターフェースから EXEC CICS LINK インターフェースに変更されました。新しいインターフェースは、ユーザー・プログラムと QMF プロダクトからの分離性が高くなっています。インターフェースが変更されたので、呼び出し可能インターフェースを使用したプログラムを再びリンク・エディットする必要があります。

COBOL プログラミングの例

次のプログラム DSQABFCO は QMF プロダクトと共に出荷されます。この例は、VS COBOL II を使用しています。

サンプル・ソース・コード・リストをここで見ることも、オンラインでアクセスすることもできます。

- OS/390 の場合、サンプル・プログラムはライブラリー QMF710.SDSQSAPE のメンバーです。
- VM の場合、サンプル・プログラムはプロダクション・ディスクにあります。
- VSE の場合、サンプル・プログラムは QMF サブライブラリーにあり、名前は DSQABFCO.Z です。

COBOL 言語呼び出し可能インターフェースのサンプル・プログラムは、以下の機能を実行します。

- QMF を開始する。
- 3 つのグローバル変数を設定する。
- Q1 と呼ばれる照会を実行する。
- 書式 F1 を使用して結果の報告書を印刷する。
- QMF セッションを終了する。

照会 Q1 または 書式 F1 は QMF では提供されませんが、サンプル・プログラムは、これらのオブジェクトを使用しています。

この節では、呼び出し可能インターフェースを使用する COBOL プログラムをコンパイルし、リンク・エディットし、実行する方法も示します。この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

```

*****
* The following is a VS COBOL II version of the query
* callable interface *** DSQABFCO **.
*****
IDENTIFICATION DIVISION.
PROGRAM-ID. DSQABFCO.
DATE-COMPILED.
ENVIRONMENT DIVISION.
DATA DIVISION.
WORKING-STORAGE SECTION.
*****
* Copy DSQCOMMB definition - contains query interface variables
*****
COPY DSQCOMMB.

* Query interface commands
01 STARTQI PIC X(5) VALUE "START".
01 SETG PIC X(10) VALUE "SET GLOBAL".
01 QUERY PIC X(12) VALUE "RUN QUERY Q1".
01 REPT PIC X(22) VALUE "PRINT REPORT (FORM=F1 ".
01 ENDQI PIC X(4) VALUE "EXIT".

* Query command length
01 QICLTH PIC 9(8) USAGE IS COMP-4.
* Number of variables
01 QIPNUM PIC 9(8) USAGE IS COMP-4.
* Keyword variable lengths
01 QIKLTHS.
03 KLTHS PIC 9(8) OCCURS 10 USAGE IS COMP-4.
* Value Lengths
01 QIVLTHS.
03 VLTHS PIC 9(8) OCCURS 10 USAGE IS COMP-4.
* Start Command Keyword
01 SNAMEs.
03 SNAME1 PIC X(8) VALUE "DSQSMODE".
* Start Command Keyword Value
01 SVALUES.
03 SVALUE1 PIC X(11) VALUE "INTERACTIVE".
* Set GLOBAL Command Variable Names to set
01 VNAMES.
03 VNAME1 PIC X(7) VALUE "MYVAR01".
03 VNAME2 PIC X(5) VALUE "SHORT".
03 VNAME3 PIC X(7) VALUE "MYVAR03".
* Variable value parameters
01 VVALUES.
03 VVALS PIC 9(8) OCCURS 10 USAGE IS COMP-4.

01 TEMP PIC 9(8) USAGE IS COMP-4.

```

図43. DSQABFCO、サンプル COBOL プログラム (1/2)

COBOL 言語インターフェース

```
PROCEDURE DIVISION.  
*  
* Start a query interface session  
  MOVE DSQ-CURRENT-COMM-LEVEL TO DSQ-COMM-LEVEL.  
  MOVE 5 TO QICLTH.  
  MOVE 8 TO KLTHS(1).  
  MOVE 11 TO VLTHS(1).  
  MOVE 1 TO QIPNUM.  
  CALL DSQCIB USING DSQCOMM, QICLTH, STARTQI,  
                  QIPNUM, QIKLTHS, SNAMEs,  
                  QIVLTHS, SVALUES, DSQ-VARIABLE-CHAR.  
*  
* Set numeric values into query variables using SET GLOBAL command  
  MOVE 10 TO QICLTH.  
  MOVE 7 TO KLTHS(1).  
  MOVE 5 TO KLTHS(2).  
  MOVE 7 TO KLTHS(3).  
  MOVE 4 TO VLTHS(1).  
  MOVE 4 TO VLTHS(2).  
  MOVE 4 TO VLTHS(3).  
  MOVE 20 TO VVALS(1).  
  MOVE 40 TO VVALS(2).  
  MOVE 84 TO VVALS(3).  
  MOVE 3 TO QIPNUM.  
  CALL DSQCIB USING DSQCOMM, QICLTH, SETG,  
                  QIPNUM, QIKLTHS, VNAMEs,  
                  QIVLTHS, VVALUES, DSQ-VARIABLE-FINT.  
*  
* Run a Query  
  MOVE 12 TO QICLTH.  
  CALL DSQCIB USING DSQCOMM, QICLTH, QUERY.  
*  
* Print the results of the query  
  MOVE 22 TO QICLTH.  
  CALL DSQCIB USING DSQCOMM, QICLTH, REPT.  
*  
* End the query interface session  
  MOVE 4 TO QICLTH.  
  CALL DSQCIB USING DSQCOMM, QICLTH, ENDQI.  
  
STOP RUN.
```

図 43. DSQABFCO、サンプル COBOL プログラム (2/2)

CICS の場合、STOP RUN ステートメントを GOBACK ステートメントに変更する必要があります。

COBOL 用の DSQCOMM

この組み込みファイルは DSQCOMMB と呼ばれ、QMF プロダクトと共に出荷されます。

```

*****                                00001000
* COBOL INCLUDE FOR QUERY CALLABLE INTERFACE (MVS/VM)          00002000
*****                                00003000
* STRUCTURE DECLARE FOR COMMUNICATIONS AREA                    00004000
                                                                00005000
* DSQCOMM.                                                     00006000
                                                                00007000
                                                                00008000
    03 DSQ-RETURN-CODE PIC 9(8) USAGE IS COMP.                 00009000
*                               FUNCTION RETURN CODE           * 00010000
    03 DSQ-INSTANCE-ID PIC 9(8) USAGE IS COMP.                 00011000
*                               IDENTIFIER FROM START CMD      * 00012000
    03 DSQ-COMM-LEVEL PIC X(12).                                00013000
*                               COMMUNICATIONS LEVEL           * 00014000
    03 DSQ-PRODUCT PIC X(2).                                    00015000
*                               QUERY PRODUCT ID               * 00016000
    03 DSQ-PRODUCT-RELEASE PIC X(2).                            00017000
*                               QUERY PRODUCT RELEASE          * 00018000
    03 DSQ-RESERVE1 PIC X(28).                                  00019000
*                               RESERVED AREA                   * 00020000
    03 DSQ-MESSAGE-ID PIC X(8).                                 00021000
*                               COMPLETION MESSAGE ID          * 00022000
    03 DSQ-Q-MESSAGE-ID PIC X(8).                              00023000
*                               QUERY MESSAGE ID               * 00024000
    03 DSQ-START-PARM-ERROR PIC X(8).                           00025000
*                               START PARAMETER IN ERROR       * 00026000
    03 DSQ-CANCEL-IND PIC X(1).                                  00027000
*                               1 = COMMAND CANCELLED          * 00028000
*                               0 = COMMAND NOT CANCELLED      * 00029000
    03 DSQ-RESERVE2 PIC X(23).                                  00030000
*                               RESERVED AREA                   * 00031000
    03 DSQ-RESERVE3 PIC X(156).                                 00032000
*                               RESERVED AREA                   * 00033000
    03 DSQ-MESSAGE-TEXT PIC X(128).                             00034000
*                               QMF MESSAGE TEXT                * 00035000
    03 DSQ-Q-MESSAGE-TEXT PIC X(128).                           00036000
*                               QMF QUERY MESSAGE TEXT          * 00037000
*                               512 BYTES TOTAL                 * 00038000
                                                                00039000
                                                                00040000
* VALUES FOR DSQ-RETURN-CODE                                   00041000
                                                                00042000
    01 DSQ-SUCCESS PIC 9(8) USAGE IS COMP VALUE 0.            00043000
    01 DSQ-WARNING PIC 9(8) USAGE IS COMP VALUE 4.             00044000
    01 DSQ-FAILURE PIC 9(8) USAGE IS COMP VALUE 8.             00045000
    01 DSQ-SEVERE PIC 9(8) USAGE IS COMP VALUE 16.             00046000
                                                                00047000
* VALUES FOR DSQ-INSTANCE-ID                                   00048000
                                                                00049000
    01 DSQ-CONTINUE PIC 9(8) USAGE IS COMP VALUE 0.            00050000

```

図 44. DSQCOMMB、COBOL 連絡域 (1/2)

COBOL 言語インターフェース

```
00051000
* VALUES FOR DSQ-COMM-LEVEL          00052000
00053000
01 DSQ-CURRENT-COMM-LEVEL PIC X(12) VALUE "DSQL>001002<". 00054000
00055000
* VALUES FOR DSQ-PRODUCT             00056000
00057000
01 DSQ-QRW          PIC X(2) VALUE "01". 00058000
01 DSQ-QMF          PIC X(2) VALUE "02". 00059000
01 DSQ-QM4          PIC X(2) VALUE "03". 00060000
00061000
* VALUES FOR DSQ-PRODUCT-RELEASE     00062000
00063000
01 DSQ-QRW-V1R2    PIC X(2) VALUE "01". 00064000
01 DSQ-QRW-V1R3    PIC X(2) VALUE "02". 00065000
01 DSQ-QMF-V2R4    PIC X(2) VALUE "01". 00066000
01 DSQ-QMF-V3R1    PIC X(2) VALUE "02". 00067000
01 DSQ-QMF-V3R1M1 PIC X(2) VALUE "03". 00068000
01 DSQ-QMF-V3R2    PIC X(2) VALUE "04". 00069000
01 DSQ-QMF-V3R3    PIC X(2) VALUE "05". 00070000
01 DSQ-QMF-V6R1    PIC X(2) VALUE "06". 00071000
01 DSQ-QM4-V1R1    PIC X(2) VALUE "01". 00072000
00073000
* VALUES FOR DSQ-CANCEL-INDE         00074000
00075000
01 DSQ-CANCEL-YES  PIC X(1) VALUE "1". 00076000
01 DSQ-CANCEL-NO  PIC X(1) VALUE "0". 00077000
00078000
* VALUES FOR MODE                     00079000
00080000
01 DSQ-INTERACTIVE PIC X(1) VALUE "1". 00081000
01 DSQ-BATCH        PIC X(1) VALUE "2". 00082000
00083000
* VALUES YES AND NO                   00084000
00085000
01 DSQ-YES          PIC X(1) VALUE "1". 00086000
01 DSQ-NO           PIC X(1) VALUE "2". 00087000
00088000
* CALLABLE INTERFACE PROGRAM NAME      00089000
00090000
01 DSQCIB           PIC X(6) VALUE "DSQCIB". 00091000
00092000
* VALUES FOR VARIABLE TYPE ON CALL PARAMETER 00093000
00094000
01 DSQ-VARIABLE-CHAR PIC X(4) VALUE "CHAR". 00095000
01 DSQ-VARIABLE-FINT PIC X(4) VALUE "FINT". 00096000
```

図 44. DSQCOMMB、COBOL 連絡域 (2/2)

COBOL 呼び出し可能インターフェース・プログラムの実行に関する考慮事項

QMF 呼び出し可能インターフェースを使用するプログラムを変換し、コンパイルし、リンク・エディットする場合、以下のことについて考慮してください。

- 実行環境

QMF は、COBOL 環境ではアセンブラー・サブプログラムとして実行されます。COBOL プログラムは、COBOL 動的呼び出しを使用して、QMF インターフェース・プログラム DSQCIB を CALL する必要があります。

- 引用符またアポストロフィ

COBOL プログラム内では、リテラルを区切るために引用符 (") またはアポストロフィ (') を使用する必要があります。CICS 変換プロセスおよび COBOL コンパイラーに対して、使用する区切り文字を示すために、QUOTE または APOST を指定してください。COBOL コンパイラーで有効な APOST または QUOTE オプションが、CICS 変換プログラムでも有効であることを確認してください。

QMF によって配布される連絡域 DSQCOMMB およびサンプル COBOL プログラム DSQABFCO は、リテラルの区切り文字として引用符を使用しています。インストール先またはユーザーのプログラムでアポストロフィを使用している場合、QMF によって配布された DSQCOMMB を変更するか、または引用符をアポストロフィに変更して、構造をプログラムにコピーしてください。

- 通信マクロ DSQCOMMB

連絡域 DSQCOMMB が COBOL コンパイル・ステップで使用可能であるか、またはそれを制御構造としてプログラムにコピーする必要があります。

- インターフェース・モジュール DSQCIB

プログラムのリンク・エディット・フェーズで QMF インターフェース・モジュールが使用可能でなければなりません。

CICS での COBOL プログラムの実行

プログラムを作成した後、実行する前に、必要に応じて、変換し、コンパイルし、リンク・エディットしなければなりません。この節でリストしたプログラムは、このために必要なステップを示しています。

この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

COBOL 言語インターフェース

MVS での CICS の場合の変換、コンパイル、およびリンク・エディット

次の例は、COBOL をサポートする、CICS 提供のプロシージャー DFHEBTVL を示しています。CICS 内で使用するためにプログラムを変換する方法については、CICS ライブラリーを参照してください。

```
//samCOBOL JOB
//          EXEC PROC=DFHEBTVL
//TRN.SYSIN DD *
*CBL      XOPTS(CICS translator options ...QUOTE COBOL2)
          .
          Your program or copy of QMF sample DSQABFCO
          .
/*
/** Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMMB
//COB.SYSLIB DD DSN=QMF710.SDSQSAPE,DISP=SHR
/** Provide Access to QMF Interface Module
//LKED.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//LKED.SYSIN DD *
          INCLUDE CICSLOAD(DFHECI)
          INCLUDE QMFLOAD(DSQCIB)
          ORDER DFHECI
          ENTRY samCOBOL
          MODE AMODE(31) RMODE(ANY)
          NAME samCOBOL(R)
/*
```

図 45. CICS 変換プログラム、COBOL コンパイラー、リンケージ・エディターの実行用 JCL

VSE での CICS の場合の変換、コンパイル、およびリンク・エディット

199ページの図46 の VSE ジョブ制御は、COBOL プログラムを VSE で実行中の CICS にインストールする例です。COBOL プログラムを変換およびコンパイルする方法については、CICS ライブラリーを参照してください。

この例は、QMF と共に出荷され、DSQ3CICO.Z という名前で QMF サブライブラリーに置かれています。

```

* $$ JOB JNM=DSQ3CICO,DISP=D,CLASS=0
// JOB DSQ3CICO   Sample job to Install QMF Callable Interface (COBOL)
* -----
*   Install QMF Callable Interface Example (COBOL)
* -----
// SETPARM VOLID=volid           *-- update volid for syspch
// SETPARM START=rtrk           *-- update start track/block (syspch)
// SETPARM SIZE=ntrks           *-- update number of tracks/blocks (syspch)
* -----
// DLBL   IJSYSPH,'CICS.TRANSLAT.OUTPUT',0
// EXTENT SYSPCH,,1,0,&START,&SIZE
ASSGN SYSPCH,DISK,VOL=&VOLID,SHR
* Library search chain must contain the QMF, CICS and COBOL sublibrary
// LIBDEF *,SEARCH=(PRD2.PROD,PRD1.BASE,PRD2.CONFIG)
// LIBDEF PHASE,CATALOG=PRD2.PROD
* -----
* Step 1: Translate callable interface program (COBOL)
* -----
* You may need to update or remove the SLI statement for your program.
* -----
// EXEC   DFHECP1$,SIZE=256K,PARM='XOPTS(CICS,QUOTE)'
* $$ SLI MEM=DSQABFCO.Z,S=PRD2.PROD
/*
* -----
* Step 2: Compile callable interface program (COBOL)
* -----
CLOSE SYSPCH,00D
// DLBL   IJSYSIN,'CICS.TRANSLAT.OUTPUT',0
// EXTENT SYSIPT
ASSGN SYSIPT,DISK,VOL=&VOLID,SHR
// OPTION NODECK,CATAL
      PHASE DSQABFCO,*
          INCLUDE DFHECI
// EXEC   IGYCRCTL,PARM='SZ(MAX),OBJECT,MAP,RES,NODYNAM,QUOTE,LIB,RENT'
CLOSE SYSIPT,SYSRDR
/*
* -----
* Step 3: Link-edit callable interface program (COBOL)
* -----
// EXEC   LNKEDT,PARM='AMODE=31,RMODE=ANY'
/*
/&
// JOB   RESET
ASSGN SYSIPT,SYSRDR   IF 1A93D, CLOSE SYSIPT,SYSRDR
ASSGN SYSPCH,00D     IF 1A93D, CLOSE SYSPCH,00D
/&
* $$ E0J

```

図 46. CICS/VSE 変換プログラム、COBOL コンパイラー、およびリンケージ・エディターの実行用のジョブ制御

VM の CMS のもとでのプログラムのコンパイルと実行

次のプログラムは、IBM COBOL コンパイラを使用して呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイルし実行します。

この例の REXX EXEC は QMF では出荷されませんが、ここからコピーして、インストール先に合うように変更することができます。

```
/******  
/* Compile your COBOL program and run it. */  
/******  
TRACE off  
ADDRESS CMS  
/******  
/* Access COBOL product disk using a program, PRODUCT, that you */  
/* write. */  
/******  
"EXEC PRODUCT COBOL"  
/******  
/* Get QMF DSQCOMM into a macro library and set GLOBAL compile */  
/* maclibs. */  
/******  
"ERASE TEMPP MACLIB A"  
"MACLIB GEN TEMPP DSQCOMMB"  
Maclist = "TEMPP VSC2MAC COB2MLIB COB2PLIB DMSSP CMSLIB OSMACRO"  
"GLOBAL MACLIB" Maclist  
/******  
/* Compile the program */  
/******  
"GLOBAL TXTLIB SCEELKED"  
"COBOL2 yourname (LIB RESIDENT LIST RENT DYNAM"
```

図 47. CMS で COBOL をコンパイルし実行するためのプログラム (1/2)

```

/*****
/* Access SQL/DS and initialize database */
/*****
"EXEC PRODUCT SQLDS"
"EXEC SQLINIT DBNAME(SQLDBA)"
/*****
/* Access GDDM product disk */
/*****
"EXEC PRODUCT GDDM"
/*****
/* Issue Filedefs for QMF product */
/*****
/* DEBUG = DDNAME FOR QMF DIAGNOSTICS OUTPUT */
"FILEDEF DSQDEBUG PRINTER ( LRECL 80 BLKSIZE 80 RECFM FBA PERM"
/* PRINT = DDNAME FOR QMF PRINTED OUTPUT */
"FILEDEF DSQPRINT PRINTER ( LRECL 133 BLKSIZE 133 RECFM FBA PERM"
/* EDIT = DDNAME FOR QMF EDIT TRANSFER FILE */
"FILEDEF DSQEDIT DISK QMFEDIT FILE A (PERM"
/* DSQSIDE = DDNAME FOR QMF SPILL FILE */
"FILEDEF DSQSPILL DISK DSQSIDE DATA A1 (PERM"
/* DSQPNLE = DDNAME FOR PANEL FILE */
"FILEDEF DSQPNLE DISK DSQPNLE FILE * (PERM"
"FILEDEF ISPLLIB CLEAR"
"FILEDEF ISPLLIB DISK DSQDLIB LOADLIB *"
/*****
/* Provide access to QMF and COBOL program libraries */
/*****
"GLOBAL LOADLIB DSQDLIB VSC2LOAD"
"GLOBAL TXTLIB VSC2LTXT ADMRLIB ADMPLIB ADMGLIB SCEELKED"
Say "Starting to run COBOL program"
"RUN yourname"
Exit 0

```

図 47. CMS で COBOL をコンパイルし実行するためのプログラム (2/2)

TSO での COBOL プログラムの実行

以下の節には、COBOL コンパイラーとリンケージ・エディターを実行するサンプル JCL、および ISPF を使用する場合と使用しない場合に、TSO 内でコンパイル済みプログラムを実行するためのサンプル・プログラムがあります。

TSO でのコンパイルとリンク・エディット

次のジョブは、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイルするために、COBOL コンパイラーを使用しています。次に、アプリケーションをリンク・エディットしています。いくつかのパラメーターは、インストール先によって異なることがあります。詳細については、インストール先の QMF 管理者にお問い合わせください。

COBOL 言語インターフェース

```
//samCOBOL JOB
//STEP1 EXEC PROC=IGYWCL
/** Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMM
//COBOL.SYSLIB DD DSN=QMF710.SAMPLIB,DISP=SHR
//COBOL.SYSIN DD *
        .
        Your program or copy of QMF sample DSQABFCO
        .
/**
/** Provide Access to QMF Interface Module
//LKED.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//LKED.SYSIN DD *
        INCLUDE QMFLOAD(DSQCIB)
        ENTRY samCOBOL
        MODE AMODE(31) RMODE(ANY)
        NAME samCOBOL(R)
/**
```

図 48. COBOL コンパイラーとリンケージ・エディターの実行のための JCL

ISPF を使用しない TSO でのプログラムの実行

ユーザーのプログラムを正常にコンパイルした後、実行するには、次のようなプログラムを作成します。

```

PROC 0
CONTROL ASIS
/*****/
/* Note: QMF, DB2, GDDM and COBOL load libraries must be */
/* allocated before running this CLIST. */
/* Name of QMF load library is "QMF710.SDSQLOAD". */
/*****/
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****/
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****/
/* Datasets used by TSO */
/*****/
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****/
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****/
ALLOC FI(ADMGMGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM) DA('QMF710.DSQCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****/
/* Datasets used by QMF */
/*****/
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****/
/* Start your program using TSO CALL command */
/*****/
CALL samCOBOL
EXIT CODE(0)

```

図 49. COBOL コンパイラーとリンケージ・エディターの実行のための JCL

ISPF のもとでの TSO でのプログラムの実行

ユーザーのプログラムを正常にコンパイルした後、実行するには、次のようなプログラムを作成します。

COBOL 言語インターフェース

```
PROC 0
CONTROL ASIS
/*****
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****
/* Datasets used by TSO */
/*****
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE','ISR.ISRCLIB')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****
/* Datasets used by ISPF */
/*****
ALLOC FI(ISPLLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQLOAD','ADM.GDDMLoad','DSN.DSNEXIT','DSN.DSNLOAD', +
        'PRDUCT.COB2LIB')
ALLOC FI(ISPMLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQMLBE','ISR.ISRMLIB','ISP.ISPMLIB')
ALLOC FI(ISPPLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQPLBE','ISR.ISRPLIB','ISP.ISPPLIB')
ALLOC FI(ISPSLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQSLBE','ISR.ISRSLIB','ISP.ISPSLIB')
ALLOC FI(ISPTLIB) SHR REUSE +
    DA('ISR.ISRTLIB','ISP.ISPTLIB')
/*****
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****
ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQUCFRM) DA('QMF710.DSQUCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****
/* Datasets used by QMF */
/*****
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****
/* Start your program as the initial ISPF dialog */
/*****
ISPSTART PGM(samCOBOL) NEWAPPL(DSQE)
EXIT CODE(4)
```

図 50. ISPF のもとの TSO でのプログラム実行のための CLIST

EXIT CODE(4) は、ISPF 後処理パネルの表示を抑止します。

FORTRAN 言語インターフェース

ここに示した FORTRAN 呼び出し可能インターフェースは、他の SAA 言語のインターフェースに対応しています。

CICS ユーザーへの注

FORTRAN は CICS のもとでは使えないので、FORTRAN 用の QMF 呼び出し可能インターフェースは、CICS のもとでは機能しません。

FORTRAN 用のインターフェース連絡域マッピング (DSQCOMMF)

DSQCOMMF は FORTRAN 用の DSQCOMM マッピングであり、プロダクトと共に出荷されます。表18 は、ユーザーが変更してはならない DSQCOMMF の情報を示しています。

表 18. インターフェース連絡域 DSQCOMMF

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ_RETURN_CODE	INTEGER	QMF コマンドの実行後の状況を示す。値は次のとおり。 DSQ_SUCCESS 要求が正常に実行された。 DSQ_WARNING 警告を伴って終了した。 DSQ_FAILURE コマンドが正しく実行されなかった。 DSQ_SEVERE 重大エラー。QMF セッションが終了した。
DSQ_INSTANCE_ID	INTEGER	START コマンドの実行時に、QMF によって設定される ID
DSQ_COMM_LEVEL	CHARACTER(12)	DSQCOMM のレベルを識別する。QMF START コマンドを出す前に、DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL の値に設定する必要がある。
DSQ_PRODUCT	CHARACTER(2)	使用中の IBM 照会プロダクトを識別する。

FORTRAN 言語インターフェース

表 18. インターフェース連絡域 DSQCOMM (続き)

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ_PRODUCT_RELEASE	CHARACTER(2)	使用中の照会プロダクトのリリース・レベルを識別する。
DSQ_RESERVE1	CHARACTER(28)	将来の使用のために予約されている。
DSQ_MESSAGE_ID	CHARACTER(8)	完了メッセージ ID
DSQ_Q_MESSAGE_ID	CHARACTER(8)	照会メッセージ ID
DSQ_START_PARM_ERROR	CHARACTER(8)	パラメーター・エラーのために START が失敗したときの、エラーがあるパラメーター
DSQ_CANCEL_IND	CHARACTER(1)	QMF コマンドの実行中にユーザーが取り消したかどうかによって、以下の 2 つの値のいずれかが入る。 DSQ_CANCEL_YES CHARACTER(1) DSQ_CANCEL_NO CHARACTER(1)
DSQ_RESERVE2	CHARACTER(23)	将来の使用のために予約されている。
DSQ_RESERVE3	CHARACTER(156)	将来の使用のために予約されている。
DSQ_MESSAGE_TEXT	CHARACTER(128)	完了メッセージ・テキスト
DSQ_Q_MESSAGE_TEXT	CHARACTER(128)	照会メッセージ・テキスト

FORTRAN 用の関数呼び出し

QMF には、FORTRAN 言語用に DSQCIF と DSQCIFE という 2 つの関数呼び出しが用意されています。2 つの呼び出しは、通信マクロ DSQCOMM に記述されています。

DSQCIF

この呼び出しは、アプリケーション・プログラム変数にアクセスする必要がない QMF コマンド用です。大部分の QMF コマンドに、この呼び出しを使用します。

```
RC = DSQCIF(DSQCOMM,  
+   CMDLTH,  
+   CMDSTR)
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。これは、整数パラメータです。

CMDSTR

実行する QMF コマンド。これは、CMDLTH によって指定した長さの大文字のストリングです。

DSQCIFE

この呼び出しには、アプリケーション・プログラム変数へのアクセスが必要な 3 つのコマンド (START および拡張フォーマットの GET GLOBAL と SET GLOBAL) 用の拡張構文があります。

この呼び出しの構文は次のとおりです。

```
RC = DSQCIFE(DSQCOMM,
+   CMDLTH,
+   CMDSTR,
+   PNUM,
+   KLTH,
+   KWORD,
+   VLTH,
+   VALUE,
+   VTYPE)
```

各パラメータには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。整数パラメータ

CMDSTR

実行する QMF コマンド。これは、CMDLTH によって指定した長さの大文字のストリングです。

PNUM

コマンド・キーワード数。これは、整数パラメータです。

KLTH

指定する各キーワードの長さ。これは、整数パラメータまたはパラメータの配列です。

KWORD

QMF キーワード (単数または複数)。各キーワードは、KLTH によって指定した長さの文字または文字の構造です。すべてのキーワードの長さが同

FORTRAN 言語インターフェース

じ場合、文字の配列を使用することができます。QMF は、キーワードが連続記憶域にあり、特殊な区切り文字によって区切られていないと想定します。

VLTH

キーワードに関連する各値の長さ。整数パラメーターまたはパラメーターの配列。

VALUE

各キーワードに関連する値。この値のタイプを `VTTYPE` パラメーターに指定します。この値は、文字、文字の構造、整数パラメーター、またはパラメーターの配列のいずれかです。文字値の場合、QMF は、値が連続記憶域にあり、特殊な区切り文字によって区切られていないと想定します。

VTTYPE

値ストリング `VALUE` の QMF データ・タイプ。VTTYPE の値は、通信マクロ `DSQCOMMV` に提供されている以下の 2 つの値のいずれかです。

文字値を示す `DSQ_VARIABLE_CHAR`。

整数値を示す `DSQ_VARIABLE_FINT`。

`VALUE` フィールドに指定したすべての値のデータ・タイプを、VTTYPE に指定する必要があります。

FORTRAN プログラミングの例

次のプログラム `DSQABFF` は、QMF と共に出荷され、VS FORTRAN を使用します。

サンプル・ソース・コード・リストをここで見ることも、オンラインでアクセスすることもできます。OS/390 の場合、サンプル・プログラムはライブラリー `QMF710.SDSQSAPE` のメンバーです。VM の場合、サンプル・プログラムはプロダクション・ディスクにあります。

FORTRAN 言語呼び出し可能インターフェースのサンプル・プログラムは、以下の機能を実行します。

- QMF を開始する。
- 3 つのグローバル変数を設定する。
- Q1 と呼ばれる照会を実行する。
- 書式 F1 を使用して結果の報告書を印刷する。
- QMF セッションを終了する。

照会 Q1 または 書式 F1 は QMF では提供されませんが、サンプル・プログラムは、これらのオブジェクトを使用しています。

この節では、呼び出し可能インターフェースを使用する FORTRAN プログラムをコンパイルし、リンク・エディットし、実行する方法も示します。この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

```

C*****
C Sample Program: dsqabff
C FORTRAN Version of SAA Query Manager Callable Interface
C
C Creation Date: 11/21/89
C
C ENVIRONMENT:    API IN FORTRAN
C*****
C
C Processing:
C     a. Start a Query Manager Session using the Callable Interface.
C
C     b. Set Global Query Manager numeric variables.
C
C     d. Run a Query Manager query using the Callable Interface.
C
C     e. Print a report using the Callable Interface.
C
C     f. Exit the Query Manager Session.
C

```

図 51. DSQABFF、サンプル FORTRAN プログラム (1/5)

FORTRAN 言語インターフェース

```
C Prerequisites:1. Create the SAMPLE database.
C
C           2. Create a prompted query, Q1, which has a SELECT state
C
C           3. Create a form, F1, that displays data for query Q1.
C
C*****
      PROGRAM DSQABFF
C*****
C Include and declare query interface communications area
C*****
      INCLUDE (DSQCOMM)
C*****
C Query interface command lengths and commands
C*****
      INTEGER COMMAND_LENGTH
      CHARACTER START_QUERY_INTERFACE*5,
+             SET_GLOBAL_VARIABLES*10,
+             RUN_QUERY*12,
+             PRINT_REPORT*22,
+             END_QUERY_INTERFACE*4
C*****
C Query command extension, number of parameters and lengths
C*****
      INTEGER NUMBER_OF_PARAMETERS,
+             KEYWORD_LENGTHS(10),
+             DATA_LENGTHS(10)
C*****
C Variable data type constants
C*****
      CHARACTER CHAR_DATA_TYPE*4,
+             INT_DATA_TYPE*4
C*****
C Keyword parameter and value for START command
C*****
      CHARACTER*8  START_KEYWORDS(1)
      CHARACTER*11 START_KEYWORD_VALUES(1)
```

図 51. DSQABFF、サンプル FORTRAN プログラム (2/5)

```

C*****
C  Keyword parameter and values for SET command
C*****
      CHARACTER    SET_KEYWORDS(19)
      CHARACTER    SET_KEYWORD_1*7,
+               SET_KEYWORD_2*5,
+               SET_KEYWORD_3*7

      EQUIVALENCE (SET_KEYWORDS( 1), SET_KEYWORD_1),
+               (SET_KEYWORDS( 8), SET_KEYWORD_2),
+               (SET_KEYWORDS(13), SET_KEYWORD_3)

      CHARACTER    SET_VALUES(12)
      INTEGER*4    SET_VALUE_1,
+               SET_VALUE_2,
+               SET_VALUE_3

      EQUIVALENCE (SET_VALUES(1), SET_VALUE_1),
+               (SET_VALUES(5), SET_VALUE_2),
+               (SET_VALUES(9), SET_VALUE_3)

C*****
C  Declare command length and return code variables
C*****
      INTEGER      LEN,
+               RC

C*****
C  Initialization
C*****

      DATA START_QUERY_INTERFACE /'START' /
      DATA SET_GLOBAL_VARIABLES /'SET GLOBAL' /
      DATA RUN_QUERY /'RUN QUERY Q1' /
      DATA PRINT_REPORT /'PRINT REPORT (FORM=F1)'/
      DATA END_QUERY_INTERFACE /'EXIT' /

      DATA CHAR_DATA_TYPE /DSQ_VARIABLE_CHAR /
      DATA INT_DATA_TYPE /DSQ_VARIABLE_FINT /
    
```

図 51. DSQABFF、サンプル FORTRAN プログラム (3/5)

FORTRAN 言語インターフェース

```
C*****
C   Start Query Session
C*****

      DSQ_COMM_LEVEL = DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL
      NUMBER_OF_PARAMETERS = 1
      COMMAND_LENGTH = LEN(START_QUERY_INTERFACE)
      KEYWORD_LENGTHS(1) = LEN(START_KEYWORDS(1))
      DATA_LENGTHS(1) = LEN(START_KEYWORD_VALUES(1))
      START_KEYWORDS(1) = 'DSQSMODE'
      START_KEYWORD_VALUES(1) = 'INTERACTIVE'

      RC = DSQCIFE(DSQCOMM,
+               COMMAND_LENGTH,
+               START_QUERY_INTERFACE,
+               NUMBER_OF_PARAMETERS,
+               KEYWORD_LENGTHS,
+               START_KEYWORDS,
+               DATA_LENGTHS,
+               START_KEYWORD_VALUES,
+               CHAR_DATA_TYPE)

C*****
C   Set numeric values into query using SET command
C*****

      NUMBER_OF_PARAMETERS = 3
      COMMAND_LENGTH = LEN(SET_GLOBAL_VARIABLES)
      SET_KEYWORD_1 = 'MYVAR01'
      SET_KEYWORD_2 = 'SHORT'
      SET_KEYWORD_3 = 'MYVAR03'
      KEYWORD_LENGTHS(1) = LEN(SET_KEYWORD_1)
      KEYWORD_LENGTHS(2) = LEN(SET_KEYWORD_2)
      KEYWORD_LENGTHS(3) = LEN(SET_KEYWORD_3)
      DATA_LENGTHS(1) = 4
      DATA_LENGTHS(2) = 4
      DATA_LENGTHS(3) = 4
      SET_VALUE_1 = 20
      SET_VALUE_2 = 40
      SET_VALUE_3 = 84

      RC = DSQCIFE(DSQCOMM,
+               COMMAND_LENGTH,
+               SET_GLOBAL_VARIABLES,
+               NUMBER_OF_PARAMETERS,
+               KEYWORD_LENGTHS,
+               SET_KEYWORDS,
+               DATA_LENGTHS,
+               SET_VALUES,
+               INT_DATA_TYPE)
```

図 51. DSQABFF、サンプル FORTRAN プログラム (4/5)


```

C*****
C  Run a query
C*****
      COMMAND_LENGTH = LEN(RUN_QUERY)
      RC = DSQCIF(DSQCOMM,
+             COMMAND_LENGTH,
+             RUN_QUERY)

C*****
C  Print the results of the query
C*****
      COMMAND_LENGTH = LEN(PRINT_REPORT)
      RC = DSQCIF(DSQCOMM,
+             COMMAND_LENGTH,
+             PRINT_REPORT)

C*****
C  End the query interface session
C*****
      COMMAND_LENGTH = LEN(END_QUERY_INTERFACE)
      RC = DSQCIF(DSQCOMM,
+             COMMAND_LENGTH,
+             END_QUERY_INTERFACE)

      END

```

図 51. DSQABFF、サンプル FORTRAN プログラム (5/5)

FORTRAN 用の DSQCOMM

このファイルは DSQCOMM.F と呼ばれ、QM.F と共に出荷されます。

FORTRAN 言語インターフェース

```

C***** 00001000
C   FORTRAN include file for Callable Interface (MVS/VM) 00002000
C***** 00003000
C   Return codes 00004000
C   INTEGER DSQ_SUCCESS, DSQ_WARNING, DSQ_FAILURE, DSQ_SEVERE 00005000
C   PARAMETER( 00006000
C   +   DSQ_SUCCESS = 0, 00007000
C   +   DSQ_WARNING = 4, 00008000
C   +   DSQ_FAILURE = 8, 00009000
C   +   DSQ_SEVERE = 16) 00010000
C   00011000
C   Communications level 00012000
C   CHARACTER DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL*12 00013000
C   PARAMETER( 00014000
C   +   DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL = 'DSQL>001002<') 00015000
C   00016000
C   Query product IDs 00017000
C   CHARACTER DSQ_QRW*2, DSQ_QMF*2, DSQ_QM4*2 00018000
C   PARAMETER( 00019000
C   +   DSQ_QRW = '01', 00020000
C   +   DSQ_QMF = '02', 00021000
C   +   DSQ_QM4 = '03') 00022000
C   00023000
C   Query product release levels 00024000
C   CHARACTER DSQ_QRW_V1R2*2, DSQ_QRW_V1R3*2, 00025000
C   +   DSQ_QMF_V2R4*2, DSQ_QMF_V3R1*2, 00026000
C   +   DSQ_QMF_V3R1M1*2, DSQ_QMF_V3R2*2, 00027000
C   +   DSQ_QMF_V3R3*2, DSQ_QMF_V6R1*2, 00028000
C   +   DSQ_QM4_V1R1*2 00029000
C   PARAMETER( 00030000
C   +   DSQ_QRW_V1R2 = '01', 00031000
C   +   DSQ_QRW_V1R3 = '02', 00032000
C   +   DSQ_QMF_V2R4 = '01', 00033000
C   +   DSQ_QMF_V3R1 = '02', 00034000
C   +   DSQ_QMF_V3R1M1 = '03', 00035000
C   +   DSQ_QMF_V3R2 = '04', 00036000
C   +   DSQ_QMF_V3R3 = '05', 00037000
C   +   DSQ_QMF_V6R1 = '06', 00038000
C   +   DSQ_QM4_V1R1 = '01') 00039000
C   00040000
C   Host variable types 00041000
C   CHARACTER DSQ_VARIABLE_CHAR*4, DSQ_VARIABLE_FINT*4 00042000
C   PARAMETER( 00043000
C   +   DSQ_VARIABLE_CHAR = 'CHAR', 00044000
C   +   DSQ_VARIABLE_FINT = 'FINT') 00045000
C   00046000
C   Cancel indicator 00047000
C   CHARACTER DSQ_CANCEL_YES, DSQ_CANCEL_NO 00048000
C   PARAMETER( 00049000
C   +   DSQ_CANCEL_YES = '1', 00050000
C   +   DSQ_CANCEL_NO = '0') 00051000
C   00052000
C   CHARACTER DSQCOMM(512) 00053000

```

図 52. DSQCOMM、FORTRAN 連絡域 (1/2)

INTEGER	DSQ_RETURN_CODE, DSQ_INSTANCE_ID	00054000
CHARACTER	DSQ_COMM_LEVEL*12,	00055000
+	DSQ_PRODUCT*2,	00056000
+	DSQ_PRODUCT_RELEASE*2,	00057000
+	DSQ_RESERVE1*28,	00058000
+	DSQ_MESSAGE_ID*8,	00059000
+	DSQ_Q_MESSAGE_ID*8,	00060000
+	DSQ_START_PARAM_ERROR*8,	00061000
+	DSQ_CANCEL_IND*1,	00062000
+	DSQ_RESERVE2*23,	00063000
+	DSQ_RESERVE3*156,	00064000
+	DSQ_MESSAGE_TEXT*128,	00065000
+	DSQ_Q_MESSAGE_TEXT*128	00066000
		00067000
EQUIVALENCE	(DSQCOMM(1), DSQ_RETURN_CODE),	00068000
+	(DSQCOMM(5), DSQ_INSTANCE_ID),	00069000
+	(DSQCOMM(9), DSQ_COMM_LEVEL),	00070000
+	(DSQCOMM(21), DSQ_PRODUCT),	00071000
+	(DSQCOMM(23), DSQ_PRODUCT_RELEASE),	00072000
+	(DSQCOMM(25), DSQ_RESERVE1),	00073000
+	(DSQCOMM(53), DSQ_MESSAGE_ID),	00074000
+	(DSQCOMM(61), DSQ_Q_MESSAGE_ID),	00075000
+	(DSQCOMM(69), DSQ_START_PARAM_ERROR),	00076000
+	(DSQCOMM(77), DSQ_CANCEL_IND),	00077000
+	(DSQCOMM(78), DSQ_RESERVE2),	00078000
+	(DSQCOMM(101), DSQ_RESERVE3),	00079000
+	(DSQCOMM(257), DSQ_MESSAGE_TEXT),	00080000
+	(DSQCOMM(385), DSQ_Q_MESSAGE_TEXT)	00081000
		00082000
C	Callable Interface Normal and Extended Calls	00083000
	EXTERNAL DSQCIF	00084000
	EXTERNAL DSQCIFE	00085000

図 52. DSQCOMM、FORTRAN 連絡域 (2/2)

VM の CMS のもとでのプログラムのコンパイルと実行

次のプログラムは、VS FORTRAN コンパイラーを使用して呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイルし実行します。この例の REXX EXEC は QMF では出荷されませんが、ここからコピーして、インストール先に合うように変更することができます。

FORTRAN 言語インターフェース

```
/* Compile your program and run it. */
TRACE off
ADDRESS CMS

/* Access FORTRAN product disk using a program, PRODUCT, that you
write. */
"EXEC PRODUCT FORTRAN"

/* Get QMF DSQCOMM into a macro library and set GLOBAL compile
maclibs. */
"ERASE TEMPP MACLIB A"
"MACLIB GEN TEMPP DSQCOMM"
MacList = "TEMPP VSF2PLIB VSF2MLIB DMSSP CMSLIB OSMACRO"
"GLOBAL MACLIB" MacList

/* Compile the program */
'FORTVS2 yourname (RENT OPT(0) XREF'

/* Access SQL/DS and initialize database */
"EXEC PRODUCT SQLDS"
"EXEC SQLINIT DBNAME(SQLDBA)"

/* Access GDDM product disk */
"EXEC PRODUCT GDDM"
```

図 53. ユーザーのプログラムをコンパイルし実行する REXX プログラム (1/2)

```

/*****/
/* Issue Filedefs for QMF product */
/*****/
/* DEBUG = DDNAME FOR QMF DIAGNOSTICS OUTPUT */
"FILEDEF DSQDEBUG PRINTER ( LRECL 80 BLKSIZE 80 RECFM FBA PERM"
/* PRINT = DDNAME FOR QMF PRINTED OUTPUT */
"FILEDEF DSQPRINT PRINTER ( LRECL 133 BLKSIZE 133 RECFM FBA PERM"
/* EDIT = DDNAME FOR QMF EDIT TRANSFER FILE */
"FILEDEF DSQEDIT DISK QMFEDIT FILE A (PERM"
/* DSQSIDE = DDNAME FOR QMF SPILL FILE */
"FILEDEF DSQSPILL DISK DSQSIDE DATA A1 (PERM"
/* DSQPNLE = DDNAME FOR PANEL FILE */
"FILEDEF DSQPNLE DISK DSQPNLE FILE * (PERM"
"FILEDEF ISPLLIB CLEAR"
"FILEDEF ISPLLIB DISK DSQLDLIB LOADLIB *"

/*****/
/* Provide access to QMF and FORTRAN program libraries */
/*****/
'GLOBAL LOADLIB VSF2LOAD DSQLDLIB'
'GLOBAL TXTLIB VSF2LINK VSF2FORT ADMRLIB ADMPLIB ADMGLIB'
Say "Starting to run FORTRAN program"
"RUN yourname"

Exit 0

```

図 53. ユーザーのプログラムをコンパイルし実行する REXX プログラム (2/2)

上記のプログラムは、インストール先に合うように変更する必要がある場合があります。

MVS の TSO のもとでのプログラムの実行

プログラムを作成した後、実行する前に必要に応じてコンパイルし、リンク・エディットしなければなりません。この節にリストしたプログラムは、このために必要なステップを示しています。

この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

TSO でのコンパイルとリンク・エディット

次のジョブは、MVS 用の VS FORTRAN コンパイラーを使用して、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイルしリンク・エディットします。いくつかのパラメーターは、インストール先によって異なることがあります。詳細については、インストール先の QMF 管理者にお問い合わせください。

FORTRAN 言語インターフェース

```
//samFORT    JOB
//STEP1      EXEC PROC=VSF2CL
/** Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMM
//FORT.SYSLIB DD DSN=QMF710.SAMPLIB,DISP=SHR
//FORT.SYSIN  DD *
                .
                Your program or copy of QMF sample DSQABFF
                .
/*
/** Provide Access to QMF Interface Module
//LKED.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//LKED.SYSIN   DD *
                INCLUDE QMFLOAD(DSQCIF)
                INCLUDE QMFLOAD(DSQCIFE)
                ENTRY  samFORT
                MODE   AMODE(31) RMODE(ANY)
                NAME   samFORT(R)
/*
```

図 54. FORTRAN コンパイラーとリンケージ・エディター実行のための JCL

ISPF を使用しない TSO でのプログラムの実行

次のプログラムは、VS FORTRAN コンパイラーを使用して呼び出し可能インターフェース・アプリケーションを実行します。いくつかのパラメーターは、インストール先によって異なることがあります。詳細については、インストール先の QMF 管理者にお問い合わせください。

```

PROC 0
CONTROL ASIS
/*****/
/* Note: QMF, DB2, GDDM and FORTRAN load libraries must be */
/* allocated before running this CLIST. */
/* Name of QMF load library is "QMF710.SDSQLOAD". */
/*****/
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****/
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****/
/* Datasets used by TSO */
/*****/
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****/
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****/
ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM) DA('QMF710.DSQCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****/
/* Datasets used by QMF */
/*****/
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****/
/* Start your program using TSO CALL command */
/*****/
CALL samFORT
EXIT CODE(0)

```

図 55. ISPF を使用しない TSO でのプログラム実行のための CLIST

ISPF のもとの TSO での実行

次のプログラムは、VS FORTRAN コンパイラーを使用して呼び出し可能インターフェース・アプリケーションを実行します。いくつかのパラメーターは、インストール先によって異なることがあります。詳細については、インストール先の QMF 管理者にお問い合わせください。

FORTRAN 言語インターフェース

```
PROC 0
CONTROL ASIS
/*****/
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****/
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****/
/* Datasets used by TSO */
/*****/
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE','ISR.ISRCLIB')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****/
/* Datasets used by ISPF */
/*****/
ALLOC FI(ISPLLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQLOAD','ADM.GDDMLoad','DSN.DSNEXIT','DSN.DSNLOAD', +
        'PRDUCT.VSF2LOAD')
ALLOC FI(ISPMLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQMLBE','ISR.ISRMLIB','ISP.ISPMLIB')
ALLOC FI(ISPPLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQPLBE','ISR.ISRPLIB','ISP.ISPPLIB')
ALLOC FI(ISPSLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQSLBE','ISR.ISRSLIB','ISP.ISPSLIB')
ALLOC FI(ISPTLIB) SHR REUSE +
    DA('ISR.ISRTLIB','ISP.ISPTLIB')
/*****/
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****/
ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM) DA('QMF710.DSQCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****/
/* Datasets used by QMF */
/*****/
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****/
/* Start your program as the initial ISPF dialog */
/*****/
ISPSTART PGM(samFORT) NEWAPPL(DSQE)
EXIT CODE(4)
```

図 56. ISPF のもとの TSO でのプログラム実行のための CLIST

EXIT CODE(4) は、ISPF 後処理パネルの表示を抑止します。

PL/I 言語インターフェース

PL/I 呼び出し可能インターフェースは、他の SAA 言語のインターフェースに対応しています。

CICS で QMF を使用するために必要な PL/I のリリース・レベルは、PL/I バージョン 2 以降です。PL/I バージョン 2 は VSE/ESA ではサポートされません。

PL/I 用のインターフェース連絡域マッピング (DSQCOMML)

DSQCOMML は PL/I 用の DSQCOMM マッピングであり、プロダクトと共に出荷されます。表19 は、DSQCOMML の各値を示しています。

表 19. DSQCOMML のインターフェース連絡域

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ_RETURN_CODE	FIXED BIN(31)	QMF コマンドの実行後の状況を示す。値は次のとおり。 DSQ_SUCCESS 要求が正常に実行された。 DSQ_WARNING 警告を伴って終了した。 DSQ_FAILURE コマンドが正しく実行されなかった。 DSQ_SEVERE 重大エラー。QMF セッションが終了した。
DSQ_INSTANCE_ID	FIXED BIN(31)	START コマンドの実行時に、QMF によって設定される ID
DSQ_COMM_LEVEL	CHAR(12)	DSQCOMM のレベルを識別する。QMF START コマンドを出す前に、DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL の値に設定する必要がある。
DSQ_PRODUCT	CHAR(2)	使用中の IBM 照会プロダクトを識別する。
DSQ_PRODUCT_RELEASE	CHAR(2)	使用中の照会プロダクトのリリース・レベルを識別する。
DSQ_RESERVE1	CHAR(28)	将来の使用のために予約されている。

PL/I 言語インターフェース

表 19. DSQCOMML のインターフェース連絡域 (続き)

構造名	データ・タイプ	説明
DSQ_MESSAGE_ID	CHAR(8)	完了メッセージ ID
DSQ_Q_MESSAGE_ID	CHAR(8)	照会メッセージ ID
DSQ_START_PARM_ERROR	CHAR(8)	パラメーター・エラーのために START が失敗したときの、エラーがあるパラメーター
DSQ_CANCEL_IND	CHAR(1)	QMF コマンドの実行中にユーザーが取り消したかどうかによって、以下の 2 つの値のいずれかが入る。 DSQ_CANCEL_YES DSQ_CANCEL_NO
DSQ_RESERVE2	CHAR(23)	将来の使用のために予約されている。
DSQ_RESERVE3	CHAR(156)	将来の使用のために予約されている。
DSQ_MESSAGE_TEXT	CHAR(128)	完了メッセージ・テキスト
DSQ_Q_MESSAGE_TEXT	CHAR(128)	照会メッセージ・テキスト

PL/I 用の関数呼び出し

QMF には、PL/I 用に DSQCIPL と DSQCIPX という 2 つの関数呼び出しが用意されています。2 つの呼び出しは、コミュニケーション・マクロ DSQCOMML に記述されています。

DSQCIPL の構文

この呼び出しは、アプリケーション・プログラム変数にアクセスする必要がない QMF コマンド用です。大部分の QMF コマンドに、この呼び出しを使用します。

```
CALL DSQCIPL(DSQCOMM,  
             CMDLTH,  
             CMDSTR)
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。

CMDSTR

実行する QMF コマンド。CMDLTH によって指定した長さの、大文字のストリングです。

DSQCIPX の構文

この呼び出しは、アプリケーション・プログラム変数へのアクセスが必要な 3 つのコマンド (START および拡張フォーマットの GET GLOBAL と SET GLOBAL) 用です。

この呼び出しの構文は次のとおりです。

```
CALL DSQCIPX(DSQCOMM,
             CMDLTH,
             CMDSTR,
             PNUM,
             KLTH,
             KWORD,
             VLTH,
             VALUE,
             VTYPE)
```

各パラメーターには以下の値が入ります。

DSQCOMM

インターフェース連絡域

CMDLTH

コマンド・ストリング CMDSTR の長さ。これは、整数 FIXED BIN(31) パラメーターです。

CMDSTR

実行する QMF コマンド。これは、CMDLTH によって指定した長さの大文字のストリングです。

PNUM

コマンド・キーワード数。これは、整数 FIXED BIN(31) パラメーターです。

KLTH

指定する各キーワードの長さ。これは、整数 FIXED BIN(31) パラメーターまたはパラメーターの配列です。

KWORD

QMF キーワード (単数または複数)。各キーワードは、KLTH によって指定した長さの文字または文字の構造です。すべてのキーワードの長さが同じ場合、文字の配列を使用することができます。QMF は、キーワードが連続記憶域にあり、特殊な区切り文字によって区切られていないと想定します。

VLTH

キーワードに関連する各値の長さ。これは、整数 FIXED BIN(31) パラメーターまたはパラメーターの配列です。

VALUE

各キーワードに関連する値。この値のタイプを VTYPE パラメーターに指定します。この値は、文字、文字の構造、整数 FIXED BIN(31) パラメーター、またはパラメーターの配列のいずれかです。文字値の場合、QMF は、値が連続記憶域にあり、特殊な区切り文字によって区切られていないと想定します。

VTYPE

値ストリング VALUE の QMF データ・タイプ。VTYPE の値は、通信マクロ DSQCOMML に提供されている以下の 2 つの値のいずれかです。

文字値を示す DSQ_VARIABLE_CHAR。

整数 FIXED BIN(31) 値を示す DSQ_VARIABLE_FINT。

VALUE フィールドに指定したすべての値のデータ・タイプを、VTYPE に指定する必要があります。

MVS での CICS ユーザー用の移行情報

DSQCIPL と DSQCIPLX 呼び出しは、バージョン 3 リリース 1 モディファイケーション・レベル 1 とバージョン 3 リリース 2 の間で変更されました。

QMF が提供する関数呼び出しとメイン QMF プログラム間のインターフェースが、CALL インターフェースから EXEC CICS LINK インターフェースに変更されました。新しいインターフェースは、ユーザー・プログラムと QMF プロダクトからの分離性が高くなっています。インターフェースが変更されたので、バージョン 3 リリース 1 またはそれより前から移行する場合、呼び出し可能インターフェースを使用したプログラムを再びリンク・エディットする必要があります。

PL/I プログラミングの例

次のサンプル・プログラム DSQABFP は、QMF と共に出荷され、IBM PL/I を使用します。

サンプル・ソース・コード・リストをここで見ることも、オンラインでアクセスすることもできます。

- VM の場合、サンプル・プログラムはプロダクション・ディスクにあります。
- OS/390 の場合、サンプル・プログラムはライブラリー QMF710.SDSQSAPE のメンバーです。
- CICS で QMF を使用するために必要な PL/I のリリース・レベルは、バージョン 2 以降です。PL/I バージョン 2 は VSE/ESA ではサポートされません。

PL/I 言語呼び出し可能インターフェースのサンプル・プログラムは、以下の機能を実行します。

- QMF を開始する。
- 3 つのグローバル変数を設定する。
- Q1 と呼ばれる照会を実行する。
- 書式 F1 を使用して結果の報告書を印刷する。
- QMF セッションを終了する。

照会 Q1 または 書式 F1 は QMF では提供されませんが、サンプル・プログラムは、これらのオブジェクトを使用しています。

この節では、呼び出し可能インターフェースを使用する PL/I プログラムをコンパイルし、リンク・エディットし、実行する方法も示します。この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

PL/I 言語インターフェース

```
DSQABFP: PROCEDURE OPTIONS(MAIN REENTRANT) REORDER;          00001000
/*****/ 00002000
/* Sample Program: DSQABFP */ 00003000
/* PL/I Version of the SAA Query Callable Interface */ 00004000
/*****/ 00005000
00006000
/*****/ 00007000
/* Include and declare query interface communications area */ 00008000
/*****/ 00009000
%INCLUDE SYSLIB(DSQCOMML); 00010000
00011000
/*****/ 00012000
/* Builtin function */ 00013000
/*****/ 00014000
DCL LENGTH BUILTIN; 00015000
00016000
/*****/ 00017000
/* Query interface command length and commands */ 00018000
/*****/ 00019000
DCL COMMAND_LENGTH FIXED BIN(31); 00020000
DCL START_QUERY_INTERFACE CHAR(5) INIT('START'); 00021000
DCL SET_GLOBAL_VARIABLES CHAR(10) INIT('SET GLOBAL'); 00022000
DCL RUN_QUERY CHAR(12) INIT('RUN QUERY Q1'); 00023000
DCL PRINT_REPORT CHAR(22) INIT('PRINT REPORT (FORM=F1)'); 00024000
DCL END_QUERY_INTERFACE CHAR(4) INIT('EXIT'); 00025000
00026000
/*****/ 00027000
/* Query command extension, number of parameters and lengths */ 00028000
/*****/ 00029000
DCL NUMBER_OF_PARAMETERS FIXED BIN(31);/* number of variables */ 00030000
DCL KEYWORD_LENGTHS(10) FIXED BIN(31);/* lengths of keyword names*/ 00031000
DCL DATA_LENGTHS(10) FIXED BIN(31);/* lengths of variable data*/ 00032000
00033000
```

図 57. DSQABFP、サンプル PL/I プログラム (1/3)

```

/*****/ 00034000
/* Keyword parameter and value for START command */ 00035000
/*****/ 00036000
DCL START_KEYWORDS CHAR(8) INIT('DSQSMODE'); 00037000
DCL START_KEYWORD_VALUES CHAR(11) INIT('INTERACTIVE'); 00038000
00039000
/*****/ 00040000
/* Keyword parameter and value for SET command */ 00041000
/*****/ 00042000
DCL 1 SET_KEYWORDS, 00043000
    3 SET_KEYWORDS_1 CHAR(7) INIT('MYVAR01'), 00044000
    3 SET_KEYWORDS_2 CHAR(5) INIT('SHORT'), 00045000
    3 SET_KEYWORDS_3 CHAR(7) INIT('MYVAR03'); 00046000
00047000
DCL 1 SET_VALUES, 00048000
    3 SET_VALUES_1 FIXED BIN(31), 00049000
    3 SET_VALUES_2 FIXED BIN(31), 00050000
    3 SET_VALUES_3 FIXED BIN(31); 00051000
00052000
/*****/ 00053000
/* Main program */ 00054000
/*****/ 00055000
DSQCOMM = ''; 00056000
DSQ_COMM_LEVEL = DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL; 00057000
00058000
/*****/ 00059000
/* Start a query interface session */ 00060000
/*****/ 00061000
NUMBER_OF_PARAMETERS = 1; 00062000
COMMAND_LENGTH = LENGTH(START_QUERY_INTERFACE); 00063000
KEYWORD_LENGTHS(1) = LENGTH(START_KEYWORDS); 00064000
DATA_LENGTHS(1) = LENGTH(START_KEYWORD_VALUES); 00065000
00066000
CALL DSQCIPX(DSQCOMM, 00067000
    COMMAND_LENGTH, 00068000
    START_QUERY_INTERFACE, 00069000
    NUMBER_OF_PARAMETERS, 00070000
    KEYWORD_LENGTHS, 00071000
    START_KEYWORDS, 00072000
    DATA_LENGTHS, 00073000
    START_KEYWORD_VALUES, 00074000
    DSQ_VARIABLE_CHAR); 00075000
00076000

```

図 57. DSQABFP、サンプル PL/I プログラム (2/3)

PL/I 言語インターフェース

```

/*****/ 00077000
/* Set numeric values into query using SET command */ 00078000
/*****/ 00079000
NUMBER_OF_PARAMETERS = 3; 00080000
COMMAND_LENGTH = LENGTH(SET_GLOBAL_VARIABLES); 00081000
KEYWORD_LENGTHS(1) = LENGTH(SET_KEYWORDS_1); 00082000
KEYWORD_LENGTHS(2) = LENGTH(SET_KEYWORDS_2); 00083000
KEYWORD_LENGTHS(3) = LENGTH(SET_KEYWORDS_3); 00084000
DATA_LENGTHS(1) = 4; 00085000
DATA_LENGTHS(2) = 4; 00086000
DATA_LENGTHS(3) = 4; 00087000
SET_VALUES_1 = 20; 00088000
SET_VALUES_2 = 40; 00089000
SET_VALUES_3 = 84; 00090000
00091000
CALL DSQCIPX(DSQCOMM, 00092000
              COMMAND_LENGTH, 00093000
              SET_GLOBAL_VARIABLES, 00094000
              NUMBER_OF_PARAMETERS, 00095000
              KEYWORD_LENGTHS, 00096000
              SET_KEYWORDS, 00097000
              DATA_LENGTHS, 00098000
              SET_VALUES, 00099000
              DSQ_VARIABLE_FINT); 00100000
00101000
/*****/ 00102000
/* Run a Query */ 00103000
/*****/ 00104000
COMMAND_LENGTH = LENGTH(RUN_QUERY); 00105000
00106000
CALL DSQCIPL(DSQCOMM, 00107000
             COMMAND_LENGTH, 00108000
             RUN_QUERY); 00109000
00110000
/*****/ 00111000
/* Print the results of the query */ 00112000
/*****/ 00113000
COMMAND_LENGTH = LENGTH(PRINT_REPORT); 00114000
00115000
CALL DSQCIPL(DSQCOMM, 00116000
             COMMAND_LENGTH, 00117000
             PRINT_REPORT); 00118000
00119000
/*****/ 00120000
/* End the query interface session */ 00121000
/*****/ 00122000
COMMAND_LENGTH = LENGTH(END_QUERY_INTERFACE); 00123000
00124000
CALL DSQCIPL(DSQCOMM, 00125000
             COMMAND_LENGTH, 00126000
             END_QUERY_INTERFACE); 00127000
00128000
END DSQABFP; 00129000
```

図 57. DSQABFP、サンプル PL/I プログラム (3/3)

PL/I 用の DSQCOMM

```

/*****/ 00001000
/* PL/I include for Query Callable Interface (MVS/VM) */ 00002000
/*****/ 00003000
00004000
/* Structure declare for Communications Area */ 00005000
DCL 00006000
1 DSQCOMM, 00007000
  3 DSQ_RETURN_CODE FIXED BIN(31), /* function return code */ 00008000
  3 DSQ_INSTANCE_ID FIXED BIN(31), /* start ID */ 00009000
  3 DSQ_COMM_LEVEL CHAR(12), /* communications level */ 00010000
  3 DSQ_PRODUCT CHAR(2), /* query product id */ 00011000
  3 DSQ_PRODUCT_RELEASE CHAR(2), /* query product release */ 00012000
  3 DSQ_RESERVE1 CHAR(28), /* reserved */ 00013000
  3 DSQ_MESSAGE_ID CHAR(8), /* completion message ID */ 00014000
  3 DSQ_Q_MESSAGE_ID CHAR(8), /* query message ID */ 00015000
  3 DSQ_START_PARM_ERROR CHAR(8), /* start parms in error */ 00016000
  3 DSQ_CANCEL_IND CHAR(1), /* cmd cancel indicator */ 00017000
/* 1 = cancelled, 0 = not cancelled*/ 00018000
  3 DSQ_RESERVE2 CHAR(23), /* reserved */ 00019000
  3 DSQ_RESERVE3 CHAR(156), /* reserved */ 00020000
  3 DSQ_MESSAGE_TEXT CHAR(128), /* QMF command message */ 00021000
  3 DSQ_Q_MESSAGE_TEXT CHAR(128); /* QMF query message */ 00022000
00023000
/* Return Codes */ 00024000
DCL 00025000
  DSQ_SUCCESS FIXED BIN(31) INIT(0) STATIC, 00026000
  DSQ_WARNING FIXED BIN(31) INIT(4) STATIC, 00027000
  DSQ_FAILURE FIXED BIN(31) INIT(8) STATIC, 00028000
  DSQ_SEVERE FIXED BIN(31) INIT(16) STATIC; 00029000
00030000
/* Communications Level */ 00031000
DCL 00032000
  DSQ_CURRENT_COMM_LEVEL CHAR(12) INIT('DSQL>001002<') STATIC; 00033000
00034000
/* Query Product ID */ 00035000
DCL 00036000
  DSQ_QRW CHAR(2) INIT('01') STATIC, 00037000
  DSQ_QMF CHAR(2) INIT('02') STATIC, 00038000
  DSQ_QM4 CHAR(2) INIT('03') STATIC; 00039000
00040000

```

図 58. DSQCOMM、PL/I 連絡域 (1/2)

PL/I 言語インターフェース

```

/* Query Product Release ID                                */ 00041000
DCL                                                         00042000
  DSQ_QRW_V1R2      CHAR(2) INIT('01') STATIC,           00043000
  DSQ_QRW_V1R3      CHAR(2) INIT('02') STATIC,           00044000
  DSQ_QMF_V2R4      CHAR(2) INIT('01') STATIC,           00045000
  DSQ_QMF_V3R1      CHAR(2) INIT('02') STATIC,           00046000
  DSQ_QMF_V3R1M1    CHAR(2) INIT('03') STATIC,           00047000
  DSQ_QMF_V3R2      CHAR(2) INIT('04') STATIC,           00048000
  DSQ_QMF_V3R3      CHAR(2) INIT('05') STATIC,           00049000
  DSQ_QMF_V6R1      CHAR(2) INIT('06') STATIC,           00050000
  DSQ_QM4_V1R1      CHAR(2) INIT('01') STATIC;           00051000
                                                         00052000

/* Cancelled Indicator                                    */ 00053000
DCL                                                         00054000
  DSQ_CANCEL_YES    CHAR(1) INIT('1') STATIC,           00055000
  DSQ_CANCEL_NO     CHAR(1) INIT('0') STATIC;           00056000
                                                         00057000

/* Variable Types                                         */ 00058000
DCL                                                         00059000
  DSQ_VARIABLE_CHAR CHAR(4) INIT('CHAR') STATIC,        00060000
  DSQ_VARIABLE_FINT  CHAR(4) INIT('FINT') STATIC;        00061000
                                                         00062000

/* Mode                                                   */ 00063000
DCL                                                         00064000
  DSQ_INTERACTIVE   CHAR(1) INIT('1') STATIC,           00065000
  DSQ_BATCH          CHAR(1) INIT('2') STATIC;           00066000
                                                         00067000

/* Yes or No                                             */ 00068000
DCL                                                         00069000
  DSQ_YES            CHAR(1) INIT('1') STATIC,           00070000
  DSQ_NO             CHAR(1) INIT('2') STATIC;           00071000
                                                         00072000

/* Query Interface Entry Point                           */ 00073000
DCL                                                         00074000
  DSQCIPL ENTRY (*, /* interface block                    */ 00075000
                  FIXED BIN(31), /* length of command */ 00076000
                  CHAR(*)) /* command string             */ 00077000
                  EXTERNAL OPTIONS(ASSEMBLER);           00078000
                                                         00079000
DCL
  DSQICIPX ENTRY (*, /* interface block                    */ 00080000
                  FIXED BIN(31), /* length of command */ 00081000
                  CHAR(*), /* command string     */ 00082000
                  FIXED BIN(31), /* # of command keywords */ 00083000
                  *, /* length of keyword  */ 00084000
                  *, /* keyword string    */ 00085000
                  *, /* length of value   */ 00086000
                  *, /* value of keyword  */ 00087000
                  CHAR(4)) /* data type of value     */ 00088000
                  EXTERNAL OPTIONS(ASSEMBLER);           00089000

```

図 58. DSQCOMML、PL/I 連絡域 (2/2)

CICS のもとでのプログラムの実行

プログラムは、作成した後、実行するにはコンパイルする必要があります。この節にリストした例は、そのために必要なステップを示しています。

この例の REXX EXEC、JCL、または CLIST は QMF では出荷されませんが、ここからコピーしてインストール先に合うように変更することができます。

MVS での CICS のもとでの変換、コンパイル、およびリンク・エディット
QMF 呼び出し可能インターフェースを使用するプログラムを変換し、コンパイルし、リンク・エディットする場合、以下のことについて考慮してください。

- 連絡域 DSQCOMML がコンパイル・ステップで使用可能であるか、それをプログラムにコピーする必要があります。
- プログラムのリンク・エディット・フェーズで QMF インターフェース・モジュール DSQCIPL および DSQCIPX が使用可能でなければなりません。

次の例は CICS 提供のプロシージャ DFHEBTPL を使用しています。このプロシージャの使用方法については、ご使用のリリースの CICS (VSE/ESA 版) システム定義の手引きを参照してください。

```
//samPLI    JOB
//          EXEC PROC=DFHEBTPL
//TRN.SYSIN DD *
*PROCESS   XOPTS(CICS translator options .....
          .
          Your program or copy of QMF sample DSQABFP
          .
/*
/** Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMML
//PLI.SYSLIB DD DSN=QMF710.SDSQSAPE,DISP=SHR
/** Provide Access to QMF Interface Module
//LKED.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//LKED.SYSIN  DD *
            INCLUDE CICSLOAD(DFHPL10I)
            INCLUDE CICSLOAD(DFHEPI)
            INCLUDE QMFLOAD(DSQCIPL)
            INCLUDE QMFLOAD(DSQCIPX)
            ORDER DFHPL10I,DFHEPI
            ENTRY  sampPLI
            MODE   AMODE(31) RMODE(ANY)
            NAME   sampPLI(R)
/*
```

図 59. CICS 変換プログラム、PL/I コンパイラー、リンケージ・エディター実行のための JCL

VSE での CICS のもとでの変換、コンパイル、およびリンク・エディット

図60 の VSE ジョブ制御は、PL/I プログラムを、VSE で実行中の CICS にインストールする例です。この例は、QMF と共に提供され、DSQ3CIP.Z という名前で QMF サブライブラリーに置かれています。詳細については、CICS (VSE/ESA 版) システム定義の手引き および PL/I VSE プログラミングの手引きを参照してください。

```

..* $$ JOB JNM=DSQ3CIP,DISP=D,CLASS=0
// JOB DSQ3CIP      Sample job to Install QMF Callable Interface (PL/I)
* -----
*  Install QMF Callable Interface Example (PL/I)
* -----
// SETPARM VOLID=valid      *-- update volid for syspch
// SETPARM START=rtrk      *-- update start track/block (syspch)
// SETPARM SIZE=ntrks      *-- update number of tracks/blocks (syspch)
* -----
// DLBL  IJSYSPH,'CICS.TRANSLAT.OUTPUT',0
// EXTENT SYSPCH,,1,0,&START,&SIZE
ASSGN SYSPCH,DISK,VOL=&VOLID,SHR
*  Library search chain must contain the QMF, CICS and PL/I sublibrary
// LIBDEF *,SEARCH=(PRD2.PROD,PRD1.BASE,PRD2.CONFIG)
// LIBDEF PHASE,CATALOG=PRD2.PROD
* -----
*  Step 1: Translate callable interface program (PL/I)
* -----
*  You may need to update or remove the SLI statement for your program.
* -----
// EXEC  DFHEPP1$,SIZE=256K,PARM='XOPTS(CICS)'
..* $$ SLI MEM=DSQABFP.Z,S=PRD2.PROD
/*
* -----
*  Step 2: Compile callable interface program (PL/I)
* -----
CLOSE SYSPCH,00D
// DLBL  IJSYSIN,'CICS.TRANSLAT.OUTPUT',0
// EXTENT SYSIPT
ASSGN SYSIPT,DISK,VOL=&VOLID,SHR
// OPTION NODECK,CATAL
   PHASE DSQABFP,*
       INCLUDE DFHPL1I
// EXEC PLIOPT
CLOSE SYSIPT,YSRDR
/*

```

図60. VSE 用 JCL のサンプル (1/2)

```

* -----
* Step 3: Link-edit callable interface program (PL/I)
* -----
// EXEC LNKEDT,PARM='AMODE=31,RMODE=ANY'
/*
/ &
// JOB RESET
ASSGN SYSIPT,SYSRDR      IF 1A93D, CLOSE SYSIPT,SYSRDR
ASSGN SYSPCH,00D        IF 1A93D, CLOSE SYSPCH,00D
/ &
..* $$ EOJ

```

図 60. VSE 用 JCL のサンプル (2/2)

VM の CMS のもとでのプログラムのコンパイルと実行

以下のプログラムは、PL/I コンパイラを使用して呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイルし実行します。

この例の REXX EXEC は QMF では出荷されませんが、ここからコピーして、インストール先に合うように変更することができます。

PL/I 言語インターフェース

```
/* Compile QMF PL/I program and run it. */
TRACE off
ADDRESS CMS

/* Access PL/I product disk using a program, PRODUCT, that you
write. */
"EXEC PRODUCT PLIV"

/* Get QMF DSQCOMM into a macro library and set GLOBAL compile
maclibs. */
"ERASE TEMPP MACLIB A"
"MACLIB GEN TEMPP DSQCOMM"
MacList = "TEMPP PLICOMP DMSSP CMSLIB OSMACRO"
"GLOBAL MACLIB" MacList

/* Compile the program */
POPTS = '(INC SOURCE LIST LMSG M NAG NC(E) NIS NOESD NSTG OPT(2)'
'PLIOPT' yourname popts

/* Access SQL/DS and initialize database */
"EXEC PRODUCT SQLDS"
"EXEC SQLINIT DBNAME(SQLDBA)"

/* Access GDDM product disk */
"EXEC PRODUCT GDDM"
```

図 61. ユーザーのプログラムをコンパイルし実行する REXX プログラム (1/2)

```

/*****/
/* Issue Filedefs for QMF product */
/*****/
"FILEDEF ISPLLIB CLEAR"
/* DEBUG = DDNAME FOR QMF DIAGNOSTICS OUTPUT */
"FILEDEF DSQDEBUG PRINTER ( LRECL 80 BLKSIZE 80 RECFM FBA PERM"
/* PRINT = DDNAME FOR QMF PRINTED OUTPUT */
"FILEDEF DSQPRINT PRINTER ( LRECL 133 BLKSIZE 133 RECFM FBA PERM"
/* EDIT = DDNAME FOR QMF EDIT TRANSFER FILE */
"FILEDEF DSQEDIT DISK QMFEDIT FILE A (PERM"
/* DSQSIDE = DDNAME FOR QMF SPILL FILE */
"FILEDEF DSQSPILL DISK DSQSIDE DATA A1 (PERM"
/* DSQPNE = DDNAME FOR PANEL FILE */
"FILEDEF DSQPNE DISK DSQPNE FILE * (PERM"
"FILEDEF ISPLLIB CLEAR"
"FILEDEF ISPLLIB DISK DSQDLIB LOADLIB *"

/*****/
/* Provide access to QMF and PL/I program libraries */
/*****/
'GLOBAL MACLIB TEMPP'
'GLOBAL LOADLIB DSQDLIB PLILIB'
'GLOBAL TXTLIB PLILIB IBMLIB ADMRLIB ADMPLIB ADMGLIB'

```

```

Say "Starting to run PL/I program"
"RUN yourname"

```

```

Exit 0

```

図 61. ユーザーのプログラムをコンパイルし実行する REXX プログラム (2/2)

上記のプログラムは、インストール先に合うように変更する必要がある場合があります。

TSO でのコンパイルとリンク・エディット

次のジョブは、PL/I コンパイラーを使用して、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションをコンパイルしてから、アプリケーションをリンク・エディットします。いくつかのパラメーターは、インストール先によって異なることがあります。詳細については、インストール先の QMF 管理者にお問い合わせください。

PL/I 言語インターフェース

```
//samPLI      JOB
//STEP1      EXEC IEL1CL
/** Provide Access to QMF Communications Macro DSQCOMML
//PLI.SYSLIB  DD DSN=QMF710.SAMPLIB,DISP=SHR
//PLI.SYSIN   DD *
                .
                Your program or copy of QMF sample DSQABFP
                .
/**
/** Provide Access to QMF Interface Module
//LKED.QMFLOAD DD DSN=QMF710.SDSQLOAD,DISP=SHR
//LKED.SYSIN   DD *
                INCLUDE QMFLOAD(DSQCIPL)
                INCLUDE QMFLOAD(DSQCIPX)
                ENTRY sampPLI
                MODE AMODE(31) RMODE(ANY)
                NAME  sampPLI(R)
/**
```

図 62. PL/I コンパイラーとリンケージ・エディター実行のための JCL

ISPF を使用しない TSO での実行

TSO 環境用にプログラムをコンパイルした後、次の CLIST によってプログラムを実行します。


```

PROC 0
CONTROL ASIS
/*****/
/* Note: QMF, DB2, GDDM and PL/I load libraries must be */
/* allocated before running this CLIST. */
/* Name of QMF load library is "QMF710.SDSQLOAD". */
/*****/
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****/
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****/
/* Datasets used by TSO */
/*****/
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****/
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****/
ALLOC FI(ADMGMGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQCFRM) DA('QMF710.DSQCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****/
/* Datasets used by QMF */
/*****/
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****/
/* Start your program using TSO CALL command */
/*****/
CALL sampPLI
EXIT CODE(0)

```

図 63. ISPF を使用しない TSO でのプログラム実行のための CLIST

ISPF のもとの TSO での実行

TSO 環境用にプログラムをコンパイルした後、次の CLIST によってプログラムを実行します。

PL/I 言語インターフェース

```
PROC 0
CONTROL ASIS
/*****
/* Specify attribute list for dataset allocations */
/*****
ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)
ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)
ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)
ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)
/*****
/* Datasets used by TSO */
/*****
ALLOC FI(SYSPROC) DA('QMF710.SDSQCLTE','ISR.ISRCLIB')
ALLOC FI(SYSEXEC) DA('QMF710.SDSQEXCE')
/*****
/* Datasets used by ISPF */
/*****
ALLOC FI(ISPLLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQLOAD','ADM.GDDMLOAD','DSN.DSNEXIT','DSN.DSNLOAD', +
        'PLI.PLILINK','PLI.SIBMLINK')
ALLOC FI(ISPMLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQMLBE','ISR.ISRMLIB','ISP.ISPMLIB')
ALLOC FI(ISPPLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQPLBE','ISR.ISRPLIB','ISP.ISPPLIB')
ALLOC FI(ISPSLIB) SHR REUSE +
    DA('QMF710.SDSQSLBE','ISR.ISRSLIB','ISP.ISPSLIB')
ALLOC FI(ISPTLIB) SHR REUSE +
    DA('ISR.ISRTLIB','ISP.ISPTLIB')
/*****
/* QMF/GDDM Datasets */
/*****
ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.QMFMAPS') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCFORM') SHR REUSE
ALLOC FI(DSQUCFRM) DA('QMF710.DSQUCFRM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDMSYM') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMGDF) DA('ADM.GDDM.CHARTLIB') SHR REUSE
ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE
/*****
/* Datasets used by QMF */
/*****
ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT(X) USING(PRINTDCB)
ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)
ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)
ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS
ALLOC FI(DSQEDIT) NEW UNIT(SYSDA) USING(EDITDCB)
ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE
/*****
/* Start your program as the initial ISPF dialog */
/*****
ISPSTART PGM(sampPLI) NEWAPPL(DSQE)
EXIT CODE(4)
```

図 64. ISPF のもとの TSO でのプログラム実行のための CLIST

EXIT CODE(4) は ISPF 後処理パネルを抑止します。

REXX 言語インターフェース

ここに示した REXX 呼び出し可能インターフェースは、他の SAA 言語のインターフェースに対応しています。

CICS ユーザーへの注

REXX は、QMF CICS のもとでは使えませんので REXX 用の QMF 呼び出し可能インターフェースは、CICS のもとでは機能しません。

REXX は解釈言語なので、コンパイルする必要がありません。しかし、コンパイルした REXX またはコンパイルした他の言語を使用して作成したプログラムに比べて、解釈 REXX を使用して作成した同様のプログラムのパフォーマンスは劣ります。REXX コンパイラーは REXX プログラムに使用可能ですが、ロジックを持つプロシージャーには使用できません。

TSO のもとで、REXX 呼び出し可能インターフェースを使用して QMF を呼び出すことによって、ロジックを持つプロシージャーおよび特定の書式機能(計算、定義列、および条件)を使用すれば、REXX サービスを使用するために必要なリソースを削減することができます。これらのすべての機能は、REXX を使用します。

たとえば、REXX 呼び出し可能インターフェースを使用して QMF セッションを開始すれば、REPORT パネルで PRINT REPORT または BOTTOM を実行するために必要なリソースは少なくてすみます。リソース消費の削減は、かなりの量になり、TSO/E のもとで QMF を実行する場合に最も顕著になります。

REXX 言語は、コマンドを処理する方法と場所を決定するコマンド環境において常に機能します。QMF コマンドを出す REXX プログラムを作成する場合、ADDRESS QRW コマンドを介して QMF コマンド環境を使用することができます。詳細については、281ページの『付録D. ADDRESS QRW: QMF コマンド環境の使用』を参照してください。

REXX 用のインターフェース連絡変数

連絡変数は、以下の REXX 変数から構成されます。これらの変数は、各呼び出しの完了後に設定されます。

REXX 言語インターフェース

表20 は、呼び出しプログラムで変更してはならない インターフェース連絡変数を示しています。

表 20. REXX 用のインターフェース連絡変数

構造名	説明
dsq_return_code	SAA 照会の状況を示す整数。可能な値は、以下のとおり。 dsq_success 要求が正常に処理された。 dsq_warning 警告を伴って終了した。 dsq_failure コマンドが正しく処理されなかった。 dsq_severe 重大エラー。SAA 照会セッションは終了した。SAA 照会セッションは終了したので、SAA 照会に対する追加の呼び出しを、このインスタンス ID を使用して実行することはできない。 dsq_return_code の値は、REXX 変数 <i>rc</i> にも置かれる。
dsq_instance_id	START コマンドの処理時に SAA 照会によって設定される ID。
dsq_product	使用中の照会マネージャー・プロダクト。可能な値は、以下のとおり。 dsq_qrw OS/2 照会マネージャー dsq_qmf QMF dsq_qm4 OS/400 照会管理

表 20. REXX 用のインターフェース連絡変数 (続き)

構造名	説明
dsq_product_release	<p>使用中の照会プロダクトのリリース・レベル。可能な値は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> OS/2: <ul style="list-style-type: none"> dsq_qrw_v1r2 バージョン 1 リリース 2 dsq_qrw_v1r3 バージョン 1 リリース 3 OS/400: <ul style="list-style-type: none"> dsq_qm4_v1r4 バージョン 1 リリース 1 QMF: <ul style="list-style-type: none"> dsq_qmf_v2r4 QMF バージョン 2 リリース 4 dsq_qmf_v3r1 QMF バージョン 3 リリース 1 dsq_qmf_v3r1m1 QMF バージョン 3 リリース 1 モディフィケーション・レベル 1 dsq_qmf_v3r2 QMF バージョン 3 リリース 2 dsq_qmf_v3r3 QMF バージョン 3 リリース 3 dsq_qmf_v6r1 QMF バージョン 6 dsq_qmf_v7r1 QMF バージョン 7
dsq_message_id	完了メッセージ ID
dsq_q_message_id	照会メッセージ ID
dsq_start_parm_error	パラメーター・エラーのために START が失敗したときの、エラーがあるパラメーター

REXX 言語インターフェース

表 20. REXX 用のインターフェース連絡変数 (続き)

構造名	説明
dsq_cancel_ind	コマンド取り消し標識。QMF がコマンドを実行している間に、ユーザーがコマンド処理を取り消したかどうかを示す。可能な値は、以下のとおり。 dsq_cancel_yes ユーザーがコマンドを取り消した。 dsq_cancel_no ユーザーがコマンドを取り消さなかった。
dsq_message_text	完了メッセージ・テキスト
dsq_q_message_text	照会メッセージ・テキスト

REXX 用の関数呼び出し

呼び出し可能インターフェースは、通常の REXX 関数呼び出しを使用してアクセスします。QMF には、すべての SAA 照会コマンドを実行するために使用できる、DSQCIX と呼ばれる外部サブルーチンが用意されています。

DSQCIX 線形構文

```
call DSQCIX cmd parmlist
```

- *cmd* は大文字の文字列として書く QMF コマンドです。
- *parmlist* は、以下の図に示すようなパラメーターと値のペアのリストです。



parmlist を含むコマンド全体を、文字列として書いた単一の REXX 変数として QMF に渡す必要があります。この文字列は、引用符 (') または (" ") で囲む必要があります。コマンド・文字列の一部として REXX 変数を使用する場合には、引き数を囲まないでください。次に例を示します。

```
CALL DSQCIX "RUN QUERY NAME (&ECN="REXAUG",CONFIRM=YES)"
```

parmname

パラメーターの名前

value

parmname によって指定したパラメーター名に関連させる値

例:

```
call DSQCIX "RUN QUERY Q1"
call DSQCIX "PRINT REPORT (FORM=F1"
call DSQCIX "EXIT"
```

parmlist での以下のエレメントの有無は、結果に影響を与えません。

パラメーターの間のコンマ (,)

1 つのスペースでもかまいません。

右括弧 ())

必要ありません。

***parmname* と 値 の間の等号 (=)**

1 つのスペースでもかまいません。

以下の各ステートメントでも、同じ結果が得られます。

```
call dsqcix "SET GLOBAL (abc=17, def=26"
call dsqcix "SET GLOBAL ( abc=17 def=26"
call dsqcix "SET GLOBAL ( abc=17 , def=26)"
call dsqcix "SET GLOBAL (abc 17 def=26)"
```

REXX プログラミングの例

次のプログラム DSQABFX は QMF と共に出荷されます。

サンプル・ソース・コード・リストを、ここで見ることも、オンラインでアクセスすることもできます。サンプル・プログラムは、MVS の場合は、ライブラリー QMF710.SDSQEXCE のメンバーであり、VM の場合はプロダクション・ディスクにあります。REXX は、QMF CICS では使用できません。

REXX 言語呼び出し可能インターフェースのサンプル・プログラムは、以下の機能を実行します。

- QMF を開始する。
- 3 つのグローバル変数を設定する。
- Q1 と呼ばれる照会を実行する。
- 書式 F1 を使用して結果の報告書を印刷する。
- QMF セッションを終了する。

照会 Q1 または 書式 F1 は QMF では提供されませんが、サンプル・プログラムは、これらのオブジェクトを使用しています。

REXX 言語インターフェース

```
/*REXX*****  
/* Sample Program: DSQABFX */  
/* REXX Version of the SAA Query Callable Interface */  
/******  
  
/*****  
/* Start a query interface session */  
/*****  
  
call dsqcix "START (DSQSMODE=INTERACTIVE"  
say dsq_message_id dsq_message_text  
if dsq_return_code = dsq_severe then exit dsq_return_code  
  
/*****  
/* Set numeric values into query using SET command */  
/*****  
  
call dsqcix "SET GLOBAL (MYVAR01=20,SHORT=40,MYVAR03=84"  
say dsq_message_id dsq_message_text  
if dsq_return_code = dsq_severe then exit dsq_return_code  
  
/*****  
/* Run a Query */  
/*****  
  
call dsqcix "RUN QUERY Q1"  
say dsq_message_id dsq_message_text  
if dsq_return_code = dsq_severe then exit dsq_return_code  
  
/*****  
/* Print the results of the query */  
/*****  
  
call dsqcix "PRINT REPORT (FORM=F1)"  
say dsq_message_id dsq_message_text  
if dsq_return_code = dsq_severe then exit dsq_return_code  
  
/*****  
/* End the query interface session */  
/*****  
  
call dsqcix "EXIT"  
say dsq_message_id dsq_message_text  
exit dsq_return_code
```

図 65. DSQABFX、サンプル REXX プログラム

VM の CMS のもとでのプログラムの実行

次のプログラムは、REXX CALL インターフェースを使用して呼び出し可能インターフェース・アプリケーションを実行します。

このプログラムは、インストール先に合うように変更する必要がある場合があります。

```

/***** */
/* Access SQL/DS and initialize database */
/***** */
"EXEC PRODUCT SQLDS" */
"EXEC SQLINIT DBNAME(SQLDBA)" */
*/
/***** */
/* Access GDDM product disk */
/***** */
"EXEC PRODUCT GDDM" */
*/
/***** */
/* Issue Filedefs for QMF product */
/***** */
/* DEBUG = DDNAME FOR QMF DIAGNOSTICS OUTPUT */
"FILEDEF DSQDEBUG PRINTER ( LRECL 80 BLKSIZE 80 RECFM FBA PERM" */
/* PRINT = DDNAME FOR QMF PRINTED OUTPUT */
"FILEDEF DSQPRINT PRINTER ( LRECL 121 BLKSIZE 121 RECFM FBA PERM" */
/* EDIT = DDNAME FOR QMF EDIT TRANSFER FILE */
"FILEDEF DSQEDIT DISK QMFEDIT FILE A (PERM" */
/* DSQSIDE = DDNAME FOR QMF SPILL FILE */
"FILEDEF DSQSPILL DISK DSQSIDE DATA A1 (PERM" */
/* DSQPNLE = DDNAME FOR PANEL FILE */
"FILEDEF DSQPNLE DISK DSQPNLE FILE * (PERM" */
"FILEDEF ISPLLIB CLEAR"
"FILEDEF ISPLLIB DISK DSQDLIB LOADLIB *"
/***** */
/* Provide access to QMF and GDDM program libraries */
/***** */
"GLOBAL LOADLIB DSQDLIB "
"GLOBAL TXTLIB ADMRLIB ADMPLIB ADMGLIB"

/* The beginning of your REXX program ..... */
.
.
.
.
/* The end of your REXX program ..... */

```

図 66. CMS でプログラムを実行する REXX プログラム

MVS での TSO のもとでのプログラムの実行

ユーザーの REXX プログラムを実行するには、次のようなプログラムを作成します。

```

/*****
/* Issue TSO Allocates for QMF Product          */
/*****
Address TSO

"ATTR PRINTDCB LRECL(133) RECFM(F B A) BLKSIZE(1330)"
"ATTR DEBUGDCB LRECL(80) RECFM(F B) BLKSIZE(3120)"
"ATTR UDUMPDCB LRECL(125) RECFM(V B A) BLKSIZE(1632)"
"ATTR EDITDCB LRECL(79) RECFM(F B A) BLKSIZE(4029)"
"ALLOC FI(SYSPROC) SHR REUSE ",
  "DA('QMF710.DSQCLSTE',' ",
    "'DSN.DSNCLIST')"
```

```

"ALLOC FI(SYSEXEC) SHR REUSE ",
  "DA('QMF710.SDSQEXCE')"
```

```

"ALLOC FI(ISPLLIB) SHR REUSE ",
  "DA('QMF710.SDSQLOAD',' ",
    "'ADM.GDDM.GDDMLOAD',' ",
    "'DSN.DSNLOAD')"
```

```

"ALLOC FI(DSQPNLE) DA('QMF710.DSQPNLE') SHR REUSE"
"ALLOC FI(DSQPRINT) SYSOUT USING(PRINTDCB)"
"ALLOC FI(SYSPRT) SYSOUT(X) LRECL(132) RECFM(FBA) BLKSIZE(132)"
"ALLOC FI(DSQDEBUG) SYSOUT(X) USING(DEBUGDCB)"
"ALLOC FI(DSQDUMP) SYSOUT(X) USING(UDUMPDCB)"
"ALLOC FI(DSQSPILL) NEW UNIT(SYSDA) SPACE(1,1) TRACKS"
"ALLOC DDNAME(DSQEDIT) UNIT(SYSDA) NEW USING(EDITDCB)"
"ALLOC FI(ADMDEFS) DA('ADM.GDDM.NICKNAME') SHR REUSE"
"ALLOC FI(ADMGGMAP) DA('QMF710.DSQMAPE') SHR REUSE"
"ALLOC FI(ADMCFORM) DA('QMF710.DSQCHART') SHR REUSE"
"ALLOC FI(DSQUCFRM) DA('QMF710.DSQUCFRM') SHR REUSE"
"ALLOC FI(ADMGDF) DA('GDDM.ADMGDF') SHR REUSE"
"ALLOC FI(ADMSYMBL) DA('ADM.GDDM.GDDMSYM') SHR REUSE"

/* The beginning of your REXX program ..... */
.
.
.
/* The end of your REXX program ..... */
```

図 67. TSO でプログラムを実行する REXX プログラム

INTERACT ループを使用する REXX の例

通常、呼び出し可能インターフェース・プログラムが INTERACT コマンドを出した場合、ユーザーが END コマンドを出すと、QMF はただちに制御をユーザーのプログラムに戻します。しかし、対話式 QMF によって、ユーザーは

END コマンドを出して QMF ホーム・パネルに戻ることができます。2 回目の END コマンドを出すと、QMF セッションが終了します。

次のロジックをプログラムに追加することによって、呼び出し可能インターフェース・プログラムから INTERACT コマンドによって開始した対話式セッションで END コマンドを、END が対話式 QMF で機能しているかのように機能させることができます。

このプログラムは、処理方法を決定するために `dsq_message_id` を使用しています。これらの値は、リリースによって異なる可能性があります。

このプログラムは、QMF と一緒に配布されません。

REXX 言語インターフェース

```
/*REXX*****  
/* Sample Program: Using INTERACT loop */  
/*****  
/* Start an interactive QMF session */  
/*****  
trace error  
  
parms = "START (DSQSMODE=INTERACTIVE)"  
call dsqcix parms  
if dsq_return_code = dsq_severe then exit dsq_return_code  
/*****  
/* SET GLOBAL to show panel IDs */  
/*****  
call dsqcix "SET GLOBAL (DSQDC_SHOW_PANID=1"  
if dsq_return_code = dsq_severe then exit dsq_return_code  
/*****  
/* Issue message */  
/*****  
call dsqcix "MESSAGE (TEXT='Ok, You may enter a command.')"  
if dsq_return_code = dsq_severe then exit dsq_return_code  
/*****  
/* INTERACT loop */  
/*****  
Continue = "yes"  
Do while continue = "yes"  
  call DSQCIX "INTERACT"  
  Select  
    When (dsq_return_code = dsq_severe) Then /* Severe Error */  
      Continue = "no"  
    When (dsq_message_id = "DSQ21869") Then /* END from HOME panel */  
      Continue = "no"  
    When (dsq_message_id = "DSQ90557") Then /* User issued EXIT */  
      Continue = "no"  
    Otherwise nop /* OK continue session */  
  End  
End  
/*****  
/* End the session */  
/*****  
if dsq_message_id <> "DSQ90557" then /* EXIT not issued */  
  call dsqcix "EXIT" /* Issue EXIT */  
  
exit dsq_return_code
```

図 68. INTERACT ループを使用する REXX プログラム

付録B. エクスポート / インポート・フォーマット

本章では、データの QMF フォーマットについて説明し、以下の各エンコード・フォーマット・オブジェクトの表番号とフィールド番号をリストします。

- 書式
- 指示照会
- 報告書

これらのリストの説明と例については、87ページの『第8章 QMF オブジェクトのインポートとエクスポート』を参照してください。

データの QMF フォーマット

EXPORT コマンド (DATAFORMAT=QMF) を使用してエクスポートするデータ・ファイルは、レコード内のデータについて記述するヘッダー・レコードと、データが入っているデータ・レコードの 2 つの部分から構成されます。

ヘッダー・レコード

外部データ・ファイルのレコード長は、251ページの『データ・レコード』で説明されているように、データ行の長さです。データ・レコードの前にあるヘッダー・レコードも、この長さに分割されます。表21 は、ヘッダー・レコードに含まれる情報を示しています。

表 21. ヘッダー・レコード情報

バイト位置	情報とタイプ
1-8	QMF オブジェクト・フォーマット・レベル (8 文字のデータ) QMF オブジェクト・フォーマット・レベルは、特定のオブジェクトについて、フォーマットが更新された回数を示す。 書式オブジェクトは QMF 1.0 から 3 回変更されているので、QMF 3.2 からエクスポートされた書式のオブジェクト・フォーマット・レベルは 4 になる。データ・オブジェクト・フォーマットは変更されていないので、オブジェクト・フォーマット・レベルは 1 のままである。
9-10	ヘッダー・レコード数 (ハーフワードの符号付き整数)
11-12	データ列数 (ハーフワードの符号付き整数)
13-30、37-54、...	列名 (18 文字のデータ)

エクスポート / インポート・フォーマット

表 21. ヘッダー・レコード情報 (続き)

バイト位置	情報とタイプ
31-32、55-56、...	データ・タイプ (ハーフワードの符号付き整数)。データ・タイプ・コードについては、表22 参照。
33-34、57-58、...	列幅 (ハーフワードの符号付き整数)。大部分のデータ・タイプの場合、これはバイト数で表した列幅である。例外は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none">• DECIMAL 列の場合、ハーフワードの最初のバイトが精度を表し、2 番目のバイトが位取りを表す。• GRAPHIC 列と VARGRAPHIC 列の場合、この値は 2 バイト文字の幅を示す。• FLOAT 列の場合、この値は単精度浮動小数点を示す 4 であるか、倍精度浮動小数点を示す 8 である。
35、59、...	ヌルの許可。ヌルが許可される場合は Y、許可されない場合は N (1 文字のデータ)
36、60、...	未使用バイト

バイト 11-12 は、列数を示します。これは、バイト 13-36 の情報が、ヘッダー・レコード内の列ごとに反復されることを意味します。ヘッダー・レコード内の列ごとに 24 バイトが必要です。

データ・タイプ・コードについては、表22 に記載されています。

表 22. データ・タイプ・コード

16 進数のコード	10 進数のコード	データ・タイプ	意味
X'180'	384	DATE	日付
X'184'	388	TIME	時刻
X'188'	392	TIMESTAMP	タイム・スタンプ
X'1C0'	448	VARCHAR	可変文字
X'1C4'	452	CHAR	固定文字
X'1D0'	464	VARGRAPHIC	可変図形
X'1D4'	468	GRAPHIC	固定図形
X'1E0'	480	FLOAT	浮動小数点
X'1E4'	484	DECIMAL	10 進数
X'1F0'	496	INTEGER	整数
X'1F4'	500	SMALLINT	小整数

日付、時刻、およびタイム・スタンプのデータは常に ISO フォーマットでエクスポートされます。

データ・タイプのフォーマットの詳細については、*DB2 UDB (OS390 版) SQL 解説書* を参照してください。

データ・レコード

データ・レコードは固定長フォーマットであり、エクスポートされるデータが入っています。データ・レコードの最大長は 7000 バイトです。データ・レコードの長さは、レコードを構成しているデータ・タイプの幅の合計です。各データ・タイプの幅を計算するためには、次の表を使用してください。

重要: 最大長が 254 を超えるような VARCHAR 列がある表をエクスポートすることはできません。

表 23. エンコード・フォーマット・データ・レコード内のデータ幅. 各列のバイト数を加算して個々のデータ・タイプの幅の計算をします。

データ・タイプ	ヌル 標識	長さ フィールド	SO/SI	データ
文字	2			ヘッダーの長さ (LIH)
日付	2			LIH
浮動小数点	2			8
整数	2			LIH
小整数	2			LIH
時刻	2			LIH
タイム・スタンプ	2			LIH
10 進数	2			(精度 + 2) // 2
図形	2		2	(LIH × 2)
可変文字	2	2		LIH
可変図形	2	2	2	(2 × LIH)

注: LIH は、ヘッダー・レコード内でその列に与えられた幅です。

各データ・レコードには、2 バイトの標識情報があります。この情報は、以下の値になる可能性があり、それぞれ対応する意味を持っています。

値	意味
X'0000'	この列には、有効なデータが入っている。
X'FFFF'	この列には、ヌル値が入っている。この列内のデータは無意味である。
X'FFFE'	

指示照会オブジェクトの表番号とフィールド番号

次の表には、指示照会エクスポート・フォーマットの各表について記述する T レコードごとに、指示照会の表番号とフィールド番号が入っています。DESCRIPTION 列内の情報は、指示照会基本パネル内の特定のフィールドを固有に識別します。

表定義 (フィールド番号 1110) は常にエクスポートされます。結合条件 (フィールド番号 1150) は、複数の表を選択した場合、常にエクスポートされます。

指示照会ファイルをインポートする場合、ファイルの表の T レコードの前に H レコードがなければなりません。表を指定しなくてもかまいません。表を指定しないと、空の照会がインポートされます。結合条件は、複数の表を選択しない場合、不要です。

表 24. エクスポートされた指示照会オブジェクトの表番号とフィールド番号

レコード・タイプ	表番号	フィールド番号	フィールドの説明
T	1110	-	表定義の表
		1112	-- 表 ID (有効な表 ID は A-Z、および #、\$、@)
		1113	-- 表名
T	1150	-	結合条件表
		1152	-- 列 1 の名前
		1153	-- 列 2 の名前
T	1210	-	列表
		1212	-- 列のタイプ C=列 E=式 S=式がある合計機能 F=1 列しかない合計機能
		1213	-- 列名、式、または合計機能
T	1310	-	行選択条件
		1312	-- 入力タイプ 1 - 演算子の左 2 - 演算子 3 - 演算子の右 4 - コネクター

表 24. エクスポートされた指示照会オブジェクトの表番号とフィールド番号 (続き)

レコード・ タイプ	表番号	フィールド 番号	フィールドの説明
		1313	<p>-- 入力タイプが '1' の場合、<u>列タイプ</u>を識別する</p> <p>C=列 E=式 S=合計機能 F=合計機能 (列名だけを指定した場合)</p> <p>-- 入力タイプが '2' の場合、<u>動詞</u>を識別する</p> <p>動詞 'is' を意味する IS (デフォルト) 動詞 'is not' を意味する ISN</p> <p>-- 入力タイプが '3' の場合 (使用されていない)</p> <p>-- 入力タイプが '4' の場合、<u>コネクタ</u>を識別する</p> <p>'論理和 (or)' を意味する OR '論理積 (and)' を意味する A (デフォルト)</p>
		1314	<p>-- 入力タイプが '1' の場合、このフィールドは以下のとおり</p> <p>列名、式、または合計機能</p> <p>-- 入力タイプが '2' の場合、<u>演算子</u>を識別する</p> <p>'等しい (equal to)' を意味する EQ 'より小さい (less than)' を意味する LT '以下 (less than or equal to)' を意味する LE 'より大きい (greater than)' を意味する GT '以上 (greater than or equal to)' を意味する GE '間 (between)' を意味する BT '開始点 (starting with)' を意味する SW '終了点 (ending with)' を意味する EW '包含 (containing)' を意味する CT NULL を意味する NL</p>

エクスポート / インポート・フォーマット

表 24. エクスポートされた指示照会オブジェクトの表番号とフィールド番号 (続き)

レコード・ タイプ	表番号	フィールド 番号	フィールドの説明
T	1410	-	-- 入力タイプが '3' の場合、 <u>値</u> を識別する
		1412	-- 入力タイプが '4' の場合、(使用されていない)
		1413	ソート条件表 -- ソート方向 '昇順 (ascending)' を意味する A '降順 (descending)' を意味する D
V		1501	-- 列 重複行の処理 '保持 (keep)' を意味する K '廃棄 (discard)' を意味する D

フィールド 1313 と 1314 の値の意味は、1310 の表のフィールド番号 1312 に示されている順序番号によって異なります。

書式オブジェクトの表番号とフィールド番号

表25 は、書式オブジェクトに関する T レコードの表番号および V レコードのフィールド番号をリストしています。各番号は、書式の特典部分に対応しています。

V レコードのフィールド 3080 は、その後に続く切れ目パネルの「トリガー」として機能します。このレコードは、書式内で切れ目パネルごとに 1 回現れます。このフィールドの値は、フィールド 3080 に続く各フィールドが記述する切れ目パネルの番号を示します。

表 25. エクスポートされた書式オブジェクトの表番号とフィールド番号

表番号または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
1110	T	列ヘッダー表	FORM.COLUMNS
1112	R	列データ・タイプ ⁴	FORM.COLUMNS
1113	R	列ヘッダー	FORM.COLUMNS

4. QMF は、このフィールドを書式パネルに表示しません。

5. このフィールドは、バージョン 3 で新しくできました。

表 25. エクスポートされた書式オブジェクトの表番号とフィールド番号 (続き)

表番号または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
1114	R	列取扱コード	FORM.COLUMNS
1115	R	列字下げ	FORM.COLUMNS
1116	R	列幅	FORM.COLUMNS
1117	R	列編集コード	FORM.COLUMNS
1118	R	列順序	FORM.COLUMNS
1119	R	列ヘッダー位置合わせ ⁵	FORM.COLUMNS
1120	R	列データ位置合わせ ⁵	FORM.COLUMNS
1121	R	列定義 ⁵	FORM.COLUMNS
1122	R	列定義でのヌルの受け渡し ⁵	FORM.COLUMNS
1180	T	合計計算表	FORM.CALC
1182	R	計算識別番号	FORM.CALC
1183	R	合計計算式	FORM.CALC
1184	R	合計計算幅	FORM.CALC
1185	R	合計計算編集コード	FORM.CALC
1186	R	計算でのヌルの受け渡し ⁵	FORM.CALC
1201	V	ヘッダーの前のブランク行数	FORM.PAGE
1202	V	ヘッダーの後のブランク行数	FORM.PAGE
1210	T	ページ・ヘッダー表	FORM.PAGE
1212	R	ページ・ヘッダー行番号	FORM.PAGE
1213	R	ページ・ヘッダー位置合わせ	FORM.PAGE
1214	R	ページ・ヘッダー・テキスト	FORM.PAGE
1301	V	後書きの前のブランク行数	FORM.PAGE
1302	V	後書きの後のブランク行数	FORM.PAGE
1310	T	ページ後書き表	FORM.PAGE
1312	R	ページ後書き行番号	FORM.PAGE
1313	R	ページ後書き位置合わせ	FORM.PAGE
1314	R	ページ後書きテキスト	FORM.PAGE
1401	V	最終テキスト用の改ページ	FORM.FINAL
1402	V	最終合計行番号	FORM.FINAL
1403	V	最終テキストの前のブランク行 数	FORM.FINAL
1410	T	最終テキスト表	FORM.FINAL
1412	R	最終テキスト行番号	FORM.FINAL
1413	R	最終テキスト位置合わせ	FORM.FINAL
1414	R	最終テキスト	FORM.FINAL
1501	V	明細行スペース	FORM.OPTIONS
1502	V	切れ目列の一括表示	FORM.OPTIONS
1503	V	デフォルトの切れ目テキスト	FORM.OPTIONS
1504	V	グループ用の列ヘッダー内の機 能名	FORM.OPTIONS

エクスポート / インポート・フォーマット

表 25. エクスポートされた書式オブジェクトの表番号とフィールド番号 (続き)

表番号または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
1505	V	ページの保持された列折り返し 行数	FORM.OPTIONS
1506	V	横方向合計列	FORM.OPTIONS
1507	V	列ヘッダーの区切り線	FORM.OPTIONS
1508	V	切れ目合計の区切り線	FORM.OPTIONS
1509	V	横方向ヘッダーの区切り線	FORM.OPTIONS
1510	V	最終合計の区切り線	FORM.OPTIONS
1511	V	折り返し報告書行の幅	FORM.OPTIONS
1512	V	切れ目での新しいページ番号付 け	FORM.OPTIONS
1513	V	切れ目または最終テキストの幅	FORM.OPTIONS
1514	V	列の並べ替え	FORM.OPTION
1515	V	固定列	FORM.OPTIONS
2790	V	詳細バリエーション番号	FORM.DETAIL
2791	V	詳細バリエーション選択	FORM.DETAIL
2805	V	列ヘッダーの組み込み	FORM.DETAIL
2810	T	明細ヘッダー表	FORM.DETAIL
2812	R	明細ヘッダー・テキスト行	FORM.DETAIL
2813	R	明細ヘッダー位置合わせ	FORM.DETAIL
2814	R	明細ヘッダー・テキスト	FORM.DETAIL
2901	V	詳細テキスト用の改ページ	FORM.DETAIL
2902	V	列データの行番号	FORM.DETAIL
2904	V	詳細テキスト後にスキップする 行数	FORM.DETAIL
2906	V	明細ヘッダーの反復	FORM.DETAIL
2907	V	一緒に保持する詳細テキスト行 数	FORM.DETAIL
2910	T	詳細テキスト表	FORM.DETAIL
2912	R	詳細テキスト行番号	FORM.DETAIL
2913	R	詳細テキスト位置合わせ	FORM.DETAIL
2914	R	詳細テキスト	FORM.DETAIL
3080	V	切れ目パネル番号 ⁵	FORM.BREAKn
3101	V	切れ目ヘッダー用の改ページ ⁵	FORM.BREAKn
3102	V	切れ目ヘッダーの反復 ⁵	FORM.BREAKn
3103	V	切れ目ヘッダーの前にスキップ する行数 ⁵	FORM.BREAKn
3104	V	切れ目ヘッダーの後にスキップ する行数 ⁵	FORM.BREAKn
3110	T	切れ目ヘッダー・テキスト表 ⁵	FORM.BREAKn
3112	R	切れ目ヘッダー行番号 ⁵	FORM.BREAKn
3113	R	切れ目ヘッダー位置合わせ ⁵	FORM.BREAKn

表 25. エクスポートされた書式オブジェクトの表番号とフィールド番号 (続き)

表番号または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
3114	R	切れ目ヘッダー・テキスト ⁵	FORM.BREAKn
3201	V	切れ目テキスト用の改ページ ⁵	FORM.BREAKn
3202	V	切れ目テキスト合計行 ⁵	FORM.BREAKn
3203	V	切れ目テキストの前にスキップ する行数 ⁵	FORM.BREAKn
3204	V	切れ目テキストの後にスキップ する行数 ⁵	FORM.BREAKn
3210	T	切れ目テキスト表 ⁵	FORM.BREAKn
3212	R	切れ目テキスト行 ⁵	FORM.BREAKn
3213	R	切れ目テキスト位置合わせ ⁵	FORM.BREAKn
3214	R	切れ目テキスト ⁵	FORM.BREAKn
3310	T	条件表 ⁵	FORM.CONDITIONS
3312	R	条件識別番号 ⁵	FORM.CONDITIONS
3313	R	条件式 ⁵	FORM.CONDITIONS
3314	R	条件パネルでのヌルの受け渡し ⁵	FORM.CONDITIONS

表26 は、バージョン 3 リリース 1 の前に作成されたオブジェクトに有効なフィールドを示しています。 QMF は、これらのフィールドを入力時に受け入れますが、出力時に作成することはありません。切れ目パネルごとに、フィールド番号の固有のセットがあります。

表 26. QMF 3.1 より前の、エクスポートされた書式オブジェクトのフィールド番号

表番号 または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
1601	V	BREAK1: ヘッダー用の改ページ	FORM.BREAK1
1602	V	BREAK1: 列ヘッダーの反復	FORM.BREAK1
1603	V	BREAK1: ヘッダーの前のブランク行数	FORM.BREAK1
1604	V	BREAK1: ヘッダーの後のブランク行数	FORM.BREAK1
1610	T	BREAK1: ヘッダー表	FORM.BREAK1
1612	R	BREAK1: ヘッダー行	FORM.BREAK1
1612	R	BREAK1: ヘッダー位置合わせ	FORM.BREAK1
1614	R	BREAK1: ヘッダー・テキスト	FORM.BREAK1
1701	V	BREAK1: 後書き用の改ページ	FORM.BREAK1

エクスポート / インポート・フォーマット

表 26. QMF 3.1 より前の、エクスポートされた書式オブジェクトのフィールド番号 (続き)

表番号 または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
1702	V	BREAK1: 列後書きの反復	FORM.BREAK1
1703	V	BREAK1: 後書きの前のブランク行数	FORM.BREAK1
1704	V	BREAK1: 後書きの後のブランク行数	FORM.BREAK1
1710	T	BREAK1: 後書き表	FORM.BREAK1
1712	R	BREAK1: 後書き行	FORM.BREAK1
1713	R	BREAK1: 後書き位置合わせ	FORM.BREAK1
1714	R	BREAK1: 後書きテキスト	FORM.BREAK1
1801	V	BREAK2: ヘッダー用の改ページ	FORM.BREAK2
1802	V	BREAK2: 列ヘッダーの反復	FORM.BREAK2
1803	V	BREAK2: ヘッダーの前のブランク行数	FORM.BREAK2
1804	V	BREAK2: ヘッダーの後のブランク行数	FORM.BREAK2
1810	T	BREAK2: ヘッダー表	FORM.BREAK2
1812	R	BREAK2: ヘッダー行	FORM.BREAK2
1813	R	BREAK2: ヘッダー位置合わせ	FORM.BREAK2
1814	R	BREAK2: ヘッダー・テキスト	FORM.BREAK2
1901	V	BREAK2: 後書き用の改ページ	FORM.BREAK2
1902	V	BREAK2: 列後書きの反復	FORM.BREAK2
1903	V	BREAK2: 後書きの前のブランク行数	FORM.BREAK2
1904	V	BREAK2: 後書きの後のブランク行数	FORM.BREAK2
1910	T	BREAK2: 後書き表	FORM.BREAK2
1912	R	BREAK2: 後書き行	FORM.BREAK2
1913	R	BREAK2: 後書き位置合わせ	FORM.BREAK2
1914	R	BREAK2: 後書きテキスト	FORM.BREAK2
2001	V	BREAK3: ヘッダー用の改ページ	FORM.BREAK3
2002	V	BREAK3: 列ヘッダーの反復	FORM.BREAK3
2003	V	BREAK3: ヘッダーの前のブランク行数	FORM.BREAK3

表 26. QMF 3.1 より前の、エクスポートされた書式オブジェクトのフィールド番号 (続き)

表番号 または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
2004	V	BREAK3: ヘッダーの後のブランク行数	FORM.BREAK3
2010	T	BREAK3: ヘッダー表	FORM.BREAK3
2012	R	BREAK3: ヘッダー行	FORM.BREAK3
2013	V	BREAK3: ヘッダー位置合わせ	FORM.BREAK3
2014	R	BREAK3: ヘッダー・テキスト	FORM.BREAK3
2101	V	BREAK3: 後書き用の改ページ	FORM.BREAK3
2102	V	BREAK3: 列後書きの反復	FORM.BREAK3
2103	V	BREAK3: 後書きの前のブランク行数	FORM.BREAK3
2104	V	BREAK3: 後書きの後のブランク行数	FORM.BREAK3
2110	T	BREAK3: 後書き表	FORM.BREAK3
2112	R	BREAK3: 後書き行	FORM.BREAK3
2113	R	BREAK3: 後書き位置合わせ	FORM.BREAK3
2114	R	BREAK3: 後書きテキスト	FORM.BREAK3
2201	V	BREAK4: ヘッダー用の改ページ	FORM.BREAK4
2202	V	BREAK4: 列ヘッダーの反復	FORM.BREAK4
2203	V	BREAK4: ヘッダーの前のブランク行数	FORM.BREAK4
2204	V	BREAK4: ヘッダーの後のブランク行数	FORM.BREAK4
2210	T	BREAK4: ヘッダー表	FORM.BREAK4
2212	R	BREAK4: ヘッダー行	FORM.BREAK4
2213	R	BREAK4: ヘッダー位置合わせ	FORM.BREAK4
2214	R	BREAK4: ヘッダー・テキスト	FORM.BREAK4
2301	V	BREAK4: 後書き用の改ページ	FORM.BREAK4
2301	V	BREAK4: 列後書きの反復	FORM.BREAK4
2303	V	BREAK4: 後書きの前のブランク行数	FORM.BREAK4
2304	V	BREAK4: 後書きの後のブランク行数	FORM.BREAK4
2310	T	BREAK4: 後書き表	FORM.BREAK4
2312	R	BREAK4: 後書き行	FORM.BREAK4
2313	R	BREAK4: 後書き位置合わせ	FORM.BREAK4

エクスポート / インポート・フォーマット

表 26. QMF 3.1 より前の、エクスポートされた書式オブジェクトのフィールド番号 (続き)

表番号 または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
2314	R	BREAK4: 後書きテキスト	FORM.BREAK4
2401	V	BREAK5: ヘッダー用の改ページ	FORM.BREAK5
2402	V	BREAK5: 列ヘッダーの反復	FORM.BREAK5
2403	V	BREAK5: ヘッダーの前のブランク行数	FORM.BREAK5
2404	V	BREAK5: ヘッダーの後のブランク行数	FORM.BREAK5
2410	T	BREAK5: ヘッダー表	FORM.BREAK5
2412	R	BREAK5: ヘッダー行	FORM.BREAK5
2413	R	BREAK5: ヘッダー位置合わせ	FORM.BREAK5
2414	R	BREAK5: ヘッダー・テキスト	FORM.BREAK5
2501	V	BREAK5: 後書き用の改ページ	FORM.BREAK5
2502	V	BREAK5: 列後書きの反復	FORM.BREAK5
2503	V	BREAK5: 後書きの前のブランク行数	FORM.BREAK5
2504	V	BREAK5: 後書きの後のブランク行数	FORM.BREAK5
2510	T	BREAK5: 後書き表	FORM.BREAK5
2512	R	BREAK5: 後書き行	FORM.BREAK5
2513	R	BREAK5: 後書き位置合わせ	FORM.BREAK5
2514	R	BREAK5: 後書きテキスト	FORM.BREAK5
2601	V	BREAK6: ヘッダー用の改ページ	FORM.BREAK6
2602	V	BREAK6: 列ヘッダーの反復	FORM.BREAK6
2603	V	BREAK6: ヘッダーの前のブランク行数	FORM.BREAK6
2604	V	BREAK6: ヘッダーの後のブランク行数	FORM.BREAK6
2610	T	BREAK6: ヘッダー表	FORM.BREAK6
2612	R	BREAK6: ヘッダー行	FORM.BREAK6
2613	R	BREAK6: ヘッダー位置合わせ	FORM.BREAK6
2614	R	BREAK6: ヘッダー・テキスト	FORM.BREAK6
2701	V	BREAK6: 後書き用の改ページ	FORM.BREAK6
2702	V	BREAK6: 列後書きの反復	FORM.BREAK6

表 26. QMF 3.1 より前の、エクスポートされた書式オブジェクトのフィールド番号 (続き)

表番号 または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明	書式パネル
2703	V	BREAK6: 後書きの前のブランク行数	FORM.BREAK6
2704	V	BREAK6: 後書きの後のブランク行数	FORM.BREAK6
2710	T	BREAK6: 後書き表	FORM.BREAK6
2712	R	BREAK6: 後書き行	FORM.BREAK6
2713	R	BREAK6: 後書き位置合わせ	FORM.BREAK6
2714	R	BREAK6: 後書きテキスト	FORM.BREAK6

報告書オブジェクト用の表番号とフィールド番号

以下の図は、T レコードの表番号と V レコードのフィールド番号を示しています。

表 27. 全般報告書。エクスポートされた報告書オブジェクトの表番号とフィールド番号

表番号 または フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明
1001	V	プロファイル DECIMAL オプション
1002	V	L レコード制御域の長さ + 固定域
1010	T	フォーマット設定済み報告書表
1012	T	報告書内のフォーマット設定済みデータ列ごと OMIT を除くすべての取扱コードごと
1013	T	データのフォーマットを設定する編集コード
1014	T	フォーマット設定済みデータが入っているフィールド (字 下げ域を含む) の開始位置
1015	T	フォーマット設定済みデータが入っているフィールド (字 下げ域を含まない) の開始位置
1016	T	フォーマット設定済みデータが入っているフィールドの終 了位置
1017	T	フォーマット設定済み列値が現れる、論理報告書行内の相 対的な物理報告書行数

報告書が横方向スタイルの報告書の場合の、フィールド 1014、1015、および 1016 の意味については、262ページの表28 の後の注 2 を参照してください。

表 28. 横方向報告書。エクスポートされた報告書オブジェクトのフィールド番号

フィールド 番号	レコード・ タイプ	説明
2001	V	横方向の値のフォーマットを設定する編集コード
2002	V	横方向グループごとのデータ行数
2003	V	横方向合計列の有無を示す
2010	T	横方向報告書表
2012	T	横方向の値ごと フォーマット設定済み横方向値の開始位置。(横方向値 は、列ヘッダー行に現れる)
2013	T	フォーマット設定済み横方向値の終了位置
2014	T	この横方向値に関連する報告書列のセットの、前にある字 下げ域を含めた、開始位置

注:

1. 報告書行の位置 1 は、L レコード固定域の直後になります。
2. 横方向報告書の統計列の場合、フィールド 1014、1015、および 1016 は、統計列の横方向値のセット内のフィールドの相対的な開始位置と終了位置について記述します。(表28 のフィールド 2014 を参照してください。)
3. 報告書の各ヘッダー (PAGE または BREAK) あるいは各後書き (PAGE, BREAK、または FINAL) 内のテキスト行用の R レコードは、書式のデフォルトへの変更を含んでいる最後の行まで (最後の行を含む) しか書き込まれません。
特定のヘッダーまたは後書きに関するすべてのフィールドに元の値がある場合でも、ヘッダーまたは後書きごとに少なくとも 1 つの R レコードが書き込まれます。
4. 最大レコード長を超える報告書オブジェクトについては、継続レコードが書き込まれます。

QMF 報告書で使用される HTML タグ

263ページの表29 は、QMF がワールド・ワイド・ウェブ (WWW) 上での表示用に報告書をフォーマット設定するために使用する HTML のタグ・セットを簡単に示しています。これらのタグ・セットはそれぞれ、開始タグと終了タグで構成されます。終了タグは斜線 (/) で始まり、すべてのタグが大括弧 (<>) で囲まれています。これらのタグの詳細については、HTML 3.0 の資料を参照してください。

表 29. HTML 報告書で使用される HTML 3.0 のタグ

タグ・セット	説明
<HTML></HTML>	ファイルを HTML 文書として定義する。
<HEAD></HEAD>	これらのタグは、文書のヘッダーの境界をマークする。
<TITLE></TITLE>	これらのタグの間に、QMF が「報告書」の語を挿入する。これらのタグの間の内容は、HTML 文書のタイトルに含まれる。タイトルの配置は、ブラウザおよびプラットフォームによって異なる。これらのタグは、ヘッダー内に置かれる。
<BODY></BODY>	これらのタグは、ヘッダーの後に続き、文書の本文を含む。報告書出力は、文書の本文に置かれる。
<PRE></PRE>	これらのタグの間の内容は、そのまま表示される。これらの間では、HTML フォーマット設定は実行されない。QMF は、これらのタグの間の報告書出力を、HTML 文書の本文に置く。

エクスポート / インポート・フォーマット

付録C. 統合交換フォーマット (IXF)

DATAFORMAT=IXF オプションを指定した EXPORT コマンドを使用して、DATA または TABLE オブジェクトをエクスポートすると、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューは統合交換フォーマット (IXF) でエクスポートされます。QMF は IXF のサブセットをサポートします。これについて、この節で説明します。統合交換フォーマットの詳細については、*Data Extract: Reference* を参照してください。

IXF フォーマットは、QMF 環境の外で表を作成してインポートする場合に、特に便利です。そのためには、OUTPUTMODE を CHARACTER に設定してください。

QMF では、エクスポート後の IXF ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューは、以下のレコードから構成されます。

- ヘッダー・レコード (H)
- 表レコード (T)
- 列レコード (C)
- データ・レコード (D)

エクスポート後のファイル、データ・セット、または CICS データ・キューは、1 つの H レコードに続く、1 つの T レコードから構成されます。T レコードには、T レコードの後にある C レコードのカウントが入ります。表内の列ごとに、1 つの C レコードがあります。複数の C レコードの後に複数の D レコードが続きます。表内の行ごとに 1 つの D レコードがあります。エクスポート後のファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内のレコードの配置は、図69 のようになります。

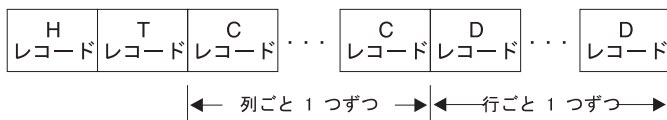


図69. エクスポート後のデータ・ファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内のレコードの配置 (IXF フォーマット)

注: データベース・マネージャー PC/IXF ファイル・フォーマットは、システム /370 IXF フォーマットと同じではありません。IXF フォーマットのデータは、PC とシステム /370 プラットフォームの間で転送できません。

統合交換フォーマット (IXF)

以下の節では、各レコードのフォーマットについて説明します。括弧内の値は、データのエクスポート時に QMF が提供する値です。

ヘッダー・レコード (H)

ヘッダー・レコード (必須レコード) は、ファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内の最初のレコードです。これは、文字データが入っている 42 バイトのレコードです。H レコードのフォーマットは次のとおりです。

バイト位置	情報とタイプ
01	ヘッダー・レコード標識 (H)
02-04	ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューID (IXF)
05-08	IXF のバージョン (0000)
09-14	送り元のプロダクト名 (QMF)
15-20	送り元のプロダクト・リリース・レベル (V7R1M0)
21-28	ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの作成日付。フォーマットは YYYYMMDD
29-34	ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューの作成時刻。フォーマットは HHMMSS
35-39	ファイル、データ・セット、または CICS データ・キュー内で最初の D (データ) レコードの前にあるレコード数。文字フォーマットで表された 5 桁の数値。
40	DBCS 標識。DBCS データの有無を示す。Y または N
41-42	予約済み

表レコード (T)

ヘッダー・レコードの後に表レコードがきます。各 IXF ファイル、データ・セット、または CICS データ・キューには、T レコードがなければなりません。表レコードには、エクスポート中のファイル、データ・セット、または CICS データ・キューに関する表とデータ情報が入ります。T レコードのフォーマットは次のとおりです。

バイト位置	情報とタイプ
01	表レコード標識 (T)

バイト位置	情報とタイプ
02-03	データ名の長さ (18)
04-21	データを取り出す表の名前。左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれる。表に名前がない場合、18 バイトのフィールド全体がブランクになる。
22-29	データ名の修飾子。データを取り出すデータベース表の所有者の名前。表に所有者がない場合、8 バイトのフィールドがブランクになる。
30-41	データ・ソース (データベース)
42	データを記述するために使用される規則。列データの場合は C
43	データ・フォーマット。文字の場合は C (OUTPUTMODE=CHARACTER) 機械語の場合は M (OUTPUTMODE=BINARY)
44	データの場所。内部の場合は I
45-49	列 (C) レコードのカウンタ。最初のデータ (D) レコードの前にある C レコード数を示す、文字フォーマットの数値
50-51	予約済み
52-81	ブランク

列レコード (C)

列レコードは、列のデータ特性を記述します。表内の列ごとに 1 つの列レコードがあります。列レコードのフォーマットは次のとおりです。

バイト位置	情報とタイプ
01	列レコード標識 (C)
02-03	列名の長さ
04-21	列名。データベースから入手されるか、または QMF によって生成される (列に、最初から名前がない場合)。名前は左寄せされ、必要に応じて、右側にブランクが埋め込まれる。
22	ヌルが許可されるかどうかを示す標識 (Y または N)
23	列選択標識 (Y)
24	キー列標識 (Y)
25	データ・クラス (R)
26-28	データ・タイプ (データ・タイプ・コードについては、120ページの表12参照)

統合交換フォーマット (IXF)

バイト位置	情報とタイプ
29-33	コード・ページ (00000)
34-38	予約済み
39-43	列データの長さ。文字フォーマットの数値。データ・タイプが DECIMAL の場合、最初の 3 バイトがデータの精度を表し、次の 2 バイトが位取りを表す。データ・タイプが INTEGER、SMALLINT、DATE、TIME、または TIMESTAMP の場合、このフィールドはブランクになる (長さは各データ・タイプに固有である)。
44-49	列データの開始位置。データ・レコードの開始点からの、列データのオフセットを示す値 (文字フォーマット)。列でヌルが許可される場合、このフィールドはヌル標識を指す。列でヌルが使用されない場合、このフィールドはデータ自体を指す。列でヌルが許可されるかどうかに関係なく、ヌル標識用のスペースはレコード内に常に存在する。開始位置は、データを含む最初のバイトからのオフセットである。したがって、データ (D) レコードの最初の 5 バイトは、開始位置に関して考慮されない。最初のデータ位置は、桁 0 ではなく、桁 1 である。
50-79	使用可能であれば、列ラベル情報。他の場合は、ブランク。
80-81	文字フォーマットの 2 バイトのゼロ (00)

データ・レコード (D)

表内の行ごとに 1 つのデータ・レコードがあります。データ・レコードのフォーマットは次のとおりです。

バイト位置	情報とタイプ
01	データ・レコード標識 (D)
02-04	予約済み
05	ブランク
06-レコード終わり	表レコードのバイト 43 が M (機械語) または C (文字) のいずれであるかによって、2 進数フォーマットまたは文字フォーマットである行データ。バイト 6 は最初の列の行データの開始点 (桁 1) を示す。

列データ・フォーマット

n 個の列用の D レコードのデータは、隣り合わせに置かれます。

列 1	列 2	...	列 n
--------	--------	-----	--------

列ごとに、データはヌル標識に続くデータ自体から構成されます。ヌルが許可される場合 (C レコードのバイト 22 = Y)、各 C レコードのバイト 44-49 は、列のデータの前にあるヌル標識を指します。ヌルが許可されない場合 (バイト 22 = N)、バイト 44-49 はデータ自体を指します。ただし、後者の場合でも、ヌル標識用のスペースはデータ・レコードに残されます。バイト 44-49 で、最初の位置は値 1 で示されます。これは、D レコードのバイト 6 を指します (バイト 1 から 5 は無視されます)。

ヌル標識の表示は、OUTPUTMODE に何を指定したか (文字または 2 進数) によって、異なります。OUTPUTMODE については、T レコードのバイト 43 に、文字の場合は C が、機械語 (2 進数) の場合は M が示されます。データ・フォーマットが文字の場合、1 バイトがヌル標識に使用されます。

- (ダッシュ) は、データがヌルであることを示す。
- (ブランク) は、データがヌルでないことを示す。

278ページの図70 には、1 つはヌルのデータを示し、もう 1 つはヌルでないデータを示す 2 つの D レコードが示されています。

データ・フォーマットが 2 進数の場合、2 バイトがヌル標識に使用されます。

- X'FFFF' はデータがヌルであることを示す。
- X'0000' はデータがヌルでないことを示す。

280ページの図71 には、ヌル・データ標識と非ヌル・データ標識を示す 2 つの D レコードが示されています。

データ・タイプ別の列データのフォーマット

270ページの表30 は、データ・タイプごとに、文字フォーマットと 2 進数フォーマットの D レコード内の列データの長さフォーマットを示しています。表では、IXFCLENG は C レコードのバイト 39-43 の内容 (列データの長さ) を示しています。

統合交換フォーマット (IXF)

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
384	DATE	<p>IXFCLENG の値は意味がない。長さ (10 バイト) はデータ・タイプによって決まる。</p> <p>フォーマットは次のとおり。</p> <p style="text-align: center;">yyyy-mm-dd</p> <p>ここで yyyy は年、mm は月、dd は日を示す。 yyyy、mm、および dd は数字でなければならない。 先行ゼロは省略してはならない。yyyy の可能な範囲は 0001-9999、mm は 01-12。dd の範囲は月によって異なる。</p>	文字フォーマットと同じ

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット (続き)

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
388	TIME	<p>IXFLENG の値は意味がない。長さ (8 バイト) はデータ・タイプによって決まる。</p> <p>フォーマットは次のとおり。</p> <p style="text-align: center;">hh.mm.ss</p> <p>ここで hh は 24 時間フォーマットの時、mm は分、および ss は秒を示す。hh、mm、および ss はすべて数字でなければならない。先行ゼロは省略してはならない。可能な範囲は次のとおり。</p> <p style="margin-left: 40px;">hh は 00 - 23 mm は 00 - 59 ss は 00 - 59</p> <p>真夜中を示す特殊値 24.00.00 も有効である。</p> <p>例</p> <p>10.37.42 は 10:37:42 AM 08.00.00 は 8 AM 23.30.00 は 11:30 PM</p>	文字フォーマットと同じ

統合交換フォーマット (IXF)

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット (続き)

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
392	TIMESTAMP	<p>IXFCLENG の値は意味がない。長さ (26 バイト) はデータ・タイプによって決まる。</p> <p>フォーマットは次のとおり。</p> <pre> yyyy-mm-dd-hh .mm.ss.nnnnnn </pre> <p>ここで yyyy は年、最初の mm は月、dd は日、hh は 24 時フォーマットの時、2 番目の mm は分、ss は秒、および nnnnnn はマイクロ秒を示す。年、月、日、時、分、および秒の有効な範囲は、DATE と TIME の各データ・タイプと同じである。nnnnnn の範囲は 000000-999999 である。</p> <p>例</p> <pre> 1997-12-31-23 .59.59.999999 (1997 年の最後の マイクロ秒) 1998-01-01-00 .00.00.000000 (1998 年の最初の マイクロ秒) </pre> <p>24.00.00.000000 は、有効なタイム・スタンプの時刻部分である。</p>	文字フォーマットと同じ

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット (続き)

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
448	VARCHAR	<p>IXFLENGL は、文字ストリングの最大長である。データ長は、5 バイトの文字カウント・フィールドと、その後続く IXFLENGL によって示される N バイトから構成される。(N の有効範囲は 0-254 であり、カウント・フィールドの有効範囲は 0-N である)。カウント・フィールドによって示された文字数だけが有効で、残りの部分は無意味である。</p> <p>例</p> <p>IXFLENGL=00010 の場合のデータ・フォーマット 00005JONESxxxxx</p> <p>ここで、各 x はブランク文字 (X'40') である。</p>	<p>IXFLENGL は、文字ストリングの最大長である。データ長は、2 バイトの 2 進数カウント・フィールドと、その後続く IXFLENGL によって示される N バイトから構成される。(N の有効範囲は 1-254 であり、カウント・フィールドの有効範囲は 0-N である)。カウント・フィールドによって示された文字数だけが有効で、残りの部分は無意味である。</p> <p>例</p> <p>IXFLENGL=00010 の場合のデータ・フォーマット nnJONESxxxxx</p> <p>ここで nn=X'0005' であり、各 x はブランク文字 (X'40') である。</p>
452	CHAR	<p>IXFLENGL 文字ストリングの長さである。データ長は、IXFLENGL の N バイトによって示される。(N の有効範囲は 1-254 である)。</p> <p>例</p> <p>IXFLENGL=00005 の場合のデータ・フォーマット JONES</p> <p>ここで JONES は、C レコードの バイト 44-49 によって示される、5 バイトの文字ストリング</p>	文字フォーマットと同じ

統合交換フォーマット (IXF)

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット (続き)

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
456	LONG VARCHAR	N の有効範囲が 0-32767 であることを除いて、 VARCHAR と同じ	文字フォーマットと同じ
464	VARGRAPHIC	IXFLENGL は 2 バイト文字の最大数 (2xN バイト)。データ長は、5 バイトの文字カウント・フィールドと、IXFLENGL によって示されたバイト数の 2 倍と 2 (シフト文字用) の合計である。カウント・フィールド内の 2 バイト文字数は、データの直前にシフトアウト (X'0E') があり、直後にシフトイン (X'0F') がある場合に有効である。残りの部分は無意味である。(N の有効範囲は 1-127 であり、カウント・フィールドの有効範囲は 0-N である。) 例 IXFLENGL = 00006 の場合のデータ・フォーマット 00003oZZYXXixxxxxx ここで、o はシフトアウト、i はシフトイン、x は空白文字 (X'40') である。	データ長は、2 バイトの 2 進カウント・フィールドと、その後続く IXFLENGL によって示されたバイト数の 2 倍から構成される。(IXFLENGL の有効範囲は 1-127 であり、カウント・フィールドの有効範囲は 0-IXFLENGL である。) カウント・フィールド内の 2 バイト文字数は有効である。周りを囲むシフトアウト文字とシフトイン文字はない。残りの部分は無意味である。 例 IXFLENGL = 00008 の場合のデータ・フォーマット nnZZYXXWWxxxxxxx ここで nn=X'0004' であり、x は空白文字 (X'40') である。

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット (続き)

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
468	GRAPHIC	<p>IXFCLENG は 2 バイト文字数 (2*N バイト)。データ長は、2*N バイトと、データの直前のシフトアウト (X'0E') と、データの直後のシフトイン (X'0F') から構成される。</p> <p>例</p> <p>IXFCLENG=00005 の場合のデータ・フォーマット oZZYXXWVVV i</p> <p>ここで、o はシフトアウト、i はシフトインである。</p>	<p>データ・ストリングに、周りを囲むシフトイン文字とシフトアウト文字がないことを除いて、文字フォーマットと同じである。</p> <p>例</p> <p>IXFCLENG=00005 の場合のデータ・フォーマット ZZYXXWVVV</p>
472	LONG VARGRAPHIC	<p>N の有効範囲が 0-16383 であることを除いて、VARGRAPHIC と同じ</p>	<p>文字フォーマットと同じ</p>
480	FLOAT	<p>IXFCLENG 内の値は 8。データの長さとは、データ・タイプによって決まる。</p> <p>データは以下のような配置の 23 バイトの文字値から構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 文字の符号 18 文字の仮数 (17 桁と小数点) 文字 E 3 文字の符号付き指数 <p>例</p> <p>-1.2345678901234567E+14 +6.2345678901234567E-01 0.0000000000000000E+00</p>	<p>IXFCLENG 内の値は 8。データの長さとは、データ・タイプによって決まる。</p> <p>データは、長精度浮動小数点用の標準 IBM S/370™ フォーマットの 8 バイトの浮動小数点値からなる。</p>

統合交換フォーマット (IXF)

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット (続き)

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
484	DECIMAL	<p>C レコードのバイト 39-43 は、数値の精度 P (最初の 3 バイト) と位取り S (次の 2 バイト) を示す。P の有効範囲は 0-15 である。S は P 以下の任意の値である。</p> <p>データは、P+2 バイト (または S=0 の場合は P+1 バイト) の文字値として、右寄せされてフォーマット設定される。最初のバイトは符号用であり、小数点 (S によって暗示される位置) は、S がゼロ以外の場合にのみ存在する。</p> <p>例</p> <p>P=005, S=00 の場合のデータ・フォーマット 12345</p> <p>P=006, S=02 の場合のデータ・フォーマット +2345.10</p> <p>P=004, S=03 の場合のデータ・フォーマット -8.515</p>	<p>C レコードのバイト 39-43 は、数値の精度 P (最初の 3 バイト) と位取り S (次の 2 バイト) を示す。P の有効範囲は 0-15 である。S は P 以下の任意の値である。</p> <p>データは、標準 IBM S/370 パック 10 進数フォーマットの (P+2)/2 バイトのパック 10 進数値から構成される。P 桁のうちの S は、以下のように暗黙の小数点として解釈される。</p> <p>例</p> <p>P=005, S=00 の場合のデータ・フォーマット X'12345C'</p> <p>P=006, S=02 の場合のデータ・フォーマット X'0234510D'</p>
496	INTEGER	<p>IXFCLENG の値は意味がない。データの長さとはフォーマットは、データ・タイプによって決まる。</p> <p>データは、11 バイトの文字値で、右寄せされ、最初の文字が符号用に予約されている。</p> <p>例</p> <p>0000000013 +1187642200 -0033588727</p>	<p>IXFCLENG の値は意味がない。データの長さとはフォーマットは、データ・タイプによって決まる。</p> <p>データは 4 バイトの 2 進数値から構成される。</p>

表 30. データ・タイプ別の IXF 列データのフォーマット (続き)

データ・タイプ・コード	データ・タイプ	データ長情報 文字フォーマット	データ長情報 2 進数フォーマット
500	SMALLINT	IXFLEN の値は意味がない。データの長さとはフォーマットは、データ・タイプによって決まる。 データは、6 バイトの文字値で、右寄せされ、最初の文字が符号用に予約されている。 例 00023 +00763 -21311	IXFLEN の値は意味がない。データの長さとはフォーマットは、データ・タイプによって決まる。 データは 2 バイトの 2 進数値から構成される。

IXF の例

91 ページの例に示した表 (QMF フォーマットを使用してエクスポートされた表) を、IXF フォーマットを使用して (OUTPUTMODE=CHARACTER を指定) エクスポートするとします。

```
ID  NAME      COMM
---  ---      ---
10 SANDERS   -
20 PERNAL   612.45
```

エクスポート後のファイル、データ・セット、または CICS データ・キューは、以下に示すように、1 つの H レコード、1 つの T レコード、3 つの C レコード、および 2 つの D レコードで合計 7 つのレコードから構成されます。

```
HIXF0000QMF  V7R1M01998120409560000005N
T18                      database          CCI00003
C02ID                    NYNR50000000          000002          00
C04NAME                   YYNR44800000          000090000008          00
C04COMM                   YYNR48400000          00702000023          00
D      00010 00007SANDERSxx-
D      00020 00006PERNALxxx 00612.45
```

統合交換フォーマット (IXF)

印刷不可能な 2 進数文字は x で示してあります。図70 は、これらのレコードの詳細を示しています。

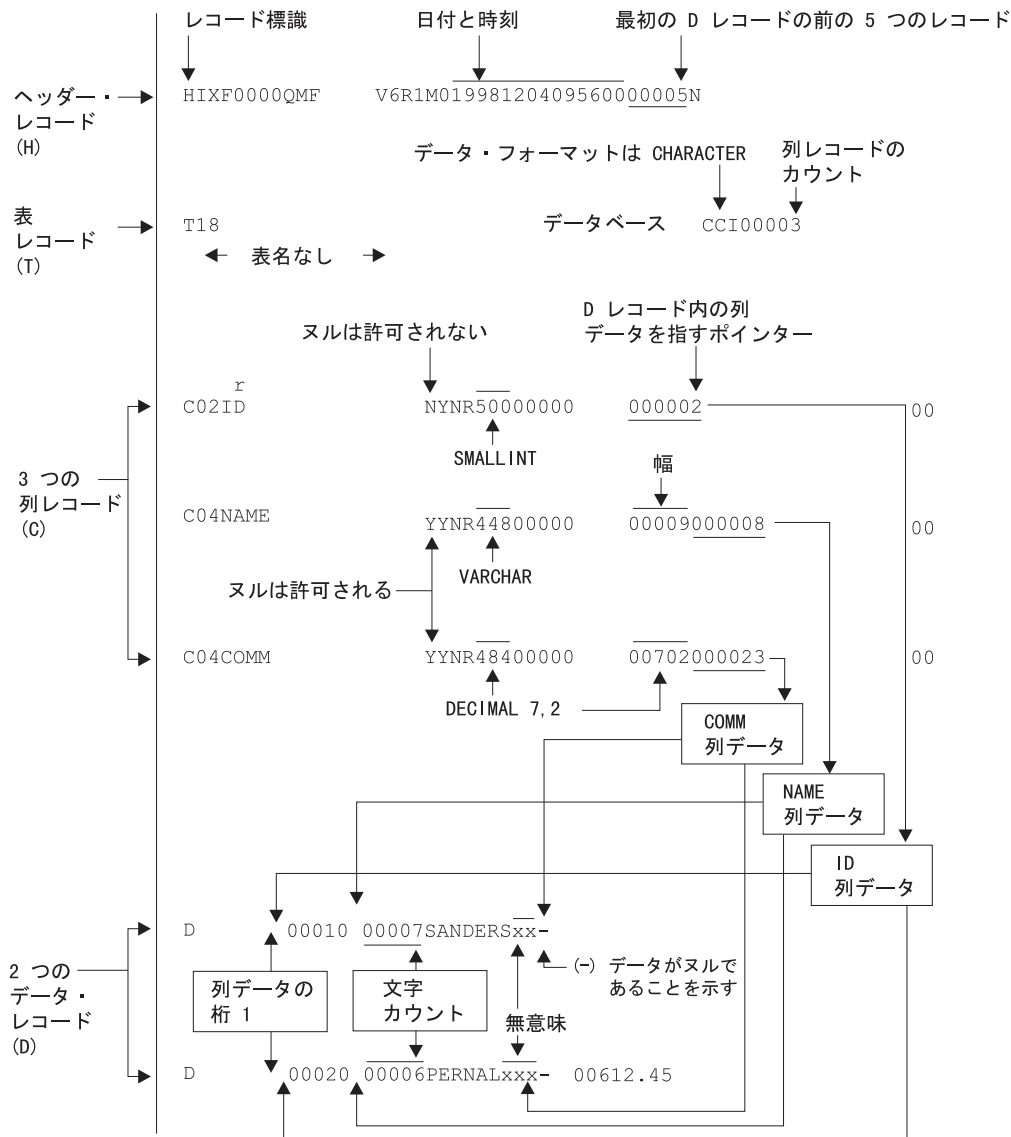


図70. サンプル IXF レコードのフォーマット (OUTPUTMODE=CHARACTER)

IXF フォーマットを使用して同じ表をエクスポートしますが、OUTPUTMODE=BINARY を指定するとします。前の例と同様に、エクスポート

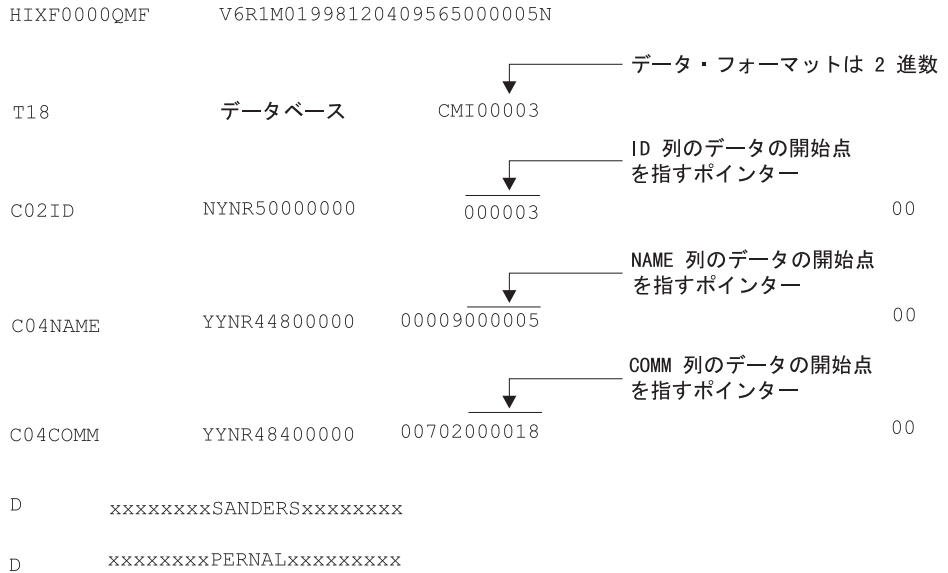
ト後のファイル、データ・セット、または CICS データ・キューは、以下に示すように 7 つのレコードから構成されます。

```

HIXF0000QMF  V7R1M01998120409565000005N
T18                database                CMI00003
C02ID              NYNR50000000           000003           00
C04NAME            YYNR44800000           00009000005     00
C04COMM            YYNR48400000           00702000018     00
D   xxxxxxxxSANDERSxxxxxxxx
D   xxxxxxxxPERNALxxxxxxxx
    
```

バイト 44 から 49 まで (列データの開始位置) を除いて、H、T、および C レコード内の情報は本質的に同じです。しかし、D レコード内のデータは、大いに異なります。280ページの図71 は、エクスポート後のファイル、データ・セット、または CICS データ・キューのレコードの詳細を示しています。

統合交換フォーマット (IXF)



2 つのデータ (D) レコードを、各種フィールドの記述と共に、16 進表記で以下に示す。

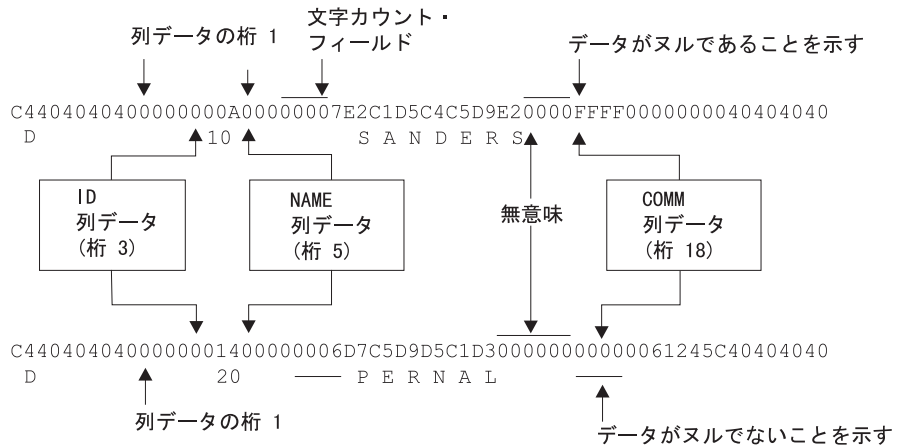


図 71. サンプル IXF レコードのフォーマット (OUTPUTMODE=BINARY)

付録D. ADDRESS QRW: QMF コマンド環境の使用

— CICS ユーザーへの注 —

REXX は、QMF CICS ではサポートされていないので、ADDRESS QRW は、CICS 環境では機能しません。

REXX 言語は、コマンドのデフォルトの解決を決定するコマンド環境 において常に機能します。デフォルトのコマンド環境は、オペレーティング・システムによって、CMS または TSO です。

QMF を開始するとき、REXX ADDRESS コマンドを介して、QMF をデフォルトのコマンド環境として設定することができます。このコマンドを単独で、または QMF コマンドの前で使用することができます。

```
ADDRESS QRW
ADDRESS QRW コマンド
```

ADDRESS QRW を使用した場合、別の ADDRESS コマンドを出すまで、QMF はデフォルトのコマンド環境にとどまります。ADDRESS QRW コマンド を使用した場合、QMF は、そのコマンドについてだけのコマンド環境になります。

QMF ロジックを持つプロシージャーを使用している場合、QRW がデフォルトのコマンド環境になります。

呼び出し可能インターフェースまたは REXX コマンド環境のいずれを使用しても QMF は同様に機能しますが、ADDRESS QRW は、SAA 照会 CPI の一部ではありません。このコマンドは、アプリケーションを別の SAA 照会環境に移植する予定がない場合にのみ使用してください。

次の例は、QMF コマンド環境の使用方法を示しています。

ADDRESS QRW

```
⋮
call dsqcix "START (DSQSMODE=INTERACTIVE"
if dsq_return_code=dsq_severe | dsq_return_code=dsq_failure
  then exit dsq_return_code

ADDRESS QRW
"RUN PROC MONDAY_P"
if dsq_return_code=dsq_severe | dsq_return_code=dsq_failure
  then exit dsq_return_code

"EXIT"
if dsq_return_code=dsq_severe | dsq_return_code=dsq_failure
  then exit dsq_return_code
⋮
```

図 72. QMF コマンド環境の使用例

付録E. プロダクト・インターフェース・マクロ

この付録に示したマクロは、ユーザーのための汎用プログラミング・インターフェースとして、QMF によって提供されています。

警告: この付録に示したマクロ以外の QMF マクロを、プログラミング・インターフェースとして使用してはなりません。

プロダクト・インターフェース・マクロ

DSQQMF n

ここで、 n は NLF ID です。英語の場合、この ID は E になります。

呼び出し可能インターフェース・マクロ

アセンブラー

- DSQCIA
- DSQCOMMA

C/370

- DSQCIC
- DSQCICE
- DSQCOMMC

COBOL

- DSQCIB
- DSQCOMMB

FORTRAN

- DSQCIF
- DSQCIFE
- DSQCOMMF

PL/I

- DSQCIPL
- DSQCIPX
- DSQCOMML

REXX

- DSQCIX

コマンド・インターフェース・マクロ

DSQCCI

QMF 管理プログラム出口インターフェース・マクロ

DXEGOVA

DXEXCBA

QMF ユーザー編集出口マクロ

DXEECS

付録F. QMF グローバル変数表

QMF には、アプリケーションで使用できる多くの変数が用意されています。QMF のバージョン 3 で、呼び出し可能インターフェースの現行の命名規則が採用されました。対応するコマンド・インターフェースの変数名もそのまま使用できます。

呼び出し可能インターフェースのグローバル変数名の長さは、18 文字までです。呼び出し可能インターフェース・ユーザーは、古い名前 (8 文字) または新しい名前 (18 文字) のいずれも使用できますが、新しい名前の使用をお勧めします。コマンド・インターフェース・ユーザーは、古い名前を使用する必要があります。

新しい命名規則は、**DSQcc_XXXXXXXXXX** です。

cc	以下のカテゴリ ID のいずれかです。
AP	プロファイル関連の状態情報
AO	その他の (プロファイル関連でない) 状態情報
CM	先行コマンドで生じたメッセージに関する情報
CP	表編集プログラムに関する情報
DC	QMF が画面に情報を表示する方法の制御
EC	QMF がコマンドとプロシージャーを実行する方法の制御
QC	CONVERT QUERY オプションで生じる変数
QM	RUN QUERY エラー・メッセージ情報
QW	QMF (Windows 版) に固有な変数

_ 下線文字

XXXXXXXXXX

最大 12 文字の記述的な名前

バージョン 3.3 から、QMF は、**Q.SYSTEM_INI** という名前の特殊プロシージャーを提供します。このプロシージャーを使用すると、ユーザーは、初期化時にグローバル変数をカスタマイズできます。詳細については、ユーザーのオペレーティング・システム用の **QMF インストール (導入) および管理** の資料を参照してください。

プロファイル関連状態情報の DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数は、いずれも SET GLOBAL コマンドでは変更できません。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAP_CASE	DSQAPCAS	01	CASE パラメーター。値は以下のとおり。 1 UPPER 2 MIXED 3 STRING
DSQAP_CONFIRM	DSQAPRMP	01	CONFIRM パラメーター。値は以下のとおり。 0 NO 1 YES
DSQAP_DECIMAL	DSQAPDEC	01	DECIMAL パラメーター。値は以下のとおり。 1 PERIOD 2 COMMA 3 FRENCH
DSQAP_LENGTH	DSQAPLEN	18	LENGTH パラメーター。この値は、パラメーターに関する値である。('1' ~ '999' または 'CONT')
DSQAP_PFKEY_TABLE	DSQAPPFK	31	機能キー表の名前
DSQAP_PRINTER	DSQAPPRT	08	PRINTER パラメーター。値は以下のとおり。 GDDM プリンターのニックネーム ブランク (DSQPRINT と関連づけられたプリンター)

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAP_QUERY_LANG	DSQAPLNG	01	LANGUAGE パラメーター。値は以下のとおり。 1 SQL 2 QBE 3 PROMPTED
DSQAP_QUERY_MODEL	DSQAMODP	01	MODEL パラメーター。値 '1' は RELATIONAL
DSQAP_RESOURCE_GRP	DSQAPGRP	16	RESOURCE GROUP パラメーター。
DSQAP_SPACE	DSQAPSPC	50	SPACE パラメーター。この値は、パラメーターに関する値である。
DSQAP_SYNONYM_TBL	DSQAPSYN	31	SYNONYMS パラメーター
DSQAP_TRACE	DSQAPTRC	18	TRACE パラメーター。値は以下のとおり。 ALL (最大トレース) NONE (最小トレース) 各 QMF コンポーネントの指定 (たとえば、A2L2C1)
DSQAP_WIDTH	DSQAPWID	18	WIDTH パラメーター。この値は、パラメーターに関する値である。 ('22' ~ '999')

プロフィール関連でない状態情報の DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数は、いずれも SET GLOBAL コマンドでは変更できません。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAO_APPL_TRACE	DSQATRAC	01	アプリケーション・トレース・レベル。値は以下のとおり。 0 レベル A0 1 レベル A1 2 レベル A2
DSQAO_ATTENTION	DSQCATTN	01	ユーザー・アテンション・フラグ
DSQAO_BATCH	DSQABATC	01	バッチ・モードまたは対話モード。値は以下のとおり。 1 対話式セッション 2 バッチ・モード・セッション
DSQAO_CONNECT_ID	DSQAAUTH	08	データベースの接続に使用するユーザー ID。(このユーザー ID のもとで作業が実行される。)
DSQAO_CONNECT_LOC	なし	18	ユーザーが現在接続されているデータベースのロケーション名。名前は 18 文字 (必要に応じて、右側がブランクで埋められる)。
DSQAO_CURSOR_OPEN	DSQACRSR	01	データベースのカーソル状況。値は以下のとおり。 1 カーソルがオープンされている。 2 カーソルがクローズされている。
DSQAO_DB_MANAGER	DSQADBMG	01	データベース・マネージャー。値は以下のとおり。 1 DB2 (VM/ESA または VSE/ESA 用) 2 DB2 (MVS/ESA 用) 3 ワークステーション・データベース・サーバー

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAO_DBCS	DSQADBCS	01	<p>DBCS サポート状況。値は以下のとおり。</p> <p>1 DBCS サポートあり</p> <p>2 DBCS サポートなし</p>
DSQAO_FORM_PANEL	DSQASUBP	02	<p>現在の書式パネル。値は以下のとおり。</p> <p>1 FORM.MAIN</p> <p>2 FORM.COLUMN</p> <p>3 FORM.PAGE</p> <p>4 FORM.FINAL</p> <p>5 FORM.BREAK1</p> <p>6 FORM.BREAK2</p> <p>7 FORM.BREAK3</p> <p>8 FORM.BREAK4</p> <p>9 FORM.BREAK5</p> <p>10 FORM.BREAK6</p> <p>11 FORM.OPTIONS</p> <p>12 FORM.CALC</p> <p>13 FORM.DETAIL</p> <p>14 FORM.CONDITIONS</p> <p>ブランク値は、QMF 一時記憶域に書式がないことを意味する。</p>
DSQAO_INTERACT	DSQAIACT	01	<p>対話フラグの設定値。値は以下のとおり。</p> <p>0 対話式実行が許可されない。</p> <p>1 対話式実行が許可される。</p>

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAO_LOCAL_DB2	なし	18	ローカル DB2 データベースのロケーション名。変数 DSQAO_SUBSYS_ID に指定されているサブシステムのロケーション名。 リモート作業単位環境で、DSQ_LOCAL_DB2 はアプリケーション・リクエストの名前。名前は 16 文字 (必要に応じて、右側が空白で埋められる)。 QMF が VM 環境または VSE 環境で実行している場合、このフィールドは空白。
DSQAO_LOCATION	DSQAITLO	16	現行オブジェクト (もし、あれば) のロケーション名。この値は、3 部分名を使用している場合にのみ使用できる。
DSQAO_NLF_LANG	DSQALANG	01	ユーザーの国語。英語環境の場合は、'E'。
DSQAO_NUM_FETCHED	DSQAROWS	16	取り出されたデータ行。DATA オブジェクトが空の場合には、'0' が入る。
DSQAO_OBJ_NAME	DSQAITMN	18	現在表示されているパネルに示されている表 (報告書に入っている)、照会、プロシージャ、または書式の名前。現行パネルがオブジェクトを表示していない場合、または表示されているオブジェクトに名前がない場合、この変数には空白が入る。
DSQAO_OBJ_OWNER	DSQAITMO	08	現在表示されているパネルに示されている表 (報告書に入っている)、照会、プロシージャ、または書式の所有者。現行パネルがオブジェクトを表示していない場合、または表示されているオブジェクトに所有者がない場合、この変数には空白が入る。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAO_PANEL_TYPE	DSQAITEM	01	<p>現行パネルのタイプ。値は以下のとおり。</p> <p>1 HOME</p> <p>2 QUERY</p> <p>3 REPORT</p> <p>4 FORM</p> <p>5 PROC</p> <p>6 PROFILE</p> <p>7 CHART</p> <p>8 LIST</p> <p>9 表編集プログラム</p> <p>A GLOBALS</p>
DSQAO_QMF_RELEASE	DSQAREVN	02	<p>QMF リリース番号の数値表現。QMF バージョン 7 の場合、これは '12'。</p>
DSQAO_QMF_VER_RLS	DSQAQMF	10	<p>QMF のバージョン番号とリリース番号。 QMF バージョン 7 の場合 これは 'QMF V7'。</p>
DSQAO_QRY_SUBTYPE	DSQASUBI	01	<p>照会のサブタイプ。値は以下のとおり。</p> <p>1 SQL サブタイプ</p> <p>2 QBE サブタイプ</p> <p>3 PROMPTED サブタイプ</p> <p>ブランクは、現行パネルが QUERY でないことを意味する。</p>
DSQAO_QUERY_MODEL	DSQAMODL	01	<p>現在の照会のモデル。値 '1' は RELATIONAL</p>
DSQAO_SAME_CMD	DSQACMDM	01	<p>値は以下のとおり。</p> <p>0 2 つのコマンドは同じでない。</p> <p>1 2 つのコマンドは同じである。</p>

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAO_SUBSYS_ID	なし	04	<p>QMF が TSO で実行している場合に、QMF が接続しているローカル DB2 サブシステムの ID。</p> <p>CMS または CICS から DSQSUBS プログラム・パラメーターの値を指定した場合、このグローバル変数にその値が入る。これは、パラメーターが受け入れられ、値が処理されないために起こる。つまり、値はグローバル変数フィールドに置かれるが、その値についてなにも行われない。このロジックによって、複数の環境で同じ EXEC を使用できる。</p>
DSQAO_SYSTEM_ID	DSQASYST	01	<p>現在のオペレーティング・システム。値は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 VM/SP 2 MVS/SP 3 MVS/XA または MVS/ESA 4 VM/XA または VM/ESA 5 CICS
DSQAO_TERMINATE	DSQCSESC	01	<p>QMF 終了フラグ。値は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 セッションはマークされなかった。 1 セッションはマークされた。
DSQAO_VARIATION	DSQAVARN	02	<p>書式パネル・バリエーション番号。ブランクは、現行パネルが FORM.DETAIL でないことを意味する。</p>

CICS に関連する DSQ グローバル変数

表中の変数のうち、SET GLOBAL コマンドで変更できるのは DSQAP_CICS_PQNAME と DSQAP_CICS_PQTYPE だけです。

キュー・タイプが TD の場合、対応するキュー名の最大長は 4 です。たとえば、DSQAO_CICS_SQTYPE が TD の場合、DSQAO_CICS_SQNAME の最大長は 4 です。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQAP_CICS_PQNAME	なし	08	QMF 印刷を入れる CICS データ・キューの名前。
DSQAP_CICS_PQTYPE	なし	02	QMF 印刷を入れる CICS 記憶域のタイプ。 TS QMF 印刷を『補助』記憶装置上の CICS 一時記憶域キューに書き込む。これがデフォルトである。 TD QMF 印刷を CICS 一時データ・キューに書き込む。
DSQAO_CICS_SQNAME	なし	08	予備ファイルに使用する CICS データ・キューの名前。
DSQAO_CICS_SQTYPE	なし	02	QMF 予備ファイルを入れる CICS 記憶域のタイプ。 TS QMF 予備ファイルを『補助』記憶装置上の CICS 一時記憶域キューに書き込む。これがデフォルトである。 TD QMF 予備ファイルを CICS 一時データ・キューに書き込む。
DSQAO_CICS_TQNAME	なし	08	QMF トレースを入れる CICS データ・キューの名前。

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェイス変数名	コマンド・ インターフェイス変数名	長さ	説明
DSQAO_CICS_TQTYPE	なし	02	<p>QMF トレースを入れる CICS 記憶域のタイプ。</p> <p>TS QMF トレースを『補助』記憶装置上の CICS 一時記憶域キューに書き込む。</p> <p>TD QMF トレースを CICS 一時データ・キューに書き込む。これがデフォルトである。</p>

先行コマンドで生じたメッセージ関連の DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数は、いずれも SET GLOBAL コマンドでは変更できません。

呼び出し可能 インターフェイス変数名	コマンド・ インターフェイス変数名	長さ	説明
DSQCM_MESSAGE	DSQCIMSG	80	メッセージ・テキスト
DSQCM_MSG_HELP	DSQCIMID	08	メッセージ・ヘルプ・パネルの ID
DSQCM_MSG_NUMBER	DSQCIMNO	08	メッセージ番号
DSQCM_SUB_TXT_ <i>nn</i>	DSQCM <i>nn</i>	20	置換値 <i>nn</i>
DSQCM_SUBST_VARS	DSQCIM00	04	メッセージ中にある置換変数の個数

表編集プログラム関連の DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数のいずれも SET GLOBAL コマンドで変更できます。

EDIT TABLE の CONFIRM オプションが NO の場合、表編集プログラムは確認パネルの表示をすべて抑制します。CONFIRM オプションが YES の場合、表編集プログラムは、この表に示されているグローバル変数の値を検査することによって、有効にする確認のカテゴリーを決定します。

表編集プログラムのデフォルトは、EDIT TABLE コマンドの SAVE キーワードによって、以下のように異なります。

- SAVE=IMMEDIATE なら、各カテゴリーのデフォルトが有効です。
- SAVE=END なら、DELETE、MODIFY、END/CANCEL カテゴリーのデフォルトが有効です。ADD カテゴリーと CHANGE カテゴリーのデフォルトは無効です。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQCP_TEADD	なし	01	<p>ADD サブコマンドの実行後、確認パネルを表示する。値は以下のとおり。</p> <p>0 パネルを表示しない。</p> <p>1 パネルを表示する。</p> <p>2 パネルを表示するかどうかは、表編集プログラムのデフォルトによって決まる。これがデフォルトである。</p>
DSQCP_TECHG	なし	01	<p>CHANGE サブコマンドの実行後、確認パネルを表示する。値は以下のとおり。</p> <p>0 パネルを表示しない。</p> <p>1 パネルを表示する。</p> <p>2 パネルを表示するかどうかは、表編集プログラムのデフォルトによって決まる。これがデフォルトである。</p>

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQCP_TEEND	なし	01	<p>ユーザーが表編集プログラム・サブセッションを終了するために END サブコマンドまたは CANCEL サブコマンドを出した場合に、確認パネルを表示する。パネルの表示方法には、END または CANCEL のどちらが出されたのか、データベースに対して変更が行なわれたかどうか、および END または CANCEL の発行時に、変更されたデータが画面に含まれていたかどうかによって、いくつかのバリエーションがある。値は以下のとおり。</p> <p>0 パネルを表示しない。</p> <p>1 パネルを表示する。</p> <p>2 パネルを表示するかどうかは、表編集プログラムのデフォルトによって決まる。これがデフォルトである。</p>
DSQCP_TEDEL	なし	01	<p>DELETE サブコマンドの実行後、確認パネルを表示する。値は以下のとおり。</p> <p>0 パネルを表示しない。</p> <p>1 パネルを表示する。</p> <p>2 パネルを表示するかどうかは、表編集プログラムのデフォルトによって決まる。これがデフォルトである。</p>
DSQCP_TEDFLT	なし	01	<p>表編集プログラム内の、列用のデフォルト値を示す予約文字。最初、この値は正符号 (+) 文字に設定される。</p>

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQCP_TEDFLT_DBCS	なし	04	表編集プログラム内の、漢字ストリング列用のデフォルト値を示す予約 DBCS 文字。この値は、1 つの DBCS 文字から構成される 4 バイトの混合ストリングで、先頭にシフトアウト文字が付き、最後にシフトイン文字が付く。最初、この値は正符号 (+) 文字に設定される。このグローバル変数は DBCS 環境でのみ使用される。
DSQCP_TEMOD	なし	01	表示されたデータが変更され、PREVIOUS、CLEAR、SHOW CHANGE、SHOW SEARCH、REFRESH、または NEXT サブコマンドが発行されるときに確認パネルを表示する。結果のパネルには、サブコマンドの名前がパネル・テキストの一部として組み込まれる。値は以下のとおり。 0 パネルを表示しない。 1 パネルを表示する。 2 パネルを表示するかどうかは、表編集プログラムのデフォルトによって決まる。
DSQCP_TENULL	なし	01	表編集プログラム内の、列用のヌル値を示すための予約文字。最初、この値はハイフン (-) 文字に設定される。

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQCP_TENULL_DBCS	なし	04	表編集プログラム内の、漢字ストリング列用のヌル値を示す (あるいは、検索基準のコンテキストでは無視することを示す) 予約 DBCS 文字。この値は、1 つの DBCS 文字から構成される 4 バイトの混合ストリングで、先頭にシフトアウト文字が付き、最後にシフトイン文字が付く。最初、この値はハイフン (-) 文字に設定される。このグローバル変数は DBCS 環境でのみ使用される。

画面への情報表示を制御する DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数のいずれも SET GLOBAL コマンドで変更できます。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQDC_COST_EST	なし	01	<p>オプションとしてデータベースのコスト見積もりを抑制する。値は以下のとおり。</p> <p>0 NO - コスト見積もりを表示しない。</p> <p>1 YES - コスト見積もりを表示する。これがデフォルトである。</p>
DSQDC_CURRENCY	なし	18	<p>DC 編集コードが指定されると通貨記号が使用される。この値は長さが 1 から 18 バイトまでのストリングになる。英語の場合、デフォルトは欧州共同通貨記号である。その他の言語ではデフォルトが異なる。</p> <p>DBCS 環境では、この値は SBCS および DBCS 文字の混合ストリングになる。混合ストリングの全長はシフトアウトおよびシフトイン文字を含めて 18 バイトを超えることができない。</p>

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQDC_DISPLAY_RPT	DSQADPAN	01	<p>RUN QUERY の後で報告書を表示する。値は以下のとおり。</p> <p>0 RUN 照会コマンドからの結果を QMF に表示させない。QMF を、DSQQMFE を使用して対話式で開始した場合、または BATCH モードで開始した場合には、これがデフォルトである。QMF を BATCH モードで開始した場合、この変数を変更しても、どの QMF 画面も表示されない。</p> <p>1 QMF に報告書を自動的に表示させる。呼び出し可能インターフェースによって QMF を開始した場合には、これがデフォルトである。この値は、START コマンドの DSQADPAN プログラム・パラメーターによって指定変更できる。</p> <p>このグローバル変数は、アプリケーションでのみ有効。RUN QUERY コマンドをコマンド行から入力した場合には、このグローバル変数は無効。</p>

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQDC_LIST_ORDER	なし	02	<p>データベース・オブジェクトのリスト内のオブジェクトについて、デフォルトのソート順序を設定する。最初の文字の値は以下のとおり。</p> <p>1 リストはデフォルトの順序を使用する。</p> <p>2 リストはオブジェクト所有者によってソートされる。</p> <p>3 リストはオブジェクト名によってソートされる。</p> <p>4 リストはオブジェクト・タイプによってソートされる。</p> <p>5 リストは変更された日付によってソートされる。</p> <p>6 リストは最後に使用された日付によってソートされる。</p> <p>2 番目の文字の値は以下のとおり。</p> <p>A リストは昇順でソートされる。</p> <p>D リストは降順でソートされる。</p> <p>この変数は、LIST コマンドの結果としてリストされたオブジェクトに対してのみ適用される。その他の文脈 (表示プロンプト・パネルからなど) で作成されたリストには適用されず、表リストには適用されない。</p>

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQDC_SCROLL_AMT	なし	04	<p>QMF パネル用のスクロール移動量を設定する。値は以下のとおり。</p> <p>Csr カーソルに対するスクロール移動量を設定する。ユーザーが、後方、前方、左方向、あるいは右方向にスクロールすることによって、QMF は、カーソルが置かれている行または列を、スクロール可能域の最後、最初、左端、右端までスクロールする。</p> <p>Half スクロール移動量をスクロール可能域の半分に設定する。</p> <p>Page スクロール移動量を全ページに設定する。これがデフォルトである。</p> <p>n スクロール移動量を n 行または列に設定する。n は 1 から 9999 までの任意の数。</p>
DSQDC_SHOW_PANID	DSQCPDSP	01	<p>CUA のようなパネルにパネル ID を表示する。値は以下のとおり。</p> <p>0 パネル ID を抑止する。これがデフォルトである。</p> <p>1 パネル ID を表示する。</p>

コマンドとプロシージャの実行を制御する DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数のいずれも SET GLOBAL コマンドで変更できます。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQEC_ALIASES	なし	31	ユーザーが DB2 (MVS/ESA 版) ロケーションから表リストを要求したとき、または現在のサーバーが DB2 (MVS/ESA 版) あるいはワークステーション・データベース・サーバーである場合に、表と視点の別名のリストを取り出すための視点。
DSQEC_COLS_LDB2	なし	31	現行ロケーションが DB2 のとき、そこにある表の列情報を取り出すための視点。
DSQEC_COLS_RDB2	なし	31	リモート DB2 が現行ロケーションでないとき、そこにある表の列情報を取り出すための視点。
DSQEC_COLS_SQL	なし	31	DB2 (VM/ESA 版または VSE/ESA 版) データベース内の表の列情報を検索するための視点。
DSQEC_FORM_LANG	なし	01	保管書式またはエクスポート書式のデフォルトの NLF 言語を設定する。値は以下のとおり。 0 書式に主要 NLF 言語を使用する。 1 書式に英語を使用する。これがデフォルトである。

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQEC_ISOLATION	なし	01	<p>デフォルトの照会分離レベル。値は以下のとおり。</p> <p>0 分離レベル UR (非コミット読み取り)</p> <p>1 分離レベル CS (カーソル固定)。これがデフォルトである。</p> <p>考慮事項: 値を '0' に設定すると、存在しないデータを QMF 報告書に取り込むことがある。QMF 報告書に存在しないデータを入れてはならない場合、値を '0' に設定してはならない。</p> <p>限定サポート: QMF 7.1 では、値 '0' の使用は、以下のデータベース・サーバー (SQL の WITH 文節をサポートするサーバー) でのみ有効である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DB2 (MVS 版) V4 以降 • DB2 (VM/VSE 版) V4 以降
DSQEC_NLFCMD_LANG	なし	01	<p>コマンドの NLF 言語を設定する。値は以下のとおり。</p> <p>0 コマンドに主要 NLF 言語を使用する。これがデフォルトである。</p> <p>1 コマンドに英語を使用する。</p>

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQEC_RERUN_IPROC	なし	01	<p>END コマンドの実行後に呼び出しプロシージャを再実行する。値は以下のとおり。</p> <p>0 END コマンドの実行後、呼び出しプロシージャを再実行しない。</p> <p>1 END コマンドの実行後、呼び出しプロシージャを再実行する。これがデフォルトである。</p> <p>QMF を呼び出しプロシージャで開始しておいてから、この変数を '0' に設定すると、プロシージャ再実行の代わりに QMF が終了する。</p>
DSQEC_RESET_RPT	なし	31	<p>一時記憶域内の不完全 DATA オブジェクトがパフォーマンスに影響すると思われる場合に、QMF がユーザーにプロンプトを出すかどうかを判断する。可能な値は以下のとおり。</p> <p>0 報告書リセット・プロンプト・パネルは表示されず、QMF が実行中の報告書を完了する。これがデフォルト値である。</p> <p>1 報告書リセット・プロンプト・パネルが表示される。このパネルは、ユーザーに、新しいコマンドを出す前に現在実行中の報告書を完了するリセットすることをプロンプト指示する。</p> <p>2 報告書リセット・プロンプト・パネルは表示されず、QMF が現在実行中の報告書をリセットする。</p>

QMF グローバル変数

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQEC_SHARE	なし	31	<p>SHARE パラメーターのデフォルト値を指定する。可能な値は以下のとおり。</p> <p>0 他のユーザーとデータを共有しない。</p> <p>1 他のユーザーとデータを共有する。</p>
DSQEC_TABS_LDB2	なし	31	現在のサーバーが DB2 (MVS/ESA 版)、またはワークステーション・データベース・サーバーである場合に、現在のサーバーにある表と視点のリストを取り出すための視点。
DSQEC_TABS_RDB2	なし	31	リモート DB2 サブシステムにある表と視点のリストを取り出すための視点。
DSQEC_TABS_SQL	なし	31	DB2 (VM/ESA 版または VSE/ESA 版) データベースの表および視点のリストを検索するための視点。

CONVERT QUERY の結果を示す DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数は、いずれも SET GLOBAL コマンドでは変更できません。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQQC_LENGTH_ <i>nnn</i>	DSQCL <i>nnn</i>	05	変換結果の長さ <i>nnn</i>
DSQQC_QRY_COUNT	DSQCQCNT	03	変換結果内の照会数。元の照会が QBE I. または U. 照会以外の場合、値は常に '1' でなければならない。
DSQQC_QRY_LANG	DSQCQLNG	01	変換後の照会言語。値は以下のとおり。 1 SQL 2 QBE 3 入力をプロンプト指示する。
DSQQC_QRY_TYPE	DSQCQTYP	規定なし	変換結果内の最初の語
DSQQC_RESULT_ <i>nnn</i>	DSQCQ <i>nnn</i>	規定なし	変換結果 <i>nnn</i>

RUN QUERY エラー・メッセージ情報を示す DSQ グローバル変数

これらのグローバル変数は、いずれも SET GLOBAL コマンドでは変更できません。

呼び出し可能 インターフェース変数名	コマンド・ インターフェース変数名	長さ	説明
DSQQM_MESSAGE	DSQCIQMG	80	照会メッセージのテキスト
DSQQM_MSG_HELP	DSQCIQID	08	メッセージ・ヘルプ・パネルの ID
DSQQM_MSG_NUMBER	DSQCIQNO	08	メッセージ番号
DSQQM_SQL_RC	DSQCISQL	16	最後のコマンドまたは照会からの SQLCODE
DSQQM_SQL_STATE	なし	05	SQLSTATE がデータベース・マネージャから戻された場合の、DSQQM_SQL_RC 内の SQLCODE に関連する SQLSTATE。
DSQQM_SUB_TXT_ <i>nn</i>	DSQCIQ <i>nn</i>	20	置換値 <i>nn</i>
DSQQM_SUBST_VARS	DSQCIQ00	04	置換変数の数

付録G. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書でIBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラム、またはサービスに代えて、IBM の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の操作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書の提供は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に対して、周期的に変更が行われ、これらの変更は、文書の次版に組み込まれます。IBM は、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J74/G4
555 Bailey Avenue
P.O. Box 49023
San Jose, CA 95161-9023
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBMより提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。また、IBM 以外の製品に関するパフォーマンスの正確性、互換性、またはその他の要求は確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権表示

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。これらの例は、すべての場合について完全にテストされたものではありません。IBM はこれらのプログラムに信頼性、可用性、および機能について法律上の瑕疵担保責任を含むいかなる明示または暗示の保証責任も負いません。

サンプル・プログラムのすべての部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

「(C) (お客様の会社名) (西暦年). All rights reserved.」

この情報をソフトコピーで見ている場合には、写真やカラー・イラストが表示されない場合があります。

商標

次の用語は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	IBMLink
Advanced Peer-to-Peer Networking	IMS
AIX	Language Environment
AIX/6000	MVSMVS/ESA
AS/400	MVS/XA
C/370	OfficeVision/VM
CICS	OS/2
CICS/ESA	OS/390
CICS/MVS	PL/I
CICS/VSE	QMF
COBOL/370	RACF
DATABASE 2	S/390
DataJoiner	SQL/DS
DB2	Virtual Machine/Enterprise Systems Architecture
DB2 Universal Database	Visual Basic
Distributed Relational Database Architecture	VM/XA
DRDA	VM/ESA
DXT	VSE/ESA
GDDM	VTAM
IBM	

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Lotus および 1-2-3 は、Lotus Development Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

アスタリスクを 2 つ (**) つけて示す他の会社名、製品名、サービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

用語集

この用語集は、QMF ライブラリーの中で使用されている用語を定義したものです。探している用語が見つからない場合は、本書の索引または *IBM コンピューティング辞典* を参照してください。

異常終了 (abend). タスクの異常終了。

ABENDx. 異常終了問題のキーワード。

拡張対等通信ネットワーク機能 (Advanced Peer-to-Peer Networking). ネットワークを形成する複数のコンピューターがそれぞれ対等のものとして動的に通信できるようにする、分散ネットワークおよびセッション制御のアーキテクチャー。拡張プログラム間通信 (*Advanced Program-to-Program Communication (APPC)*) と比較。相互接続した複数のシステムが互いに通信でき、プログラムの処理を共用できるようにする SNA 同期データ・リンク制御 LU 6.2 プロトコルのインプリメンテーション。

拡張プログラム間通信 (APPC, Advanced Program-to-Program Communication). 相互に接続された複数のシステムが互いに通信でき、プログラムの処理を共用できるようにする SNA 同期データ・リンク制御 LU 6.2 プロトコルのインプリメンテーション。

総計関数 (aggregation function). 列中のデータを総計する関数の任意のグループ。書式パネル上で取扱コード AVERAGE、CALC、COUNT、FIRST、LAST、MAXIMUM、MINIMUM、STDEV、SUM、CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT を使って要求される。

総計変数 (aggregation variable). FORM.BREAK、FORM.CALC、FORM.DETAIL、または FORM.FINAL パネルのいずれかを使って報告書の中に入れられる総計関数。その値は、作成された報告書に、切れ目後書き、明細ブロック・テキスト、または最終テキストの一部として現われる。

別名 (alias). DB2 UDB (OS/390 版) で、同じ、またはリモートの DB2 UDB (OS/390 版) サブシステム中の表あるいは視点を参照する SQL ステートメント中で使用できる代替名。OS/2 で、オブジェクト、データベース、または LU などのネットワーク・リソースを識別するために使用される代替名。QMF で、ローカルまたはリモート DB2 UDB (OS/390 版) サブシステムで保管されている QMF 表または視点にアクセスするために使用されるローカルに定義された名前。

APAR. プログラム診断依頼書 (Authorized Program Analysis Report)。

APPC. 拡張プログラム間通信 (Advanced program-to-program communication)。

アプリケーション (application). QMF ライセンス・プログラムを変更せずに QMF の機能を拡張する、QMF ユーザー作成のプログラム。QMF プロシージャー、インストール先定義コマンド、あるいは EXEC を呼び出す CMS または CLIST を呼び出す TSO のコマンドのための RUN コマンドを発行することによって QMF セッションから開始される。

用語集

アプリケーション・リクエスター (application requester). (1) アプリケーション・プロセスからデータベース要求を受け入れ、それをアプリケーション・サーバーに渡す機能。(2) DRDA において、リモート・リレーショナル・データベース管理システムへの送信元。

アプリケーション・リクエスターは、分散接続の QMF 終端を扱う DBMS コードである。QMF が接続するローカル DB2 UDB (OS/390 版) サブシステムは、QMF に対するアプリケーション・リクエスターとして知られる。DB2 UDB (OS/390 版) のアプリケーション・リクエスターはローカル・データベース・マネージャー内でインストールされるからである。したがって、DB2 UDB (OS/390 版) サブシステム全体 (データを含む) がアプリケーション・リクエスターに関連しているが、SQL ステートメントは現行ロケーションで処理される。このサブシステムは、「ローカル DB2 UDB (OS/390 版)」と呼ばれる。

DB2 (VM および VSE 版) では、アプリケーション・リクエスターは QMF と同じ仮想計算機で実行される。すなわち、どのデータベースも本来は、DB2 (VM および VSE 版) アプリケーション・リクエスターに関連付けられていない。

アプリケーション・サーバー (application server). アプリケーション・リクエスターからの要求のターゲット。(1) アプリケーション・プロセスが接続されるローカルまたはリモートのデータベース・マネージャー。アプリケーション・サーバーは、所要のデータをもっているシステムで実行される。(2) DRDA では、アプリケーション・リクエスターからの要求のターゲット。DB2 UDB (OS/390 版) では、アプリケーション・サーバーは、完全な DB2 UDB (OS/390 版) サブシステムの一部である。

DB2 (VM および VSE 版) では、アプリケーション・サーバーは、DB2 (VM および VSE 版) データベース・マシンの一部である。

アプリケーション・サポート・コマンド (application-support command). アプリケーション・プログラム内で使用され、アプリケーション・プログラムと QMF 間で情報を交換できるようにする、QMF コマンドの 1 つ。この種のコマンドには、INTERACT、MESSAGE、STATE、および QMF がある。

区域分離記号 (area separator). 表示される報告書の固定域とその他の区域を区分するバリア。

引き数 (argument). 独立変数。

基本 QMF 環境 (base QMF environment). QMF のインストール時に設定される QMF の英語環境。他の言語環境は、インストール後に設定される。

バッチ QMF セッション (batch QMF session). バックグラウンドで実行する QMF セッション。指定された QMF プロシージャが呼び出されたときに開始し、そのプロシージャが終了したときに終了する。バックグラウンド QMF セッション時には、ユーザー対話もパネル表示対話も行えない。

バインド (bind). DRDA で、アプリケーション・プログラム内の SQL ステートメントを、アプリケーション・サポート・プロトコル (およびデータベース・サポート・プロトコル) フロー上でデータベース管理システムに認識させるプロセス。バインドの際に、プリコンパイラーまたはプリプロセッサからの出力は、パッケージと呼ばれる制御構造に変換される。さらに、参照されたデータへのアクセス・パスが選択され、一部の許可検査が実行される。(オプションで、DB2 UDB (OS/390 版) では、出力がアプリケーション・プランとなることがある。)

組み込み関数 (built-in function). スカラー関数または列関数の総称。「関数」と呼ばれることもある。

計算変数 (calculation variable). CALCid は、ユーザー定義の計算値が入る書式用の特殊変数である。CALCid は FORM.CALC パネルで定義される。

呼び出し可能インターフェース (callable interface). QMF サービスへのアクセスを可能にするプログラミング・インターフェース。アプリケーションは、QMF セッション外で実行している場合でも、これらのサービスにアクセスできる。コマンド・インターフェース (*command interface*) と対比。

図表 (chart). 報告書の情報のグラフィック表示。

CICS. 顧客情報管理システム (Customer Information Control System)。

クライアント (client). サーバーから共用サービスを受ける機能単位。

CMS. 会話型モニター・システム (Conversational Monitor System)。

列 (column). 表データの垂直方向の集合。特定のデータ・タイプ (たとえば、文字または数値) と名前をもつ。列内の値は、すべて同じデータ特性をもっている。

列関数 (column function). 列内のすべての値に 1 回ずつ適用され、結果として単一の値を戻す操作であり、関数名の後に、括弧で囲んだ 1 つまたは複数の引き数を続けた形で表すもの。

列ヘッダー (column heading). ユーザーが書式に指定できる列名の代替。列名やラベルとは異なり、データベースには保管されない。

列ラベル (column label). データベースに保管される、データの列の代替記述子。使用すると、列ラベルは書式にデフォルトとして現われるが、ユーザーはそれを変更することができる。

列の折り返し (column wrapping). 1 つの列が数行にまたがることを可能にする報告書内の書式設定の値。長さが列幅を超える値を列に入れるときに、しばしば使用される。

コマンド・インターフェース (command interface). QMF コマンドを実行するためのインターフェース。QMF コマンドは、アクティブ QMF セッションからしか出せない。呼び出し可能インターフェース (*callable interface*) と対比。

コマンド同義語 (command synonym). インストール先定義コマンドの動詞または動詞 / 目的語の部分。ユーザーは、コマンドの代わりにこれを入力し、その後他の必要情報を続ける。

コマンド同義語表 (command synonym table). それぞれの行にインストール先定義コマンドを記述する表。各ユーザーに、これらの表の 1 つを割り当てることができる。

コミット (commit). データに永続的な変更を加える処理。コミットされると、データ・ロックは解除され、コミットされたばかりのデータを、他のアプリケーションが使用できるようになる。ロールバック (*rollback*) も参照。

連結 (concatenation). 2 番目のストリングを 1 番目のストリングに付加して、2 つのストリングを 1 つに結合すること。

用語集

接続性 (connectivity). 異なるシステムが互いに通信できるようにすること。たとえば、DB2 UDB (OS/390 版) アプリケーション・リクエスターと DB2 (VM および VSE 版) アプリケーション・サーバー間の接続性によって、DB2 UDB (OS/390 版) ユーザーは、DB2 (VM および VSE 版) データベースのデータを要求できる。

会話 (conversation). LU 6.2 セッション上で、トランザクションを処理する一方で相互に通信することを可能にする 2 つのプログラム間の論理接続。

相関名 (correlation name). SELECT 照会の FROM 文節で指定された表名の別名。列名と連結させると、列が属する表を識別できる。

CP. VM 用制御プログラム (Control Program)。

CSECT. 制御セクション (Control section)。

現行ロケーション (current location). QMF セッションが現在接続されているアプリケーション・サーバー。CONNECT などの接続タイプのステートメント (これらはアプリケーション・リクエスターによって処理される) を除いて、このサーバーはすべての SQL ステートメントを処理する。QMF を初期化する場合、現行ロケーションは DSQSDBNM 始動プログラム・パラメーターにより指示される。(そのパラメーターが指定されていない場合は、ローカル DB2 UDB (OS/390 版) サブシステム)

現行オブジェクト (current object). 一時記憶域にあって、現在表示されているオブジェクト。保管オブジェクト (*saved object*) と対比。

顧客情報管理システム (Customer Information Control System (CICS)). リモート端末で入力されるトランザクションをユーザー作成アプリケーション・プログラムによって並行して処理できるようにする IBM ライセンス・プログラム。これには、データベースの構築、使用、維持管理の機能が含まれる。

DATA. 検索照会で戻された情報を収容する一時記憶域内のオブジェクト。表に含まれ、報告書でフォーマット設定された英数字で表現される情報。

データベース (database). 複数のユーザーの求めに応じてデータを受け入れ、保管し、提供するための所定の構造をもつデータの集合。DB2 UDB (OS/390 版) において、表スペースおよび索引スペースが入っている作成済みオブジェクト。DB2 (VM および VSE 版) では、システムで維持管理される表、索引、サポート情報 (制御情報およびデータ回復情報など) の集合。OS/2 では、表、視点、索引など、情報の集合。

データベース管理者 (database administrator). データベースの内容とデータベースへのアクセスを管理する担当者。

データベース管理システム (database management system (DBMS)). データベースを定義、作成、操作、制御、管理、使用するためのコンピューター・ベースのシステム。データベース管理システムはまた、データの保全性を保護するためのトランザクション管理およびデータ管理機能をもつ。

データベース・マネージャー (database manager). データベースを作成し維持管理するため、またデータベースにアクセスする必要のあるプログラムと通信するために使用されるプログラム。

データベース・サーバー (database server). (1) DRDA において、アプリケーション・サーバーから受け取った要求のターゲット。(2) OS/2 において、そのローカル・データベースのデータベース・サービスをデータベースのクライアントに提供するワークステーション。

日付 (date). 日、月、および年 (3 部分から構成される値) を指す。

日付 / 時刻デフォルト・フォーマット (date/time default formats). データベース・マネージャーのインストール・オプションで指定される日付 / 時刻フォーマット。そのフォーマットには、EUR、ISO、JIS、USA、または LOC (LOCAL) がある。

日付 / 時刻データ (date/time data). データ・タイプが DATE、TIME、または TIMESTAMP である、表の列内のデータ。

DB2 UDB (OS/390 版). DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版) (IBM のリレーショナル・データベース管理システム)。

DB2 (AIX 用). AIX 用の DATABASE2。QMF のリレーショナル・データのデータベース・マネージャー。

DBCS. 2 バイト文字 セット (double-byte character set)。

DBMS. データベース管理システム (Database management System (DBMS))。

デフォルト書式 (default form). 照会が実行されるときに、QMF が作成する書式。保管されている書式が照会で実行されるときは、デフォルト書式は作成されない。

宛先管理テーブル (destination control table - DCT). CICS で、それぞれの一時データ・キューの宛先を収めているテーブル。

明細ブロック・テキスト (detail block text). 個々のデータ行に対応している、報告書の本文中のテキスト。

明細ヘッダー・テキスト (detail heading text). 報告書のヘッダーのテキスト。ヘッダーを印刷するかどうかは、FORM.DETAIL で指定する。

ダイアログ・パネル (dialog panel). 指示照会基本パネルの一部を重ね書きし、照会の作成を援助するダイアログを拡張するパネル。

分散データ (distributed data). ネットワーク内の複数のシステムに保管され、リモート・ユーザーおよびアプリケーション・プログラムで使用できるデータ。

分散データベース (distributed database). ユーザーからは論理的な全体として見ることができ、ローカルにアクセスできるが、実際は複数のロケーションにあるデータベースから構成されているデータベースの 1 つ。

分散リレーショナル・データベース (distributed relational database). すべてのデータがリレーショナル・モデルに従って保管されている分散データベースの 1 つ。

用語集

分散リレーショナル・データベース体系 (Distributed Relational Database Architecture). IBM とベンダーのリレーショナル・データベース・プロダクトで使用される分散リレーショナル・データベース処理の接続プロトコル。

分散作業単位 (distributed unit of work). 分散リレーショナル・データにアクセスする方式。単一の作業単位内で、ユーザーまたはアプリケーションが SQL ステートメントを複数のロケーションに実行依頼できる (ただし、SQL ステートメントと RDBMS は 1 対 1 に対応する)。

DB2 UDB (OS/390 版) では V2R2 において、QMF がサポートするシステム指示アクセスと呼ばれる、制限された形の分散作業単位サポートが採用されている。

DOC. 文章問題のキーワード。

2 バイト文字 (double-byte character). 2 個の文字バイトを必要とするエンティティ。

2 バイト文字セット (double-byte character set (DBCS)). 各文字が 2 バイトで表現される文字セット。日本語、中国語、韓国語など、256 個のコード・ポイントでは表現できないほど多くの記号をもつ言語には、2 バイト文字セットが必要である。各文字が 2 バイトを必要とするため、DBCS 文字のタイプ、表示、印刷には、DBCS をサポートするハードウェアとプログラムが必要となる。1 バイト文字セット (*single-byte character set*) と対比。

DRDA. 分散リレーショナル・データベース体系 (Distributed Relational Database Architecture (DRDA))。

期間 (duration). 数値の後に次の 7 つのキーワード、すなわち、YEARS、MONTHS、DAYS、HOURS、MINUTES、SECONDS、MICROSECONDS の 1 つを続けて表される時間の量。

EBCDIC. 拡張 2 進化 10 進コード (Extended Binary-Coded Decimal Interchange Code)。

確認域 (echo area). 指示照会を作成する指示照会基本パネルの一部。

ヨーロッパ・フォーマット (EUR (European) format). 以下のように日付 / 時刻値を表すフォーマット。

- 日付:dd.mm.yyyy
- 時刻:hh.mm.ss

拡張構文 (extended syntax). QMF 呼び出し可能インターフェースで使用する QMF コマンド構文。この構文は、呼び出し可能インターフェース・アプリケーションで獲得され、QMF と共用される記憶域に保管される変数を定義する。

例示エレメント (example element). QBE 照会において、計算または条件の中で使用される値のシンボル。

例示表 (example table). QBE 照会の枠組み。

固定域 (fixed area). 固定列を入れる報告書の部分。

固定列 (fixed columns). ユーザーが水平方向にスクロールしても、その位置から移動しない報告書の列。複数ページの印刷報告書では、これらの列は各ページの左側に繰り返される。

フォーム (form). 報告書または図表の、印刷または表示のための仕様が入っているオブジェクトの 1 つ。一時記憶域にある書式は、FORM という名前をもつ。

機能キー表 (function key table). キーを記述するテキストが付いている 1 つまたは複数の QMF パネルの機能キー定義が入っている表。各ユーザーに、これらの表の 1 つを割り当てることができる。

ゲートウェイ (gateway). 異なるネットワーク・アーキテクチャーをもつ 2 つのコンピューター・ネットワークを接続する機能単位。同一または類似のアーキテクチャーでネットワークまたはシステムを接続するブリッジと異なり、ゲートウェイは、異なるアーキテクチャーのネットワークまたはシステムを接続する。

GDDM. 図形データ表示管理プログラム (Graphical Data Display Manager)。

グローバル変数 (global variable). 1 回セットすると、1 つの QMF セッションの間使用できる変数。グローバル変数はプロシージャー、照会、または書式で使用できる。ランタイム変数 (*run-time variable*) と対比。

図形データ表示管理プログラム (Graphical Data Display Manager). ピクチャーが、グラフィック・プリミティブに対応する機能ルーチンを通してプロシージャーにのっとり定義および表示できるようにするルーチンのグループ。

グループ化行 (grouped row). G 関数または組み込み関数のいずれかで合計される QBE ターゲット表または例示表のデータ行。

HELP. エラー・メッセージ、QMF パネル、または QMF コマンドとそのオプションについての追加情報。

ホスト (host). ネットワークでのサービスをワークステーションに提供するメインフレームまたは中間サイズのプロセッサ。

HTML. ハイパーテキスト・マークアップ言語 (Hypertext Markup Language)。WWW で表示される文書用の標準化されたマークアップ言語。

ICU. 対話式図表ユーティリティ (Interactive Chart Utility)。

INCORROUT. 正しくない出力のキーワード。

索引 (index). 特定のキーをもつレコードに迅速にアクセスできるようにする、表中のレコード位置に関するデータの集合。

初期プロシージャー (initial procedure). QMF の呼び出し直後に実行される QMF 開始コマンドの DSQSRUN パラメーターで指定される QMF プロシージャーの 1 つ。

初期化プログラム (initialization program). QMF プログラム・パラメーターを設定するプログラム。このプログラムは、呼び出し可能インターフェースの DSQSCMD で指定される。対話式 QMF のデフォルト・プログラムは DSQSCMD n である。ここで、 n は主要言語の修飾子である (英語の場合は 'E')。

用語集

インストール先定義コマンド (installation-defined command). インストール先で作成されたコマンド。 QMF は、このコマンドを QMF 自身のコマンドの 1 つとして、またはそのコマンドの組み合わせとして処理する。

インストール先定義フォーマット (installation-defined format). インストール先で定義 (または作成) される日付 / 時刻フォーマット。 LOCAL フォーマットとも呼ばれる。

対話式実行 (interactive execution). コマンドの実行の間にユーザーと QMF との間に発生すべきすべてのダイアログが実際に行われる、QMF の実行。

対話式セッション (interactive session). ユーザーと QMF が対話できる任意の QMF セッション。 QMF INTERACT コマンドを使用すれば、ある対話式セッションから別の対話式セッションを開始できる。

対話式スイッチ (interactive switch). オンになっていると、アプリケーション・プログラムで QMF コマンドを対話的に実行できるようにする概念上のスイッチ。

呼び出し CLIST または EXEC (invocation CLIST または EXEC). QMF を呼び出す (開始する) プログラム。

ISO (国際標準化機構) フォーマット (International Standards organization format). 以下のように日付 / 時刻値を表すフォーマット。

- 日付:yyyy-mm-dd
- 時刻:hh.mm.ss

ISPF. 対話式システム生産性機能 (Interactive System Productivity Facility)。

IXF. 統合交換フォーマット (Integration Exchange Format)。各種のソフトウェア・プロダクト間で表データを転送するためのプロトコル。

JCL. OS/390 用のジョブ制御言語。

ジョブ制御 (job control). VSE で、各ジョブまたはジョブ・ステップの実行準備のために記憶域に呼び出されるプログラム。その機能の例としては、入出力装置を記号名に割り当てたり、スイッチをプログラムで使用するために設定したり、制御ステートメントをログ (または印刷) したり、各ジョブ・ステップの第 1 段階を取り出すことなどがある。

JIS (日本工業規格) フォーマット (Japanese Industrial Standard format). 以下のように日付 / 時刻値を表すフォーマット。

- 日付:yyyy-mm-dd
- 時刻:hh:mm:ss

結合 (join). リレーショナル操作の 1 つで、同じデータ・タイプの値をもつ列を突き合わせることによって、複数の表からデータを検索することができるようにするもの。

キーワード・パラメーター (keyword parameter). キーワードと割り当て値から構成される QMF コマンドの 1 要素。

同種 (like). 複数の類似または同一の IBM 操作環境を表現する語。たとえば、同種分散は、互換性のあるサーバー属性レベルによる 2 つの DB2 UDB (OS/390 版) 間の分散である。異種 (*unlike*) と対比。

リテラル (literal). プログラミング言語において、1 つの値を直接表す字句単位。文字自体によって値が与えられている文字ストリング。

線形プロシージャー (linear procedure). REXX コメントで始まっていない プロシージャー。線形プロシージャーには、QMF コマンド、コメント、ブランク行、RUN コマンド、置換変数を入れることができる。ロジックを持つプロシージャー (*procedure with logic*) も参照。

線形構文 (linear syntax). あるプログラムまたはプロシージャーの 1 ステートメントに入力するか、または QMF コマンド行に入力できる QMF のコマンド構文。

行の折り返し (line wrapping). 報告書内の表の行が複数行を占めることができるようにする、表中の行のフォーマット設定。列名の行と列値の各行が、報告書の行の長さに必要なだけの行数に分割される。

ローカル (local). ユーザーのプロセッサに所在するリレーショナル・データベース、データ、またはファイルを形容する用語。ローカル DB2 UDB (OS/390 版) (*local DB2 UDB (OS/390 版)*) も参照。リモート (*remote*) と対比。

ローカル・エリア・ネットワーク (local area network (LAN)). (1) ローカル・リソース共用のために接続された複数のプロセッサ。 (2) 限定された地域 (たとえば、単独のオフィス・ビル、倉庫、キャンパスなど) 内のネットワーク。

ローカル・データ (local data). データをアクセスしようとするサブシステムが維持管理するデータ。リモート・データ (*remote data*) と対比。

ローカル DB2 UDB (OS/390 版) (local DB2 UDB (OS/390 版)). DB2 UDB (OS/390 版) と併用する場合は、アプリケーション・リクエスターは QMF と同じ MVS システムで実行される DB2 UDB (OS/390 版) サブシステムの一部である。したがって、DB2 UDB (OS/390 版) サブシステム全体 (データを含む) がアプリケーション・リクエスターに関連するが、SQL ステートメントは現行ロケーションで処理される。このサブシステムは、QMF プランがバインドされる個所である。

QMF が TSO で実行するときには、このサブシステムは、DSQSSUBS 始動プログラム・パラメーターを使用して指定される。QMF が CICS で実行するときには、このサブシステムはリソース管理テーブル (RCT) で識別される。ローカル DB2 UDB (OS/390 版) は、CICS 領域で開始された DB2 UDB (OS/390 版) のサブシステム ID である。

ロケーション (location). 分散リレーショナル・データベース・システムの特定のリレーショナル・データベース管理システム。各 DB2 UDB (OS/390 版) サブシステムは 1 つのロケーションと見なされる。

論理装置 (logical unit - LU). エンド・ユーザーが他のエンド・ユーザーと通信するために SNA ネットワークにアクセスし、これを通してエンド・ユーザーがシステム・サービス制御点から提供される機能にアクセスするポート。

論理装置タイプ 6.2 (Logical Unit type 6.2 (LU 6.2)). 分散処理環境におけるプログラム間の一般的な通信をサポートする SNA 論理装置タイプ。

用語集

LU. 論理装置 (Logical Unit)。

LU 6.2. 論理装置タイプ 6.2。

LOOP. 無限ループの問題のキーワード。

MSGx. メッセージ問題のキーワード。

多重仮想記憶 (Multiple Virtual Storage). MVS/ESA プロダクトを意味する。

MVS/ESA. 多重仮想記憶 / エンタープライズ・システム体系 (IBM のオペレーティング・システム)。

NCP. ネットワーク制御プログラム。

ネットワーク制御プログラム (Network Control Program (NCP)). 単一ドメイン、複数ドメイン、相互接続ネットワーク機能に対する通信コントローラー・サポートを提供する IBM のライセンス・プログラム。

NLF. 各国語機能 (National Language Feature)。米国英語以外の言語を 1 つ選択できるようにする、QMF とともに使用できるいくつかのオプション・フィーチャーの 1 つ。

NLS. 各国語サポート (National Language Support)。

ノード (node). SNA で、リンクの終点またはネットワークの複数のリンクに共通の接続点。ノードは、ホスト・プロセッサ、通信コントローラー、クラスター・コントローラー、または端末に分散できる。ノードは、ルーティングや他の機能の点でさまざまである。

ヌル (null). ある行のある列に値がないときに使用される特殊な値。ヌル は、ゼロと同じではない。

ヌル値 (null value). ヌル (*null*) を参照。

オブジェクト (object). QMF 照会、書式、プロシージャ、プロファイル、報告書、図表、データ、または表。報告書、図表、およびデータ・オブジェクトは、一時記憶域だけに存在し、データベースに保管できない。表オブジェクトは、データベースにだけ存在する。

オブジェクト名 (object name). QMF ユーザーが所有するオブジェクトを識別する文字ストリング。文字ストリングは最大長が 18 バイトで、英字で始まっていなければならない。用語「オブジェクト名」には、「所有者名」接頭部は含まれない。ユーザーは許可を得た場合にだけ、他のユーザーのオブジェクトにアクセスできる。

オブジェクト・パネル (object panel). 1 つの QMF コマンドの実行後、別の QMF コマンドの実行前に、オンラインで表示できる QMF パネル。そのようなパネルには、ホーム・パネル、報告書パネル、図表パネル、および QMF オブジェクトを表示するすべてのパネルがある。リスト・パネル、ヘルプ・パネル、プロンプト・パネル、および状況パネルは含まれない。

オンライン実行 (online execution). オブジェクト・パネルからの、または機能キーを押すことによるコマンドの実行。

所有者名 (owner name). 特定のオブジェクトを作成したユーザーの許可 ID。

パッケージ (package). アプリケーション・プログラムの SQL ステートメントがリレーショナル・データベース管理システムにバインドされる場合につくられる制御構造。データベース管理システムは、この制御構造を使用して、ステートメントの実行時に見出される SQL ステートメントを処理する。

パネル (panel). ウィンドウに表示するためにグループ分けした情報の特定の配列。パネルには、通知用のテキスト、入力フィールド、ユーザーが選択できるオプション、またはそれらの組み合わせを入れることができる。

パラメーター (parameter). QMF コマンドの 1 要素。この用語は QMF 資料では キーワード・パラメーター と **定位置パラメーター** の総称として用いられる。

パートナー論理装置 (partner logical unit). SNA において、セッションのリモート・システム。

PERFM. パフォーマンス問題のキーワード。

永続記憶域 (permanent storage). すべての表および QMF オブジェクトが保管されているデータベース。

プラン (plan). 複数のプログラムの SQL ステートメントがバインド時に一緒に集められてプランが作られる、パッケージの 1 つの形式。

定位置パラメーター (positional parameter). コマンド内の決まった位置に指定しなければならない QMF コマンドの 1 要素。

基本パネル (primary panel). ユーザーの照会を入れる指示照会のメイン・パネル

基本 QMF セッション (primary QMF session). QMF の外部から開始される対話式セッション。このセッションの中で、他のセッションを開始するときは、INTERACT コマンドを使用する。

プロシージャー (procedure). QMF コマンドが入っているオブジェクト。プロシージャーは単一の RUN コマンドで実行できる。一時記憶域にあるプロシージャーは、PROC という名前をもつ。線形プロシージャー (*linear procedure*) およびロジックを持つプロシージャー (*procedure with logic*) も参照。

プロシージャー終了スイッチ (procedure termination switch). QMF MESSAGE コマンドでオンにできる概念上のスイッチ。オンの状態になっていると、制御が戻る QMF プロシージャーはすべて直ちに終了する。

ロジックを持つプロシージャー (procedure with logic). REXX のコメントで始まる QMF プロシージャー。ロジックを持つプロシージャーでは、条件つきロジックの実行、計算、ストリングの作成、およびホスト環境へのコマンドの戻しが可能である。線形プロシージャー (*linear procedure*) も参照。

プロファイル (profile). ユーザーのセッションの特性情報が入っているオブジェクト。保管プロファイルとは、永続記憶域に保管されているプロファイルのことである。一時記憶域にあるプロファイルは、PROFILE という名前をもつ。ユーザーは、それぞれプロファイルを 1 つしかもつことができない。

用語集

プロンプト・パネル (prompt panel). 不完全なまたは正しくない QMF コマンドが出された後で表示されるパネル。

指示照会 (Prompted Query). 1 組のダイアログ・パネルに対するユーザーの応答に従って作成される照会。

プロトコル (protocol). 通信をおこなう場合に順守する必要がある、通信システムの機能を律する規則。

PSW. プログラム状況ワード (Program status word)。

PTF. プログラム一時修正 (Program temporary fix)。

例示照会 QBE (Query-By-Example). 照会を図形的に作成するときに使用する言語。詳細については、*QMF 使用の手引き* を参照。

QMF 管理権限 (QMF administrative authority). 最低でも、Q.PROFILES 制御表に対する挿入または削除の権限。

QMF 管理者 (QMF administrator). QMF 管理権限を持つ QMF ユーザー。

QMF コマンド (QMF command). QMF 言語の一部である任意のコマンドを指す。インストール先定義コマンドを含まない。

QMF セッション (QMF session). ユーザーが QMF を呼び出した時点から、EXIT コマンドを出すまでのユーザーと QMF 間で行なうすべての対話。

修飾子 (qualifier). QMF オブジェクトについて用いられているときは、所有者を識別する名前の部分。TSO データ・セットについて用いられるときは、それ以外の名前の部分とピリオドで区切られている名前の部分。たとえば、‘TCK’、‘XYZ’、および ‘QUERY’ は、すべてデータ・セット名 ‘TCK.XYZ.QUERY’ の修飾子である。

照会 (query). データの照会または操作を実行する SQL ステートメントまたは QBE ステートメント、もしくはプロンプト指示によって作成されるステートメント。保管照会とは、データベースに保管されている SQL 照会、QBE 照会、または指示照会のことである。一時記憶域にある照会は、QUERY という名前をもつ。

RDBMS. リレーショナル・データベース管理システム (Relational database management system)。

リレーショナル・データベース (relational database). ユーザーが表の集合として認識するデータベース。

リレーショナル・データベース管理システム (relational database management system (RDBMS)). リレーショナル・データベースを定義、作成、操作、制御、管理、使用するためのコンピューター・ベースのシステム。

リモート (remote). ローカル・リレーショナル DBMS 以外のリレーショナル DBMS を指す語。

リモート・データ (remote data). データをアクセスしようとするサブシステム以外のサブシステムが維持管理するデータ。ローカル・データ (*local data*) と対比。

リモート・データ・アクセス (remote data access). リモートからデータを取り出すための方法。QMF で使用する 2 つのリモート・データ・アクセス機能は、リモート作業単位 と DB2 UDB (OS/390 版) 専用分散作業単位 (システム指示アクセス と呼ばれる) である。

リモート作業単位 (remote unit of work). (1) アプリケーションがリレーショナル・データベースとは異なるシステム上にあり、単独アプリケーション・サーバーが単一の論理作業単位内ですべてのリモート作業単位要求にこたえるという、SQL 分散処理の形。(2) SQL ステートメントのリモートでの準備と実行を可能にする作業単位。

報告書 (report). データを検索するための照会が出されたとき、または表か視点に対する DISPLAY コマンドが入力されたときに作成されるフォーマット設定されたデータ。

REXX. 再構造化拡張実行プログラム (Restructured extended executor)。

ロールバック (rollback). アプリケーションまたはユーザーが行った、コミットされていないデータベース変更を除去するプロセス。ロールバックが起こると、ロックは解除され、変更が加えられたリソースの状態は、前回コミット、ロールバック、または開始されたときの状態に戻される。コミット (*commit*) も参照。

行 (row). 表データの水平方向の集合。

行演算子域 (row operator area). QBE ターゲット表または例示表の最左端の列。

ランタイム変数 (run-time variable). プロシージャまたは照会が実行される時にユーザーがその値を指定するプロシージャまたは照会の変数。ランタイム変数の値は、現行のプロシージャまたは照会でしか使用できない。グローバル変数 (*global variable*) と対比。

サンプル表 (sample tables). QMF に添えて出荷される表。サンプル表のデータは、QMF を初めて体験するユーザーがプロダクト学習のために使用できる。

保管オブジェクト (saved object). データベースに保管されているオブジェクト。現行オブジェクト (*current object*) と対比。

SBCS. 1 バイト文字セット (single-byte character set)。

スカラー (scalar). 列、リテラルの値、または他のスカラーを含む式の値。

スカラー関数 (scalar function). 1 つの値を別の値から作成し、関数名の後ろに括弧で囲んだ引き数リストを付けた形で表す操作。

画面 (screen). ユーザーに情報を表示するディスプレイの物理的な表示面。

スクロール可能域 (scrollable area). 上、下、左、右に移動可能な表示オブジェクトの部分。

用語集

サーバー (server). 共用サービスをネットワーク上でワークステーションに提供する機能単位。

セッション (session). ユーザーがログオンしてからログオフするまでの、ユーザーと QMF 間のすべての対話。

1 バイト文字 (single-byte character). 内部表示が 1 バイトから構成される文字。英字は 1 バイト文字の例である。

SNA. システム・ネットワーク体系 (Systems Network Architecture (SNA))。

SNAP ダンプ (SNAP dump). 異常終了時に QMF が生成する 1 つまたは複数の記憶域の内容の動的ダンプ。

ソート優先順位 (sort priority). 検索されたある列のソート値が別の検索列の値のソートを決定する、検索照会の仕様の 1 つ。

SQL. 構造化照会言語 (Structured Query Language)。

SQLCA. 構造化照会言語連絡域 (Structured Query Language Communication Area)。

SSF. ソフトウェア・サポート機能 (Software Support Facility)。現行のすべての APAR および PTF に関する情報の保管および検索を可能にする IBM オンライン・データベースの 1 つ。

保管オブジェクト (stored object). 永続記憶域に保管されているオブジェクト。現行オブジェクト (*current object*) と対比。

ストリング (string). 1 組の連続した同じタイプの項目。たとえば、文字ストリング。

構造化照会言語 (Structured Query Language (SQL)). DB2 UDB (OS/390 版) および DB2 (VSE または VM 版) と通信を行なうために使用する言語。記述文で照会を書くために使用される。

副照会 (subquery). 別の照会 (主照会またはより高位の副照会) の WHERE または HAVING 文節の中に現れる完結した SQL 照会。

置換変数 (substitution variable). (1) 値が、グローバル変数またはランタイム変数のいずれかで指定される、プロシーチャー内または照会内の変数。 (2) 値が、グローバル変数で指定される書式の変数。

サブストリング (substring). SUBSTR 関数で開始位置と長さを指定する、ストリングの一部。

システム・ログ (System Log (SYSLOG)). オペレーターとの間での、ジョブ関連情報、操作上のデータ、通常でないオカレンスの記述、コマンド、およびオペレーターとの間のメッセージを保管できるデータ・セットまたはファイル。

システム・ネットワーク体系 (Systems Network Architecture). ネットワークの構成および操作を通し、またそれを制御することによって情報単位を伝送するための論理構造、フォーマット、プロトコル、および操作手順の記述。

表 (table). リレーショナル・データベース・マネージャーの制御下にあるの名前の付いたデータの集合。表は、固定数の行と列から構成される。

表編集プログラム (Table Editor). 許可ユーザーが照会を作成しなくてもデータベースに変更を加えることができるようにする QMF の対話式編集プログラム。

表名域 (table name area). QBE 例示表の最左端の列。

表データ (tabular data). 列のデータ。データの内容および書式は、FORM.MAIN および FORM.COLUMNS で指定される。

ターゲット表 (target table). 例示エレメントを使用して、列を組み合わせたたり、行を組み合わせたたり、報告書に定数値を組み込んだりする空の表。

一時記憶域 (temporary storage). 現在使用している照会、書式、プロシーチャー、プロファイル、報告書、図表、およびデータ・オブジェクトを保管する区域。データ・オブジェクト以外はすべて表示できる。

一時記憶域キュー (temporary storage queue). CICS において、QMF とアプリケーションまたはシステム・サービスの間のオブジェクト転送に用いられる一時記憶域。

時刻 (time). 時刻を時、分、必要に応じて秒 (2 つまたは 3 つの部分値) で指定する。

スレッド (thread). アプリケーションの接続の記述、その進行のトレース、リソース機能処理能力の提供、および DB2 UDB (OS/390 版) リソースとサービスへのアクセス可能性の限度の決定を行なう DB2 UDB (OS/390 版) の構造。ほとんどの DB2 UDB (OS/390 版) 機能は、スレッド構造のもとで実行される。

3 部分名 (three-part name). ロケーション名、所有者 ID、およびオブジェクト名から構成される表または視点の完全修飾名。アプリケーション・サーバー (つまり DB2 UDB (OS/390 版)) でサポートされる場合は、3 部分名を SQL ステートメントで使って、指定されたロケーションの指定された表または視点を検索または更新することができる。

タイム・スタンプ (timestamp). 日付および時刻、必要に応じてマイクロ秒 (6 または 7 部分値)。

TP. トランザクション・プログラム (Transaction Program)。

TPN. トランザクション・プログラム名 (Transaction program name)。

トランザクション (transaction). 「作業単位の開始」から「コミット」または「ロールバック」までに発生する作業。

トランザクション・プログラム (transaction program). SNA ネットワークでトランザクションを処理するプログラム。2 種類のトランザクション・プログラムがある。アプリケーション・トランザクション・プログラムとサービス・トランザクション・プログラムである。

用語集

トランザクション・プログラム名 (transaction program name). LU 6.2 会話に参加する各プログラムがそれによって識別される名前。通常、接続のイニシエーターは、他の LU で接続を希望するプログラムの名前を識別する。LU 名とともに使用される場合、ネットワークでの特定のトランザクション・プログラムを識別する。

一時データ・キュー (transient data queue). CICS において、宛先管理テーブル (DCT) で定義されている名前をもつ記憶域。ここでは、後続の内部処理または外部処理に備えてオブジェクトが保管される。

TSO. タイム・シェアリング・オプション (Time Sharing Option)。

2 フェーズ・コミット (two-phase commit). 参加しているリレーショナル・データベース管理システムが 1 作業単位を矛盾なくコミットまたはロールバックできるようにするために分散作業単位で使用されるプロトコル。

作業単位 (unit of work). (1) アプリケーション・プロセス内の回復可能な操作シーケンス。どの時点でも、アプリケーション・プロセスは、単一の操作単位であるが、アプリケーション・プロセスの寿命には、コミット操作またはロールバック操作の結果として多くの作業単位が関係する場合がある。(2) DRDA において、データベース・マネージャーが単一のエンティティとして扱う一連の SQL コマンド群。データベース・マネージャーは、ある作業単位の間に行われたすべてのデータ変更が実行されたか、あるいはデータ変更が 1 つも行われなかったかのどちらかを確認することによって、データの整合性を確保する。

異種 (unlike). 複数の異なる IBM 操作環境を指す語。たとえば、異種分散は DB2 (VM および VSE 版) と DB2 UDB (OS/390 版) 間の分散である。同種 (*like*) と対比。

無名列 (unnamed column). 例示表に追加される空の列。無名列は、ターゲット表と同様に、列を組み合わせたり、行を組み合わせたり、あるいは定数値を報告書に組み込んだりするのに使用される。

USA (米国) フォーマット (United States of America format). 以下のように日付 / 時刻値を表すフォーマット。

- 日付: mm/dd/yyyy
- 時刻: hh:mm xM

値 (value). 表で行と列を割り当てられているデータ・エレメント。

バリエーション (variation). FORM.DETAIL パネルに指定されて、条件に応じて、1 つの報告書または報告書の部分のフォーマットの設定に使用できる、データ・フォーマット設定定義。

視点 (view). 1 つまたは複数の表にあるデータの代替表示。視点には、視点が定義されるもとになっている 1 つの表または複数の表に入っているすべての列、またはいくつかの列を組み込むことができる。(2) 照会用に検索されるデータの範囲を定義する 1 つまたは複数のエンティティ。

拡張仮想記憶 (Virtual Storage Extended). ディスク・オペレーティング・システム / 仮想記憶 (DOS/VS) の拡張版であるオペレーティング・システム。VSE は、(1) VSE/ 拡張機能サポート、および

(2) ユーザーのデータ処理ニーズを満たす必要のある IBM 提供およびユーザー作成のプログラムから成り立っている。VSE と VSE が制御するハードウェアは、両方で完全なコンピューター・システムを構成する。

VM. 仮想計算機 (Virtual Machine) (IBM のオペレーティング・システム)。VM/ESA 環境の総称。

VSE. 拡張仮想記憶 (Virtual Storage Extended) (IBM のオペレーティング・システム)。VSE/ESA 環境を総称的指す語。

WAIT. 無限待ち状態問題のキーワード。

ウィンドウ (window). パネルの全部または一部が表示される画面の長方形の部分。ウィンドウは、画面のサイズと等しくすることも、それ以下にすることもできる。

ワークステーション・データベース・サーバー (Workstation Database Server). UNIX および Intel のプラットフォーム上の IBM ファミリーの DRDA データベース・プロダクト。(たとえば、DB2 ユニバーサル・データベース (UDB)、DB2 コモン・サーバー、DB2 パラレル・エディション、および DataJoiner。)

折り返し (wrapping). 列の折り返し (*column wrapping*) および行の折り返し (*line wrapping*) を参照。

参考文献

以下の資料リストは、個々のライブラリーの全資料を示しているものではありません。これらの資料の注文、または個々のライブラリーの詳細については、IBM 担当員にお問い合わせください。

QMF 資料のリストについては、viiページの『QMF ライブラリー』を参照してください。

APPC の資料

Communicating with APPC and CPI-C: A Technical Overview
Networking with APPC: An Overview

CICS の資料

CICS Transaction Server for OS390

CICS/OS390 User's Handbook
CICS/OS390 アプリケーション・プログラミング解説書
CICS/OS390 アプリケーション・プログラミングの手引き
CICS/OS390 DB2 の手引き
CICS/OS390 資源定義 (マクロ)
CICS/OS390 資源定義 (オンライン)
CICS/OS390 Problem Determination Guide
CICS/OS390 システム定義の手引き
CICS/OS390 CICS 相互通信の手引き
CICS/OS390 Performance Tuning Handbook

CICS for VSE

- *CICS (VSE/ESA 版) User's Handbook*
- *CICS (VSE/ESA 版) 適用業務プログラミング 解説書*
- *CICS (VSE/ESA 版) 適用業務プログラミングの手引き*
- *CICS (VSE/ESA 版) 資源定義 (マクロ)*
- *CICS (VSE/ESA 版) 資源定義 (オンライン)*
- *CICS (VSE/ESA 版) Problem Determination Guide*
- *CICS (VSE/ESA 版) システム定義の手引き*
- *CICS (VSE/ESA 版) 相互通信の手引き*

- *CICS (VSE/ESA 版) Performance Tuning Handbook*

COBOL の資料

- COBOL II 適用業務プログラミングの手引き (VSE)*
- COBOL/VSE 言語解説書*
- COBOL/VSE プログラミングの手引き*

DATABASE 2 の資料

DB2 UDB (OS390 版)

- DB2 UDB (OS/390 版) インストレーションの手引き*
- DB2 UDB (OS/390 版) 管理の手引き*
- DB2 UDB (OS/390 版) SQL 解説書*
- DB2 UDB (OS/390 版) コマンド解説書*
- DB2 UDB (OS/390 版) アプリケーション・プログラミングおよび SQL の手引き*
- DB2 UDB (OS/390 版) メッセージおよびコード*
- DB2 UDB (OS/390 版) ユーティリティーの手引きおよび解説書*
- DB2 UDB (OS/390 版) Call Level Interface Guide and Reference*
- DB2 UDB (OS/390 版) リモート DRDA リクエスターおよびサーバー解説書*

DB2 (VSE および VM 版)

- DB2 Server for VM Installation Guide*
- DB2 Server for VSE Installation Guide*
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベース管理*
- DB2 サーバー (VM 版) システム管理*
- DB2 サーバー (VSE 版) システム管理*
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) オペレーション*
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) SQL リファレンス*
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) アプリケーション・プログラミング*
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) ISQL ガイドおよびリファレンス*
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベース・サービス・ユーティリティー*
- DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード*
- DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード*
- DB2 Server for VSE and VM Diagnostic Guide and Reference*
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) パフォーマンス・チューニング・ハンドブック*

DB2 (AS/400 版)

DB2 (OS/400 用) SQL 解説書

DB2 (OS/400 用) SQL プログラミング

パラレル・エディション

DB2 パラレル・エディション 管理の手引きおよび解説書

DB2 ユニバーサル・データベース

DB2 ユニバーサル・データベース コマンド解説書

DB2 ユニバーサル・データベース SQL 解説書

DB2 Universal Database Message Reference

DataJoiner

DataJoiner Application Programming and SQL Reference Supplement

DCF の資料

DCF and DLF General Information

DRDA の資料

DRDA Every Manager's Guide

DRDA 接続の手引き

DXT の資料

DXT Guide to Dialogs

Data Extract: Planning and Administration Guide for Dialogs

Data Extract: User's Guide

Learning to Use DXT

図形データ表示管理プログラム (GDDM) の資料

GDDM 概説書

GDDM Base Programming Reference

GDDM Base Programming Guide

GDDM 使用者の手引き

GDDM Installation and System Management for VSE

GDDM メッセージ

HLASM の資料

IBM High-Level Assembler Programmer's Guide for OS/390, VM and VSE
IBM High-Level Assembler Language Reference for OS/390, VM and VSE

ISPF/PDF の資料

OS/390

ISPF (OS/390 版) 計画とカスタマイズ
ISPF (OS/390 版) ダイアログ・タグ言語 ガイドとリファレンス
Interactive System Productivity Facility for OS/390 Dialog Management Services and Examples

VM

ISPF for VM Dialog Management Services and Examples

OS/390 の資料

Utilities

OS/390 Administration: Utilities
OS/390 Extended Architecture Utilities

JCL

OS/390 Extended Architecture JCL Reference
OS/390 Extended Architecture JCL User's Guide
OS/390 JCL Reference
OS/390 JCL Users Guide

Pageable Link Pack Area (PLPA)

OS/390 Extended Architecture Initialization and Tuning
OS/390 SPL: Initialization and Tuning

VSAM

OS/390 VSAM Administration Guide
OS/390 VSAM Catalog Administration Access Method Services

TSO

OS/390 TSO/E 入門
OS/390 TSO/E ユーザーズ・ガイド

SMP/E

OS/390 SMP/E メッセージおよびコード
OS/390 SMP/E 入門書
OS/390 SMP/E 解説書
OS/390 SMP/E 使用者の手引き

PL/I の資料

PL/I VSE/ESA 言語解説書

PL/I VSE/ESA プログラミングの手引き

REXX の資料**OS/390 環境**

REXX/370 コンパイラー 使用者の手引きと解説

TSO Extensions REXX/MVS Reference

VM 環境

Procedures Language VM/REXX Reference

Procedures Language VM/REXX User's Guide

ServiceLink の資料

ServiceLink User's Guide

VM の資料

Virtual Machine Planning Guide and Reference

Virtual Machine CMS Command and Macro Reference

VSE の資料

VSE Planning Guide

VSE Guide to System Functions

VSE System Utilities

VSE Guide for Solving Problems

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アセンブラー

- 移行情報 147
 - インターフェース連絡域マッピング (DSQCOMMA) 144
 - 関数呼び出し 145
 - 言語インターフェース 143
 - 高水準アセンブラー (HLASM) 143
 - サンプル・プログラム 148
 - マクロ 283
 - 連絡域 158
 - CICS 143
 - サンプル・プログラム 148
 - MVS 159
 - VSE 160
 - CMS サンプル・プログラム 153, 162
 - TSO サンプル・プログラム 153, 164
- ### アセンブラー H 143
- ### 値レコード (V) 101
- ### アプリケーション 2, 3, 26, 74
- インプリメンテーション 3
 - エラー処理 28
 - 開始 26, 74
 - 開発 1
 - コマンド 1
 - 概要 57
 - 処理 22
 - END 59
 - EXIT 62
 - INTERACT 64
 - MESSAGE 67

- アプリケーション 2, 3, 26, 74 (続き)
 - コマンド同義語 3
 - 書式オブジェクト 116
 - 制御 2
 - タイプ 1
 - データ・レコード 108, 116
 - デバッグ 137
 - プロシージャ 9
 - 変換 55
 - ロジックを持つプロシージャ 4
 - 2 か国語使用の 49, 88
 - CICS 環境 4
 - ISPF 要件 41
 - QMF
 - インプリメンテーション 3
 - 開始 26, 74
 - 制御 2
 - もとの実行 3
 - QMF とのプログラミング・インターフェース 4
 - QMF もとの実行 3
 - REXX プログラム呼び出し 18
 - SAA 4
- ### アプリケーションのデバッグ
- トレース用の A オプションの使用 138
 - ファイル割り振り 139
 - ISPF の使用 46
 - L オプション、トレース用の 137
 - PDF ダイアログ・テスト 46
 - START コマンドのエラー 141
 - TRACE オプション 137
- ### アプリケーション・システム (AS) 7
- ### 移行
- アセンブラー 147
 - オブジェクト・レベル 98
 - 切れ目フィールド番号 117

- ### 移行 (続き)
- 書式オブジェクト 118
 - C 171
 - COBOL 191
 - PL/I 224
- ### 移行情報 98, 117, 118, 147, 171, 191, 224
- ### 移植性 23
- ### 一時記憶域 4, 27
- キュー 135
 - 制約 4
 - 変更 27
- ### 一時記憶域キュー 135
- ### 一時データ・キュー 135
- 一時記憶域キューとの対比 135
- ### インターフェース
- カスタマイズ 41
 - コマンド 4
 - サンプル・プログラム 32
 - 説明 31
 - 呼び出し 31, 33
 - リターン・コード 36
 - END コマンド 34
 - 通信マクロ 23
 - プログラミング 283
 - マクロ 283
 - 呼び出し可能
 - 機能 21
 - 説明 4, 21
 - REXX 4
- ### 連絡域 4
- アセンブラー 144
 - 処理情報 21
 - 定義 23
 - フィールドの設定 24
 - 変更 23
 - C 168
 - COBOL 188
 - FORTRAN 205
 - PL/I 221
 - 連絡変数 4, 23, 239

- インターフェース (続き)
 - EXEC CICS LINK 147
 - REXX CALL 245
 - インポート 87
 - エラー処理 121
 - エラーの検出 94
 - エンコード・フォーマット・オブジェクト 109
 - オブジェクト・レベル情報 98
 - 指示照会オブジェクト 96, 112
 - 書式オブジェクト 96, 116, 119
 - 図表オブジェクト 95
 - データ・オブジェクト 93
 - 非 QMF オブジェクト 88
 - 日付 / 時刻情報 116
 - 表オブジェクト 93
 - プロシージャ 95
 - 変換後の書式 120
 - QMF の外で作成された表 90
 - SQL 照会 95
 - エクスポート
 - エンコード・フォーマット・オブジェクト 109
 - オブジェクトのタイプ 87
 - 切れ目パネル 116
 - 指示照会オブジェクト 96, 110
 - 書式オブジェクト 87, 113
 - 図表オブジェクト 95
 - データ・オブジェクト 89
 - 内容 113
 - 日付 / 時刻情報 117
 - 表オブジェクト 89
 - フォーマット 87
 - プロシージャ・オブジェクト 95
 - 変換後の書式 123
 - 報告書オブジェクト 89, 124
 - 横方向報告書 129
 - リリース固有のフォーマット 122
 - 2 進データ 94
 - EBCDIC データ 94
 - SQL 照会 95
 - エクスポート後のオブジェクトでの制御域 101
 - 書式ファイルのレコード 101
 - エクスポート後のオブジェクトでの制御域 101 (続き)
 - 報告書ファイルのレコード 101
 - T レコード 104
 - V レコード 102
 - エラー
 - インポート 94
 - インポート (書式) 121
 - インポート (データ・オブジェクトと表オブジェクト) 94
 - インポート書式 121
 - サブルーチンへの分岐 16
 - 処理ステートメント、REXX 16
 - 不完全データ・プロンプト 93
 - 命令でのシグナル 16
 - メッセージ 17
 - ラベル 16
 - 割り込み不能ループ 10, 60
 - EXEC または CLIST での検出および分析 37
 - REXX 変数を使用する処理 28
 - START コマンド 141
 - エラーのある命令でのシグナル 16
 - エンコード・フォーマット
 - インポート / エクスポート・ファイル仕様 133
 - オブジェクト 87
 - インポート規則 109
 - エクスポート規則 109
 - フォーマット 249
 - 使用 96
 - 情報の編成 103
 - 定義 87
 - 報告書オブジェクト 124
 - 横方向報告書 129
 - オブジェクト 4
 - 移植可能 88
 - インポート 4
 - エラー 94
 - エンコード・フォーマット 109
 - 図表 95
 - データ・オブジェクト 93
 - 表オブジェクト 93
 - フォーマット 249
 - エクスポート 4
 - オブジェクト 4 (続き)
 - エンコード・フォーマット 109
 - 使用 88
 - 図表 95
 - タイプ 87
 - データ・タイプ 94
 - 内容 97
 - フォーマット 87, 90, 249
 - IXF フォーマット 265
 - 終わり 108
 - 外部フォーマット 88
 - 作成 88
 - 指示照会 96
 - 書式 96, 116
 - データ 89
 - 転送 88
 - 非 QMF オブジェクトの保管 88
 - 表 89
 - プロシージャ 4, 95
 - 保管 88
 - レベル 98, 116
 - 2 か国語使用の 49
 - SQL 照会 95
 - オブジェクトの終わりレコード (E) 108
- ## [力行]
- 外部フォーマット 88
 - 拡張接続機能 (ECF) 7
 - カタログ式プロシージャ
 - C 179
 - CICS 提供の 159
 - COBOL 198
 - DFHEBTAL 159
 - PL/I 231, 232
 - 各国語フィーチャー (NLF) 52
 - 環境 4
 - 関数呼び出し
 - アセンブラー 145
 - C 169
 - COBOL 189
 - DSQCIA 145
 - DSQCIB 189
 - DSQCIC 169
 - DSQCICE 170

関数呼び出し (続き)

DSQCIF 206
DSQCIFE 206
DSQCIPL 222
DSQCIPX 222
DSQCIX 242
DSQCIX サブルーチン 242
FORTRAN 206
PL/I 222
REXX 18, 242

関連プロダクト 7

キーワード 75, 122

データ・タイプ 122
START コマンド 75

切れ目

パネル 116, 254

切れ目パネル 116, 254

グローバル変数

アクセス 63
規則 73
作成 71
設定 72
SET GLOBAL コマンド 72
変数の作成 71
DSQDC_DISPLAY_RPT 83
DSQEC_RERUN_IPROC 60
RUW を介して使用する
QMF 286

言語

アセンブラー H 143
変数
(DSQEC_NLFCMD_LANG) 50
呼び出し可能インターフェース
4
リターン・コード 28
C 168
COBOL 187
FORTRAN 205
HLASM 143
ID 41
NLF 54
PL/I 221
QMF 提供のインターフェース・
ルーチン 21
REXX 239
START コマンドの構文 74

現行ロケーション 57

高水準アセンブラー (HLASM) 143

コマンド

アプリケーション 57
インターフェース 3
サンプル・プログラム 32
説明 31
プログラム 31
プログラムからの呼び出し
33
要件 4
リターン・コード 36
DSQCCI 31
END コマンド 34
INTERACT コマンド 66
SELECT サービス 33

環境 281

言語変数 50

システム固有 12

処理情報 21

対話式実行 66

トレース・データ出力への書き込
み 137

長さ 22

呼び出し可能インターフェース
25

呼び出し可能インターフェースを
介する受け渡し 22

リターン・コード 16

リモート作業単位 57

2 か国語使用のアプリケーション
52

ADDRESS 281

CONNECT 57

DSQCIX サブルーチン 242

EDIT 45

ISPF で 45

END 59

EXIT 62

GET GLOBAL 63

ICU 64

INTERACT 64

ISPF 44

LAYOUT 114

MESSAGE 67

コマンド (続き)

QMF 提供のインターフェース・
ルーチン 21

QMF の開始 60

REXX リターン・コード 28

RUN 13

SAA 照会 242

SELECT 43

SET GLOBAL 71, 72

START 26, 74

STATE 34

コマンド同義語

作成 81

使用 81

説明 6

表 82

フォーマット 81

例 3

IRM 7

NLF 表 54

コメント 108, 117

アプリケーション・データ・レコ
ード 108, 117

エクスポート・フォーマット
117

[サ行]

指示照会

インポート 96, 112

インポート / エクスポート・ファ
イル仕様 133

インポート規則 109

エクスポート 96, 110

エクスポート規則 109

エクスポート・フォーマット
252

行データ 106

サンプル・ヘッダー 99

説明 96

データ・フォーマット 249

内容 97

表データ 103

表番号 252

ファイル・レコード 96

フィールド値 101

指示照会 (続き)
フィールド番号 252
リレーショナル 110
レコードの並び順 112
指示照会オブジェクト 96, 97, 99,
101, 103, 106, 109, 110, 112, 133,
249, 252
システム・アプリケーション体系
(SAA)
アプリケーション 4
言語サポート 4
プログラムの移植性 23
呼び出し可能インターフェース
21, 143
QUERY コマンド 23, 242
START コマンドのキーワード
75
初期プロシージャ 60
繰り返し 60
再実行 10
作成 10
指定 60
対話モード 10
名前の指定 10
ホーム・パネル 60
保管 11
2 か国語使用のアプリケーション
51
CONNECT コマンド 11
DSQEC_RERUN_IPROC グローバ
ル変数 10
END コマンド 60
照会
エクスポート・フォーマット
プロンプト 96
QBE 132
SQL 95
編集 45, 95
変数を含む 42
QMF の外での作成 95
書式
アプリケーション移行援助プログ
ラム 118
アプリケーションの要件 116
インポート
エラー 121

書式 (続き)
インポート (続き)
エンコード・フォーマット
96
規則 109
デフォルト・ファイル 116
ファイル仕様 133
フィールド 119
エクスポート 96, 109
エンコード・フォーマット
96
概説 113
規則 109
ファイル仕様 133
フォーマット 254
リリース固有のフォーマット
122
行データ 106
サンプル・ヘッダー 99
説明 96
データ・タイプ・キーワード
122
データ・フォーマット 249
デフォルト、作成 114
内容 97
バリエーション番号 119, 123
表示 114
表データ 103
表番号 254
ファイル・レコード 96
フィールド値 101
フィールド番号 254
変換 120, 123
レベル、エクスポートの 118
QMF の外 116
書式オブジェクト 96, 97, 99, 101,
103, 106, 114, 116, 118, 119, 120,
122, 123, 249, 254
図形データ・フォーマット
(GDF) 95
図表
オブジェクト 95
図表オブジェクト 95
セッション環境 53
線形プロシージャ 68
抑止 68

線形プロシージャ 68 (続き)
STOPPROC オプション 68

[夕行]

対話式図表ユーティリティ
(ICU) 7
対話の切り替え
(DSQAO_INTERACT) 67
対話モード
コマンドの実行 66
初期プロシージャ 10
GDDM ICU 64
QMF 64
置換
変数
値の割り当て 12
グローバル変数の設定 12
構文 12
置換変数 13
値の割り当て 12
グローバル変数の設定 12
構文 12
REXX プログラム呼び出し 19
RUN コマンド 13
データ
値レコード (V) 101
オブジェクト
インポート 93
インポート / エクスポートの
規則 93
インポート / エクスポート・
ファイル仕様 133
インポート・エラー 94
エクスポートされた 89, 90
フォーマット 90, 249
ヘッダー 90
2 進データ 94
IXF のエクスポート後のフォ
ーマット 265
継続 (C) レコード 128
タイプの幅 251
転送速度 94
表記述レコード (T) 103
表行レコード (R) 106
レコードのエクスポート 251

データ (続き)

- 2 進数 94
- D レコード 268
- データ抽出プログラム (DXT) 7
- データベース 88
 - 指示照会オブジェクトのインポート 110
 - 非 QMF オブジェクトの保管 88
 - リモート接続 11
- データベース・リモート接続 11
- データ・タイプ
 - インポート書式内の 122
 - キーワード 122
- テキストの表示 69
- 同義語 81
- 特記事項 309
- トレース
 - オフにする 139
 - データ
 - ファイル 139
 - データ出力 138
 - トレース定義の作成 46
 - 例 141
 - A オプション 138
 - ISPF コマンド 46
 - L オプション 137
 - MESSAGE コマンド 140
- トレース・データ出力 138, 139

[八行]

- バッチ・モード 61
 - END コマンド 61
- パネル
 - カスタマイズ 41
 - 切れ目 116
 - 現行の 64
 - 対話式 64
 - バリエーション 119, 123
 - ホーム 60
 - NLF 要件 54
- バリエーション・パネル 119, 123
- 引き数 15
- 日付 / 時刻
 - 情報 117
- 日付 / 時刻情報 117

表

- インポート 90
 - エラー 94
 - 規則 93
 - ファイル仕様 133
- オブジェクト
 - インポート 90, 93
 - インポート / エクスポートの規則 93
 - インポート / エクスポート・ファイル仕様 133
 - インポート・エラー 94
 - 処理 89
 - 定義 89
- 記述レコード (T) 103, 266
- 行レコード (R) 106
- コマンド同義語 82
- 作成 90
- 指示照会の番号 252
- 書式番号 254
- 報告書番号 261
- QMF の外で作成 265
- 表レコード 266
- フォーマット
 - インポート 249
 - エクスポート 249
 - エンコード
 - オブジェクトのインポート規則 109
 - オブジェクトのエクスポート規則 109
 - 使用 96
 - 情報の編成 103
 - 定義 87
- オブジェクト・レベル 98
- 外部 88
- 指示照会オブジェクト 252
- 書式オブジェクト 254
- データ 90
 - データのエクスポート 251
- データ・オブジェクトの解釈 90
- 表 90
 - ヘッダー・レコード 249, 250
 - 報告書オブジェクト 124, 261
 - 列データ 269
- IXF 87, 265

- 不完全データ・プロンプト 93
- 複数言語環境 52
- プログラム呼び出し 18, 22
- プロシージャ
 - 値の受け渡し 15
 - 一時記憶域 4
 - インポート 95
 - インポート / エクスポート・ファイル仕様 133
 - エクスポート 95
 - カタログされた 4
 - C 179
 - CICS 提供の 159
 - COBOL 198
 - PL/I 231, 232
 - コマンド同義語 6
 - 作成、QMF の外での 95
 - システム固有のコマンド 12
 - 終了スイッチ 68
 - 初期 4
 - 線形
 - 使用 4
 - 変数値の入カプロンプト 14
 - 引き数 15
 - 複数の照会 66
 - 編集 45
 - リモート作業単位 11
 - ロジックを持つ
 - グローバル変数 71
 - 作成 9
 - 終了 17
 - 使用 4
 - 置換変数 19
 - 変数 12
 - 変数値の入カプロンプト 14
 - 利点 4
 - ISPF の使用 44
 - REXX プログラム呼び出し 18
 - CONNECT コマンド 11
 - REXX 4
 - プロダクト・インターフェース・マクロ 283
 - ヘッダー・レコード
 - オブジェクト・レベル 98
 - 指示照会オブジェクト 99

ヘッダー・レコード (続き)

情報 97
書式オブジェクト 99
長さの計算 90
フィールド 97
フォーマット 249, 250
報告書オブジェクト 100
IXF 266

変換可能なアプリケーション 55

編集コード 122

変数

アクセス、グローバル 63
インターフェース連絡 23
エラー処理 28
規則 73
グローバル 12, 285
置換 12
グローバル変数の設定 72
言語依存のオブジェクト 55
コマンド言語 50
照会内での 42
設定 12
置換 12
データ 21
入力プロンプト 14
プール 21, 34
フォーマット・レコード 101
呼び出し可能インターフェースか
らの受け渡し 19
QMF 34
rc 16
REXX 15, 239

ホーム・パネル 10, 60

報告書

インポート / エクスポート・ファ
イル仕様 133
インポート規則 109
エクスポート 89
エクスポート規則 109
エクスポートの使用 123
エクスポート例 124
エクスポート・フォーマット
261
エクスポート・レコード 125
オブジェクト 3

報告書 (続き)

インポート / エクスポート・
ファイル仕様 133
インポート規則 109
エクスポート規則 109
エクスポート・フォーマット
261
行データ 106
サンプル・ヘッダー 100
内容 97
表データ 103
表番号 261
フィールド値 101
フィールド番号 261
フォーマット 96
横方向 261
行 (L) レコード 126
行データ 106
サンプル・ヘッダー 100
データ・フォーマット 249
テキストの表示 69
内容 97
パネル 3
表示 66
表データ 103
表番号 261
フィールド値 101
フィールド番号 261
フォーマット 96
ミニ・セッション 83
横方向 261
横方向エクスポート 129
抑止 66
レコード 97
レコード・タイプ 125
HTML 89, 131, 262

[マ行]

マクロ、プロダクト・インターフェ
ース 283
ミニ・セッション

報告書 83
無効なコマンド 85
有効なコマンド 84

メッセージ

終了 17
トレース・データ出力への書き込
み 137, 140
表示 67
DSQCOMM 141

[ヤ行]

呼び出し可能インターフェース

アプリケーションの実行 27
アプリケーションのデバッグ
137
インターフェース呼び出し 23
言語 4, 21, 143
コマンド 25
コマンド処理情報 21
サンプル・プログラム 4
アセンブラー 148
C 172
COBOL 192
FORTRAN 208
PL/I 224
REXX 243

説明 4, 21
プログラム 4
変数の受け渡し 19
マクロ 283
リターン・コード 25
利点 4
連絡域 4

アセンブラー 144, 158
エラー処理 28
定義 23
フィールドの設定 24
変更 23
C 168, 176
COBOL 194
FORTRAN 205, 213
PL/I 221, 229

ロジックを持つプロシージャか
らの呼び出し 19
CICS のもとでの実行 29
COBOL 187
FORTRAN 205
GET GLOBAL コマンド 63

呼び出し可能インターフェース (続き)
 ISPF 4
 MVS での CICS 159
 PL/I 221
 QMF 変数へのアクセス 63
 REXX
 使用 4
 説明 239
 で呼び出す 9
 プログラム呼び出し 18
 連絡変数 239
 QMF の始動 26
 SET GLOBAL コマンド 72
 START コマンド 4
 構文 74, 75
 QMF の開始 26, 74

[ラ行]

リソース管理テーブル 30
 リターン・コード
 コマンド・インターフェース 37,
 38
 非ゼロ 16
 メッセージ 17
 呼び出し可能インターフェース
 25
 REXX コマンド 28
 リポジトリ・マネージャー
 /OS/390 7
 リモート
 作業単位 11
 プロシージャ 11
 データベース接続 11
 リモート作業単位
 コマンドの動作 57
 ループ、割り込み不能 10
 列 267, 269
 データ・フォーマット 269
 C レコード 267
 レコード
 アプリケーション・データ
 (*) 108
 オブジェクトの終わり (E) 108
 可変長フォーマット 101

レコード (続き)
 共用値 128
 固定フォーマット 97
 データ (D) 268
 データ値 (V) 101
 データ継続 (C) 128
 並び順、指示照会ファイル 112
 表行 (R) 106
 表の記述 (T) 103, 266
 フォーマット 251
 ヘッダー 97
 報告書行 (L) 126
 列 (C) 267
 連絡域
 アセンブラー 144, 158
 定義 23
 C 168, 176
 COBOL 188, 194
 FORTRAN 205, 213
 PL/I 221, 229

[数字]

2 か国語使用のオブジェクト 49
 2 か国語使用のサポート
 オブジェクト 49
 2 進データ 94

A

A オプション、デバッグ用の 138
 ADDRESS コマンド 18, 281
 ARG ステートメント 15
 AS (アプリケーション・システム) 7

C

C 言語
 移行情報 171
 インターフェースの要件 171
 関数呼び出し 169
 サンプル・プログラム 172
 呼び出し可能インターフェース
 168
 連絡域 168
 デフォルト 168

C 言語 (続き)
 連絡域 168 (続き)
 マッピング 168
 DSQCOMM 176
 CICS 178
 CMS 182
 ISPF 184
 TSO 184

C (データ継続) レコード 128
 CALL 命令 18

CICS

アセンブラー 4
 サンプル・プログラム 148
 MVS の要件 159
 VSE の要件 160
 一時記憶域キュー 134
 一時データ・キュー 134
 データ・キュー 4
 一時記憶域キュー 134
 一時データ・キュー 134
 IXF フォーマット 265
 QMF オブジェクトを転送する
 ための使用 89
 プログラム開始パラメーターの指
 定変更 29
 呼び出し可能インターフェース
 4
 領域 30
 31 ビット・アドレッシング 143
 C プログラム 178
 COBOL プログラム 197
 CONNECT コマンド 12
 DB2 対話 30
 EXEC CICS LINK インターフェ
 ース 147
 IMPORT または EXPORT を使用
 する場合の考慮事項 134
 PL/I 231, 232
 VSE/ESA
 アセンブラー 160
 インポート / エクスポート・
 ファイル属性 133
 C プログラム 179
 COBOL プログラム 198
 HLASM プログラム 160

CMS

- アセンブラー・プログラム 162
- サンプル・アセンブラー・プログラム 153
- C プログラム 182
- COBOL プログラム 200
- FORTRAN 215
- PL/I 233
- REXX プログラム 245

COBOL

- 移行情報 191
- 関数呼び出し 189
- 区切り文字 197
- サンプル・プログラム 192
- 実行の要件 197
- マクロ 283
- 呼び出し可能インターフェース 187
- 連絡域 188
- CICS 197, 198
- DSQCOMM 194
- ISPF 202
- TSO 201
- VM 200
- VSE 198

CONNECT コマンド

- 初期プロシージャー 11
- 説明 57
- プロシージャー 11
- 例 57
- SQL/DS 12
- VM 12

D

DB2 (IBM DATABASE 2)

- リモート接続 11
- CICS 要件 30
- CONNECT コマンド 12

DSQABFA 153

DSQABFAC 148

DSQADPAN 76

DSQALANG 77

DSQCIA 145

DSQCIX サブルーチン 242

DSQCOMM

- アセンブラー 144, 158
- エラー処理 28
- 定義 23
- フィールドの設定 24
- メッセージ・テキスト 141
- C 168, 176

COBOL 188, 194

DSQCOMMMA 144, 158

DSQCOMMBA 194

DSQCOMMCC 176

DSQCOMMFC 205, 213

DSQCOMMML 221, 229

FORTRAN 205, 213

PL/I 221, 229

DSQDC_DISPLAY_RPT グローバル
変数 83

DSQEC_RERUN_IPROC グローバル
変数 10

DSQRUN 60

DSQSBSTG 78

DSQSCMD 78

DSQSDBCS 79

DSQSDBNM 79

DSQSDBQN 79

DSQSDBQT 79

DSQSDBUG 79

DSQSDCSS 80

DSQSIROW 80

DSQSMODE 80

DSQSPILL 80

DSQSPRID 80

DSQSRSTG 80

DSQSRUN 81

DSQSSPQN 81

DSQSSUBS 81

DSQSUSER 81

DXT (データ抽出プログラム) 7

E

ECF (拡張接続機能) 7

EDIT コマンド 45

END コマンド

コマンド・インターフェース 34

初期プロシージャーの再実行 10

セッション・タイプ 59

END コマンド (続き)

初期プロシージャー 60

初期プロシージャーを伴わない
61

バッチ・モード 61

呼び出し可能インターフェース
による始動 59

INTERACT コマンド 61

説明 59

対話式セッション 246

EXIT コマンド 62

EXPORT コマンド

データ・オブジェクト 89

表オブジェクト 89

CICS の使用 134

DATA 89

IXF オプション 265

F

FORTRAN

関数呼び出し 206

サンプル・プログラム 208

マクロ 283

呼び出し可能インターフェース
205

連絡域 205

CMS 215

DSQABFF 208

DSQCOMM 213

ISPF 218

MVS 217

TSO 217

G

GDDM (図形データ表示管理プロ
グラム) 7, 64

対話式図表ユーティリティー 7

GET GLOBAL コマンド 25, 63

H

HTML 報告書 89, 131, 262

- I**
- ICU (対話式図表ユーティリティ)
 - ー) 7, 64
 - IFX
 - OUTPUTMODE=BINARY 278
 - IMPORT コマンド
 - 実行中のエラーと警告 121
 - 定義 87
 - CICS の使用 134
 - DATA オプション 93
 - INTERACT コマンド
 - コマンド形式 66
 - セッション
 - 始動 61
 - 終了 61, 62, 66
 - 書式 64
 - 説明 64
 - ISPF (対話式システム生産性向上機能)
 - アセンブラ・プログラム 165
 - アプリケーションのデバッグ 46
 - コマンド 43
 - コマンドのトレース 46
 - パネル生成 7
 - 変数プール 34
 - ユーザー作成パネルの表示 67
 - 呼び出し可能インターフェース 41, 43
 - COBOL プログラム 202
 - EDIT コマンド 45
 - FORTRAN 218
 - PL/I 236
 - QMF の開始 60
 - SELECT コマンド 43
 - SELECT サービス 33
 - TSO/C プログラム 184
 - IXF
 - サンプル・レコード 277
 - OUTPUTMODE=CHARACTER 277
 - IXF (統合交換フォーマット)
 - 文字 269
 - 2 進数 94, 269
- L**
- L オプション、デバッグ用の 137
 - L (報告書行) レコード 126
 - LAYOUT コマンド 114
 - Lotus 1-2-3/M 7
- M**
- MESSAGE コマンド
 - オプション 67
 - 説明 67
 - 線形プロシージャ実行の抑止 68
 - テキストの表示 69
 - トレース 140
 - 例 70
 - ISPF パネル 67
 - QMF ヘルプ・パネル 67
 - REXX EXIT 命令 17
- N**
- NLF (各国語機能)
 - 定義 49
 - NLF (各国語フィーチャー)
 - アプリケーションの変換 55
 - 言語 54
 - 言語 ID 41
 - コマンド同義語表 54
 - セッション環境 53
 - パネル要件 54
 - 複数言語環境 52
 - プロファイル・パラメーター 54
- P**
- PARSE ARG ステートメント 15
 - PDF 45, 46
 - PL/I
 - 移行情報 224
 - 関数呼び出し 222
 - サンプル・プログラム 224
 - マクロ 283
 - 呼び出し可能インターフェース 221
 - 連絡域 221
- PL/I (続き)**
- CICS 231, 232
 - DSQABFP 224
 - DSQCOMM 229
 - ISPF 236
 - MVS 231
 - TSO 235
 - VM 233
- Q**
- QBE (例示照会プログラム) 132, 133
 - インポート / エクスポート・ファイル仕様 133
 - エクスポート・フォーマット 132
- R**
- REXX
 - インターフェース連絡変数 23, 239
 - 解釈 4
 - 関数呼び出し 242
 - コマンド環境 281
 - コマンドのリターン・コード 28
 - コンパイラー 4
 - データ処理速度 94
 - プログラム呼び出し 18
 - 変数 12, 15
 - マクロ 283
 - 呼び出し 18
 - 呼び出し可能インターフェース 4
 - アクセス 242
 - エラー処理変数 28
 - サンプル・プログラム 243
 - 説明 239
 - CMS、プログラムの実行 245
 - QMF からの呼び出し 43
 - QMF の始動 26
 - START コマンド 75
 - TSO、プログラムの実行 246

REXX (続き)

- ロジックを持つプロシージャー
エラー処理ステートメント
16
- 作成 9
- 置換変数 19
- 利点 4

DSQABFX プログラム 243

END コマンド 246

EXIT 命令 17

INTERACT ループ 246

MESSAGE コマンド 17

RUN コマンド

- 値の受け渡し 15
- 組み込まれた置換変数 19
- 置換変数 12, 13
- プロンプト・パネル 13
- ARG オプション 15

RUW (リモート作業単位) 11

S

SAA (システム・アプリケーション体系)

- アプリケーション 4
- 言語サポート 4
- プログラムの移植性 23
- 呼び出し可能インターフェース
21, 143
- QUERY コマンド 23, 242
- START コマンドのキーワード
75

SAVE DATA コマンド 89

SELECT コマンド 31, 43

SET GLOBAL コマンド

- 構文 72
- 変数値の入力プロンプト 15
- 呼び出し可能インターフェース
25, 72

SQL (構造化照会言語)

- 照会
オブジェクト 95, 133

SQL 照会オブジェクト 95, 133

SQL/DS

- リモート接続 11
- CICS/VSE 要件 30
- CONNECT コマンド 12

START コマンド

- インターフェース連絡域 23
- エラーのデバッグ 141
- キーワード

リスト 75

DSQADPAN 76

DSQALANG 77

DSQSBSTG 78

DSQSCMD 78

DSQSDBCS 79

DSQSDBNM 79

DSQSDBQN 79

DSQSDBQT 79

DSQSDEBUG 79

DSQSDCSS 80

DSQSIROW 80

DSQSMODE 80

DSQSPILL 80

DSQSPRID 80

DSQSRSTG 80

DSQSRUN 81

DSQSSPQN 81

DSQSSUBS 81

DSQSUSER 81

構文 74, 75

QMF の始動 26, 74

STATE コマンド 34

T

TSO

アセンブラ呼び出し可能インターフェース・プログラム 164

アセンブラ・プログラム 164

C プログラム 184

C 呼び出し可能インターフェース・プログラム 184

COBOL プログラム 201

COBOL 呼び出し可能インターフェース・プログラム 201

FORTTRAN プログラム 217

FORTTRAN 呼び出し可能インターフェース・プログラム 217

PL/I プログラム 235

PL/I 呼び出し可能インターフェース・プログラム 235

REXX プログラム 246

TSO (続き)

- REXX 呼び出し可能インターフェース・プログラム 246

V

VSE CICS 133



プログラム番号: 5675-DB2
5697-F42

Printed in Japan

SC88-8622-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

Spine information:



照会報告書作成プログラム **QMF V7R1 アプリケーション開発の手引**
き

バージョン 7